愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第43集

岡島遺跡II・不馬入遺跡

1993

財団法人　愛知県埋蔵文化財センター

序

愛知県西尾市は六万石の城下町として知られ、肥沃な田園地帯が広がる岡崎平野のほぼ中央に位置しております。

この度、愛知県埋蔵文化財センターでは、建設省中部地方建設局名四国道事務所の委託事業として、国道23号バイパス建設に先立ち、岡島遺跡・不馬入遺跡の発掘調査を実施いたしました。その結果、岡島遺跡では、弥生時代中期を中心とする豊富な遺物が出土し、矢作川下流域の弥生時代を考える上で貴重な知見を得たほか、不馬入遺跡では18・19世紀を中心とする遺構・遺物をみることができました。

今回これらの調査成果をまとめ、ここに報告書を刊行するに至りました。本書が歴史資料として活用され、埋蔵文化財に対するご理解の一助となれば幸いに存じます。

なお、発掘調査から資料整理に至るまで、地元関係者をはじめ関係諸機関及び関係者からご指導とご協力をいただきました。ここに心から謝意を表するものです。

平成5年3月

財団法人　愛知県埋蔵文化財センター

理事長　高木鐘三

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第43集

岡島（おかじま）遺跡

1993

財団法人　愛知県埋蔵文化財センター

目　次

第Ⅰ章　調査概要

第１節　調査経緯・経過……1

第２節　歴史的環境……2

第３節　地理的環境……6

第４節　岡島遺跡の調査小史……8

第Ⅱ章　遺跡

第１節　基本層位……16

第２節　遺構……19

①遺構の分類……19

②第１面……20

③第２面……23

④第３面……33

⑤旧河道……38

⑥そのほかの遺構……39

第Ⅲ章　遺物

第１節　土器……41

①分類視点……41

②弥生土器……42

③古墳時代～中世の土器・陶磁器……73

④近世の土器・陶磁器……79

第２節　土製品……82

第３節　金属器……84

第４節　木製品……85

第５節　石器・石製品……86

第Ⅳ章　科学分析

第１節　珪藻及び昆虫化石群からみられた岡島遺跡の古環境変遷……87

第２節　岡島遺跡における花粉化石……135

第３節　岡島遺跡出土の土器胎土……141

第４節　残留脂肪酸分析……153

第Ⅴ章　考察

第１節　主要遺構の変遷……160

第２節　岡島Ⅰ期～Ⅴ期の設定……162

第３節　矢作川下流域における沖積地の形成と河川……167

第Ⅵ章　まとめ……169

付表……172

挿図目次

図 1　調査進行表 …… 1
図 2　調査区位置図 …… 3
図 3　岡島遺跡と周辺の遺跡 …… 5
図 4　岡島遺跡周辺地質概略図 …… 7
図 5　過去の調査区 …… 8
図 6　岡島遺跡遠景 …… 9
図 7　岡島遺跡中心部分 …… 9
図 8　岡島町 4 号線排水路 …… 9
図 9　愛知県埋蔵文化財センター調査区(62 C区) …… 9
図 10　西尾市立東部中学校保管遺物 1 …… 10
図 11　西尾市立東部中学校保管遺物 2 …… 11
図 12　愛知県埋蔵文化財センター試掘調査出土遺物 …… 12
図 13　県道蒲郡・碧南線用地内出土遺物 1 …… 13
図 14　県道蒲郡・碧南線用地内出土遺物 2 …… 14
図 15　層位模式図 …… 17
図 16　主要遺構時期区分 …… 18
図 17　各土坑 …… 19
図 18　ＳＢ01 …… 20
図 19　ＳＺ01～04 …… 22
図 20　ＳＺ05 …… 23
図 21　ＳＢ04 …… 24
図 22　ＳＸ03 …… 25
図 23　ＳＢ02 …… 26
図 24　ＳＺ06 …… 27
図 25　ＳＺ07～09 …… 28
図 26　土器棺墓 1 …… 30
図 27　土器棺墓 2 …… 31
図 28　ＳＺ33～36 …… 34
図 29　旧河道 …… 38
図 30　そのほかの遺構 …… 40
図 31　土器の部位名称 …… 41
図 32　形態分類図 …… 47
図 33　古墳時代の土器 1 …… 75
図 34　古墳時代の土器 2 …… 77
図 35　古墳時代～中世の土器 …… 78
図 36　近世の陶磁器 1 …… 80
図 37　近世の陶磁器 2 …… 81
図 38　土製品 …… 82
図 39　加工円盤 …… 83
図 40　銅銭 …… 84
図 41　銅銭出土状況 …… 84
図 42　岡島遺跡位置図 …… 87
図 43　分析試料採取地点(62 B区・63 A区) …88
図 44　分析試料採取地点(90 B区) …… 88
図 45　分析試料採取地点における地質柱状図 1(90 B区) …89
図 46　分析試料採取地点における地質柱状図 2(91 A区) …89
図 47　昆虫化石試料の種類および その相対年代 …… 91
図 48　弥生時代中期および後期の地層から検出された昆虫化石の生息環境別出現率 …… 98
図 49　岡島遺跡 90 B区珪藻遺骸分析結果　103
図 50　岡島遺跡 91 A区珪藻遺骸分析結果 …104
図 51　岡島遺跡の珪藻遺骸分析結果1(岡島90 B区　105・106
図 52　岡島遺跡の珪藻遺骸分析結果2(岡島 91 A区 …107
図 53　岡島遺跡の昆虫化石リスト　……108・109
図 54　岡島遺跡昆虫化石の分析結果1(90 B泥炭最２Ｆ層) 110
図 55　岡島遺跡昆虫化石の分析結果2(90 B泥炭最下層) …111
図 56　岡島遺跡昆虫化石の分析結果3(70 B泥炭下層)　112～115
図 57　岡島遺跡昆虫化石の分析結果4(90 B泥炭上層)……116
図 58　岡島遺跡昆虫化石の分析結果6(90 B:IIE5P・SD01) 116
図 59　岡島遺跡昆虫化石の分析結果8(91 A上層泥炭) 117・118
図 60　岡島遺跡昆虫化石の分析結果9(90 B:IIF17 bシルト)　…118
図 61　岡島遺跡昆虫化石の分析結果10(90 B:大型土坑下部) 119・120
図 62　岡島遺跡昆虫化石の分析結果11(90 B:大型土坑上部) 121・122
図 63　岡島遺跡産の珪藻遺骸の顕微鏡写真 1　…123
図 64　岡島遺跡産の珪藻遺骸の顕微鏡写真 2　…124
図 65　岡島遺跡産の昆虫化石の顕微鏡写真 1　…126
図 66　岡島遺跡産の昆虫化石の顕微鏡写真 2　…126
図 67　岡島遺跡産の昆虫化石の顕微鏡写真 3　…128
図 68　岡島遺跡産の昆虫化石の顕微鏡写真 4　…129

図 69　岡島遺跡産の昆虫化石の電子顕微鏡写真1 …131
図 70　岡島遺跡産の昆虫化石の電子顕微鏡写真2 …132
図 71　岡島遺跡の位置図 ……133
図 72　分析試料採取位置図(90 B_2区)……134
図 73　岡島遺跡 90 B_2区トレンチ断面図 …134
図 74　分析試料採取地点における地質柱状図 …135
図 75　岡島遺跡 90 B_2区の花粉ダイアグラム ……136
図 76　花粉化石リストおよび出現率 ……137
図 77　岡島遺跡判土の花粉化石 ……140
図 78　分析試料一覧 ……142
図 79　岡島Ⅴ期試料の実体顕微鏡観察結果 142
図 80　鉱物組成の三角ダイアグラム(Bサンプル) …143
図 81　粒径による三角ダイアグラム ……143
図 82　岡島Ⅴ期試料の偏光顕微鏡観察結果 144
図 83　岡島遺跡周辺の地質 ……144
図 84　Xサンプルの実体顕微鏡観察結果 …145
図 85　X・Sサンプルの鉱物組成の三角ダイアグラム 146
図 86　X・Sサンプルの偏光顕微鏡観察結果 …146
図 87　分析土器実測図 1 ……149
図 88　分析土器実測図 2 ……150
図 89　土器薄片の偏光顕微鏡写真(1) ……151
図 90　土器薄片の偏光顕微鏡写真(2) ……152

図版目次

図版 1　第 1 面遺構図 1
図版 2　第 1 面遺構図 2
図版 3　第 1 面遺構図 3
図版 4　第 2 面遺構図 1
図版 5　第 2 面遺構図 2
図版 6　第 2 面遺構図 3
図版 7　第 3 面遺構図 1
図版 8　第 3 面遺構図 2
図版 9　第 3 面遺構図 3
図版 10　土器実測図 1
図版 11　土器実測図 2
図版 12　土器実測図 3
図版 13　土器実測図 4
図版 14　土器実測図 5
図版 15　土器実測図 6
図版 16　土器実測図 7
図版 17　土器実測図 8
図版 18　土器実測図 9
図版 19　土器実測図 10
図版 20　土器実測図 11
図版 21　土器実測図 12
図版 22　土器実測図 13
図版 23　土器実測図 14
図版 28　土器実測図 19
図版 29　土器実測図 20
図版 30　土器実測図 21
図版 31　土器実測図 22
図版 32　土器実測図 23
図版 33　土器実測図 24
図版 34　土器実測図 25
図版 35　土器実測図 26
図版 36　土器実測図 27
図版 37　土器実測図 28
図版 38　土器実測図 29
図版 39　土器実測図 30
図版 40　土器実測図 31
図版 41　土器実測図 32
図版 42　土器実測図 33
図版 43　土器実測図 34
図版 44　土器実測図 35
図版 45　土器実測図 36
図版 46　土器実測図 37
図版 47　土器実測図 38
図版 48　土器実測図 39
図版 49　土器実測図 40
図版 50　土器実測図 41

図版 24　土器実測図 15
図版 25　土器実測図 16
図版 26　土器実測図 17
図版 27　土器実測図 18
図版 55　土器実測図 46
図版 56　土器実測図 47
図版 57　土器実測図 48
図版 58　土器実測図 49
図版 59　土器実測図 50
図版 60　土器実測図 51
図版 61　土器実測図 52
図版 62　土器実測図 53
図版 63　土器実測図 54
図版 64　土器実測図 55
図版 65　土器実測図 56
図版 66　土器実測図 57
図版 67　土器実測図 58
図版 68　土器実測図 59
図版 69　土器実測図 60
図版 70　土器実測図 61
図版 71　土器実測図 62
図版 72　土器実測図 63
図版 73　土器実測図 64
図版 74　土器実測図 65
図版 75　土器実測図 66
図版 76　土器実測図 67
図版 77　土器実測図 68
図版 78　土器実測図 69
図版 79　木器実測図
図版 80　石器実測図 1
図版 81　石器実測図 2
図版 51　土器実測図 42
図版 52　土器実測図 43
図版 53　土器実測図 44
図版 54　土器実測図 45
図版 82　調査区全景 1
図版 83　調査区全景 2
図版 84　調査区全景 3
図版 85　調査区全景 4
図版 86　遺構 1
図版 87　遺構 2
図版 88　遺構 3
図版 89　遺構 4
図版 90　土器 1
図版 91　土器 2
図版 92　土器 3
図版 93　土器 4
図版 94　土器 5
図版 95　土器 6
図版 96　土器 7
図版 97　土器 8
図版 98　土器 9
図版 99　土器 10
図版 100　土器 11
図版 101　土器 12
図版 102　土器 13
図版 103　土器 14
図版 104　土器 15
図版 105　土器 16
図版 106　土器 17
図版 107　土製品・金属器・木器
図版 108　石器

例　言

1．本書は愛知県西尾市岡島町・江原町に所在する岡島遺跡（『愛知県遺跡分布地図（II）』による遺跡番号は55074）の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は国道23号バイパス建設に先立つもので、建設省中部地方建設局名四国道工事事務所より愛知県教育委員会を通じ委託を受けた財団法人愛知県埋蔵文化財センターが実施した。

3．調査期間は1986年度・1989年度～1991年度であり、調査面積は19000㎡である。

4．調査担当者は以下の通りである。

86年度　平田睦美（本センター主事・現愛知県立松藤高校）・池本正明（本センター主事）

89年度　山田基（本センター主事・現刈谷市立衣浦小学校）・松田訓（本センター嘱託員）・北村和宏（本センター調査研究員・現愛知県立岡崎西高校）・川井啓介（本センター主事）

90年度　大橋正明（本センター主事）・池本正明・鈴木正貴（本センター主事）・尾野善裕（本センター嘱託員・現名古屋市見晴台考古資料館）

91年度　野本欽也（本センター主査）・池本正明

5．調査に際しては、次の機関から指導・協力を受けた。

愛知県教育委員会文化財課・愛知県埋蔵文化財調査センター・建設省中部地方建設局名四国道工事事務所・西尾市教育委員会

6．遺物の整理・製図などについては、次の方々の協力を得た。

阿部小百合・市川浩代・加藤ちか子・河野実佳子・佐野香恵・清水真理子・中島由美子・中山記久子・中村明実・服部恵子・藪田久子・山本章子（五十音順・敬称略）

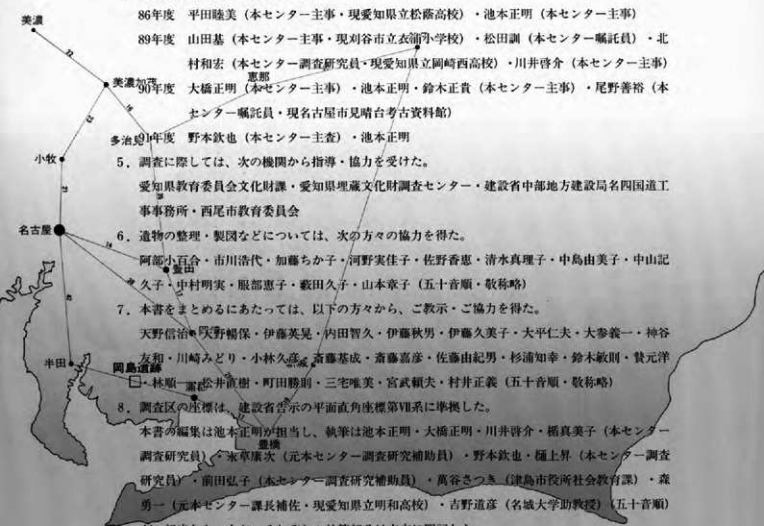
7．本書をまとめるにあたっては、以下の方々から、ご教示・ご協力を得た。

天野信治・大野幡保・伊藤英晃・内田智久・伊藤秋男・伊藤久美子・大平仁夫・大参義一・神谷友和・川崎みどり・小林久高・斎藤基成・斎藤嘉彦・佐藤由紀男・杉浦知幸・鈴木敏則・贄元洋・林順一・松井直樹・町田勝則・三宅唯美・宮武頼夫・村井正義（五十音順・敬称略）

8．調査区の座標は、建設省告示の平面直角座標第Ⅶ系に準拠した。

本書の編集は池本正明が担当し、執筆は池本正明・大橋正明・川井啓介・楯真美子（本センター調査研究員）・永草康次（元本センター調査研究補助員）・野本欽也・樋上昇（本センター調査研究員）・前田弘子（本センター調査研究補助員）・萬谷さつき（津島市役所社会教育課）・森勇一（元本センター課長補佐・現愛知県立明和高校）・吉野道彦（名城大学助教授）（五十音順）が、担当した。なお、それぞれの執筆部分は文末に明記した。

9．調査に関係する資料はすべて愛知県埋蔵文化財調査センターにて保管している。



第Ⅰ章　調査概要

第1節　調査経緯・経過

調査の原因

建設省名四国道工事事務所では、交通量調整を目的とした国道23号知立バイパス建設を計画している。ところがこの予定用地内には弥生時代の集落遺跡である岡島遺跡が所在しており、事前に発掘調査を実施し、記録保存する必要性が認められた。このため新国道建設に先だって調査実施が計画され、建設省中部地方建設局名四国道工事事務所から愛知県教育委員会を通じて委託をうけた財団法人愛知県埋蔵文化財センターがこれを実施した。本書は、この成果をまとめたものである。

調査は、昭和61年度の試掘による範囲確認を皮切りに、平成元年度～三年の三ケ年にわたって、地下水位の低下する冬季に実施した。調査区は、新国道建設用地を横切る岡島町4号線排水路と、市道尾花岡島線を境界に、西側から平成元年度分、二年度分、三年度分とした。なお、作業にあたっては、これらをさらに排土などの関係で、それぞれ南北に二分割して実施した。調査区の名称は各年度とも北側をA区、南側をB区とした。調査区の総面積は19000㎡である。調査方法は現地表面から表土のみをバック・ホッにより除去したのち、建設省告示によって定められた平面直角座標第Ⅶ系に準拠した5mグリッドを設定し、手掘りで包含層を掘削して遺構を検出する方法をとった。なお、今回の調査ではこの作業を概ね2回実施している。本書では、表現上必要な場合のみ、調査区名に第2項目としてアラビア数字を、上層検出面（以下、上面）に1、下層検出面（以下、下面）に2を付与して表現している。　なお、調査に要した日程などは、図1に示した工程による。遺構の測量については、ヘリコプターによる航空写真測量を実施し、調査区全面の1/50基本平面図を作成したほか、重要部分については補助測量図を手測りにより実施した。

年度	調査区		担当者	期間
89	A		山田基 北村和宏 川井啓介	12 → 2月
	B		山田基 北村和宏 松田調 川井啓介	3月
90	A	1/2面	大橋正明 尾野善裕 池本正明	9 → 11月
		3面	大橋正明 尾野善裕	12 → 2月
	B	1/2面	池本正明 鈴木正貴	1 → 2月
		3面	大橋正明 池本正明	3月
91	A		野本欽也 池本正明	12 → 1月
	B		野本欽也 池本正明	2 → 3月

図1　調査進行表

また、調査参加者は、以下の通りである。

調査参加者 青山辰雄・青山千代子・浅井あや子・朝岡せつ子・浅井　働・天野昭英・荒川喜代蔵・芦田弘子・伊沢八重子・石川陽子・磯部艶子・岩瀬米子・稲吉秀英・宇野光秋・遠藤フミ子・太田兎志子・太田美知子・大竹つや子・大竹礼子・大西　稔・岡野　寛・岡安信次・小栗八重子・小野倉二・加藤はま江・蟹江よし子・小里基佐子・小塚雪江・紺道朝子・近藤敏夫・後藤照子・榊原猶子・笹尾恵理子・佐野栄作・佐原徳二郎・志賀一三・杉浦銀一・杉浦みどり・杉山幸子・杉山倫子・杉山美枝子・鈴木京美・鈴木　勉・鈴木昌子・鈴木まち子・鈴木明子・鈴木英子・鈴木みさを・須見孝子・高橋文雄・高原三郎・谷川綾子・都築加代子・土田千枝子・手嶋キヨ子・富川通代・内藤富子・中井みつえ・中根己代治・永山勇征・名倉百合子・錦田一雄・久永はるみ・日高美代子・平岩駒二・平野フミエ・平松ゆみ子・藤村志げ子・星野安信・堀場節子・牧　ミツエ・増田洋子・松田和子・三浦悦子・三浦サエ子・三浦まつ・村井正義・森嶋澄江・山本昭吾・山北チヨ子・渡辺スミエ・中根良雄・野々山弘子

（五十音順・敬称略）

出土遺物の一次整理（洗浄・注記段階）の参加者は、以下の通りである。

伊佐治民子・稲垣智子・加納かず子・斎藤夏美・新美厚子・久永弘子・堀田加代子・三輪はつゑ（五十音順・敬称略）　（池本正明）

図2　調査区位置図

第2節　歴史的環境

岡島遺跡の位置する西尾市東部地域の遺跡分布を見てみると、弥生時代の集落跡である当岡島遺跡及び毘沙門遺跡が沖積地の自然堤防上に位置している点を除いては、中世以前の遺跡はいずれも碧海台地縁辺部または丘陵上に立地している。これが中世以降になると、沖積地の開発にともない、台地上から沖積地へと広がりを見せるようになる。

具体的な遺跡により上記の画を補足するならば、当地域最古の遺跡は、八ツ面山西南麓台地上に位置する新御堂貝塚であり、縄文時代中・後期の土器が出土している。この地区には時代的には弥生時代中・後期まで下がるが、松崎八反田遺跡・熊子山遺跡が立地しており、一連の集落跡を考えることができる。

また岡島遺跡の北部地域には、方形周溝墓が検出された西山古墳下層遺構、小島銅鐸出土地、丘陵上の環濠集落とみられる不毛遺跡群、五砂山頂上に鉄製農工具類を出土した5世紀後半に築造されたと思われる五砂山古墳、葺石・形象埴輪の存在が確認された西山古墳などが位置している。さらに136基の小円墳からなる羽角山古墳群や金屑古墳が立地している。羽角山古墳群は6～7世紀代に構築された群集墳で、横穴式石室を伴う小円墳が多い。そして矢作古川右岸の西南山麓の丘陵斜面に位置する舟向山古墳は横穴式石室をもつ古墳である。

古代・中世に至っても岡島遺跡周辺には、多くの遺跡が存在している。須恵器が出土する古代集落遺跡である志貴野遺跡、志貴野廃寺と呼ばれる古代布目瓦散布地、古代から中世にかけての集落と考えられる八ッ面山北部遺跡、そして古代の灌漑施設の一部に利用されていたと推定される木樋が出土している室遺跡、さらに八ッ面城・戸ケ崎城・室城をはじめとする中世城館も構築されている。

上述のように、岡島遺跡の周辺は原始・古代以来連綿と人々の居住域として歴史を刻み続けているのである。　　（川井啓介）

No.	遺跡名	備考	No.	遺跡名	備考
1	岡島遺跡	S 52年度西尾市教委、S 62・H 1・2・3年度(財)愛知県埋文センター調査	10	室遺跡	H 3年度(財)愛知県埋文センター調査
2	加美遺跡	S 63年度(財)愛知県埋文センター調査	11	毘沙門遺跡	
3	志賀野遺跡	S 62・63年度(財)愛知県埋文センター、H 1年度西尾市教委調査	12	小島銅鐸出土地	
4	八ッ面北部遺跡	H 2・3・4年度西尾市教委調査	13	西山古墳	S 63年度西尾市教委調査
5	志能谷遺跡		14	五砂山古墳	S 63年度西尾市教委調査
6	小島遺跡	H 1年度(財)愛知県埋文センター調査	15	舟向山古墳	
7	松崎八反田遺跡		16	三本木山古墳	S 43年度西尾市教委調査
8	熊子山遺跡		17	金屑古墳	S 53年度西尾市教委調査
9	新御堂貝塚	S 48・49・56年度西尾市教委調査	18	志賀野廃寺	

※Sは昭和、Hは平成を表す。

図3　岡島遺跡と周辺の遺跡
この地図は国土地理院発行の2万5千分の1地形図「西尾」を使用したものである。

第3節　地理的環境

岡島遺跡は、愛知県西尾市岡島町・江原町にかけて立地する弥生時代中期から後期にかけての集落遺跡である。その面積は推定20,000㎡におよび、弥生時代の三河地方を代表する遺跡といえよう。ここでは、その立地を地形学的・地質学的に簡単に整理しておく。

地形学的には、東側を三河山地南西端の幡豆山塊、西側を碧海台地に挟まれた北東から南西方向に延びる岡崎平野に属し、その肥沃な大地は稲作をはじめとして多くの人々の生活に最適な場を与えてきた。

岡崎平野は、地質学的には、矢作川により形成された沖積平野で、沖積層の厚さは矢作川河口で20m以上に達する。岡島遺跡の基盤層としての沖積層は、珪藻化石・貝化石などを分析した森ほか(1990)により詳しく報告されている。この報告によれば、岡島遺跡周辺の地下には、内湾性の安定した海域に堆積したと思われるシルト層が厚く堆積している。この事実は、約9000～8000年前にはじまり、アカホヤ火山灰(K-Ah)降灰時期(6300y.B.P.)付近にピークを迎える縄文海進の頃には、岡島遺跡周辺は、三河湾の一部、あるいは矢作川の河口部となっていたことを示唆する。縄文の海はこの後、矢作川の大量の堆積物供給により急速に埋め立てられ、遺跡周辺は、干潟環境を経ることなく河成氾濫域に移り変わった。縄文時代後期から晩期の頃には、岡島遺跡周辺は後背湿地性の湿地帯が広がり、さらに弥生時代前期にかけて、湿地は次第に縮小し草原的環境に遷移し、岡島遺跡の最盛期である弥生時代中期を迎える。しかし、弥生時代後期には矢作川の洪水が頻発し、遺跡は廃絶された。

以上が、森ほか(1990)により報告された岡島遺跡周辺の古環境の変遷の概略であるが、ここで、今回新たに岡島遺跡周辺の地質概略図（第4図、愛知県環境部、1979より作成）をもとに、岡崎平野の形成に関する時期と旧地形の問題点を指摘しておく。それは濃尾平野における森(1992)や服部(1993)の指摘する浜堤列の存在である。岡崎平野においても濃尾平野に対応する浜堤列が存在する可能性が高い。岡崎平野は、縄文海進後の海退により、矢作川の三角州として急速に埋積されたことはすでに述べたが、その際に現在の海岸線と平行する浜堤を形成していたと考えられる。その1つの可能性として第4図に示した、氾濫平野の堆積物と三角州の堆積物の境界付近にみられる微高地があげられる。この微高地は、見かけ上、旧矢作川の自然堤防の高まりであるが、その延びの方向は必ずしも流路方向と一致しない。このほかにも、地中に埋没した浜堤存在の可能性が考えられる。いずれにしても、この問題については、遺跡と海岸線の関係を知るためにも、今後さらにくわしく検討する必要があろう。

（服部　俊之）

引用文献

愛知県環境部(1979)地質図Ge-04（渥美半島－岡崎周辺地域）．愛知県環境利用適性調査．

服部俊之(1993)遺跡基盤層の粒度分析．(財)愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第45集「山中遺跡II」，29-31．

森勇一・伊藤隆彦(1990)岡島遺跡周辺の古環境の変遷.(財)愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第14集『岡島遺跡』,102-106.

森勇一(1992)朝日遺跡およびその周辺の地質と古環境.(財)愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第31集『朝日遺跡II・自然科学編』,9-40.

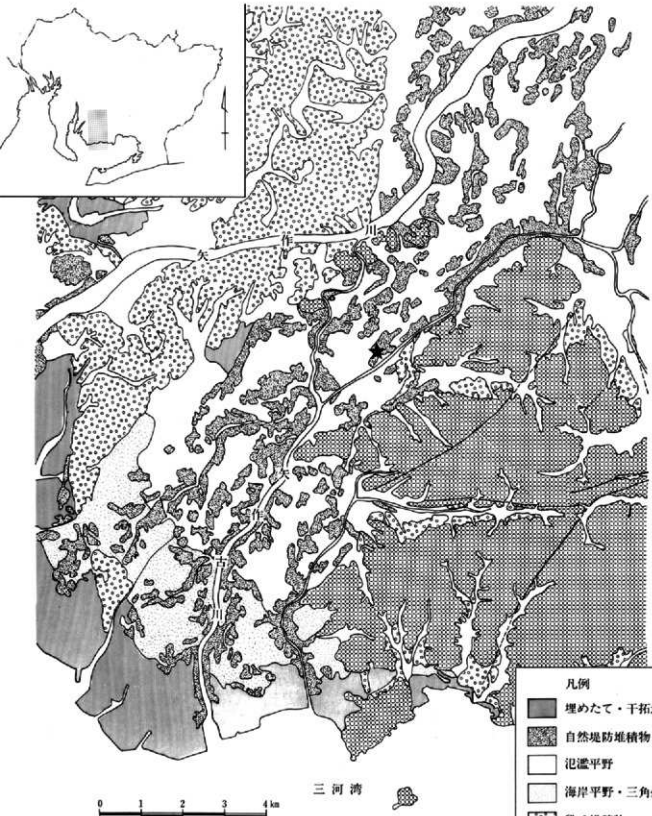


図4 岡島遺跡(★印)周辺地質概略図
(愛知県環境部,1979を改変)

第4節　岡島遺跡の調査小史

発掘調査史　岡島遺跡は今日まで数次にわたって発掘調査が実施されている。ここでは、従来の成果をまとめておきたい。まず岡島遺跡がその名を知られたのは、三河地震に伴う災害復旧工事（昭和29年）で、新たに設定された岡島町4号線排水路の掘削工事中に岡島町地内において多量の土器が出土したことによる。この資料は、西尾市立三和中学校（現在の東部中学校）に持ち込まれ、その後同校で保管されることとなる。東部中学にはこの他に、昭和41年に実施された岡島町4号線排水路床下げ工事の排土中から採集された資料も保管されている（神谷他　1972）。これらの資料は今回実見・図化することができた。図示したものは21点で、弥生時代後期のものが主体であり、中期のものが若干これに加わる。1～9は壺。1はいわゆるパレス壺。底部を欠損する。胴部は、赤彩される。口縁部は短く外反し、口端で縁帯を形成する。文様は、口端に凹線文、口縁部上面にヘラによる刻目文、肩

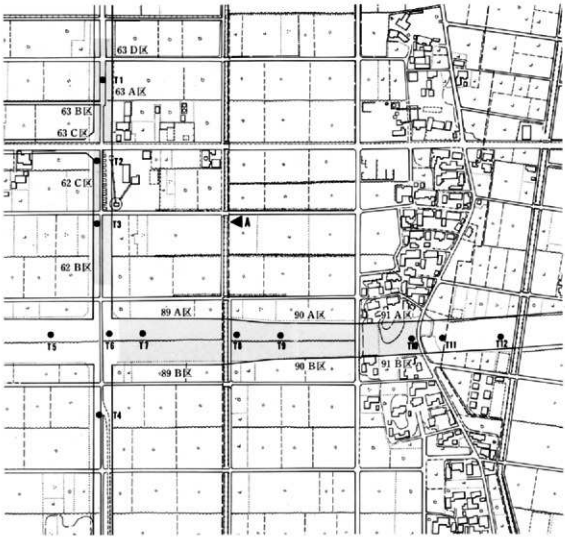


図5　過去の調査区

部にクシによる直線文と刻目文を交互に施す。2・4は口縁部を欠損する。外面の調整は、手法Ｃａ（第Ⅲ章第１節参照）による。文様は、2が肩部にクシによる波状文と直線文を交互に重ね、4はやはりクシによる直線文と扇形文を施す。5は口縁部片。頸部がやや長く、強く外反する口縁部をもつ。文様は、口縁部にヘラによる刻目文を施す。6・7は小振り。外面の調整は、手法Ｃａによる。8は口縁部片。口縁部は短く外反し、口端で緑帯を形成する。文様は、口端に凹線文、肩部にクシによる直線文を施す。9は肩部片。クシによる直線文を施す。10～16は高杯。16を除き、外面の調整は、手法Ｃａ。11は赤彩される。17･18は甕。17は球形の体部に、外反する口縁部をもつ。外面の調整は手法Ｄｂ。18は台部片。体部との接合部分が「柱」状に発達する。20･21はミニチュア。19は器種不明。手法Ａａによる。

岡島遺跡で正式な発掘調査が開始されたのは、昭和52年度のことで、西尾市教育委員会により昭和47年から開始されていた県営圃場整備事業にともなって実施された。その結果、環濠を想定させるような溝が検出されたほか、これに伴う弥生時代後期を中心とする遺物が多数出土した。

昭和50年度代にはいると、西尾市周辺に道路網整備計画が活発化し、岡島遺跡の範囲内に県道蒲郡･碧南線と、国道23号知立バイパスが岡島遺跡の南東部分で交差する形で計画された。これに先立ち、本センターは予定用地内での遺跡の範囲確認を目的とした試掘調査を実施した(池本　1987)。その結果、遺跡の範囲は現在の岡島町・江原町を中心とし、県道蒲郡・碧南線建設用地をほぼ西限、国道23号知立バイパスの予定用地をほぼ南限とし

図6　岡島遺跡遠景

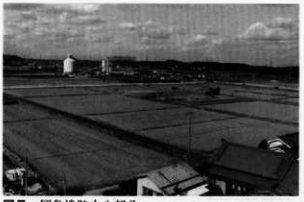


図7　岡島遺跡中心部分

図8　岡島町４号線排水路

図9　愛知県埋蔵文化財センター調査区 62 C区

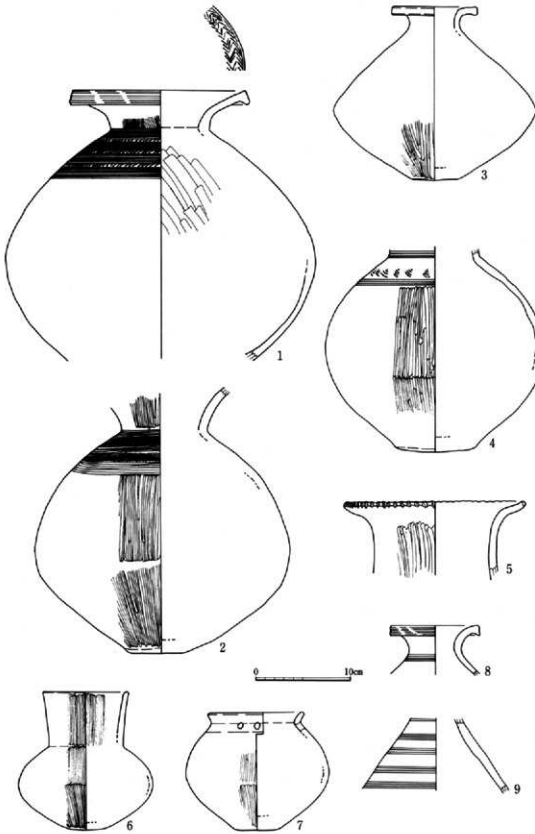


図 10　西尾市立東部中学校保管遺物　1

て存在していること、県道蒲郡・碧南線建設用地以西と、国道23号知立バイパス予定用地内の岡島町集落以東には、大規模な谷が存在していたことなどが明らかとなった。図12に示す遺物は、この時点の出土遺物である。掲載資料はT．1～4までの出土遺物で、県道蒲郡・碧南線建設用地からの出土である。22は壺。肩部片。外面の調整は手法Da。突帯を巡らす。23・24も壺。形状は類似する。腰部に焼成後穿孔を施す。外面の調整は、いずれも手法Ca。文様は口縁部上面に円形浮文を施すが、24は肩部にクシによる扇形文も施す。25・26も壺。小振り。外面の調整は、25が手法Ea、26が手法Caによる。

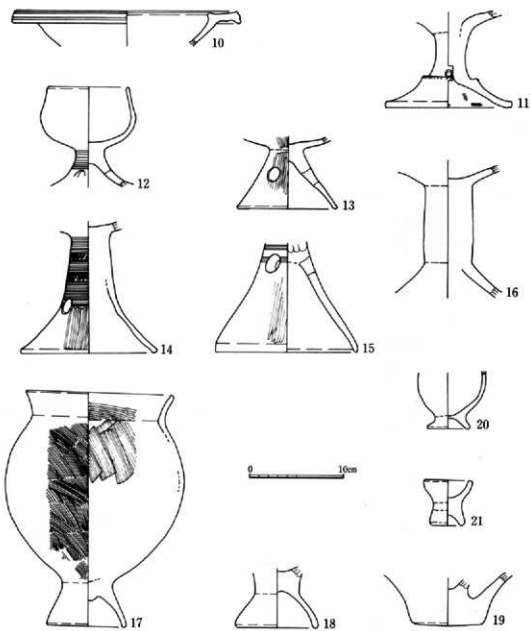


図11　西尾市立東部中学校保管遺物　2

昭和62・63年には、前年度に実施された試掘調査の成果をもとに、県道蒲郡・碧南線建設用地内の発掘調査を実施した。この時の調査は総面積6900㎡とやや広範囲で、弥生時代中期を中心とする多量の遺物が層位を成して出土している。特にSD 24・25と呼称した大規模な溝の埋土中から、従来瓜郷式・古井式などと呼称されてきた土器群が大量に出土したことは注目できる。なお、SD 23・24は、切り合い関係を持っており、これらの前後関係が層位的にも検証できたほか、厚さ30㎝程度の間層(本書第Ⅱ章で説明する灰黄色粘質土に該当。)を挟んだ上方のSX 02・03からは、従来長床式と呼称されてきた土器が出土している。図13・14に示すものが報告書(『岡島遺跡』 1990 愛知県埋蔵文化財センター、以下『県道報告』と省略する。)掲載資料の一部で、27～34がSD 30、35がSD 30・35がSD 14、36～42がSD 29、43～58がSD 24、33がSD 26、34～47がSD 25、48～57がSX 08、58～66がSX 02出土である。これらはいずれも、有効空間を岡島遺跡に限定した弥生時代中期の土器編年(池本 1990)の基準資料とされるもので、それぞれSD 29・30、SK 14がⅠ期、SD 24がⅡ期、SD 24・25がⅢ期、SX 02・09がⅣ期に該当している。なお、各時期の具体的内容を要約すると以下の通りとなる。まずⅠ期は、いわゆる「条痕文系土器」の一群で、SK 14、SD 29資料にはヘラもしくは竹管による文様を付加する例も含まれる。次にⅡ期・Ⅲ期は「櫛描文系土器」で、Ⅱ期がクシによる文様のほかヘラによる文様も多用し、Ⅲ期はササラもしくはホウキのような柔軟性に富んだ特殊な原体を用いた櫛描文を多用する時期。最後のⅣ期は「回線文系土器」がⅢ期以来の土器に一定量加わる様相を呈する一群と理解された。なお、この中で特にⅠ期とした一群については出土量の関係から組成が明確にはで

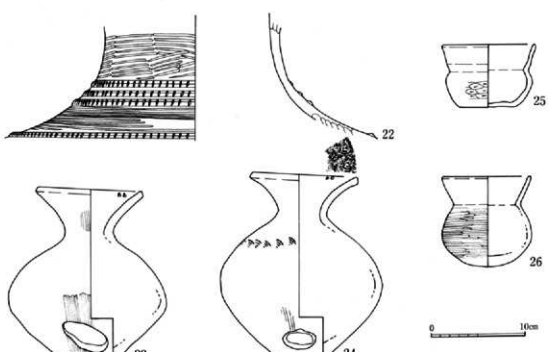


図12 愛知県埋蔵文化財センター試掘調査出土遺物

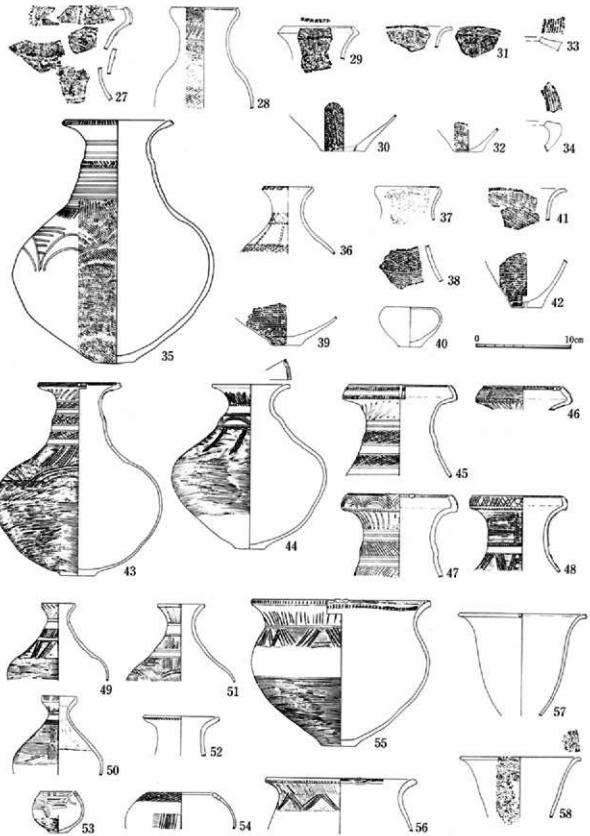


図 13 県道蒲郡・碧南線用地内出土遺物 1

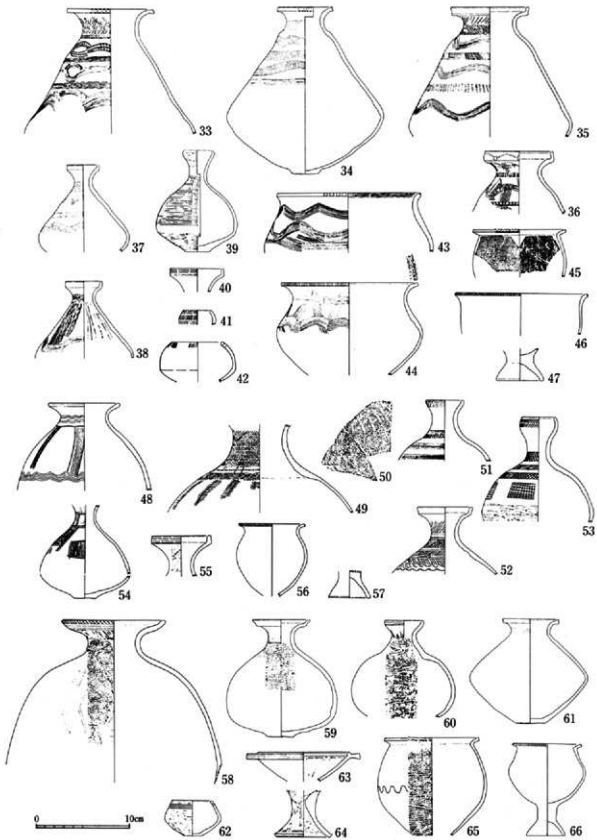


図 14　県道蒲郡・碧南線用地内出土遺物　2

きなかったほか、その時期区分についての問題点も指摘された（石黒　1990）。

平成元年度からはやはり本センターは、国道23号バイパス予定用地内の調査を開始し、本書がその報告書である。　（池本正明）

参考・引用文献

池本正明　1987　『岡島遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター　年報　昭和61年度』
愛知県埋蔵文化財センター

1990　「岡島Ⅰ～Ⅳ期の設定」　『岡島遺跡』　愛知県埋蔵文化財センター

1991　『岡島遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター　年報　平成二年度』
愛知県埋蔵文化財センター

1992　『岡島遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター　年報　平成三年度』
愛知県埋蔵文化財センター

1992　『岡島遺跡』『愛知県埋蔵文化財情報』6　愛知県教育委員会

石黒立人　1990　「弥生中期土器にみる複数の系」　『考古学フォーラム』1
愛知考古学談話会

神谷和正他　1972　『西尾市史』一　西尾市史編纂委員会

川井啓介　1991　『岡島遺跡』『愛知県埋蔵文化財情報』6　愛知県教育委員会

野口哲也　1987　『岡島遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター　年報　昭和62年度』
愛知県埋蔵文化財センター

1988　『岡島遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター　年報　昭和63年度』
愛知県埋蔵文化財センター

1989　『岡島遺跡』『愛知県埋蔵文化財情報』4　愛知県教育委員会

樋上　昇　1990　『岡島遺跡』『愛知県埋蔵文化財情報』5　愛知県教育委員会

福岡晃彦他　1990　『岡島遺跡』『愛知県埋蔵文化財センター　年報　平成元年度』
愛知県埋蔵文化財センター

第II章　遺跡

第1節　基本層序

前章で述べたように、調査区周辺には土地改良時に盛土を伴う整地が加えられている。従って、この整地層以下が旧地表の堆積層となる。これは大きく5つに区分される。まず、この最上部を覆う旧表土部分であるが、これは概ね耕作土である。これを第Ⅰ層と呼称する。第Ⅰ層の下層には黒色粘質土で構成される包含層が堆積している。これを第Ⅱ層と呼称する。第Ⅱ層の下層は、黒褐色土1で構成される包含層が確認できる。これを第Ⅲ層と呼称する。第Ⅲ層の上面は検出面（第1面）である。第Ⅲ層の下層には、灰黄色粘質土が堆積し、これを第Ⅳ層と呼称する。第Ⅳ層の上面は検出面（第2面）となる。第Ⅳ層の下層にはさらに黒褐色土2で構成される包含層が存在する。これを第Ⅴ層と呼称する。第Ⅴ層の下層には灰オリーブ色シルトが所在する。この上面が検出面（第3面）で、岡島遺跡の基盤である。これを第Ⅵ層と呼称する。

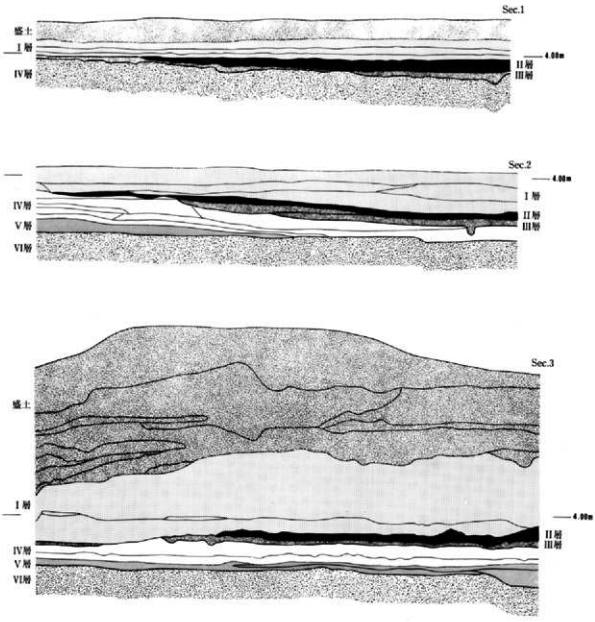
以上が基本層序であるが、今回の調査区は東西約200mに及び、各調査区ともそれぞれ若干の特色をもった、堆積状況となっている。まず、89年度調査区では第Ⅳ・Ⅴ層が不明瞭となるのが特徴となる。90年度調査区では旧表土上面を覆う整地層が基本的には存在しない。また、調査区東側部分では、第Ⅵ層上面が大きく落ち込み谷地形を形成する。埋土には荒砂層なども存在し、ここに河道の存在を確認できることが特色としてあげられる。また、91年度調査区では、西側部分で第Ⅵ層上面が落ち込み、90年度調査区で確認できた谷地形の対岸部分が検出されている。また、91年調査区は現在の岡島町集落部分に該当し、調査区の東側部分では第Ⅰ層の上部に大規模な整地層が確認された。

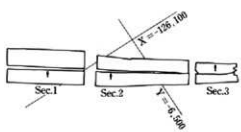
検出面

基本層序の説明で触れたように、今回の調査区は、時期を違えた3つの検出面を把握することができた。ここではこれらを上面から第1面・第2面・第3面と呼称し、記述を進めることとする。

第1面

90年度調査区以東に分布し、メインセクションでの検出状況からは、第2面の上を覆う黒褐色土1層の上部が検出面となっている。ただし、89年度調査区を除いて、これを面的に把握するのが困難な状況で、90年度調査区ではこれを第2面と同一面で検出している（上面）。第1面の遺構は、平安時代～室町時代の遺構と古墳時代の遺構とに大別できる。前者をA期、後者をB期と呼称する。





I層　(旧)表土層
II層　黒色粘質土層
III層　黒褐色土　1層
IV層　灰黄色粘質土層
V層　黒褐色土　2層
VI層　灰オリーブシルト層

図15　層位模式図(1：80)

第2面

今回の調査区はほぼ全面で検出できた。89年度調査区の下面、90・91年度調査区上面の一部に該当する。検出面は灰黄色粘質土上部である。第2面は、弥生時代中期末～後期に属する検出面で、2時期に区分できる。このうち後期の遺構は、方形周溝墓数基と、土坑群により形成される。これらをC期と呼称する。また弥生時代中期末頃に属するものは、90年度調査区の東部で検出された旧河道を挟んで、91年度調査区では居住域、89・90年度調査区では方形周溝墓と土器棺墓群で構成される墓域を検出している。これをD期と呼称する。

第3面

黒褐色土2層の下に分布する灰オリーブシルト層直上が検出面である。90・91年度調査区に分布するが、90・91年度調査区東部に所在する旧河道を挟んだ付近に濃密に分布している。ここでは、これらの遺構群については、時期的なまとまりから、90年度調査区と91A区北側部分に分布する遺構群をE期、90年度調査区東部分で検出された旧河道以東にのみに分布する遺構群をF期と呼称する。なお、『県道報告』では今回E・F期とした遺構群が、63A区でレベル差をもって検出されたことが報告されている。

第1面	A期	掘立柱建物	SB01		
		土坑	SK01		
		溝	SD02		
	B期	方形周溝墓	SZ01～04	土器集積遺構	SX01・02
		土坑	SK02		
		溝	SD03・04		
第2面	C期	方形周溝墓	SZ05	溝	SD05
		井戸	SE01	土器集積遺構	SX03・04
		土坑	SK03		
	D期	竪穴住居	SB05	土坑	SK04～09
		方形周溝墓	SZ06～09	土器集積遺構	SX05
		土器棺墓	SZ10～32		
第3面	E期	土坑	SK10		
		溝	SD07		
	F期	方形周溝墓	SZ33～36		
		土坑	SK11～30		
		土器集積遺構	SX06		

図15 主要遺構時期区分

第2節　遺構

①遺構の分類

以下、具体的な遺構についてA期から順に記述を進めるが、記述の煩雑さを避けるため、**土坑の種類**溝・土坑については、若干の分類を試みる。

土坑

土坑は形状から3つに区分される。

土坑a　平面形が正方形ないし長方形で竪穴住居に類似するもの。ただし主柱穴は検出されていない。

土坑b　大型の土坑で、面積は2㎡以上。平面形は、円形を基本とするが、方形ないし不整形のものもある。さらに二分できる。

土坑b_1　面積の割に深いもの。検出面からの深さが20㎝以上。

土坑b_2　面積の割に浅いもの。検出面からの深さが20㎝未満。

土坑c　小型の土坑で、通常面積1㎡以下。平面形は、円形を基本とするが、方形ないし不整形のものもある。さらに二分できる。

土坑c_1　面積の割に深いもの。検出面からの深さが20㎝以上。

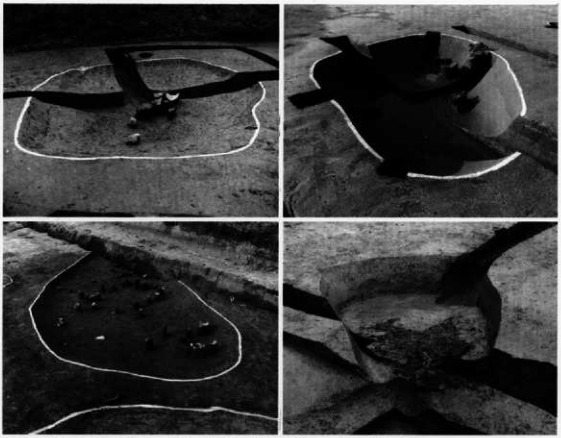


図17　各土坑(左上・土坑a、右上・土坑b_1、左下・土坑b_2、右下・土坑c_1)

土坑c_2　積の割に浅いもの。検出面からの深さが20㎝未満。

溝

溝は形状から2つに区分される。

溝の種類　溝a　長さが10ｍを越える大規模な溝。

溝b　長さ10ｍ前後の溝。

②第1面

A期の遺構　A期

A期の遺構には掘立柱建物・土坑c_1・溝bなどがある。

掘立柱建物

SB01

90B区で検出された。梁行は3.0ｍ（2間）、桁行4.5ｍが（3間）で、柱穴を9ヶ所確認した。柱通りは不良。出土遺物は得られなかった。

土坑c_1

SK01

90B区中央部分で検出した。超大型の土坑。埋土中から灰釉系陶器・土師器・施釉陶器（123～136）などが出土している。

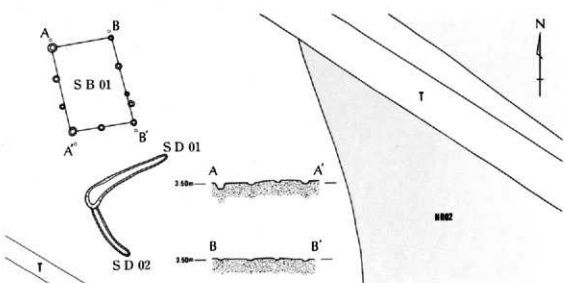


図18　SB01(1：200)

溝b

SD01

全長4.9mを検出した。SB01の梁行に方向が類似する。埋土中から灰釉系陶器広口瓶（137）が出土している。

SD02

全長3.2mを検出。SD01に西端部分が破壊されている。

B期　　B期の遺構

B期の遺構には方形周溝墓・土坑a_2・溝a・同b・土器集積遺構がある。

方形周溝墓

SZ01

陸橋部を北東にもつ。南側部分は調査区外となる。調査区壁面の観察から墳丘を有していたことが判明した。出土遺物には古墳時代の土師器（93・94）がある。

SZ02

陸橋部を北西にもつ。形状はやや歪む。SZ01に西側部分が破壊されている。出土遺物は得られなかった。

SZ03

南側部分は調査区外となる。出土遺物には図示してはいないが、土師器壺片がある。

SZ04

形状はやや歪む。SZ03に北側部分が破壊される。図示してはいないが、出土遺物には土師器壺片がある。

土坑a_2

SK02

89A区で検出した。埋土は炭化物を多量に含み、これに土師器壺の小片が多量に含まれていた。接合作業により形状がある程度判明した3点（110～112）を図示した。このほか出土遺物としては銅鏃（209）が1点ある。

溝a

SD03

89年度調査区西側部分で検出された。ほぼ南北方向をとる。端部はいずれも調査区外となる。出土遺物には古墳時代の須恵器杯蓋（122）がある。

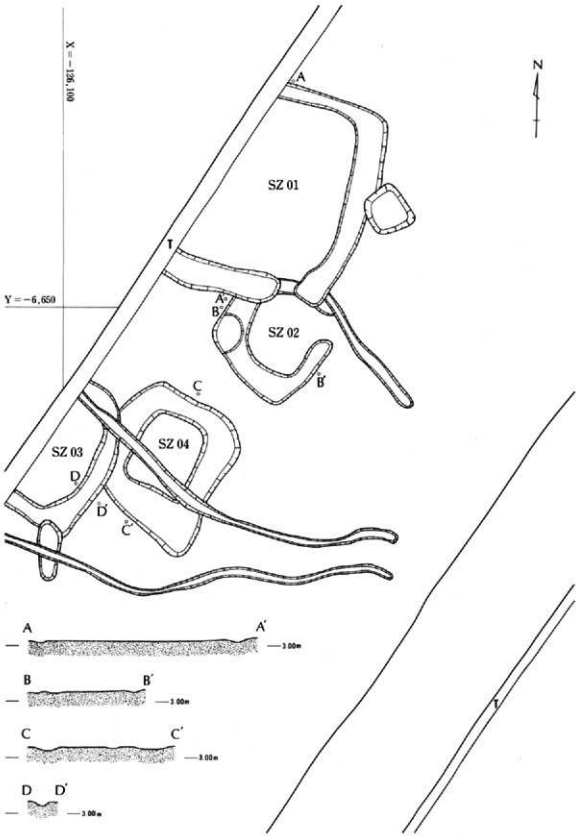


図19 ＳＺ01～04(1：200)

溝 b

SD 04

面積 16 ㎡程度の範囲を、四角く区画している。規模から判断して、竪穴住居の周溝部分である可能性が大きい。出土遺物には古墳時代に属する土師器甕（12）がある。

土器集積遺構

SX 01

NR 01 の 89 A 1 区南側部分、西岸の川肩がやや突出する位置で検出された土器集積遺構。古墳時代の土師器（95～109）が、若干のレベル差をもって出土している。

SX 02

90 B 2 区で検出された。SD 07 が埋没する過程の残存する窪地に堆積した土器群（114～116）。数量的には乏しいが、いずれも古墳時代に属する。

③第 2 面

C 期　　C期の遺構

C期の遺構には、方形周溝墓・井戸・土坑 b_2・溝 a・土器集積遺構がある。

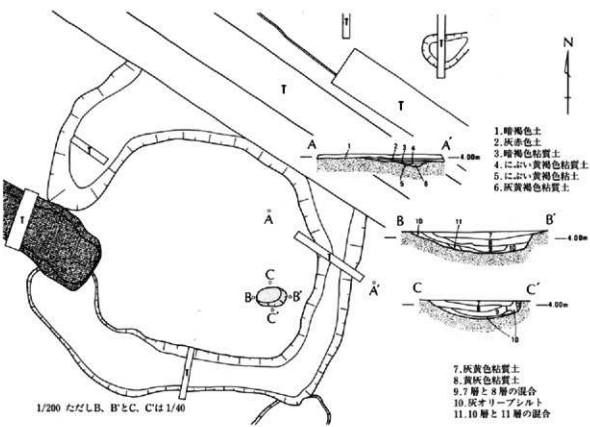


図 20　S Z 05

方形周溝墓

SZ 05

90 B区で検出された。北側周溝と北東コーナー部分は調査区外となる。規模は一辺9～10 m程度。西側の周溝中央部分に陸橋部をもつ形状で、下図に表現する周溝部分を含めた断面図の観察から、墳丘を有していたことが確認できる。主体部は、墳丘南東隅で1ヶ所検出できた。プランは楕円形で、長径1.3 m、短径1.0 mをはかる。

ただし、棺の痕跡は確認できなかった。なお、埋土については脂肪酸分析を実施しており、結果を本書　ページに記述した。出土遺物は弥生時代後期に属し、周溝及び主体部埋土中から若干を得ている（210～219）。

井戸

SE 01

90 B区で検出された。プラン楕円形の「摺鉢」状の土坑で、全体の形状は90 A区との境界部分に所在する生活排水路下に伸び、明らかにはできていない。壁面はなだらかな傾斜をもつ。底部には帯水層を打ち抜き、長径5.0 m、短径2.8 m、深さ0.8 mの土坑を設置している。南側には「テラス」状の施設を設定する。埋土中から弥生時代後期の土器がややまとまって出土（220～224・226）したほか、上層では古墳時代の土器（225）も若干これに加わっている。埋土の状況が特に上層部分では自然埋没の様相を呈していたことから、古墳時代の土器については自然埋没時の混入と判断される。

土坑b_2

SK 03

90 A区で検出された。北側部分は調査区外に及び全体の形状は不明。溝である可能性も残される。出土遺物には弥生土器（227～240）がある。

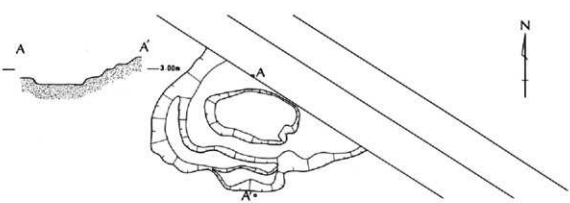


図21　SE 01（1：200）

溝a

SD05

90A区南東部分で検出された。幅0.9mをはかる。全長は、9.4mを検出したが、西側部分は90B区との境界部分に所在する生活排水路下に伸び、東側の端部はトレンチで破壊してしまった。出土遺物には弥生土器（241・242）がある。なお、241・242は近接して出土している。

土器集積遺構

SX03

89A区北側部分で検出された。NR03の東岸部で検出された。ほぼ完形のミニアチュア品が多く、土器を「立て並べた」ものが倒壊した結果である可能性が高い。
出土遺物には弥生土器（243～275）がある。

SX04

後述するSX05上面に堆積する土器集積遺構。弥生時代後期の土器(276～292)が比較的まとまって出土している。

D期

D期の遺跡

D期の遺構には、竪穴住居・方形周溝墓・土器棺墓・土坑a・同b_1・溝a・土器集積遺構がある。

竪穴住居

SB02

91B区で検出された。南側が調査区外となる。プランは長方形。規模は確認できた一辺が5.6m。床面には柱穴2ヶ所と炉のほか、放射状に炭化材が分布し、これは垂木などの

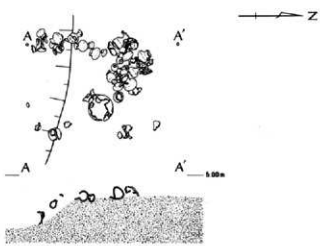


図22 SX03(1：40)

上部構造である可能性をもつ。出土遺物には台付甕（293・294）・石器（1009）がある。

方形周溝墓

SZ 06

89 A区のNR 03の合流部分で検出された。陸橋部を北西にもつ。形状はやや歪む。出土遺物には、弥生土器（295～300）がある。

SZ 07

90 A区で、南側コーナー部分のみ検出された。埋土中からほぼ完全な形に復元された土器がいくつか出土したこと、しかもこの中に焼成後穿孔された壺がいくつか含まれていることから、本遺構を方形周溝墓と判断した。出土遺物には（301～348）がある。

SZ 08

90 A区で検出された。東側周溝と南東部分のコーナーを検出し、そのほかは調査区外となる。わずかに検出できたコーナー部分から集中的に土器が出土していること（図25）からみて、方形周溝墓と判断した。

SZ 09

90 A区で検出された。北側部分を検出した。陸橋部を北東にもつ。南側部分は調査区外である。出土遺物には弥生土器小片がある。

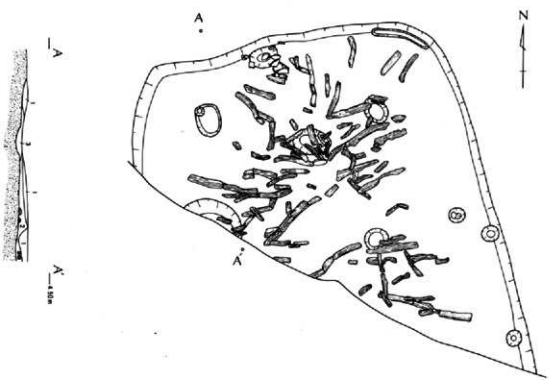


図23 ＳＢ02（1：80）

土器棺墓

89 A・B区と 90 B区で 22 基検出した。使用された土器は、SZ 29 が大鉢を利用しているほかはすべて壺である。なお、SZ 32 を除き、墓壙は検出できなかった。

SZ 10

89 A区の北東部分で検出された。棺身とする土器を正位で据えている。棺身の充填土中より別個体の土器小片（体部片）が数点出土しており、棺蓋も存在した可能性が考えられる。棺身は肩部以下が残存する。棺身の外底部には摩滅痕があまり認められない。

SZ 11

89 A区の北東部分で検出された。棺身とする土器 (349) を正位で据え、別個体の底部片を棺蓋としている。棺蓋の残存状況は不良。棺身は肩部以下が残存する。棺身・棺蓋とも外底部には摩滅痕があまり認められない。

SZ 12

89 A区の東部分で検出された。棺身とする土器 (351) を正位で据え、別個体の底部を棺蓋 (350) とし、これを覆っている。棺身・棺蓋とも肩部以下が残存する。外底部の摩滅痕は棺身にはほとんど認められないが、棺蓋にはこれが確認できる。

SZ 13

89 A区の北東部分で検出された。残存状況は不良。棺身とする土器を横位で据えている。棺身は肩部が残存する。

SZ 14

89 A区の東部分で検出された。棺身とする土器を正位で据え、別個体の部片を棺蓋としている。棺身は肩部以下が残存し、外底部には摩滅痕が認められる。

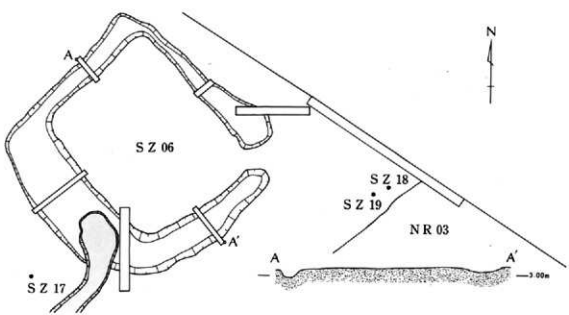


図 24　SZ 06 (1：200)

のみが残存する。なお、棺身の下胴部に焼成後穿孔を施している。外底部には摩滅痕があまり認められない。

SZ 20

89 A区の南東部分で検出された。棺身とする土器(360)を正位で据えている。棺身は腰部以下が残存し、外底部には摩滅痕があまり認められない。

SZ 21

89 A区の南東部分で検出された。棺身とする土器(361)を正位で据えている。棺身は肩部以下が残存し、外底部には摩滅痕があまり認められない。

SZ 22

89 A区の南東部分で検出された。棺身とする土器(362)を正位で据えている。棺身は胴部以下が残存し、外底部が摩滅している。

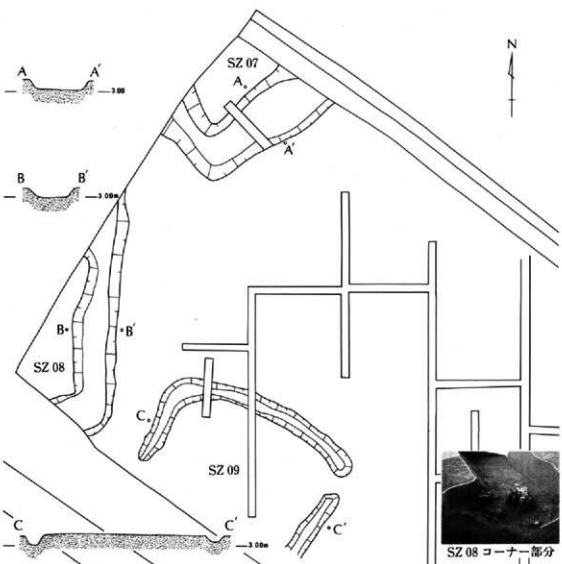


図25 SZ 07~09(1:200)

部のみ残存する。棺身は外底部が摩滅している。

SZ 18

89 A区の中央部分で検出された。棺身とする土器 (357) を正位で据えている。棺身は肩部以下が残存し、外底部には摩滅痕があまり認められない。

SZ 19

89 A区の中央部分で検出された。SZ 18 に近接する。棺身とする土器 (359) を正位で据え、別個体の土器を「入れ子」状の棺蓋 (358) としている。棺身は肩部以下、棺蓋は肩部のみが残存する。なお、棺身の下胴部に焼成後穿孔を施している。外底部には摩滅痕があまり認められない。

SZ 20

89 A区の南東部分で検出された。棺身とする土器 (360) を正位で据えている。棺身は腰部以下が残存し、外底部には摩滅痕があまり認められない。

SZ 21

89 A区の南東部分で検出された。棺身とする土器 (361) を正位で据えている。棺身は肩部以下が残存し、外底部には摩滅痕があまり認められない。

SZ 22

89 A区の南東部分で検出された。棺身とする土器 (362) を正位で据えている。棺身は胴部以下が残存し、外底部が摩滅している。

SZ 23

89 B区の北東部分で検出された。棺身とする土器を正位で据えている。棺身は肩部以下が残存し、底部付近に焼成後穿孔が確認される。また、外底部には摩滅痕はあまり認められない。

SZ 24

89 B区の北東部分で検出された。棺身とする土器を正位で据えている。棺身は肩部以下が残存する。外底部の摩滅痕は不明。

SZ 25

89 B区の北東部分で検出された。棺身とする土器を正位で据えている。棺身は腰部以下が残存し、外底部が摩滅している。残存状況は不良。

SZ 26

89 B区の北東部分で検出された。棺身とする土器を正位で据えている。棺身は肩部以下が残存し、外底部の摩滅痕は不明。残存状況は不良。

SZ 27

89 B区の中央部分で検出された。棺身とする土器 (363) を天地逆に据えている。棺身は全形が窺え、外底部が摩滅している。

SZ 28

89 B区の中央部分で検出された。SZ 27 に近接する。棺身とする土器 (364) を正位で据

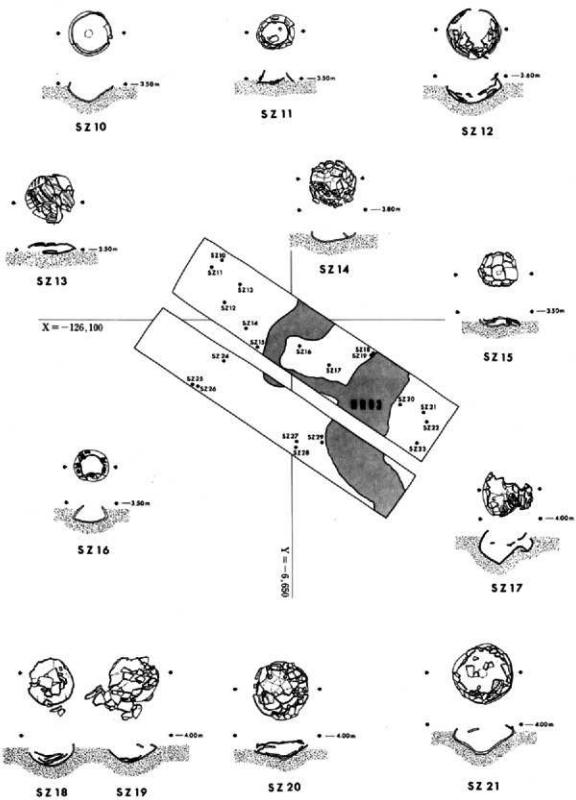
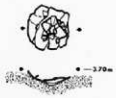
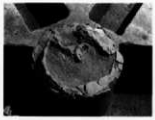

SZ10
SZ11
SZ12
SZ13
SZ14
SZ15
SZ16
SZ17
SZ18
SZ19
SZ20
SZ21
X=−126,100
Y=−5,499

図26　土器棺墓1

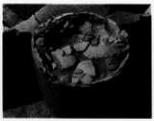


SZ 23



SZ 24

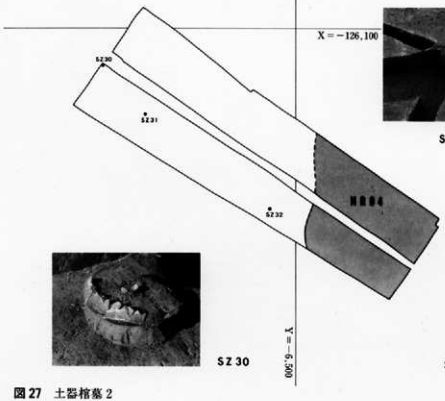
SZ 25



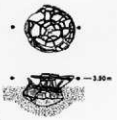
SZ 26

SZ 27

SZ 28



SZ 30



SZ 29

図27　土器棺墓2

えている。棺身は腰部以上が残存する。

SZ 29

89 B区の中央部分で検出された。棺身とする土器 (366) をほぼ正位で据え、別個体の土器を棺蓋(365)としている。棺身、棺蓋ともに全形が窺われるほか、煮沸痕を確認できる。また、磨製石斧 (1002) が棺身から出土した。なお、外底部の摩滅痕は棺蓋にはほとんど認められないが、棺身にはこれが確認できる。

SZ 30

90 B区の北東部分で検出された。棺身とする土器 (367) を正位で据えている。棺身は腰部以下が残存し、外底部には摩滅痕があまり認められない。

SZ 31

90 B区の中央部分で検出された。棺身とする土器 (369) を正位で据え、別個体の土器を棺蓋 (368) とし、これを覆っている。棺身、棺蓋とも肩部以下が残存し、いずれも外底部が摩滅している。また、充填土の脂肪酸分析を実施し、結果は本書 153 ページに記述した。

SZ 32

90 B区の中央部分で検出された。残存状況は不良。棺身とする土器を正位で据えている。棺身は腰部が残存する。墓壙は棺身とする土器よりひとまわり大きい円形。直径 70 cmを測る。

土坑 a

SK 04

90 A区中央部分で検出された。東側部分をSD 1001 により破壊される。出土遺物には弥生土器小片がある。

SK 05

91 A区の中央部分で検出された。プランは台形。北東部分に不整形の土坑が認められる。出土遺物には弥生土器のほか、不整形の土坑中から炭化米が出土している。

SK 06

91 A区中央部分で検出された。北西隅に長径 1.1 m、短径 0.8 m、深さ 0.1 m、プラン楕円形の土坑を設定する。出土遺物には弥生土器がある。

SK 07

91 A区南西部分で検出された。出土遺物には弥生土器小片がある。

土坑 b_1

SK 08

91 A区南側部分で検出した。SD 06 に東側を切られる。出土遺物には弥生土器 (370) がある。

SK 09

91 A区南西部分で検出された。SK 07 に近接する。出土遺物には弥生土器小片がある。

溝 a

SD 06

91 A区南側部分で検出された。全長 9.5 m、幅 10 cmで、L字形に屈曲する。

土器集積遺構

SX 05

89 A区のNR 03 東岸部分に大量に集積された土器群。SX 04 の下層に存在する。86 点を図示した（371～457）。

④第 3 面

E期

E期の遺構はあまり明瞭ではない。土坑c_2・溝 a がある。

土坑c_2

SK 10

90 年度調査区の東側部分で検出された。出土遺物には弥生土器（458～460）がある。

溝 a

SD 07

90 年度調査区の東側部分で検出された。90 B区を南北に貫き、90 A区西側部分で終息する。F期に属するSD 08 と同一方向。なお、埋没過程で上面にSX 02 が形成されている。出土遺物には弥生土器（461～474）がある。

F期

F期の遺構には、方形周溝墓・土坑b_1・同b_2・同c_1・溝 a ・土器集積遺構がある。

方形周溝墓

4 基検出されている。90 B区の西側部分に集中する傾向にある。

SZ 33

90 A区中央部分で検出した。プランは、四隅に陸橋部をもつ形状で、やや歪む。主体部は検出できなかった。遺物は周溝部分から出土した弥生土器がある（475～501）。なお、448 は東溝北端部から出土している。

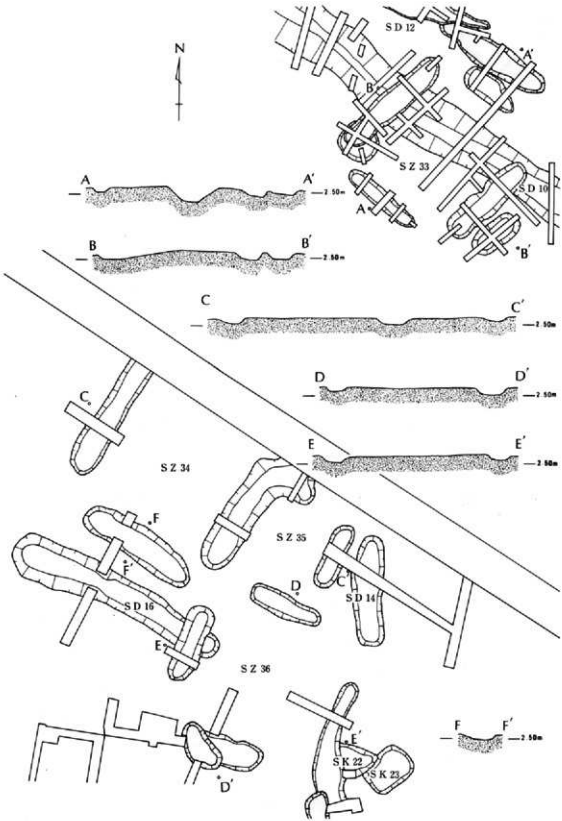


図 28　SZ 33～36(1：200)

SZ 34

90 B区北側部分で検出した。SZ 35・36 と近接し、東側周溝をSZ 35 と共有する。北側の周溝は、90 A区との境界部分に所在する生活排水路下に伸びているため明らかにはできないが、四隅に陸橋部をもつ形状か。遺物は周溝部分から出土した弥生土器がある(501～508)。

SZ 35

90 B区北側部分で検出した。SZ 34・36 と近接し、西側周溝をSZ 34 と、南側周溝をSZ 36 と共有する。プランはコーナー部分の三ヶ所に陸橋部をもつ形状。主体部は検出できなかった。遺物は周溝部分から出土した弥生土器がある (501～508)。

SZ 36

90 B区北側部分で検出した。SZ 34・35 と近接し、北側周溝をSZ 35 と共有する。プランは、四隅に陸橋部をもつ形状で、やや歪む。主体部は検出できなかった。遺物は周溝部分から出土した弥生土器がある (501～518)。

土坑b_1

SK 11

90 A区北側部分で検出された。プランは楕円形。出土遺物には弥生土器 (519～532) がある。

SK 12

90 A区北側部分で検出された。SZ 33 に近接する。プランは楕円形。出土遺物には弥生土器 (533～539) がある。

SK 13

90 A区中央部分で検出された。SZ 33 に近接する。プランは楕円形。出土遺物には弥生土器 (540～554) がある。

SK 14

90 A区南側部分で検出された。SZ 33 の西側周溝に一部分を破壊される。プランは円形。出土遺物には弥生土器 (555～561) がある。

SK 15

90 A区南側部分で検出された。プランは扇形。出土遺物には弥生土器(563～568)がある。

SK 16

90 A区北側部分で検出された。SD 10 と接する。プランは楕円形。出土遺物には弥生土器 (569～572) がある。

SK 17

90 A区南側部分で検出された。プランは円形。出土遺物には弥生土器(573～613)がある。

SK 18

90 A区北側部分で検出された。SD 10 と接する。プランは円形。出土遺物には木製品(968)のほか、弥生土器細片がある。埋土の脂肪酸分析を実施しており、結果については

本書153ページに記述した。

SK 19

90 A区北側部分で検出された。SD 11 の一部分を破壊する。出土遺物には弥生土器(614～616）がある。

SK 20

90 B区南側部分で検出された。SD 08 に近接する。プランは楕円形。出土遺物には弥生土器（617～618）がある。

SK 21

90 B区南側部分で検出された。プランは長方形。出土遺物には弥生土器（619～626）がある。

SK 22

90 B区南側部分で検出された。SZ 36 の東側周溝に大部分を破壊されるほか、SK 23 と接する。プランは形状不明。出土遺物には弥生土器（627～628）がある。

SK 23

90 B区南側部分で検出された。SK 22 と接する。プランは長方形。出土遺物には弥生土器（629～634）がある。

SK 24

90 B区中央部分で検出された。プランは台形。出土遺物には弥生土器(635～637)がある。

SK 25

90 B区中央部分で検出された。プランは円形。出土遺物には弥生土器(638～641)がある。

SK 26

91 A区北側部分で検出された。プランはやや歪んだ楕円形。出土遺物には弥生土器小片がある。

SK 27

91 A区北側部分で検出された。プランは円形。出土遺物には弥生土器小片がある。

SK 28

90 A区北側部分で検出された。プランは長方形。出土遺物には弥生土器小片がある。

なお、埋土の脂肪酸分析を実施しており、結果については本書　ページに記述した。

土坑b_2

SK 29

90 B区西側部分で検出された。プランは隅丸長方形。出土遺物には弥生土器(642)がある。

土坑c_1

SK 30

90 B区西側部分で検出された。プランは円形。出土遺物には弥生土器（643）がある。

SK 31

90 B区西側部分で検出された。プランは卵形。出土遺物には弥生土器（644）がある。

溝 a

SD 08

90 年度調査区の東側部分で検出された。90 B区を南北に貫くが、90 A区では検出できなかった。90 A・B区の中間部分で終息、あるいは大きく東側に屈曲する可能性をもつ。出土遺物には弥生土器（645～690）がある。

SD 09

90 A区の北壁に接するかたちで検出された。規模は不明。出土遺物には弥生土器（691～708）、木製品（964）がある。

SD 10

90 A区北側部分で検出された。SD 11 付近を西端とし、直線的に 89 A区へ伸びるが、89 A区では検出されていない。90 A区と 89 A区の中間部分で終息、あるいは大きく屈曲する可能性をもつ。出土遺物には弥生土器（709～741）・石器（1019）がある。

SD 11

90 A区中央部分で検出された。北側は調査区外に達する。出土遺物には弥生土器小片がある。

溝 b

SD 12

90 A区北側部分で検出された。全長 7.6 m。幅は、西側が広く、東側が狭い。出土遺物には弥生土器（742～771）・石器（1025）がある。

SD 13

90 B区北側部分で検出された。全長 3.6 m。出土遺物には弥生土器（774～777）がある。

SD 14

90 B区北側部分で検出された。全長 5.9 m。SZ 35 に近接する。出土遺物には弥生土器（778～790）がある。

SD 15

90 B区北側部分で検出された。4.6 mを検出したが、西側は調査区外に伸びる。出土遺物には弥生土器（791～793）がある。

SD 16

90 B区北側部分で検出された。全長 12.1 m。西側の一部を、SZ 36 西側周溝に破壊される。出土遺物には弥生土器（794～833）がある。

SD 17

90 A区北側部分で検出された。全長 9.8 m。SD 10 に平行する。出土遺物には弥生土器

(834～868) がある。

SD 18

90 B区東側部分で検出された。出土遺物には弥生土器 (511) がある。

土器集積遺構

SX 06

明瞭ではない。なだらかなくぼみに土器が集積している状況。出土遺物には弥生土器(869～882) がある。

⑤旧河道

いずれも調査区を横断する形で、5本を確認した。自然地形であるので、ここでまとめて扱う。

NR 01

第1面に伴うもので、89 A・B区の東側部分で弧状に展開する。埋土は細砂である。A～B期に属する。検出面 (第1面) での幅は 18 m程度である。出土遺物は古墳時代から中世にまで及ぶ。89 A区南側部分、西岸の川肩がやや突出する位置からは、古墳時代の土器がややまとまって出土している (SX 01)。

NR 02

第1面に伴う。90 A・B区の東側と 91 B区の西側で検出した。やはりA～B期に属する。検出面 (第1面) での幅は 30 m程度。出土遺物は古墳時代から中世にまで及ぶ。

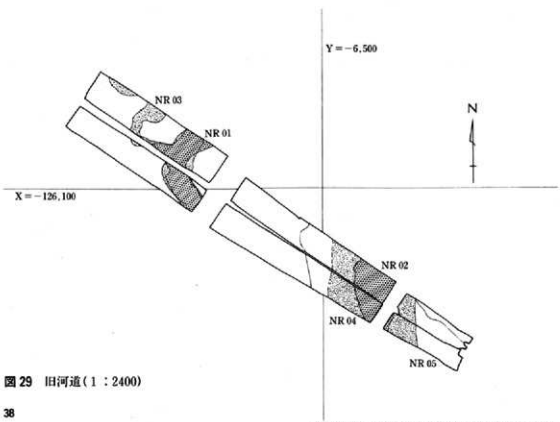


図 29 旧河道(1：2400)

この遺構図は各検出面上の河道のみを重ねて表現している。

NR 03

第2面に伴うもので、二本の河川の合流部分を検出した。これらは89A区南側部分で合流する。C～D期に属する。検出面での幅は、NR 01とほぼ重複する部分が10m程度、89A区で大きく蛇行する部分で25mとなる。出土遺物には弥生時代中期後半の土器がある。なお、89A区では左岸部分から大量の遺物が出土している（SX 06）。

NR 04

やはり第2面に伴うもので、90A・B区の東側半分と91B・A区の西側部分で検出された。C～D期に属する。検出面での幅は25m程度。検出面での西岸部分周辺には上面にSK 03が検出されていることから、時期が下がるにつれて次第に幅が狭くなっていることが予想される。図29に表現したものは最大幅の状況で、C期の段階。D期の幅は不明。出土遺物には、弥生時代中期末から後期前半の土器のほか、昆虫化石がある。

NR 05

第3面に伴うもので、90A・B区の東側半分と91B区全域、91A区で検出した。E～F期に属する。検出面（第3面）での幅は推定80m程度。出土遺物には弥生時代中期に属する土器のほか、昆虫化石がある。

⑥ そのほかの遺構

近世～近代に該当する遺構群で、91A・B区を中心として分布している。これらは調査直前まで所在した鳥居家に関連する遺構群と考えられる。ただし、鳥居家移転に伴う攪乱により、調査時には明確な面をもつものではなく、結果的にはこれを第2面と同一面で検出した。具体的な遺構は、井戸4基・特殊遺構2基がある。検出した井戸はいずれも桶組。ただし、SE 1004のみ上部を漆喰で円筒形に固めている。これらの遺構埋土中からは近世～近代の陶磁器のほか、昆虫化石が出土している。特殊遺構は甕を天地逆に埋設した遺構。埋設した甕の法量は、SX 1001が口径30cm、SX 1002が口径70cmである。この他にこの時代に該当する遺構として、89A・B区で溝1条（SD 1001）を検出している。地籍図などの検討から、三河地震による災害復旧時に廃絶した旧水田に伴うものと判断できる。埋土中から近世～近代の陶磁器のほか、昆虫化石が出土している。（池本正明）

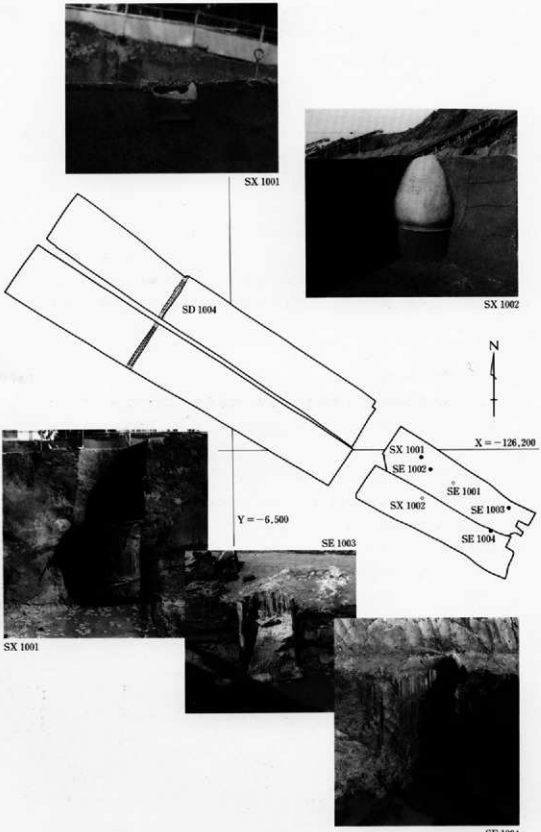

SX 1001
SX 1002
SD 1004
N
X＝−126,200
SX 1001
SE 1002
SE 1001
SX 1002
SE 1003
SE 1004
Y＝−6,500
SE 1003
SX 1001
SE 1004

図 30　そのほかの遺構

第Ⅲ章　遺物

今回の調査で得られた遺物は弥生時代～近世まで及ぶが、各時期を通じ最も多量に得られているものは土器類である。以下、遺物について材質別に説明を加える。

第１節　土器

①分類視点

土器は、今回の調査で最も多量に得られた遺物で、その出土量は27リットル入りコンテナで700箱を数える。本項では具体的にこれらを報告するが、記述の関係上、時代別にこれらを弥生時代、古墳時代～中世・近世と区分する。なお、表現の煩雑さを避けるため、以下に弥生時代、古墳時代の土器について、あらかじめ手法・文様・技法を整理し、形態分類をしておく。

手法　　手法の種類

単一の工具により施される単一の動作を呼称する。代表的な手法はナデ、オサエ、ミガキ、条痕、ハケメ、ケズリの５つである。これらを順に手法Ａ～Ｅと便宜的に呼称する。

手法Ａ（ナデ手法）

Ａａ　通常のナデ。表面はなめらかとなる。

Ａｂ　皮革などを利用。端部に多用される。手法Ａａに比べ平行線が明瞭。

Ａｃ　恐らく指頭または指腹によるもので、一工程が明瞭な凹凸で判別できる。

手法Ｂ（オサエ手法）

内面に多く観察できるもので、明瞭な凹凸を持つ。指頭によるものか。

手法Ｃ（ミガキ手法）

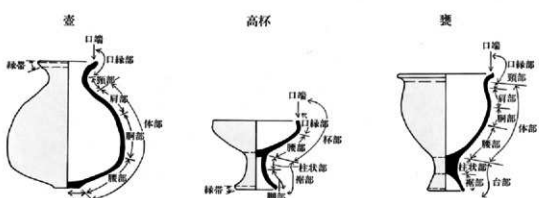


図31　土器の部位名称

Ｃａ　通常のミガキ。原則として縦方向。

Ｃｂ　横方向に施されるやや幅の広いミガキ。器面が完全に乾燥していない段階で実施され、若干の粘土の動きが観察できる。

Ｃｃ　手法Ｃａに付加し、文様的効果を狙ったもの。

手法Ｄ（条痕・ハケメ手法）

Ｄａ　いわゆる条痕文。貝殻によるものをＤａ１、クシによるものをＤａ２とさらに区分するが、不明確な場合はＤａとのみ表現する。

Ｄｂ　いわゆるハケメ。原体は板。

Ｄｃ　手法Ｄｃに類似するが、工具の動作単位のみ明確なもの。いわゆる、板ナデ。

手法Ｅ（ケズリ手法）

Ｅａ　狭義のケズリ。砂粒の動きをともなう。

Ｅｂ　手法Ｄｄに類似するが、器壁を掻き取る行為に重点をおくもの。

手法Ｆ（タタキ手法）

文様

文様は多様である。工具と装飾法に区分して説明を加える。

工具の種類　工具

岡島遺跡資料では施文工具として確認できるものに、クシ・ヘラ・貝殻・竹管・指頭・縄がある。

クシ

一回の工程で同時に多数の沈線を線刻できる原体を呼称する。各線刻は基本的に平行となる。岡島遺跡資料ではクシをこのように規定した場合、以下の種類に区分できる。なお、クシによる文様はさまざまな形状をもち、この差は使用工具の差として認識できる。岡島遺跡ではこれをａ～ｅの５つに区分できる。

クシａ種

１本１本がきわめて細かく、まれにこれらが交差する。ササラまたはホウキのような形状の工具によったもので、岡島遺跡で最も代表される文様となる。

クシｂ種

木もしくは竹の先端を細く割ったもの。手法ＤｃまたはＤｄに使用する工具と基本的に同一（佐原眞氏による分類のⅠ種。以下、佐原分類と省略する）。

クシｃ種

先端が二つに分かれたものを束ねたもの（佐原分類Ⅱ種Ａ）。

クシｄ種

先端が丸い棒状のものを束ねたもの（佐原分類Ⅱ種Ｂ）。

クシｅ種

管状のものを束ねたもの（佐原分類Ⅱ種C）。

ヘラ

先端が鋭利な工具を総括する。

貝殻

大振りな二枚貝の腹縁部によるが、まれに背面も使用する。

竹管

細い筒状の工具。そのまま、または半裁して使用されている。

縄

いわゆる縄文の原体。

装飾　　装飾の種類

上記の器具を駆使し設定された文様は、大きく刻文系（刺突・線描）と貼付文系（浮文・突帯）に区分できる。

刻文系

クシ

クシによる文様は、直線文・波状文・籠状文・斜格子文・刻目文・オシヒキ文・扇形文・はね上げ文・斜線文と区分する。

ヘラ

ヘラによる文様は、直線文・波状文・斜格子文・刻目文・オシヒキ文・はね上げ文・斜線文・局部圧痕文・斜線文・記号文と区分する。

貝殻

貝殻による文様には、直線文・波状文・刻目文・斜格子文・擬似縄文と区分する。

竹管

竹管による施文には、直線文・刻目文・オシヒキ文・波状文・山形文がある。

指頭

指頭による文様には、刻目文・局部圧痕文がある。

凹線文

凹線文は、凹線文・擬凹線文に区分する。

縄文

縄文には、単節縄文がある。

組合せ文

組合せ文には、区画文と付加文がある。

区画文

区画文はクシないしヘラにより区画を設定し、その中を文様で充填させたもの。区画文はさらに4つに区分される。

区画文の種類

区画文１種（垂下直線文）

区画中に、多くはクシａ種による縦方法の直線文・波状文を充填する。

区画文２種（区画充填文）

ヘラにより設定された区画中に、擬似縄文または縄文を充填する。

区画文３種（連環状弧文）

区画文２種に類似するが、形状は弧状。横方向に連続して設定される。

区画文４種

そのほかの区画文をまとめる。

付加文

付加文の種類

付加文は横方向の文様に直交ないし斜交する形で縦方向の刻みを施したもの。上下をヘラによる直線文により設定された区画中に施される場合もある。同一モチーフのうち、工具が複数に及ぶ場合もふくまれるもの（多くはクシとヘラ）を付加文Ａ種とし、さらにＸ字文（付加文Ａ１種）・丁字文（付加文Ａ２種）・山形文（付加文Ａ３種）・そのほか（付加文Ａ４種）と区分する。また、工具が単一なものをＢ種とし、これには複合鋸歯文（付加文Ｂ種）がある。

貼付文系

浮文

浮文は貼付する粘土の形状から、棒状浮文・円形浮文と区分する。

帯文

帯文には、突帯文（各種刻目文を付加するものＡ種、突帯のみのものＢ種）がある。

彩文系

彩文

彩文は、赤色顔料（大部分はベンガラ）を部分的に塗彩するもので、さまざまな形状にこれを塗彩する。ただし、残存状況の良好なものにめぐまれず、形状の判明した資料はない。

技法

おもに上記の手法を特徴的に駆使した特定手順の組合せや、特殊な文様構成などにより設定される作業を呼称する。岡島遺跡資料では６つの特徴的な技法があげられる。

技法の種類

肩部突出技法

壺にみられるもので、成形時に設定されるいくつかの小乾燥のうち、頸部以上を付加する段階（第２段階）で、粘土紐を若干内側に屈曲させて積む技法。この作業によって、器形は肩部がやや強調された形状となる。

黒色焼成技法

壺にみられるもので、黒色に焼成されている。断面の観察では、この色調は土器の表面、特に外面にのみ認められることから、これが土器焼成の最終段階で、器面に炭素を吸着させる特殊な冷却法を使用した結果と判断できる。

台部柱状技法

台付甕の台部にみられるもので、体部との接合部分を発達させ、柱状部を設定する。柱状部の外面には原則的に縦方向の手法Ｃｂを施す。

連続成形技法（円盤充塡法）

高杯にみられるもので、脚部から杯部を連続して成形する技法。杯部の底は、粘土板を貼り設定される。

付加沈線磨消技法

壺に限定された技法。ヘラによる直線文を間隔をあけて、平行に施すことでいくつかに区画し、交互に文様帯と研磨帯を配置する。文様帯は、クシｂ種による直線文を充塡したのち、付加文を施すことを原則する。研磨帯は手法Ｃａにより、基本的に横方向となる。

頸部文様帯強調技法

付加沈線磨消技法と類似するが、文様帯部分のみが若干突出し、視覚的に文様帯を強調するものを特に区分する。そのほかの形状は、付加沈線磨消技法と一致するが、付加沈線磨消技法の文様帯にはないモチーフを使用する場合も多い。

弥生土器の分類

分類

土器の形状については、上記の手法・文様・技法を考慮し、分類する。壺は32種、甕は10種、高杯は8種、鉢は4種に分類できる。

壺の種類

壺

壺は口縁部の形状に注目し、広口壺・細頸壺・無頸壺・短頸壺と区分する。

広口壺

広口壺は、頸部が太く、口縁部が外反する口縁部をもつ形状。11類に区分する。

広口壺Ａ

太い頸部に外反する口縁部をもつ。底部は突出。加飾性が強く、彩文を施す例も認められる。肩部突出技法が特色で、Ⅲ期以降（後述）黒色焼成技法がこれに加わる。

広口壺Ｂ

基本的形状・手法は、広口壺Ａによく類似するが、口縁端部が「受け口」状を呈するもの。

広口壺C

口縁部に特色をもつ。上面には「コブ」状に発達する円形浮文を用いる例もある。

広口壺D

大形品。太い頸部に外反する口縁部をもつ。加飾性は強い。黒色焼成技法、肩部突出技法が特色。底部は突出する。

広口壺E

口縁部は直線的に伸びる。外面の調整は手法Ｄａを原則とする。

広口壺F

口縁部は「受け口」状を呈する。外面の調整は手法Ｄａを原則とする。

広口壺G

口縁部が「受け口」状で、縁帯を形成する。縁帯外面には凹線文、擬凹線文を施す。

広口壺H

頸部は外反し、口端で縁帯を形成する。縁帯は下方が垂下する。加飾性は強い。

広口壺Ⅰ

頸部は外反し、口端で縁帯が形成される。

広口壺J

広口壺Ⅰに類似するが、頸部が短い。体部は、「ソロバン玉」状を呈する。外面には手法Ｃａを施す。縁帯外面には凹線文または、擬凹線文を施す。

広口壺K

頸部は外反し、口端で縁帯を形成する。体部最大径以下は、手法Ｃａを施す。加飾性が強く、赤彩が施される例も認められる。

広口壺L

体部は球形で、頸部が長く外反する広口壺。加飾性は乏しい。

広口壺Z

そのほかの広口壺をまとめる。

細頸壺

頸部が細く、外反する口縁部をもつ。比較的小振りで加飾性は強い。8類に区分される。

細頸壺A

丸みを帯びた体部に短く外反する口縁部をもつ形状。底部は突出する。

細頸壺B

基本的形状・手法は、細頸壺Aによく類似する。ただし、口縁部は鈍く立ち上がり、明瞭な縁帯を形成する。黒色焼成技法が特色。底部は突出する。

細頸壺C

基本的形状・手法は、細頸壺Bによく類似するが、頸部はやや長い。口縁部が鈍く立ち上がり、縁帯を形成する。黒色焼成技法が特色。底部は突出する。

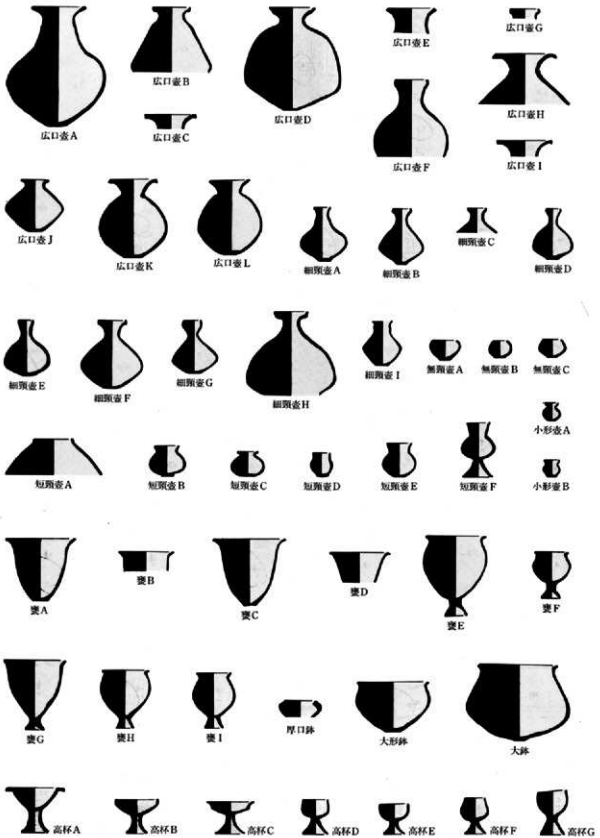

広口壺A
広口壺B
広口壺C
広口壺D
広口壺E
広口壺F
広口壺G
広口壺H
広口壺I
広口壺J
広口壺K
広口壺L
細頸壺A
細頸壺B
細頸壺C
細頸壺D
細頸壺E
細頸壺F
細頸壺G
細頸壺H
細頸壺I
無頸壺A
無頸壺B
無頸壺C
小形壺A
小形壺B
短頸壺A
短頸壺B
短頸壺C
短頸壺D
短頸壺E
短頸壺F
甕A
甕B
甕C
甕D
甕E
甕F
甕G
甕H
甕I
厚口鉢
大形鉢
大鉢
高杯A
高杯B
高杯C
高杯D
高杯E
高杯F
高杯G

図 32　形態分類図

細頸壺D

口縁部は鈍く立ち上がり、縁帯を形成する。黒色焼成技法、肩部突出技法が特色。底部は突出する。

細頸壺E

形状は、細頸壺Aに類似する。頸部はやや長く外反する。口縁部が鈍く立ち上がり、縁帯を形成する。黒色焼成技法、肩部突出技法が特色。底部は突出する。

細頸壺F

体部は「ソロバン玉」状を呈する。口縁部は立ち上がり、明瞭な縁帯を形成する。縁帯外面には、凹線文または擬凹線文を施す。

細頸壺G

口縁部が丸みを帯びて「袋」状を呈する。口縁部外面には、凹線文または擬凹線文を施す。

細頸壺H

大形品。太い頸部に外反する口縁部をもつ。加飾性は強い。黒色焼成技法、肩部突出技法が特色。底部は突出する。

細頸壺I

体部は「ソロバン玉」状を呈する。口縁部は外反し、端部が肥厚する。

細頸壺Z

そのほかの細頸壺をまとめた。

無頸壺

頸部をもたない形状。細頸壺の成形第2段階（底部～肩部まで）で製作。無頸壺は2類に区分される。

無頸壺A

腰部が張る形状。黒色焼成技法が特色。底部は突出する。

無頸壺B

体部が球形。黒色焼成技法が特色。底部は突出する。

無頸壺C

体部の形状は細頸壺FまたはGに類似する。口縁部外面には、凹線文または、擬凹線文を施す。

短頸壺

頸部が短い形状。短頸壺は6つに区分される。

短頸壺A

口縁部は肥厚し、フラットとなる。全形は不明。外面には、凹線文または擬凹線文を施す。

短頸壺B

しもぶくれの体部に短く外反する口縁部をもつ。端部は丸く収める。調整は手法Caによる。

短頸壺C

丸みを帯びた体部に、短く強く外反する口縁部をもつ。調整は手法Caによる。

短頸壺D

卵形の体部に、直立する口縁部をもつ。調整は手法Caによる。

短頸壺E

口縁部が外反するものをまとめた。調整は手法Caによる。体部、頸部の形状差により、さらに細分できるかもしれない。

短頸壺F

脚部をもつ短頸壺をまとめた。いずれも、頸部は体部の1/2以上である。「短頸」と呼称するには問題が残るが、短頸壺B・Eと、形状・手法などが類似することから、この名称を用いた。脚部の形状は、体部、頸部の形状差によりさらに細分できるのかもしれない。後述する高杯C～Fと同一。

小形壺

いわゆるミニチュアをまとめた。小形壺は3つに区分される。

小形壺A

ミニチュア品のうち、外面手法Caによるものを集めた。

小形壺B

ミニチュア品のうち、外面手法Dbによるものを集めた。

小形壺Z

そのほかのミニチュア品をまとめた。

甕

甕の種類

頸部の径が広い形状。甕は9類に区分される。いずれも基本的には煮沸痕が確認される。形状は、A～Dが平底、E～Hが台付である。

甕A

体部の形状は膨部がやや張る。口端はフラットであるが、貝殻またはクシによるオシビキ文を施す。体部外面は手法Daによる。

甕B

口縁部は緩やかに外反する。口端はフラットであるが、刻目文、局部圧痕文を施す。外面の調整は、手法Dbによる。

甕C

口縁部は緩やかに外反する。口端は丸みを帯びる。口端には局部圧痕文が確認さ

れる場合がある。体部外面は手法Ｄａによる。

甕Ｄ

口縁部は屈曲し外反する。口端は丸みを帯びる。口端には局部圧痕文が確認される場合がある。体部外面調整は手法Ｄａによる。

甕Ｅ

器壁は薄く、口縁部は緩やかに屈曲する。口端には刻目文が確認される場合がある。台部柱状技法が確認される。頸部や口縁部の形状差よりさらに細分できるかもしれない。外面調整は手法Ａａによる。

甕Ｆ

基本的形状・手法は甕Ｅに類似するが、小形となる。やはり頸部や口縁部の形状差よりさらに細分できるかもしれない。

甕Ｇ

口縁部は緩やかに外反する。口端はフラットとなる。口端には刻目文が確認される場合がある。体部外面は手法Ｄｂによる。

甕Ｈ

口縁部は明瞭な稜をもって屈曲する。調整は、外面が手法Ｆ、内面が手法Ｅｂを原則する。

甕Ｉ

体部は球形。調整手法は、外面が手法Ｄｂ、内面が手法Ｅｂを原則とする。

甕Ｚ

そのほかの甕をまとめた。

鉢

鉢の種類　甕を扁平にした形状。鉢は４類に区分される。

厚口鉢

無頸壺に類似した形状だが、扁平で器壁は厚い。口端は厚く肥大し、縁帯を形成する。腰部以下には、煮沸痕が確認される。調整は外面が手法Ａａ、口端が技法Ｄａによる。

大形鉢

腰部の張る扁平な鉢。口縁部は明瞭な段をもって屈曲する。調整は手法Ｄｂによる。

大鉢

腰部の張る扁平な鉢で、口縁部は緩やかに外反する。頸部を中心に加飾性が強い。黒色焼成技法が特色で、底部は突出する。煮沸痕が確認される。

鉢Z

そのほかの鉢をまとめた。

高杯

脚部をもつ。高杯は8類に区分される。

高杯の種類

高杯A

杯部は深い形状で、体部より水平に屈曲して口縁部を形成する。屈曲部上面には、小さな稜を形成する。端部はフラットとなる。連続成形技法が特色、調整は手法Ｃａによる。

高杯B

杯部は、丸みを帯びた形状。口縁部はなだらかに屈曲する。脚部は外反し、裾部を形成する。連続成形技法が特色、調整は手法Ｃａによる。

高杯C

杯部中央で明瞭な稜を形成する。上段部分は外反する。脚部は緩やかに外反し、裾部を形成する。柱状部は文様帯となる。調整は手法Ｃａによる。

高杯D

杯部は丸みを帯び、腰部で屈曲する。脚部は外反し、裾部を形成する。柱状部は文様帯となる。調整は手法Ｃａによる。

高杯E

杯部は丸みを帯び、腰部で屈曲する。口径と杯部最大径がほぼ同一。脚部は外反し、裾部を形成する。柱状部は文様帯となる。調整は手法Ｃａによる。

高杯F

体部は球形。柱状部は文様帯となる。調整は手法Ｃａによる。

高杯G

杯部は、緩やかに口縁部に至る。口唇は尖る。脚部は柱状部から直線的に裾部に伸びる。調整は手法Ｃａによる。

高杯Z

そのほかの高杯をまとめた。

②弥生土器

210～219はSZ05出土。210・211は主体部、そのほかは周溝からの出土。210は高杯C。杯部の小片。稜はシャープ。全面手法Ｃａによるが、稜の周辺部分の外面のみ手法Ａａによる。211は、壺で底部片。外面の調整は、器面の風化が進み判然としないが、外面は手法Ｃａ、内面は手法Ｄａによる。212は短頸壺F。腰部以下を欠損し、台部の有無は不明。外面は手法Ｃａによるが、口縁部のみ手法Ａｂを施す。213は短頸壺B。口縁部片。手法Ａｂを施す。214は壺の体部片。外面は手法Ｃａによる。212と同一個体である可能性がある。215は高杯C。杯部と脚部との接合部分の破片。器面は風化が進み判然としないが、調整は外面が手法Ｃａ、脚部外面にはヘラによる直線文を施す。216～218は、台部の小片。いずれも、器種は不明。外面は手法Ｃａによるが、端部のみ手法Ａｂを施す。217・218は端部がフラットとなる。219は鉢Z。体部は丸みを持ち、口縁部は短く外反する。底部は、やや突出し、外面の中央部が浅くくぼむ。外面は手法Ｄｂによるが、口縁部は手法Ａｂを施す。

220－226はSE01出土。220は広口壺Kの口縁部片。縁帯外面に擬凹線文、口縁部上面にクシｂ種による刻目文を施す。221は壺の口縁部片、　222・223は底部片である。いずれも外面の調整は、器面の風化が進み判然としない。224は器台。柱状部片。「筒」状を呈する。外面は手法Ｃａ。225は甕。口縁部は屈曲し、縁帯を形成する。混入品。226は甕Ⅰの底部。外面に手法Ｄａを施す。

227－240はSK03出土。227は壺。体部片、丸みを帯びる。外面は、胴部に手法Ｃａ、肩部に手法Ｄｂを施す。文様は肩部にみられ、クシｂ種による直線文と波状文を交互に施す。228は壺L。口縁部片で、外反する形状。口端はフラット。口端付近は手法Ａｂによる。口縁部上面にはクシｂ種による刻目文を施す。229は壺の底部。外面は手法Ｃａを施すが、部分的に手法Ｄｂを施した痕跡をとどめる。230は短頸壺F。裾部が欠損する。器面の風化が進むが、外面に手法Ｃａ、柱状部にはヘラによる直線文が確認できる。231・232は高杯Cの杯部片。外面の稜はシャープ。いずれも手法Ｃａによる。232にはクシｂ種による直線文と波状文を施す。233は高杯D。やはり杯部片。口縁部は外反する。内外面手法Ｃａによるが、口縁部は器面の風化が進み不明瞭。234は高杯の柱状部片。全面手法Ｃａを施したのち、ヘラによる直線文を六本一単位とし、これを6段施す。235・236は高杯の脚部片。外面は手法Ｃａによるが、裾部内面には手法Ａｂを施す。柱状部にはヘラによる直線文、クシｂ種による刻目文を施す。237～240は甕。237・240は甕の台部。いずれも煮沸痕を残す。238は口縁部片。「受け口」状を呈する。外面は手法Ｄｂ。239は台部を欠損する。口縁部付近に手法Ａｂを施すほかは外面が手法Ｄｂ、内面が手法Ｄｃによる。

241・242はSD05出土。241は蓋。傘形の体部に「円環」状の把手をもつ。口縁部はわずかにくびれる。くびれの部分には直径2㎜程度の穿孔を二個一組とし、これを対角線上に二ヶ所設定する。242は甕Ⅰ。台部は高い。外面の手法Ｄｂは、非常に密。頸部には直径2㎜程度の穿孔を二個一組とし、これを対角線状に二ヶ所設定する。なお、煮沸痕は確認できない。

243～275はSX 03出土。243は広口壺L。球形の体部に外反する口縁部をもつ。内面に手法Db、口端に手法Abを施すほかは、底部を除き全面手法Caによる。244は短頸壺B。丸みを帯びた形状。底部は突出する。外面は手法Caによる。245は短頸壺C。口縁部は強く外反する。口縁部は手法Ab、体部外面は手法Caによる。外底部には「木葉」の圧痕が確認できる。246～249は短頸壺E。246は丸底。口縁部には手法Ab、外面には櫛条を中心に手法Cbを施す。247～249は口縁部に手法Ab、外面に手法Caを施す。247は底部が突出する。250～255は短頸壺F。体部の形状は250・253・255が球形、251・252・254がやや扁平となる。外面の調整は手法Caを中心に、端部には手法Abも確認できる。文様は、柱状部にヘラによる直線文を重ねるが、250・251はクシb種による刻目文も施される。なお、254は脚部欠損後、破面を研磨して再利用している。256～262は小形壺A。体部の形状は球形で、口縁部は外反する。256は口縁部の中程で若干屈曲する。外面の調整は体部外面が手法Ca、口縁部には手法Abを施す。263・264は小形壺B。体部は、やや張る形状。調整は、体部外面に手法Db、口縁部に手法Abを施す。265～271は高杯。265が高杯D。266・267が高杯F、268～270が高杯E、271が高杯Gとなる。外面の調整は、手法Caを中心とし、端部には手法Abも確認できる。271は調整がややラフとなる。文様は、柱状部にヘラによる直線文を重ねるが、255・256・267・268には、クシb種による刻目文も施す。266・267は、口縁部にも文様帯をもつ。272～274は、鉢Z。272は、やや扁平な体部と内彎する短い口縁部をもつ。底部は突出する。273・274は、直線的な体部と突出する底部をもつ。外面の調整はいずれもラフで、口縁部には手法Abを施すが、体部には、前者が手法Db、後者が手法Aaを施す。275は甕I。胴部に張りをもつ形状で、口端はフラットとなる。外面の調整は手法Aaか。裾部は欠損するが、破面を研磨し再利用している可能性をもつ。

276～292はSX 04出土。276は短頸壺D。底部は突出する。調整は体部外面が手法Db、口縁部には手法Abを施すがラフである。277は短頸壺E。体部と口縁部の境界が不明瞭。調整は、体部外面が手法Db、口縁部には手法Ab、外底部には手法Eaを施す。278は壺。腰部が張る形状。外面の調整は、風化が進み判然としない。279・280は短頸壺F。体部の形状は、279がやや扁平、280が球形となる。外面の調整は手法Caを主体とし、端部には手法Abも確認できる。文様は、柱状部にヘラによる直線文を重ねる。281は高杯E。外面の調整は、手法Caを中心とし、端部には手法Abも確認できる。271はややラフとなる。文様は、柱状部にヘラによる直線文を重ねる。282～291は鉢Z。282～286は「コップ」状。外面の調整は、口縁部に手法Abを施すほかは、ラフな手法Acによる。288は、やや扁平な体部と、短い口縁部をもつ。底部は突出する。外面の調整は、手法Caを中心とし、端部には手法Abも確認できるほか、体部には、部分的に手法Dbを施す。289は、274に細部まで類似する。290は胴部がやや張る形状をとるほかは、282～286に細部まで類似する。291は甕の頸部を拡大した形状。低い台をもつ。外面の調整は、口縁部に手法Ab、体部手法Dbを施す。292は甕I。形状は胴部がやや張る球形。調整は、口縁部に手法Ab、体部

外面に手法Ｄｂを施す。煮沸痕は確認できない。

293・294は、SB02出土。同一個体で、甕E。卵形の体部と、短く外反する口縁部をもつ。調整は外面が手法Ａａ、内面が手法Ａｃによるが、柱状部には台部柱状技法が確認できる。文様は、口端にヘラによる刻目文を施す。

295～299はSZ06の周溝出土。295は広口壺AまたはB。口縁部と腰部以下を欠損する。外面の調整は、肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴。外面は手法Ａａを施す。文様は、クシａ種による波状文、直線文、オシビキ文を施した空間に、区画文1種を施す。296は細頸壺。口縁部を欠損する。形状は胴部がやや張り、底部は突出する。外面の調整は、肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴。外面は手法Ａａを胴部まで、腰部以下はさらに手法Ｃｂを施す。文様は、クシｂ種による直線文を頸部に二段、肩部と胴部上方に各一段ずつ施したのち、肩部と胴部上方の直線文を、やはりクシｂ種による縦方向の波状文で所々つなぐ。297は壺。口縁部を欠損する。体部の形状は「ソロバン玉」状。外面の調整は、手法Ａａを胴部まで、腰部以下は手法Ｄｂを施す。文様は、クシｄ種による直線文と波状文を交互に重ねる。298も297と類似。ただし、施文原体はクシｂ種。直線文と波状文は交互ではない。なお、波状文はラフである。299は口縁部を欠損する。体部の形状は、「ソロバン玉」状。外面の調整は器面の風化が進み判然としないが、腰部外面には手法Ｄｄを施す。

301～348はSZ07の周溝出土。301～304は広口壺D。304を除き、黒色焼成技法が特徴。301は口縁部片。縁帯は外反する。調整は器面の風化が進み判然としないが、手法Ａａによる。文様は、頸部下方にクシａ種による直線文を重ね、上方にはやはりクシａ種によるはね上げ文を施す。302・304は頸部片。形態・手法は301と類似する。文様は前者については301と同様であるが、残存部の下方には区画文1種の一部が確認できる。後者は、頸部下方に竹管による山形文を施す。303は肩部片。肩部突出技法が確認できる。外面の調整は、手法Ａａによる。文様は肩部上方の竹管による直線文を境界とし、上方にクシａ種による波状文を重ね、下方には区画文1種を施す。305・306は広口壺H。いずれも肩部以下を欠損する。305は、がっしりとした縁帯をもつ。外面の調整は、肩部が手法Ｃａ、縁帯が手法Ａｂ、内面が手法Ｄｂによるほかは、手法Ａａによる。文様は、縁帯に回線文、口縁部上面にクシｂ種による刻目文を施す。306は、縁帯下方が垂下する。外面の調整は器面の風化が進み判然としない。文様は、頸部に突帯文を三条貼付し、その下方にクシｂ種による刻目文を施す。縁帯は、竹管による刻目文を三段重ねた文様を間隔を開けながら配置する。307は広口壺Ⅰ。口縁部片で、縁帯に擬凹線文を施す。308は広口壺B。底部は突出し、縁帯は外反する。外面の調整は、肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴。外面の調整は器面の風化が進み判然としない。無文で、胴部には焼成後穿孔の円窓をもつ。309は、口縁部が肥厚し、底部は突出する。外面の調整は、器面の風化が進み判然としないが、黒色焼成技法が特徴。腰部外面にわずかに手法Ｃｂが確認できる。文様は不明確だが、胴部にヘラによる斜格子文がわずかに確認できる。口端には指頭による局部圧痕文を施す。胴部には焼成後穿孔の円窓をもつ。310・311は壺で、口縁部を欠損する。底部は突出する。肩部突出技法

・黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、器面の風化が進み判然としない。文様は、310が肩部上方にクシｂ種による直線文、その下方に区画文１種を施す。311は無文。312・313も壺。黒色焼成技法が特徴で、前者には肩部突出技法も確認できる。外面の調整は、前者については、器面の風化が進み判然としないが、後者は腰部下方外面に手法Ｃｂ、胴部外面には手法Ａａを施す。文様は、311では頸部に確認できるが、詳細は不明。313は無文。314～316は、細頸壺Ｃ。314・316は頸部の発達する形状。肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、器面の風化が進み判然としないが、前者には腰部外面、後者に肩部以下で、わずかに手法Ｃｂが確認できる。文様は、314が頸部の上方にクシｂ種による直線文を積み、下方には貝殻による刻目文を間隔を密に並べる。316は、頸部からクシｂ種による直線文二段と、波状文二段を、間隔を開けて刻んだのち、波状文間については、縦方向の直線文でこれをつなぐ。315は、肩部以下を欠損する。無文。317は無頸壺Ａ。肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴。底部は突出する。外面の調整は腰部以下に手法Ｃｂ、口縁部に手法Ａｂを施す。文様は口縁部外面に回線文が確認できる。318は壺の台部。低くがっしりとした形状。外面の調整は、器面の風化が進み判然としない。319・320も壺。詳細は、器面の風化が進み判然としない。321も壺。腰部以下が残存する。底部は突出する。肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴。調整は、腰部外面で手法Ｃｂが確認できる。322は台部をもつ細頸壺。口縁部は欠損する。「ソロバン玉」状の体部に、低くがっしりとした台部がつく。外面の調整は、肩部・胴部の外面は手法Ａａ、腰部と台部の外面は、縦方向の手法Ｅｂによる。文様は肩部を中心に、クシｂ種による直線文と幅の狭い扇形文の列を交互に並べる。323～325も細頸壺。いずれも、口縁部を欠損する。体部は「ソロバン玉」状。323は、外面に手法Ｄｂを施したのち、手法Ａａをラフに施す。無文。腰部には、直径３㎝大の焼成後穿孔がみられる。324は、腰部外面に手法Ｃｂを施す。文様は、円形浮文を縦方向に並べて貼付する。325は、腰部外面に手法Ｅａを施す。文様は、肩部を中心に、クシｄ種による直線文、波状文を施したのち、ヘラによる縦方向の直線文により器面を分割し、肩部上方のみ、やはりヘラによる斜格子文で間隔を充填する。326は高杯Ａ。脚部を欠損する。連続成形技法が特徴。外面に手法Ｄｂ、内面に手法Ａａを施す。文様は、口端にクシｄ種による波状文がある。327・328は高杯の脚部片。やはり連続成形技法が特徴。327は、裾部がやや広がる。端部はフラットとなる。外面の調整は、裾部が手法Ａａ、柱状部は手法Ｄｂ。328は基本的に327と同一。裾部を欠損する。330は鉢Ｚ。底部は突出する。詳細は、器面の風化が進み判然としない。331～339は、甕Ｅ。331～337は口縁部が残存する。形状は、口縁部が短く外反し、いずれも内側に稜をもつ。また、体部が残存する331・332・334・336は、胴部にやや張りをもつ。調整は全面手法Ａａによる。文様は331・334・335の口端にクシｂ種による刻目文を施す。338・339は腰部片。調整は手法Ａａによる。340～345は台部。342・344には、体部柱状技法が確認できる。346～348は甕Ｈ。346・347は胴部が張る形状。口縁部は屈曲し、端部はフラットとなる。外面の調整は、外面が手法Ｆを施したのち、手法Ｄｂを施す。内面は、手法Ｄｂによるが、腰部の残存する347には、この部分に

縦方向の手法Ｅｂが確認できる。文様は、クシｂ種を原体とするものが346に認められ、口端にオシビキ文、肩部に刻目文を施す。348は台部。外面は手法Ｄｂによる。

349は、SZ11の棺身。肩部以上が欠損する。器種は広口壺ＡまたはＢか。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、腰部が手法Ｃｂ、胴部が手法Ａａによる。文様はクシａ種による直線文と波状文を交互に刻む。

350･351はSZ12の棺蓋と棺身。350が棺蓋で、肩部以上が欠損する。器種は広口壺ＡまたはＢか。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、腰部が手法Ｃｂ、胴部が手法Ａａによる。文様は、竹管によるオシビキ文を波状に連続させる。また、図中に表現していないが、さらに上方には区画文1種(？)も確認できる。351は棺身。やはり肩部以上が欠損する。体部は球形。外面の調整は、腰部が手法Ｃｂ、胴部が手法Ｄｂによる。文様はクシｃ種による直線文と波状文を交互に刻む。

352･353はSZ12の棺蓋と棺身。352が棺蓋で、肩部以上が欠損する。器種は壺か大鉢。黒色焼成技法が特徴。底部は突出し、腰部は丸みを帯びる。外面の調整は手法Ｃｂ。353は棺身。肩部以上が欠損する。器種は広口壺ＡまたはＢか。黒色焼成技法が特徴。形状は胴部の最大径付近から外彎気味に肩部を形成する。腰部は丸みを帯びる。外面の調整は、腰部が手法Ｃｂ、胴部が手法Ａａによる。文様は腰部以上にみられ、胴部上方のクシａ種による直線文に、やはり縦方向のクシａ種による直線文を交差させ、その上部にはヘラによる波状文を施す。

354はSZ16の棺身。肩部以上が欠損する。器種は広口壺ＡまたはＢ。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、腰部が手法Ｃｂ、胴部が手法Ａａによる。文様は、区画文1種を「チドリ」状に配置する。

355･356はSZ17の棺蓋と棺身。355が棺蓋で、肩部を中心とした破片。器種は壺。肩部の形状は丸みを帯びる。調整は、外面に手法Ｄｂを施したのち、手法ＣａをラフにＣ施す。文様はクシｂ種による直線文と波状文を交互に刻む。356は棺身。器種は広口壺Ⅰ。体部の形状は丸みを帯びた「ソロバン玉」状。頸部は外反し、口端で縁帯を形成する。外面の調整は、腰部に手法Ｄｂ、口端に手法Ａｂを施すほかは、手法Ａａによる。文様は、頸部にクシｄ種による直線文とその直下にクシｂ種による刻目文を施す。体部の文様は、クシｄ種による直線文と波状文を交互に配置したもの。

357はSZ18の棺身。頸部･口縁部が欠損する。器種は壺。体部の形状は丸みを帯びた「ソロバン玉」状。外面の調整は、肩部を除き手法Ｃｂ。文様は肩部にみられ、クシｂ種による直線文と波状文を施す。

358･359はSZ19の棺蓋と棺身。355が棺蓋で、肩部を中心とした破片。器種は壺。肩部の形状は丸みを帯びる。外面の調整は、手法Ｄｂを施したのち、手法ＣｂをラフにＣ施す。

359は棺身。肩部以上が欠損する。器種は壺。体部の形状は丸みを帯びた「ソロバン玉」状。外面の調整は、手法Ｃｂ。残存部分は無文。腰部には焼成後穿孔がみられる。

360はSZ20の棺身。肩部以上が欠損する。器種は壺。体部の形状は丸みを帯びた「ソロ

バン玉」状。外面の調整は、器面の風化が進み判然としない。残存部分は無文。

361はSZ21の棺身。肩部以上が欠損する。器種は壺。体部の形状は丸みを帯びた「ソロバン玉」状。外面の調整は、手法Dbによる。文様はクシb種による波状文を胴部上方に二段施す。

362はSZ22の棺身。肩部以上が欠損する。器種は壺。体部の形状は丸みを帯びた「ソロバン玉」状。外面の調整は、器面の風化が進み判然としないが、手法Cbか。残存部分は無文。

363はSZ27の棺身。器種は広口壺H。超大形品。体部の形状は丸みを帯びた「ソロバン玉」状を呈し、縁帯は口縁部上面にも発達する。底部は突出する。外面の調整は、縁帯に手法Ab、底部に手法Aaを施すほか、手法Cbによる。文様は、頸部付近と縁帯及び口縁部上面にみられる。前者は、突帯文を貼付し、その下方にクシb種による直線文と波状文、後者はクシb種による刻目文を「ヤガスリ」状に並べる。

364はSZ28の棺身。器種は広口壺H。底部を欠く。超大形品。体部の形状は卵形。口縁部は外反する。外面の調整は、体部が手法Cc、頸部が手法Ca、縁帯が手法Abとなる。文様は、頸部に突帯文を貼付するほか、縁帯に凹線文を施す。

365・366は、SZ29の棺蓋と棺身。365が棺蓋。器種は大鉢。胴部にやや丸みをもつ形状。口縁部は短く屈曲し、底部は突出する。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、腰部が手法Cb、胴部が手法Aa、口縁部が手法Abによる。文様は胴部以上に認められる。口端にヘラによるオシビキ文を施すほかはクシa種によるもので、頸部上方に波状文、同下方にオシビキ文を施し、これを胴部の直線文と大ピッチの山形文で結ぶ。366は棺身。器種は大鉢。胴部にやや張りをもつ形状。口縁部は外反、底部は突出する。外面の調整は、腰部に手法Cb、胴部に手法Dbを施したのち、手法Aaをラフに施す。文様は胴部以上に認められる。口端にヘラによる刻目文を施すほかはクシb種によるもので、肩部に連弧文を施したのち、上下にそれぞれ簾状文を刻む。

367はSZ30の棺身。肩部以上が欠損する。器種は壺か。腰部の形状は丸みを帯び、胴部はやや張り、底部は突出する。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、腰部が手法Cb、胴部が手法Aaによる。文様は、胴部上方にクシa種による連弧文と縦方向の直線文を、腰部上方にはヘラによる連弧文を重ねた文様の接点付近にやはりヘラによる斜線子文を重ねる。

368・369はSZ31の棺蓋と棺身。368が棺蓋。器種は広口壺AまたはB。肩部以上が欠損する。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、腰部が手法Cb、胴部が手法Aaによる。文様は胴部上方にヘラによる直線文で区画された中にやはりヘラによる斜格子文を施す。369は棺身。器種は広口壺AまたはBか。文様以外はすべて368に類似する。文様構成は、胴部上方にクシa種による直線文を施すが、そのさらに上方には区画文1類を施す。

370はSK08出土。器種は壺。口縁部と腰部以下を欠く。形状は体部で丸みを帯び、頸部で緩やかに外反する。調整は外面が手法Db、内面が手法Dcによるが、残存する最下部外面には手法Caを横方向に施す。文様は頸部にクシb類による直線文を重ねたのち、縦方向の波状文でこれを刻む。

371～457はSX05出土。371は細頸壺H。体部は丸みを帯び、頸部は細い。口縁部は立ち上がり、「受け口」状を呈する。肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、口縁部に手法Ａｂ、肩部・頸部外面に手法Ａａ、胴部・腰部に手法Ｃｂを施す。文様は、口縁部上面にヘラによる刻目文を施す。頸部は、クシａ種による斜線文を４段施したのち、ヘラによる直線文でこれを横方向に区画する。肩部の区画文１種、胴部上方は、ヘラによる直線文で区画された中にやはりヘラによる斜格子文を施す。また、頸部の文様帯下方と胴部上方の文様帯の上下にはヘラによる波状文を施す。372・373は広口壺D。口縁部片。縁帯はやや外反する。縁帯内面に手法Ａｂを施すほかは、手法Ａａによる。文様は、372が、頸部上方にクシａ種によるはね上げ文、下方に直線文を重ねる。頸部中央以下は、竹管による文様も付加し、中央部分が縦方向の直線文、下方が横方向の直線文となる。373は原体が全てクシｂ種による。はね上げ文を頸部上方に、下方には直線文を重ねたのち、部分的に縦方向の直線文でこれを刻む。374は広口壺D。口縁部・底部を欠く。肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、肩部に手法Ａａ、胴部・腰部に手法Ｃｂを施す。文様は肩部上方にヘラによる斜格子文と直線文、肩部と胴部には区画文１種と、区画文４種を施す。375は壺の口縁部。外面の調整は、器面の風化が進み判然としないが、口縁部が手法Ａｂ、そのほかが手法Ａａか。文様は口縁部外面に回線文を施す。376～394が広口壺A。全形の判明するものは376のみで、多くは底部もしくは体部の一部分が欠損する。肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴であるが、前者については383、後者については382・387が例外となる。外面の調整は口縁部に手法Ａｂ、肩部・胴部上方に手法Ａａ、腰部に手法Ｃｂを施す。文様は、口端に刻目文またはオシビキ文、頸部と体部にクシａ種またはヘラによる直線文・波状文が施される。口端の文様はヘラを原体とするものが一般的だが、337・339・386は指頭、385が竹管、393が貝殻となる。頸部の文様では、上方にはね上げ文をもつものに376・378・390があるが、原体は前二者がクシｂ種、後者がクシａ種となる。ヘラによる斜格子文をもつものは377・380・383～385・390で、さらにヘラによる直線文を付加するものに377・380・384がある。体部の文様は、クシａ種による直線文と波状文が一般的だが、377・382の上段・388・391・392・395はクシｂ種で、391・392はラフとなる。また、そのほかの文様として、390は口縁部内面にヘラによる記号文を施す。395～397は広口壺AまたはB。口縁部を欠く。やはり、肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴となる。外面の調整は肩部・胴部上方の外面に手法Ａａ、腰部外面に手法Ｃｂを施す。文様は、395・397がクシａ種による直線文と波状文を施すが、395の最上段はオシビキ文をとなる。396はクシｂ種による波状文。ラフである。398～400は広口壺B。黒色焼成技法が特徴。肩部の残存するものは、肩部突出技法も確認できる。口縁部の形状は、398・399が、明瞭な「受け口」状で、400はこれが不明瞭となる。外面の調整は、口縁部が手法Ａｂ、肩部・胴部上方が手法Ａａ。文様は、398が、口縁部上面に、指頭による局部圧痕文。頸部と体部は、クシａ種による直線文・波状文・連弧文の組合せとなる。399は、口縁部上面に、指頭による局部圧痕文、頸部には、クシｂ種によるはね上げ文にヘラによる斜線文を付加する。400は、

肩部下方には区画文1種、頸部と肩部上方には、ヘラによる斜線文を二段「ヤガスリ」状に配し、やはりヘラによる直線文二条と刻目文を「ハシゴ」状に組み合わせた文様を付加する。401は広口壺Ⅰ。口縁部片で、縁帯に凹線文を施す。402・403は広口壺C。やはり口縁部片となる。頸部がやや長く、口端で縁帯を形成する。外面の調整は、前者が手法Aａ、後者が手法Dｂとなる。文様は、口縁部上面と、縁帯にクシb種による波状文、前者にはさらに頸部にクシc種による直線文と、クシb種による刻目文を加える。404も広口壺C。形状は、体部が丸みを帯びた「ソロバン玉」状で、口縁部は、402・403と同一となる。外面の調整は、手法Dｂによるが、口縁部には手法Aｂを加える。文様は、縁帯にクシb種による波状文、体部上方にクシd種による直線文と波状文を施す。405は、丸みを帯びた体部と、外反する口縁部をもつ。外面の調整は、風化が進み判然としない。文様は肩部を中心にクシb種による直線文と波状文を交互に施す。406は壺。体部の形状は丸みを帯びた「ソロバン玉」状。全体に風化が著しく、詳細は不明。407は細頸壺D。肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴となる。外面の調整は、器面の風化が進み不明瞭だが、口縁部が手法Aｂ、肩部・胴部が手法Aａ、腰部が手法Cｂによる。文様は、頸部上方にクシa種によるはね上げ文、頸部と肩部上方では、ヘラによる斜線文を二段「ヤガスリ」状に配し、やはりヘラによる直線文を付加する。また、胴部上方ではヘラによる直線文二条の間にクシａ種による斜線文を充塡する。肩部と胴部上方の文様帯の間には、ヘラによる波状文を施す。408は広口壺F。口縁部片。広口壺Fとしては一般的でない黒色焼成技法(ただしそれほど顕著ではない。)が特徴となる。外面の調整は、器面の風化が進み不明瞭だが、口縁部が手法Aｂ、肩部の外面が手法Aａとなる。文様は、縁帯に回線文または擬回線文を施すほかはヘラによるもので、頸部上方にははね上げ文、下方には直線文と連弧文、肩部には縦方向の波状文がみられる。408は細頸壺D。黒色焼成技法が特徴となる。外面の調整は、口縁部に手法Aｂ、肩部・頸部外面に手法Aａを施す。文様は頸部にクシａ種によるはね上げ文を施し、ヘラによる直線文を付加する。口縁部内面にも竹管による刻目文、区画文4種がみられる。410は細頸壺B。外面の調整は、口縁部が手法Aｂ、頸部が手法Aａとなる。文様は頸部にクシａ種によるはね上げ文を施し、ヘラによる直線文を付加する。411は細頸壺C。黒色焼成技法が特徴となる。外面の調整は、口縁部が手法Aｂ、肩部・頸部外面が手法Aａだが、口縁部外面には手法Dｂ、残存する最下方には、手法Cａを施す。文様はクシb種による直線文と波状文を施す。412は細頸壺E。肩部突出技法・黒色焼成技法(ただしそれほど顕著ではない。)が特徴となる。外面の調整は、器面の風化が進み不明瞭だが、口縁部が手法Aｂ、肩部・胴部の外面が手法Aａ、腰部が手法Cｂによる。文様は、頸部にクシb種による直線文、頸部下方から胴部までは、ヘラによる直線文二条の間にクシａ種によるオシビキ文を充塡する文様を横方向に二段施したのち、それぞれの下部から斜線文風に同様の文様帯を刻む。413も細頸壺E。口縁部片。外面の調整は、口縁部が手法Aｂ、頸部の外面が手法Aａによる。文様はクシａ種による波状文を口縁部外面に、頸部には直線文を施す。414も細頸壺。口端がわずかに屈曲し、体部は丸みを帯びる。外面の調整は、

口縁部が手法Ａｂ、そのほかが手法Ａａによる。文様は全て原体がヘラ。頸部には直線文を二条、体部には縦方向の直線文で器面を区画したのち、各区画毎に直線文を積む。415は細頸壺G。胴部は強く張る。外面の調整は、口縁部が手法Ａｂ、肩部・胴部が手法Ａａ、腰部が手法Ｄｂとなる。文様は口縁部に凹線文、頸部にはクシｂ種による刻目文と簾状文を三条施す。体部は上方から竹管による直線文と波状文を施し、胴部上方付近から下方にはクシｂ種による直線文と波状文を交互に刻む。416も細頸壺G。口縁部片。外面の調整は、口縁部が手法Ａｂ、頸部外面が手法Ａａによる。文様は口縁部に凹線文。頸部には、クシｂ種による刻目文を施す。417～420は細頸壺F。いずれも口縁部片。外面の調整は、口縁部が手法Ａｂ、頸部外面が手法Ａａによるが、418・419は手法Ｄｂの痕跡も残す。文様は口縁部に擬凹線文を施し、頸部には417がクシｂ種による刻目文、418・420がヘラによる直線文を施す。421～430は細頸壺の体部を集めた。422は胴部以下を欠損する。形状は「ソロバン玉」状を呈するものが、424・426・427・430で、「しもぶくれ」の形状をとるものが、421・423・428となる。428・423は底部が突出する。このうち肩部突出技法によるものは421、黒色焼成技法によるものは421・422・423となる。外面の調整は、胴部・肩部が手法Ａａとなることは通有だが、腰部は、手法Ａａが428、手法Ｃａによるものが426・429、手法Ｃｂによるものが424、手法Ｄｂによるものが427となる。文様は、クシｄ種による直線文と波状文を交互に施すものが426・427・429・430。だが、429は同様の原体で上段の直線文に縦方向の直線文を付加する。421・422・428は、クシａ種による文様で、421がオシビキ文と縦方向の波状文、通常の波状文を施す。422は直線文を間隔を開けて施し、ヘラによる斜線文を付加する。428は直線文を頸部と胴部に施し、肩部にはオシビキ文を縦方向に並べる。424はクシｂ種による直線文を重ねるもので、最下段には波状文も施す。直線文は頸部にも確認できるが、器面の風化が著しく、図中に表現していない。423・425はヘラによる文様構成。423は、頸部にはねあげ文を施し、体部には波状文と二条の直線文中に貝殻による刻目文を充填した文様を交互に並べる。425は、直線文二条中に斜格子文を充填する。431～446は壺の体部片を集めた。このうち、肩部突出技法によるものは433・437・438、黒色焼成技法によるものが431・432・434・437・439・440となる。文様は、431が肩部上方には、ヘラによる斜線文を二段「ヤガスリ」状に配し、その下方にヘラによる直線文を二条、さらに下方に区画文１類を施す。432はクシｂ種による直線文を間隔を開けて配し、さらにヘラによる山形文を施す。433は頸部にヘラによる斜格子文と直線文を組み合わせた文様を配置し、その下方にヘラによる刻目文、さらに下方にはクシｂ種による波状文を施す。434・435はクシｂ種による文様で、前者が直線文とオシビキ文の組合わせ、後者が連弧文を重ねる。436はクシａ種による波状文の上にヘラによる波状文と直線文をそれぞれ二本ずつ刻み、その下方に区画文１種を施す。437は二本のヘラによる直線文中にクシａ種による斜線文を充填した文様を間隔を開けて並べる。各文様帯間は手法Ａａ。438は、ヘラによる二条の直線文間に貝殻によるオシビキ文を充填する文様帯を、横方向に二段施し、その間にヘラによる山形文を刻む。439はヘラによる二条の直線文間に貝殻によるオシビ

キ文を充填する文様帯を、「丁字」状に配す。440は、破片の上下にクシd種による直線文をやはりクシd種による縦方向の直線文で刻む文様帯を設定し、中央の手法Aaによる無文帯とヘラによる波状文を挟む。441は、ヘラによる波状文間にやはりヘラによる山形文を施す。442は、ヘラによる直線文二条の間にヘラによる刻目文を充填する文様を横方向に施す。443は竹管による斜格子文を上下に挟んでクシb種による直線文を施す。444・446はクシb種による直線文と、竹管による刻目文を施す。445はクシa種による縦方向の直線文と波状文を施す。447・448は高杯A。447は脚部を欠く。いずれも黒色焼成技法・連続成形技法が特徴。外面の調整は、器面の風化が進み不明瞭だが、口縁部に手法Ab、そのほかには手法Aa、内面に手法Aaを施す。また、447の脚部外面は手法Caによる。499は大鉢。頸部が発達する形状。口縁部は内面に稜をもって屈曲する。外面の調整は、口縁部が手法Ab、腰部が手法Cbによるほかは手法Aaによる。文様は、体部にクシa種による波状文と直線文、口端に指頭による刻目文を施す。450は大形鉢。体部の形状は丸みを帯びる。口縁部は外反する。外面の調整は、腰部が手法Cbによるほかは基本的に手法Dbによる。文様は口端にヘラによる刻目文を施す。451～455は、甕E。形状は、口縁部が短く外反し、いずれも内側に稜をもつ。452はこれが明瞭、451・453はこれが不明瞭となる。また、体部が残存する454・455は、胴部にやや張りをもつ。外面の調整は全面手法Aaによるが、451・453は手法Dbによる。文様は、口端にヘラによる刻目文が、451・454・455に確認できるが、452にも施す可能性がある。456・457は台部。柱状部は、前者が著しく発達し、後者が未発達となる。いずれも外面の調整は、器面の風化が進み不明瞭。

458～460はSK10出土。458は広口壺A。肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴。口縁部は外反する。外面の調整は、腰部に手法Cbを施すほかは手法Aa。文様は、頸部と体部にクシa種による直線文と波状文、オシビキ文を施し、口端には指頭による刻目文がみられる。459は壺の体部片。外面の調整は手法Aaによる。文様はクシa種による。460は壺の底部。腰部外面には手法Cbを施す。

461～474はSD07出土。461は広口壺A。黒色焼成技法が特徴。口縁部は外反する。外面の調整は、手法Aa。文様は、頸部にクシa種による直線文を施す。462は広口壺I。外面の調整は、口端が手法Ab、そのほかは手法Aaとなる。文様は口縁部上面にクシb種による扇形文を施す。頸部下方、肩部にはクシb種による波状文と直線文、口端には擬凹線文が確認できる。463も広口壺I。口端の文様が凹線文となるほかは、462に一致する。464～471は壺の体部。外面の調整は手法Aaによるが、464は手法Cbも施す。文様はクシa種を基本とし、464が波状文、465・467が直線文とオシビキ文、468が直線文と波状文となる。また471はヘラによる波状文も付加する。469はクシa種による斜線文に、ヘラによる直線文・波状文を付加した文様帯と、ヘラによる斜線文を部分的に施す。また、470には区画文1種を施す。472は鉢Z。やや深い体部と、低く扁平な台部をもつ。外面の調整は手法Eaを施したのち、ラフな手法Aaを加える。473・474は甕の台部。473は柱状部の上方、474は擬部片。

475～501はSZ33出土。475～487は西側周溝出土。475・476は細頸壺A。口縁部は外反し、口端はフラット。外面の調整は、手法Aa。いずれも、頸部にヘラによるはね上げ文を施すが、後者については、頸部外面にクシb種による直線文も充填する。なお口端にはヘラによるオシビキ文も施す。477も細頸壺。頸部片。文様は付加沈線磨消技法によるが、文様帯はクシb種によるオシビキ文となる。479は壺の頸部片。外面の調整は、手法Aaによる。文様には竹管による縦方向の直線文を施す。480は壺の胴部片。外面の調整は、手法Aaによる。文様は、クシb種による直線文を縦方向と横方向に施す。481～483は壺。前者が頸部片で、後二者が肩部片である。外面の調整は、手法Da1を地文に、ヘラによる波状文を付加する。混入。484は、おそらく大鉢。口縁部は外反する。調整は手法Aa。文様は口縁部上面と口端に集中する。口縁部上面の文様は、クシb種による直線文上にヘラによる刻目文を付加し、口端ではヘラによる直線文と刻目文を施す。485・486は甕C。外面の調整は、手法Db。文様は、口端に指頭による局部圧痕文を施す。487は甕D。外面の調整は、手法Da1。文様は口端に指頭による局部圧痕文がある。488～501は東側周溝出土。488は細頸壺A。頸部がやや太くなる。外面の調整は、胴部下方が手法Db。文様は、頸部下方・肩部が付加沈線磨消技法によるが、ヘラによる直線文は省略される。文様帯は付加文A2。原体はクシb種。なお、口端には指頭による局部圧痕文がある。489は細頸壺C。口縁部片。口縁部は緩やかに屈曲する。文様は外面全面にクシb種による直線文を充填後、縁帯下方にヘラによるオシビキ文を付加する。490～493、496・497は壺。いずれも体部片で、黒色焼成技法・付加沈線磨消技法が確認できる。文様帯に付加文が確認できるのは490・491・496の付加文A2種、493のA3種である。なお、497は棒状浮文を付加する。498は壺の底部片。外面は手法Db。499も壺。体部片で、外面の調整は手法Aa。文様は区画文2種。充填された文様は貝殻による擬似縄文。500は甕。口縁部片で内外面手法Dbによる。文様は口端に竹管によるオシビキ文を施す。501は甕A。外反する体部にフラットな口端をもつ。外面の調整は手法Da。文様は口縁部内面に貝殻（？）による波状文、口端に貝殻による直線文を施す。

502～508はSZ34・35の共有周溝出土。502は細口壺A。黒色焼成技法・付加沈線磨消技法が確認できる。胴部が張る形状。外面の調整は、胴部以下が手法Dbによる。文様は、縁帯にクシb種による波状文、頸部にクシb種による直線文を重ね、その下方には、二本のヘラによる直線文間にやはりヘラによる刻目文を充填する。口端内面には指頭による局部圧痕文を施す。肩部を中心とする付加沈線磨消技法は、文様帯がクシb種によるもので、付加文はA2種となる。503は壺の口縁部片。黒色焼成技法が確認できる。口縁部は外反し、口端はフラットとなる。外面の調整は手法Aa。前者は、頸部にヘラによるはね上げ文、口端にはクシb種による直線文、ヘラによるオシビキ文を施す。504～506も壺。黒色焼成技法・付加沈線磨消技法が確認できる。文様帯はクシb種によるもので、付加文は504がA2種、505・506がA3種となる。なお、505には彩文も確認できる。507は壺の胴部片。黒色焼成技法が確認できる。外面は手法Dbによる。508は甕C。腰部に丸みをもつ形状。

口縁部は外反し、端部を丸く収める。外面の調整は、手法Ｄｂ。文様は口端に指頭による局部圧痕文がある。

509・510・512～514はSZ 36 東周溝出土。器種はいずれも壺。509は細頸壺Ａの口縁部片。口縁部は外反し、端部はフラットとなる。外面の調整は、手法Ａａ。文様は頸部にクシｂ種による直線文を重ね、やはりクシｂ種による縦方向の直線文でこれを刻む。510は広口壺Ａか。口縁部片で、黒色焼成技法が確認できる。形状は、口縁部が外反し、口端は丸みを帯びる。外面の調整は手法Ａａ。文様は頸部に、付加文Ａ３種。口端にはヘラによるオシビキ文を施す。512は細頸壺の頸部。黒色焼成技法が確認できる。文様は付加沈線磨消技法によるほか、彩文も確認できる。513は肩部片。肩部上方に付加文Ａ３種を施す。514は腰部片。黒色焼成技法が確認できる。外面は手法Ｄｂによる。

511はSD 18 出土。器種は細頸壺Ａ。黒色焼成技法・付加沈線磨消技法が確認できる。体部は球形を呈する。外面の調整は、頸部が手法Ａａ、胴部以下が手法Ｄｂによる。文様は、頸部にクシｂ種による直線文、口端には指頭による局部圧痕文を施す。肩部を中心とする付加沈線磨消技法はやや退化傾向で、最下段のヘラによる直線文が省略される。文様帯はクシｂ種によるもので、付加文はＡ３種となる。

515～518はSZ 36 南周溝出土。器種はいずれも壺。515は黒色焼成技法・付加沈線磨消技法が確認できる。文様帯はクシｂ種によるもので、付加文はＡ１種となる。516は細頸壺Ａか。口縁部片で、端部はフラット。外面の調整は手法Ａａ。文様は頸部外面にクシｂ種による直線文を重ねる。517は、付加沈線磨消技法が確認できる。文様帯はクシｂ種によるもので、付加文はＡ２種か。518は区画文３種を施し、。ヘラによる直線文を充填する。

519～532はSK 11 出土。519は広口壺。口縁部は外反する。外面の調整は、器壁の風化が進み不明。文様は、口端にヘラによる刻目文を施し、口縁部上面に円形浮文を貼付する。縁帯下方には突帯文Ａ種を施す。付加される刻目文はヘラによる。520は広口壺Ｂ。縁帯は長い。外面の調整は手法Ａａ。文様は、縁帯に円形浮文、口縁部上面と縁帯下端に貝殻によるオシビキ文を施す。521は器種不明。口縁部片で、波状を呈する。外面の調整は、手法Ａａによる。文様は口縁部上面に貝殻背面による刻目文、外面に竹管による波状文を施す。522は広口壺。口縁部片で、波状を呈する。外面の調整は、手法Ａａによる。文様は口縁部上面に、貝殻による直線文、口縁部外面に竹管による斜格子文、頸部外面に直線文を施す。524・525は壺の体部片で、同一個体。外面の調整は、手法Ａａによる。文様はクシｂ種による直線文。526は器種不明。外面の調整は手法Ｄａ、ヘラによる波状文を施す。527は壺の体部片。外面の調整は、手法Ａａによる。文様は区画文２種。ただし区画は竹管による。528は大鉢か。口縁部片。外面の調整は手法Ａａを施したのち、ラフな手法Ｃａを加える。文様は、口端にヘラによる刻目文を施し、口縁部上面に棒状浮文を貼付する。529・530は鉢Ｚで、同一個体。口縁部はフラット。文様はヘラによるもので、斜格文と斜線文を「ヤガスリ」状に配し、直線文でこれを分割する。531も鉢Ｚ。口縁部片となる。外面の調整は、器壁の風化が進み不明。532は甕Ｃ。口縁部は外反し、端部を丸く収める。外面の調整は、

手法Ｄａ。文様は口端に指頭による局部圧痕文がある。

533～539はSK 12出土。533は広口壺Ａ。口縁部片。口縁部は外反する。調整は、内外面手法Ｄｂによる。文様は、口端にクシｂ種による波状文を施す。534は広口壺Ｆ。やはり口縁部片。口縁部は短く屈曲する。外面の調整は手法Ｄｂ。535～537は甕の口縁部片。器種は前一者が甕Ａ、後二者が甕Ｃ。外面の調整は、手法Ｄａによる。文様は、536にクシｂ種による直線文がある。538・539は土器の底部。外面の調整は手法Ｄａによる。

540～554はSK 13出土。540は広口壺Ｉ。口縁部は外反し、口端で肥厚する。外面の調整は手法Ａａ。文様は、縁帯にクシｂ種によるオシビキ文がある。541は器種不明。全面手法Ａａによる。542は無頸壺Ｂ。底部を欠損する。体部はやや扁平な球形。外面の調整は、腰部が手法Ｄｂ。文様は区画文２種で、貝殻による擬似縄文を充塡する。543は広口壺の頸部。黒色焼成技法・付加沈線磨消技法・頸部文様帯強調技法が確認できる。文様は、上段がクシｂ種による直線文を重ね、ヘラによる直線文でこれを刻む付加文Ａ２種、中・下段が山形文となるＡ１種となる。544・545は壺。付加沈線磨消技法をとるものを集めた。前者は、黒色焼成技法の特徴をもつ。いずれも文様帯はクシｂ種によるが、前者がクシｂ種によるＸ字文を付加した付加文Ａ２種、後者がヘラによる山形文を付加した付加文Ａ３種となる。546は土器の底部。外面の調整は手法Ｄｂによる。547～554は甕。547・551・554は甕Ｃ、548・550・552・553は甕Ｄ。548・549は同一個体。いずれも器面の風化が著しい。外面の調整は、手法Ｄａによるものが、547・550・551～553、手法Ｄｂによるものが553・554となる。文様は、口端に指頭による局部圧痕文が547・552に認められる。

555～561はSK 14出土。555は壺。胴部は張る。外面の調整は、斜方向の手法Ｃａ。文様はヘラによる直線文を縦方向に並べ、下端に横方向の直線文を施す。556は細頸壺の頸部。外面の文様は区画文２種で、縄文を充塡する。557は壺。黒色焼成技法・付加沈線磨消技法が確認できる。文様は、クシｂ種による直線文を重ね、ヘラによる直線文でこれを刻む付加文Ａ２種による。558・559は甕Ｃ。口縁部片。口縁部は外反し、端部を丸く収める。外面の調整は、手法Ｄｂ。文様は、559の口端に指頭による局部圧痕文がある。560・561は甕。560は、底部に焼成後穿孔を施す。外面の調整は、前者が手法Ｄａ、後者が手法Ｄｂによる。

562～568はSK 15出土。562は広口壺Ｂ。縁帯は短い。文様は、口縁部上面に貝殻による刻目文、縁帯外面は付加文Ｂ種、頸部外面はヘラによるはね上げ文を施す。また、縁帯下方にも突帯文Ａ種を施す。付加される刻目文は指頭による。563は広口壺。口縁部は外反する。外面の調整は手法Ａａ。文様は、口端にヘラによるオシビキ文を施し、口縁部上面には棒状浮文を貼付する。564は壺の体部。腰部が張り、底部は突出する。外面の調整は、器面の風化が進み判然としない。565・566は同一個体で器種は壺。565は壺の胴部片。外面は手法Ｄｂによる。頸部は付加沈線磨消技法による。文様帯は、上段が付加文Ａ２、下段が付加文Ａ３。566は、底部片。突出する形状。外面の調整は、手法Ｄｂによる。567・568は土器の底部片。外面は手法Ｄａ。

569～572はSK 16出土。569は口縁部片。外面の調整は、手法Ｄａ１。文様はヘラによる直線文と斜格子文。570～572は壺。いずれも、付加沈線磨消技法が確認できる。文様は、570が、ヘラによるはね上げ文と、クシｂ種による直線文を重ね、ヘラによる山形文を加える付加文Ａ３種による。571は文様帯が斜格子文、572は、クシｂ種による直線文を重ね、ヘラによる縦方向の直線文と斜線文を加える付加文による。なお、572には頸部文様帯強調技法も確認できる。

573～610はSK 17出土。573～575は広口壺Ｅ。いずれも口縁部片。503は、太い頸部をもつ。外面の調整は、手法Ｄａによる。文様は、頸部に竹管による波状文と、口端と口縁部内面に直線文、下方には突帯文Ａ種を施す。突帯文に付加される刻目文はクシｂ種。574・575は、573に類似した形状。文様は、貝殻による直線文を頸部と口縁部内面に、クシｂ種によるオシビキ文を口端に施すが、前者は口縁部外面が無文となる。577・578は、574・575と同様。576は壺の口縁部片。口端はフラットとなる。外面の調整は、手法Ｄｂ。文様は、口端に指頭による局部圧痕文がある。579も壺の口縁部片。外面の調整は手法Ｄａ１。文様は、口端にヘラによるオシビキ文がある。580・581は壺Ｆの口縁部片。口縁部は丸みを帯び、口端はフラット。581は波状となる。いずれも外面の調整は手法Ｄａ。582～584は壺の頸部片。外面の調整は手法Ａａによる。文様は貝殻による直線文とヘラによる波状文。585は無頸壺の口縁部片。外面の調整は、文様帯を除き、横方向の手法Ｃａ。文様は、クシｂ種による直線文を重ね、やはりクシｂ種による縦方向の直線文でこれを刻む付加文Ａ２種による。586は壺の体部。形状は、丸みを帯びる。黒色焼成技法・付加沈線磨消技法が確認できる。外面の調整は横方向の手法Ｃａ。文様は、胴部にクシｂ種による縦方向の直線文を施す。肩部の、付加沈線磨消技法による文様は、クシｂ種による直線文を重ね、やはりクシｂ種でこれを刻む。587～595は土器の底部。外面の調整は、558・595が手法Ａａ、587・589・590～594が手法Ｄａによる。なお、587の調整方向は、胴部で羽状となる。596は、壺の底部片。黒色焼成技法・付加沈線磨消技法が確認できる。付加文の形状は破片の残存状況の関係からは、判断できない。597は細頸壺の頸部。外面の調整は、手法Ａａ。文様は、クシｂ種による直線文を重ね、やはりクシｂ種による縦方向の直線文でこれを刻む。付加文Ａ２種による。598・599は壺の胴部片。外面の調整は、文様帯を除き、横方向の手法Ｃａ。文様は、クシｂ種による直線文を重ね、やはりクシｂ種による山形文でこれを刻む。付加文Ａ３種による。600は厚口鉢。底部を欠損する。外面の調整は、口端が手法Ｄａ１による。601～609は甕Ａ。口縁部は外反し、端部はフラット。外面の調整は手法Ｄａによるが、このうち605・608・609は手法Ｄａ１となる。調整方向は、602～604・606～608が羽状、605・609が斜方向となる。文様は、口端にクシｂ種（？）によるオシビキ文を施すが、608はこれがやや長い。608・609は口縁部内面にも波状文を施す。原体は前者がクシｂ種、後者が貝殻による。なお、604・606は同一個体。611～613は甕の底部片。

614～616はSK 19出土。614は細頸壺Ａの口縁部片。口縁部は外反し、端部はフラットとなる。外面の調整は手法Ａａ。文様は、縁帯下方にヘラによる刻目文と、指頭による局部

圧痕文を施す。頸部外面は、クシｂ種による直線文を重ね、やはりクシｂ種による縦方向の直線文でこれを刻む。付加文Ａ２種による。615は壺の底部。外面の調整は手法Ｄｂ、外底部は手法Ｅａによる。616は鉢Ｚ。黒色焼成技法が特徴。体部は若干の丸みをもち、口縁部は外反する。外面の調整は手法Ａａ。口端にはヘラによる刻目文を施す。

617～618はSK 20 出土。617は広口壺Ｂ。頸部・縁帯は長い。文様は口縁部上面にヘラによるオシビキ文を施す。縁帯は、クシ（？）による直線文と竹管による波状文を付加し、下方には突帯文Ａ種を施す。付加される刻目文は指頭。頸部の文様は上方がはね上げ文、下方が縁帯と同一モチーフとなる。肩部との境界には突帯文Ａ種を施す。付加される刻目文はヘラによる。肩部の文様は直線文・はね上げ文を地文とし、竹管による縦方向の直線文・波状文を付加する。618は壺。最大径を肩部付近にもつ形状。底部は突出する。調整は、器面の風化が進み判然としないが、手法Ｄａによる。文様は肩部にヘラまたは竹管による山形文が確認できる。

619～626はSK 21 出土。619は壺の頸部片。頸部はやや長い。外面の調整は手法Ｄｂ。文様は、頸部下方にクシｂ種による直線文にやはりクシｂ種による直線文を付加した付加文Ａ２種。621・622は土器の底部。外面の調整は、前者が手法Ｄｂ、後者が手法Ｄａ１。623は細頸壺。口縁部が短く、端部はフラットとなる。外面は付加沈線磨消技法による。文様帯は付加文Ａ２。624は壺の口縁部片。縁帯屈曲部下方には突帯文Ａ種を施す。付加される刻目文は指頭による。625・626は壺の体部片で、おそらく同一個体。外面は付加沈線磨消技法による。文様帯は、付加文Ａ１。

627～628はSK 22 出土。627は壺の胴部片。黒色焼成技法が確認できる。外面は手法Ｄｂによる。頸部は付加沈線磨消技法による。文様帯は付加文Ａ３。628は甕Ｃ。外面の調整は手法Ｄｂ。文様は口縁部上面にクシｂ種による波状文を施す。

629～631はSK 23 出土。629～631は壺。629は広口壺。口縁部は外反する。外面の調整は手法Ａａによる。文様は、口端にヘラによる刻目文を施し、頸部外面にはクシｂ種による直線文を「ヤガスリ」状に刻む。また、口縁部上面には棒状浮文を貼付し、その周囲をクシｂ種によりふちどる。630は細頸壺Ｂ。文様は、縁帯にクシｂ種による波状文、頸部にクシｂ種による直線文を重ね、口縁部上面にヘラによる刻目文を施す。632～634は甕Ｄ。いずれも口縁部片。外面の調整は手法Ｄｂによる。前二者の口端には、指頭による局部圧痕文がある。

635～637はSK 24 出土。635は広口壺Ｂ。口縁部片。口縁部は短く屈曲する。頸部外面の調整は手法Ｄａによる。文様は、口端に竹管によるオシビキ文、縁帯はクシｂ種（？）による直線文上に棒状浮文を貼付する。棒状浮文の上部には擬似縄文を施す。なお、縁帯屈曲部下方には突帯文Ａ種を施す。付加される刻目文は指頭による。また、頸部内面には、クシｂ種（？）による直線文を施す。636は無頸壺。口縁部片で端部はフラット。外面の調整は手法Ａａだが、端部は手法Ａｂによる。文様は、ヘラによる直線文と貝殻による擬似縄文が確認できる。637は壺の体部片。外面は手法Ｄａ。外面に彩文が確認できる。

638～641はSK 25出土。638～640は細頸壺。いずれも口縁部・頸部片で、おそらく同一個体。形状は細い頸部に、強く屈曲する縁帯をもつ。縁帯下部の屈曲部分には竹管によるオシビキ文を施す。頸部の装飾は、竹管による直線文を重ね、やはり竹管による山形文を付加した付加文A 3種。641は甕の口縁部片。外面の調整は手法Da 2による。口端にはクシb種によるオシビキ文を施す。

642はSK 26出土。壺の胴部片で、黒色焼成技法が特徴。外面の調整は手法Aaによる。文様は、クシb種による直線文を重ね、ヘラによる刻目文を付加する。

643はSK 27出土。器種は甕D。腰部に丸みをもつ形状。口縁部は外反し、端部を丸く収める。外面の調整は手法Db。文様は口端に指頭による局部圧痕文がある。

644はSK 28出土。器種は細頸壺。口縁部と底部を欠損する。黒色焼成技法・付加沈線磨消技法が確認できる。胴部が張る形状で、外面の調整は手法Dbによる。文様は付加沈線磨消技法による。文様帯はクシb種、付加文はA 2種となる。

645～690はSD 08出土。645は広口壺B。外面の調整は手法Aa。文様は、縁帯下端に貝殻によるオシビキ文、頸部上方にヘラによるはね上げ文、下方にヘラによる二条の直線文中に貝殻による刻目文を充填する。646・647は細頸壺C。頸部は長い。文様は、縁帯にクシb種による波状文、頸部外面にやはりクシb種による直線文を重ねる。647にはさらに縁帯と、頸部下方に円形浮文、縁帯下端にヘラによるオシビキ文を加える。648は壺の肩部片。外面の調整は手法Aa。文様はヘラによるもので、頸部に二条の直線文中に斜格子文を充填、肩部上方にやや崩れた付加文B種を施す。649は細頸壺の頸部片。文様は外面にクシb種による直線文を重ねる。651・652は細頸壺の口縁部片。外面にクシb種による直線文を重ね、縁帯下端にはヘラによるオシビキ文を加える。653・654は細頸壺A。文様は付加文A 2か。前者は下方に無文帯（調整は手法Aa）が存在し、やや崩れた付加沈線磨消技法をとる。655は広口壺B。口縁部片で、縁帯は短い。文様は、口縁上面に貝殻による直線文と貝殻背面を利用した刻目文、縁帯外面は貝殻による斜線文と棒状浮文、口縁部内面には貝殻による直線文を施す。頸部外面は風化が著しいが、縁帯屈曲部の下方には突帯文A種を施す。付加される刻目文は指頭による。656は壺の頸部片。外面の調整は手法Aa、文様はヘラによるはね上げ文を施す。657・658は細頸壺の頸部。黒色焼成技法が特徴。文様は、前者がヘラによる直線文と刻目文を「ヤガスリ」状に施し、この部分は突出する（頸部文様帯強調技法）。後者は、やはりヘラによる直線文と、付加文B種を施す。659は壺の頸部片。文様はヘラによる直線文と、クシb種による直線文となる。670・674も壺で、肩部片。外面の調整は手法Dbによる。文様はクシb種によるもので、前者が縦方向の直線文、後者が縦方向の直線文・波状文となる。660～669・671・672・673・675～681は壺。付加沈線磨消技法をとるものを集めた。676・677、678～681がそれぞれ同一個体。661・664・666～669・671～681が、黒色焼成技法の特徴をもつ。いずれも文様帯はクシb種によるが、660・670・673・675がヘラによる丁字文を付加した付加文A 1種、661～663・665がクシb種によるX字文を付加した付加文A 2種、666・667・668・671・672・676～681が

ヘラによる山形文を付加した付加文A3種となる。なお、664・666には円形浮文、678～681には棒状浮文も確認できる。650は広口壺。口縁部は下方に垂下する。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は手法Aａ。文様は、口端にヘラによる刻目文を施し、頸部外面にはクシｂ種による直線文を刻む。682・683は壺の底部。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は手法Dｃ。684は甕B。口縁部は緩やかに外反する。外面の調整は手法Dｂ。口端に指頭による局部圧痕文を施す。685～688も甕で、前二者が甕D、後二者が甕Cとなる。外面の調整はいずれも手法Dｃ。文様は、685と687の口端に指頭による局部圧痕文を施す。689は甕の底部片。外面の調整は手法Dｂ。

691～708はSD09出土。691は広口壺A。口縁部は外反する。黒色焼成技法・付加沈線磨消技法・頸部文様帯強調技法が特色。外面の調整は、頸部が手法Aａによる。文様は、頸部にヘラによるはね上げ文、口端にはクシｂ種による直線文のほか、頸部下方に彩文を施す。頸部の文様帯はクシｂ種によるが、ヘラによる丁字文と頂部が丸い山形文を付加した付加文A4種となる。692は広口壺C。口縁部片。口縁部は外反し、端部は肥厚する。文様は、頸部外面と縁帯に貝殻による直線文、縁帯下方には指頭による刻目文を施す。693～701は壺の体部片を集めた。693～697・700・701・703に黒色焼成技法、698・699には付加沈線磨消技法が特徴。外面の調整は、694・695・696・697が手法Dｂ。文様は、693がヘラによる直線文を境界とする上部にヘラによる斜格子文、下部にクシｂ種による直線文に、ヘラによる山形文と縦方向の直線文を付加する付加文A4種を施す。694・696はクシｂ種による付加文A2種による。695はヘラによる連弧文の一部分となる。698・999は付加沈線磨消技法によるもので、前者は文様帯にクシｂ種によるX字文を付加した付加文A2種。後者は棒状浮文を貼付する。700・701はヘラによる施文が特徴的で、700はさらに貝殻による刻目文を施す。702は壺の頸部片。外面の調整は手法Dａによる。中央に突帯文A種を施す。付加される刻目文はヘラと貝殻背面による。703は壺の底部。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は手法Dｃ。704は大鉢(？)の頸部片。黒色焼成技法が特徴。調整は手法Aａ。文様は外面がヘラによるはね上げ文とクシｂ種による直線文、内面が付加文A2種。705は器種不明の口縁部片。緩やかに外反する口縁部をもつ。端部はフラット。文様は口端にヘラによる刻目文、口縁部上面に貝殻（？）による波状文を施す。706～708は甕。前一者が甕C、後二者が甕Dとなる。外面の調整はいずれも手法Dｃ。文様は、706の口端に指頭による局部圧痕文がある。

709～741はSD10出土。709は広口壺。口縁部は、端部で若干垂下する。外面の調整は、頸部が手法Dｂによる。文様は、口端にヘラによる刻目文を施し、口縁部上面には、貝殻による刻目文や円形浮文がある。710は広口壺Ⅰ。口縁部片。直線的な頸部に強く外反する口縁部をもつ。外面の調整は手法Dｂを施す。文様は、口端にクシｂ種による刻目文を上下別々に施す。711～713は無頸壺A。いずれも胴部以下を欠損する。黒色焼成技法が特徴で、711・713には付加沈線磨消技法も施す。外面の調整は、いずれも胴部が手法Dｂ。文様は712・713がクシｂ種による文様帯に、前者はクシｂ種による丁字文を付加した付加文

A1種、後者がヘラによるX字文を付加した付加文A2種となる。714は細頸壺の頸部。付加沈線磨消技法が特色。文様は、クシb種による文様帯に、ヘラによる丁字文を付加した付加文A1種。714～718も細頸壺。いずれも口縁部片。715・717は黒色焼成技法が特徴。形状は、714がわずかに屈曲して縁帯を形成し、717はこれが明瞭となる。716は口端がフラット。718は内面にわずかに突出する。715・717は黒色焼成技法が特徴。文様は、715がクシb種による波状文を口端に、頸部には直線文を重ねる。716は、クシb種による文様帯に、やはりクシb種による丁字文を付加した付加文A1種を施す。717は、クシb種による波状文を縁帯に、頸部にはラフな直線文を重ねるほか、縁帯下方にはヘラによる刻目文を施す。719～723は壺の体部。いずれも口縁部を欠損する。底部は、721を除き、いずれも突出する。外面の調整は、719が手法Db、720が手法Cb、721～723が手法Daによる。文様は、719がクシb種による文様帯に、ヘラによる丁字文を付加した付加文A1種。722は頸部下方にヘラによる付加文B種、肩部にやはりヘラによる連弧文を施す。また、721は胴部にヘラによる連弧文、723は区画文3種による。724～729は壺の体部片を集めた。724～727は黒色焼成技法が特徴。文様は、724・725が付加沈線磨消技法によるもの。文様帯はクシb種によるもの。前者は、ヘラによる丁字文を付加する付加文A2種、後者は文様帯にクシb種によるX字文を付加した付加文A2種となる。726・727は付加文A3種。山形文は前者がヘラ、後者がクシb種となる。728は貝殻による刻目文を地文とし、ヘラによる直線文・連弧文を施す。729は、縄文を地文にヘラによる直線文を施す。730・731は壺の頸部片。前者はヘラによる直線文と付加文B種を施し、後者は竹管による刻目文を施す。732は鉢Z。小振りで口縁部が短く外反する。外面の調整はラフな手法Acを施す。無文。733は大鉢の口縁部片。口縁部は外反する。外面の調整は手法Acを施す。文様は、口端に棒状浮文を貼付し、その周囲をクシb種によりふちどる。頸部にはやはりクシb種による波状文を施す。734・735・737～740は甕C。外面の調整は、734・735・737・738が手法Db、739・740が手法Daによる。文様は、734・735の口端に指頭による局部圧痕文がある。741は甕H。混入。

742～771はSD12出土。742は細頸壺。体部は細身で、頸部は長い。外面の調整は手法Daを施す。文様は、頸部にヘラによる二条の直線間に縄文を充填する文様帯の上下に、ヘラ(?)による直線文を重ねるほか、肩部には区画文3種を施す。743は壺の体部。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、肩部・胴部上方が手法Aa、胴部下方、腰部が手法Cb。胴部上方の文様は、文様帯にクシb種によるX字文を付加した付加文A1種を施す。745・746は黒色焼成技法が特徴。形状は、744・745がわずかに屈曲した縁帯をもち、746は屈曲が明瞭となる。747は口端がフラット。文様は、744・746がクシb種による波状文を口端に、頸部には直線文を重ねる。747は頸部にヘラによる直線文、口端の下方にやはりヘラによる刻目文を施す。748～750は広口壺B。口縁部片。749・750は同一個体。いずれも縁帯は短い。文様は、748が口縁部上面に貝殻によるやや単位の長いオシビキ文、縁帯外面は貝殻による直線文と棒状浮文、口縁部内面には貝殻による直線文を施す。縁帯屈曲部の下方

には、突帯文A種が施され、これに付加される刻目文は指頭による。749・750は、縁帯外面に貝殻による直線文と棒状浮文を施す。棒状浮文の上面は貝殻の背面による刻目文を付加する。また、縁帯上面には縄文を施す。751は無頸壺の口縁部片。黒色焼成技法が特徴。口縁部付近には、クシb種による波状文と、ヘラによる直線文を施す。752～762は壺の体部片。755・760～762は黒色焼成技法、775～762は付加沈線磨消技法が特色。なお、756～759、760～762はそれぞれ同一個体。文様は、752はクシb種による直線文を施す。753は区画文2種。充塡される文様は貝殻による刻目文。754は竹管による波状文を施す。755～762は、いずれも文様帯がクシb種で、やはりクシb種による丁字文を付加した付加文A2種、ただし、756～758の付加文は波状文となる。763～765は甕A。口縁部は外反し、端部がフラットとなる。外面の調整は手法Da1。文様は、763が口端にやや長いオシビキ文、口縁部上面にやはり貝殻による直線文を施し、764・765が口端に貝殻による直線文を施す。766・767は甕B。短く外反する口縁部をもつ。口端の形状は、前者がフラット、後者は丸く収める。外面の調整は手法Dbによる。文様は766の口端に指頭による局部圧痕文、口端下部にはヘラによる刻目文を施す。768～770は甕C。外面の調整は手法Da1。772・773は甕の底部。

774～777はSD13出土。774は壺の頸部片。文様は、ヘラによる直線文と、刻目文を「ヤガスリ」状に施す。775は壺の体部片。黒色焼成技法・付加沈線磨消技法が特色。文様は、文様帯がクシb種で、やはりクシb種による丁字文と棒状浮文を付加した付加文A2種となる。776は甕A。口縁部は外反し、端部がフラットとなる。外面の調整は手法Da。777は甕の底部。外面の調整は手法Da。

778～790はSD14出土。778～785は壺。778は細頸壺Aの口縁部。端部はフラット。文様は、クシb種を地文とし、ヘラによる山形文を付加した付加文A3種となる。779は、頸部片。頸部文様帯強調技法による。文様はヘラを原体とし、直線文と斜格子文を施す。780は、頸部片。620とよく類似する。781は、肩部片。文様はクシb種を地文とし、やはりクシb種による山形文を付加した付加文A3種による。782は体部片。文様帯がクシb種で、やはりクシb種による丁字文を付加した付加文A2種、ただし、付加文は波状となる。また文様帯下方には円形浮文も貼付する。783～785は頸部片か。同一個体。文様はクシb種を地文とし、ヘラによる山形文を付加した付加文A3種による。786～789は甕。器種は786・788・789が甕C、787が甕Dである。外面の調整は手法Dbによる。

791～793はSD15出土。器種はいずれも甕C。外面の調整は、791・792が手法Da、793が手法Dbによる。文様は、792は貝殻を原体とし、口端にやや長いオシビキ文と、口縁部内面に斜線文と縦方向の直線文を施す。793は指頭による局部圧痕文を施す。

794～833はSD16出土。794は広口壺A。口縁部は外反する形状。外面の調整は、頸部が手法Aaによる。文様は、頸部にヘラによるはね上げ文、口端には貝殻による刻目文のほか、頸部にヘラによる直線文、口縁部上面には貝殻背面を使用した局部圧痕文を刻む。795～797は壺の頸部。黒色焼成技法、796を除き付加沈線磨消技法が特色。文様は、795・797

が文様帯をクシｂ種とし、前者がヘラによる山形文を付加した付加文Ａ３種、後者がクシｂ種による丁字文を付加した付加文Ａ２種となる。796は文様帯をクシｂ種とし、やはりクシｂ種による山形文を付加した付加文Ａ３種を施すが、付加沈線磨消技法の無文帯に該当する部分を、クシｂ種による斜線文で充填する。また、頸部下方には彩文を施す。798は細頸壺Ａ。口縁部は緩やかに外反する形状。文様はクシｂ種による直線文を重ね、ヘラによる山形文を付加する付加文Ａ３種となる。801～810は壺の体部片を集めた。800・801、804・805、806～810はそれぞれ同一個体となる。799～802・804・805は黒色焼成技法、799・802・804～810は付加沈線磨消技法が特色。文様は、800・801がクシｂ種による丁字文を付加した付加文Ａ２種、803がヘラによるやや崩れた付加文Ｂ種を施す。799・802・804～810は、いずれも文様帯はクシｂ種によるが、799がヘラによる山形文を付加した付加文Ａ３種、802・804・805がヘラによる丁字文を付加した付加文Ａ１種、806～810がクシｂ種によるＸ字文を付加した付加文Ａ２種となる。ただし802は文様帯上下のヘラによる直線文が省略される。811～815は底部片。外面の調整は、811・813・814が手法Ｄａ、812・815が手法Ｄｂによる。816・817は大鉢。黒色焼成技法が特色。816は胴部が張る形状。外面の調整は、口縁部が手法Ａａ、腰部は手法Ｃｂを施す。文様は、付加沈線磨消技法による。文様帯はクシｂ種。ヘラによる山形文を付加した付加文Ａ３種となる。817は口縁部片。文様は、頸部の外面がクシｂ種によるはね上げ文と直線文、口縁部上面には貝殻による刻目文とヘラによるオシビキ文を施す。口縁部内面には、円形浮文を二個並べ、上面に貝殻による刻目文を施し、その周囲をクシｂ種によりふちどる。818～831は甕。器種は819が甕Ａ、818・822・828が甕Ｄ、829・830が甕Ｂによる。外面の調整は、819が手法Ｄａのほかは全て手法Ｄｂによる。831は甕の胴部片。外面の調整は手法Ｄｂ。832・833は土器の底部。外面の調整は、832が手法Ｄａ、833が手法Ｅａを施したのち、ラフな手法Ａａを加えるが、部分的に「ヤガスリ」状を呈する。文様は、834の肩部と頸部に竹管による波状文を施す。

834～866はSD17出土。834・835は壺の体部片。いずれも口縁部と底部を欠損する。外面の調整は手法Ｄａ１による。836は壺の頸部片。外面の調整は、貝殻による直線文・波状文を施す。頸部下方が手法Ａａ。文様は頸部下方に竹管による波状文、頸部上方には貝殻による直線文とはね上げ文を施す。837は広口壺Ｅ。口縁部片。外面の調整は手法Ａａによる。文様は頸部と口縁部内面に貝殻による直線文、口端にやはり貝殻によるオシビキ文を施す。838は広口壺Ｂ。口縁部片。文様は、縁帯外面にヘラによる直線文、縁帯屈曲部の下方には、突帯文Ａ種が施され、これに付加される刻目文はヘラと貝殻背面による。839は鉢Ｚ。口縁部片で端部はフラット。外面の調整は手法Ｄａ１。文様は竹管によるもので、外面に波状文と山形文、口端にオシビキ文を施す。842・843は壺の肩部片。同一個体。外面の調整は手法Ａａ。文様は竹管による直線文二条中に貝殻による直線文を充填し、やはり貝殻による縦方向の直線文を付加する。840・844は同一個体で、広口壺Ｃ。外面の調整は手法Ｄｂ。頸部は長く、口縁部に縁帯をもつ形状。文様は、頸部にヘラによる直線文と波

状文を交互に施し、口端にはクシb種による刻目文を「ヤガスリ」状に施す。混入。845は、壺の頸部片。文様は、頸部中央に突帯文A種が施され、これに付加される刻目文は竹管による。突帯の上方には貝殻による直線文・はね上げ文を施し、下方には竹管による波状文を刻む。846・847も壺の頸部片。文様は貝殻による直線文。848は器種不明。文様は貝殻による直線文にヘラによる波状文を付加する。849～854は土器の底部。外面の調整は、849・850が手法Cb、851～854は手法Daによる。855は大鉢。口縁部片。口縁部は外反する。外面の調整は、手法Acを施す。文様は、口端に棒状浮文を貼付し、その周囲をクシb種によりふちどる。856は厚口鉢。外面の調整は手法Aaによるが、口端は手法Da。857～864・866は甕。器種は857～861・866が甕A、863・864が甕D、862が甕Bである。外面の調整はすべて手法Daによるが、866は「ヤガスリ」状となる。文様は口端に貝殻によるオシビキ文を施すものが857～859・861・866、やはり貝殻による直線文を施すものが860となる。また、862は指頭による局部圧痕文を施す。867・868は土器の底部。外面の調整はいずれも手法Daによる。

869～879はSX06出土。869・871・873は同一個体である可能性をもつ。869は口縁部片。器種はおそらく広口壺A。頸部外面にヘラによるはね上げ文、口縁部下方にヘラによるオシビキ文を施す。871は頸部片。文様は、上方にヘラによる二条の直線文中にやはりヘラによる斜格子文を充填し、その下方にはクシb種による直線文とやはりクシb種による丁字文を付加する付加文A2を施す。870は、細頸壺Aの口縁部片。口端はフラット。文様は、クシb種を地文とし、ヘラによる山形文を付加した付加文A3種となる。872～874は付加沈線磨消技法を施すもの。874は黒色焼成技法も施す。文様は、いずれもクシb種を地文とし、クシによるX字文を付加した付加文A1種が872、ヘラによる山形文を付加した付加文A3種が873。クシによる丁字文を付加した付加文A2種が874。785は壺の胴部片。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は手法Da。876・877は土器の底部。外面の調整は、前者が手法Da、後者が手法Dbによる。878～881は甕。器種は878が甕A、879が甕B、880が甕C、881が甕Dである。外面の調整は、878・880・881が手法Db、879が手法Db。文様は、878の口端に貝殻による直線文と指頭による局部圧痕文を施す。なお、879は底部脇に焼成後穿孔を施す。

891～963は包含層出土。器種は、広口壺Aが891～893・903～909、広口壺Bが883・910～914、広口壺Dが915・917、広口壺Eが884・885、広口壺Fが886・887、広口壺Hが925、広口壺Iが926・927・928・938、広口壺Kが952～955となる。細頸壺では、細頸壺Aが874、細頸壺Bが919・921・922。高杯は、高杯Cが956、高杯Fが958。甕は、甕Aが889・890、甕Bが900・901、甕Cが902、甕Eが945・958、甕Fが947・950、甕Iが960・962・963。大形鉢には944がある。（池本正明）

③ 古墳時代～中世の土器

前述の第1面にともなうものである。種類としては土師器と須恵器・灰釉系陶器[注]・施釉

陶器（古瀬戸）があり、器種としては、前者に壺・甕・高杯・杯・鍋・釜、後者に杯・杯蓋・杯身・椀・小皿・丸皿・広口瓶・平瓶・壺がある。なお、後半期灰釉系陶器はすべて、南部系（藤澤　1982）である。また、法量などは巻末の一覧表に示した。

93・94はSZ01出土。93は壺。扁平な体部に、やや長い口縁部をもつ。外面底部付近に手法Ａｂを加える。94は鉢。口縁部は手法Ａｂ、底部外面は手法Ｅａによる。

95～109はSX01出土。95～101までが壺。95・96は二重口縁となる。95は体部が球形。頸部上方は屈曲し、明瞭な段を形成する。腰部および底部外面は手法Ｅａ、肩部付近は手法Ｄｂを手法Ａａでラフに消す。なお腰部には焼成後穿孔が認められる。4世紀。96は94に類似した形状。外面の調整は、腰部に手法Ｃａを施すのか。文様は肩部にクシｂ種による直線文と波状文、口縁部では外面に「ヤガスリ」状の刻目文を施し、内面は3段の刻目文を充填する。4世紀。97～99は壺。ほぼ球形の体部に直線的な口縁部を有する形状。底部は平底となり、口端はわずかに内湾する。外面の調整は、手法Ａａを基本とするが、97は底部付近に手法Ｅａを加える。99は口端付近に手法Ａｂを付加し、二重口縁風に仕上げる。いずれも4世紀。100・101は小振り。100は球形の体部で丸底。外面は手法Ａａによるが、底部付近のみ手法Ｅａが消された痕跡をとどめる。内面は手法Ａｃ。101は肩部がわずかに張る形状で、底部は平底となる。器壁は厚い。外面は手法Ａａによるが、頸部のみ手法Ａｂを付加する。102～104は甕。102・103は同一個体か。102は頸部片で、「くの字」状に屈曲する。肩部付近に手法Ｅａ、頸部に手法Ａｂを施す。103は腰部以下が残存する。体部は卵型で、底部は平底。外面は手法Ａａ。6世紀。104は口縁部を欠く。体部は丸みを帯びるが、やや扁平。底部は平底となる。外面の調整は、体部が手法Ａａ、頸部が手法Ａｂによる。5～6世紀。105～109は高杯。105は杯部片。浅い形状で、やや張りをもつ。口縁部を手法Ａｂの後、下方を手法Ｅａ、内面を手法Ｄｂでラフに整える。杯部外底面には、脚部接合のための5㎜大の小突起を設定する。6世紀。106～109は脚部片。いずれも柱状部で、屈曲して裾部を形成する。106・107は裾部を欠く。柱状部はやや太い。杯部との接合部は「ソケット」状を呈する。柱状部外面と裾部内外面は手法Ａａ、柱状部内面は手法Ｅａによる。107は柱状部分に手法Ｃａを加える。いずれも5世紀。108は106・107と同様、裾部を欠く。柱状部はやや太い。柱状部外面と裾部内外面は手法Ａａ、柱状部内面は手法Ｅａによる。5世紀。109は裾部を端部まで残存させる。裾部はわずかに外反。柱状部はやや太く、中央部分で若干丸みをもつ。外面は手法Ｃａ、柱状部内面は手法Ｅｂによる。内外面とも手法Ａａ。5世紀後半から6世紀前半。

110～112まではSK02出土。いずれも二重口縁となる壺で、頸部上方で明瞭な段を形成後、緩やかに外反する口縁部がつく。4世紀。113はSD04出土。甕で、底部は「輪台」状。頸部は手法Ａｂ、体部は手法Ｄｂの後、手法Ａａでこれを消し、底部外面をも含めて特殊な手法Ｄｂ（板状工具の小口方向にやや荒い刻み目をつけた原体）を通常の手法Ｄｂとは逆方向に施す。なお下胴部には焼成後穿孔が認められる。3世紀後半～4世紀前半。

114～116はSX02出土。114・115は壺。114は二重口縁をとる。体部は球形。頸部上方

で明瞭な段を形成し、緩やかに外反する口縁部がつく。器壁は薄い。下胴部および底部外面は手法Ｅａ。115は壺。体部は卵型を呈する。口縁部は短く外反する。全面手法Ａａによるが、腰部以下の外面は手法Ｅａ。116は甕か。体部はやや丸みをもつ。外面にはススが付着する。外面の調整は、腰部、底部に手法Ｅａを施す。

117～121まで包含層出土。117・121は二重口縁となる壺。117は体部が卵形。頸部上方で屈曲し段を形成する。口縁部は緩やかに外反する。器壁は薄い。外面の調整は不明。口端上方にはヘラによる直線文を一条めぐらす。4世紀後半から5世紀。117は口縁部片で、二重口縁となる。頸部上方の段は明瞭。口縁部は直線的に伸びる。器壁は厚い。全面手法Ａａによるが、外面の段部分には手法Ａｂを付加、頸部外面にはラフな手法Ｄｂを付加する。口縁部内面には刻目文を施す。4世紀後半。119・120は高杯。119は裾部を欠く。杯部は緩やかに屈曲する。柱状部は細く長い。全面手法Ａａだが、柱状部外面は手法Ｃａ。5世紀前半。120は脚部を欠く。杯部は稜をもって屈曲する。杯部の内底部分はフラットとなる。121はミニチュア品。二重口縁をもつ甕か。球形の体部に短く屈曲する口縁部がつく。全面手法Ａａ。

122は、SD03出土。須恵器杯蓋で、小振り。天井部は丸みを帯び、頂部はややフラットとなる。天井部外面はヘラ切り後、頂部のみ回転ヘラ削り調整を加える。7世紀前半。

123～136までSK01出土。123～129までが埋土上部出土資料。123～128は灰釉系陶器。123・124はいずれも椀で底部片。123は前半期。小型化した断面「三日月」状の高台をもつ。底部外面は回転ヘラ削り調整。内底部には淡緑色の灰釉が付着。10世紀後半。124は後半期。やはり底部片で、低くつぶれた断面三角形の高台をもつ。端部にはモミガラ圧痕は観察できない。12世紀前半。125・127は小皿。いずれも後半期。125は底部片。底部がやや突出する。12世紀後半。127は底部を欠くが扁平な形状。口縁部はフラットとなる。13世紀。126は長頸瓶。底部片で前半期。底径はやや小さい。128は平瓶。やはり前半期。上面部分には濃緑色の灰釉が付着する。天井部には上面を手持ちヘラ削り調整した大振りな把手を貼付する。129は施釉陶器。器種不明。体部下方で屈曲する形状。外面には画花文が確認できる。モチーフは不明。底部外面を除く全面に濃緑色の灰釉を施す。130～136までが下部出土資料。130・131は後半期灰釉系陶器。いずれも椀。130は口縁部片。直線的な体部をもつ。口縁部は丸みを帯びるが、端部調整は確認できない。13世紀末。131は、底部片。低くつぶれた断面三角形の高台をもつ。端部にはモミガラ圧痕が確認できる。12世紀中頃。132～135までが土師器。いずれもロクロもしくは回転台使用。132は小皿。形状・手法などは、後半期灰釉系陶器の小皿に類似する。ただし内底部に「コロシ」は確認できない。135・136は杯。いずれもやや丸みを持った体部をもつ。口縁部は丸みを帯びるが、端部調整は確認できない。内底部に「コロシ」が確認でき、周辺部分が浅くくぼむ。底部外面は回転糸切り痕を未調整で残す。

137はSD01出土。灰釉系陶器の広口瓶下胴部片。やや丸みを持った形状を呈する。高台は断面台形で、やや外側に傾く。10世紀後半～11世紀。

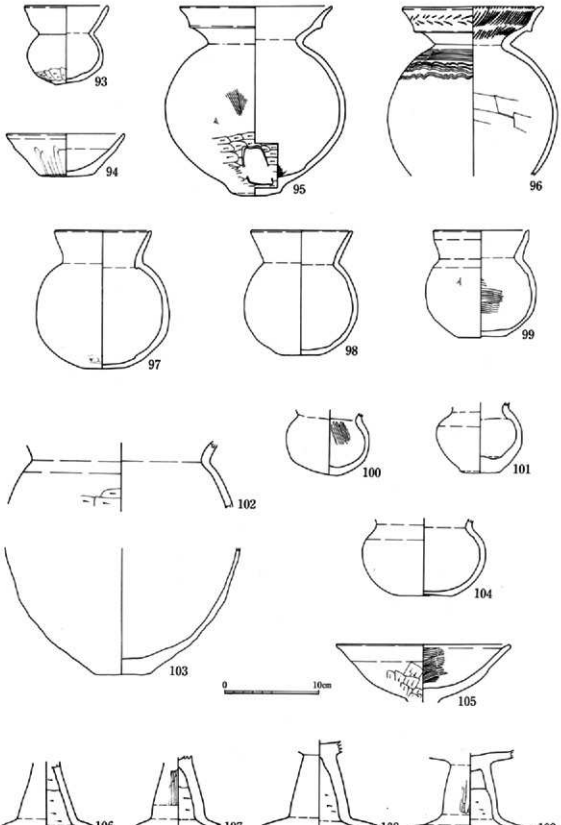


図 33 古墳時代の土器 1

138～140までNR02出土。いずれも灰釉系陶器。138は口縁部片。直線的な体部をもつ。口縁部はフラットで上部はやや尖る。端部は未調整。13世紀中頃。139は、底部片。低くつぶれた断面三角形の高台をもつ。端部にはモミガラ圧痕が確認できる。12世紀中頃。140は壺。体部に強い丸みをもつ形状。底部には断面台形の低い高台をもつ。外面には黄灰色の灰釉を施す。

141～159まで包含層出土資料。141～143は須恵器。141は杯蓋。丸みを帯びた天井部に、内面にかえしをもつ形状。7世紀後半。142は杯身。扁平な形状。7世紀前半。143は杯。体部はほぼ直線的な形状。底部外面は回転糸切り痕を未調整で残すほか、墨書が確認される。「太」と判読できるが、破片資料のためさらに文字がこれに加わる可能性も考えられる。144・145は前半期灰釉系陶器の椀。いずれも底部片。肉厚の底部に断面長方形の低い高台をもつ。内底部に灰釉を施す。146は土師器甕。口縁部は水平に外反する。147～154は後半期灰釉系陶器。147～152は椀。147は完形。直線的な体部をもつ。口縁部は丸みを帯びるが、端部調整は確認できない。13世紀末。148は腰部にわずかに丸みをもつ。口縁部上面はやや尖る。端部は未調整。13世紀中頃。149は口縁部片。体部にやや丸みをもつ形状。口縁部付近に灰緑色の灰釉をツケガケする。150～152は底部片。いずれも高台は低くつぶれる。端部には150がモミガラ圧痕、151・152が砂粒圧痕をとどめる。内底部の形状は、150がフラットで、151・152は周辺部分がやや盛り上がる。150は12世紀中頃。151・152はこれよりやや遡るかもしれない。153・154は小皿。153は深手の形状。底部はやや突出する。12世紀末。154は底部を欠くが扁平な形状。口縁部はフラットとなる。13世紀。155は施釉陶器で折縁深皿。口縁部片で、折曲げられた口縁部の中央に低い突帯をもつ。15世紀前半。156は灰釉丸皿。16世紀。157～159は土師器。157は鍋。口縁部は「くの字」状に外反する。口縁部内面には吊り手を貼付する。159は釜。口縁部直下に鍔をもつ。口端はフラットである。（池本正明）

注　本書では「灰釉陶器」と「山茶椀」とを「灰釉系陶器」という名称で同一概念として考え、前者を前半期、後者を後半期と呼称している（池本　1990a・1990b）。

引用文献

池本正明　1990a　「猿投窯の山茶椀」『マージナル』10　愛知考古学談話会
1990b　「奥三河の灰釉系陶器」『考古学フォーラム』1　愛知考古学談話会
藤澤良祐　1982　「瀬戸古窯跡群Ⅰ」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』Ⅰ
瀬戸市歴史民俗資料館

④近世の土器・陶磁器

岡島遺跡発掘調査（92年度）の表土剥ぎの段階で、かなりの量の近世陶器が採集できた。これは鳥居あさの宅で使用されていたものであり、伝世品として長らく使用されたもので

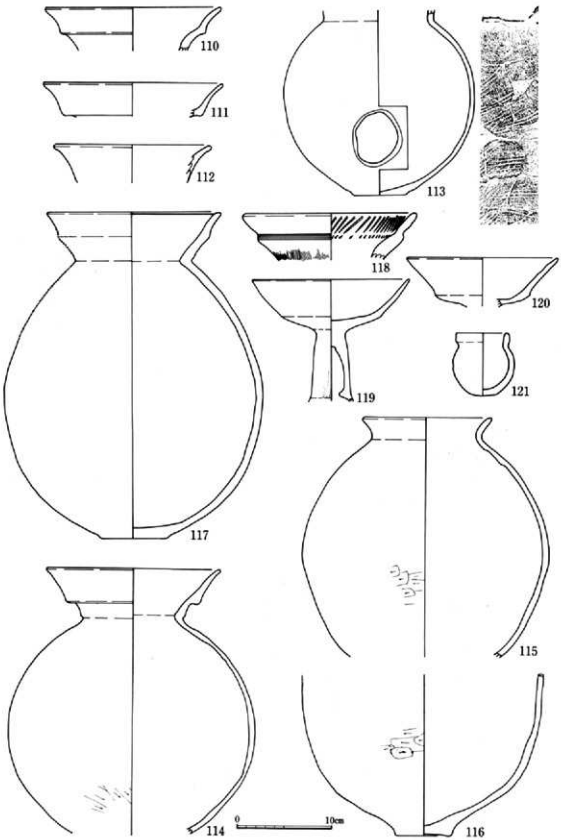


図 34 古墳時代の土器 2

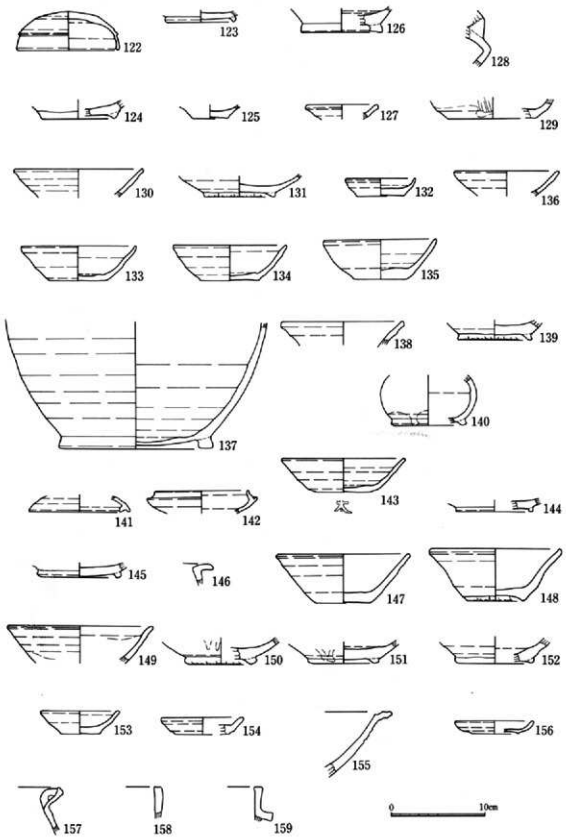


図 35　古墳時代～中世の土器

あろう。また、かなりの量の常滑産の甕も出土している。主に出土した地域は92 A区からである。以下、出土した近世陶磁器に限って説明を加えておきたい。165～166は椀の類で、瀬戸・美濃系陶器である。時期的には18世紀～19世紀にかけてのものである。163・164は本業焼で腰錆が施されている。165・166は広東椀で染付が施されている。見込み部分には、梅文が描かれている。167・168は染付の丸椀である。167の外面には笹文が施されている。また、168の外面には梅文と思われる文様が描かれている。169・170・172は皿の類で、瀬戸・美濃系陶器である。169は見込み部分に梅文が施されている。170は口径9.5cmと比較的小振りである。染付皿で、呉須絵が内面に施されている。見込み部分には梅文が描かれている。172は染付皿で、呉須絵が内面に施されている。見込み部分にはコンニャク印判が描かれている。時期的には19世紀前半から中葉にかけてのものである。171は鳥の餌入れと思われ、灰釉が施された瀬戸・美濃系陶器である。18世紀後半のものと推定される。173・174は箱形湯呑で、瀬戸・美濃系陶器である。173は外面に団扇の文様が3つ描かれている。見込み部分にコンニャク印判が施されている。174は外面に菊花散文が施されている。見込み部分にはコンニャク印判が施されている。175は小鉢の類で、瀬戸・美濃系陶器である。京焼系陶器と称されるものである。外面に山水画が描かれている。時期的には18世紀前半のものと推定される。176・177・178は肥前系磁器である。176は飯椀の類で、18世紀中葉と思われる。外面に竹文が施されている。見込み部分には手書きで五弁花文描かれている。177は皿の類で、18世紀中葉から末期と推定される。外面高台部分に「大明年製」くずれの窯印が施されている。見込み部分にはコンニャク印判が描かれている。178は箱形湯呑の類である。時期としては18世紀中葉から末期と推定される。外底部には宝珠の退化したものが描かれている。口縁内側には花菱文が施されている。また、見込み部分には五弁花のコンニャク印判が施されている。（野本欽也）

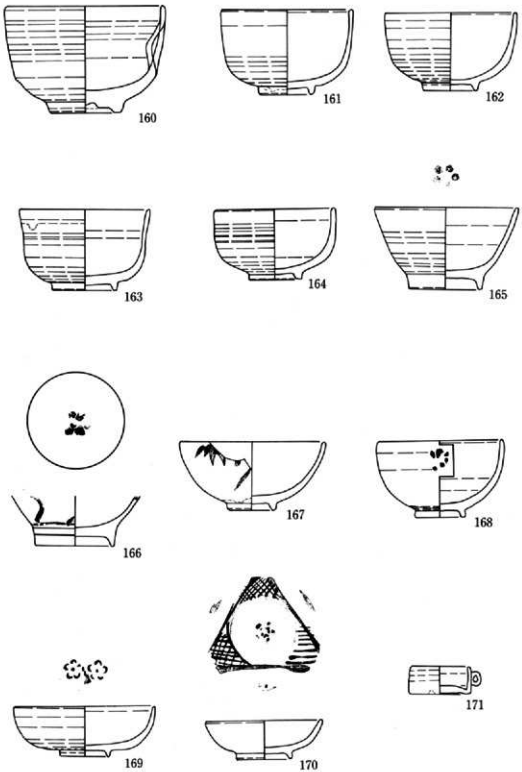


図 36　近世の陶磁器 1

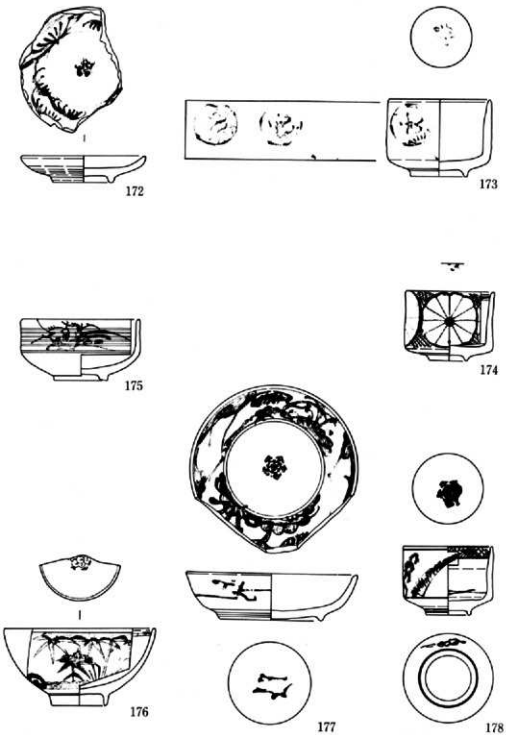


図 37　近世の陶磁器 2

第2節　土製品

179は台盤状土製品。1点のみ出土した。高さ3㎝の低い円柱形の土製品で、完形。時期は弥生時代中期。180は、用途不明の土製品。残存部分には手法Ａａが施されている。土偶形容器の脚部片の可能性をもつ。181はコップ状土製品。口縁部を欠く。体部は直線的に伸び、底部はフラットとなる。体部外面にはヘラによる複合鋸歯文の上下にヘラによる擬凹線文を施す。SZ06出土。182は紡錘車。完形。直径3.7㎝の円形で、中央部分に直径6㎝の穿孔を持つ。重量は290ｇ。表面の調整はラフであるが、手法Ａａによる。183～208は加工円盤。総数57点出土。土器片を加工したもので、土器片の周辺を順に打ち欠いて成形している。なお、183・184・195・198・200・202はさらに側面に研磨を加えている。いずれも弥生土器片を転用する。原材の器種は、194・268が甕の可能性を残すほかは、壺を利用している。使用する部位は体部が最も多いが、185・188は底部を利用。形状は円形、直径は4㎝程度と、7㎝程度にまとまりをみる。出土地点は大半が包含層中で、分布状況には特に意味をみいだせない。（池本正明）

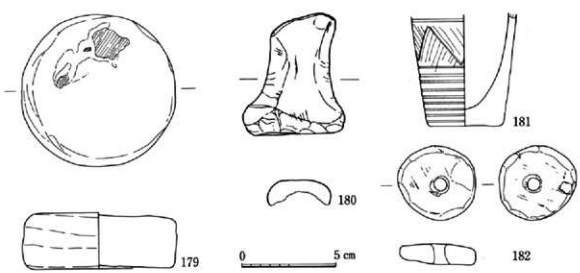


図38　土製品

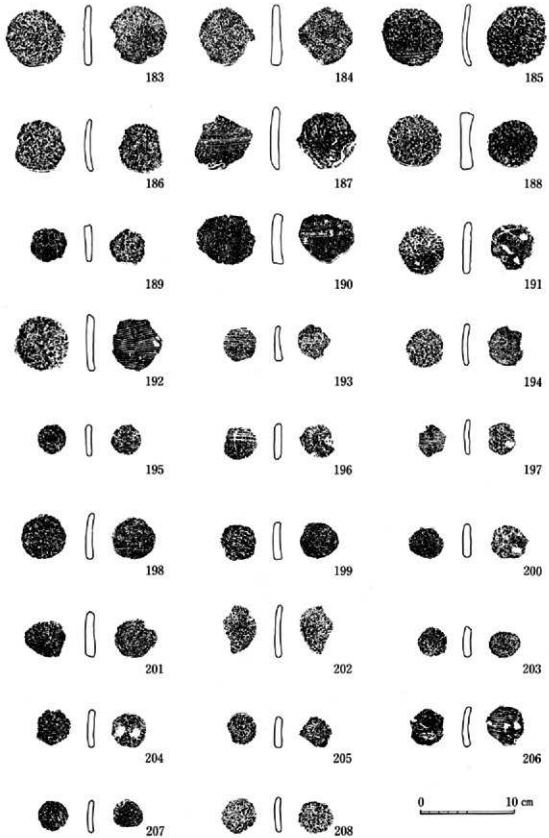
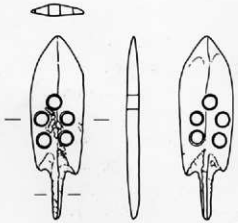

183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
0
10 cm

図 39　加工円盤

第3節　金属製品

209は銅鏃。SK 02から1点のみ出土した。完形で、逆刺をもつ形状。鏃身には、直径3㎜の穿孔が5ヶ所認められる。重量は5.4 g。弥生時代後期。　（池本正明）



209

図40　銅鏃（原寸）

図41　銅鏃出土状況

第4節　木製品

岡島遺跡からは、昭和62・63年度におこなった県道の調査において若干の木製品が出土している。これらについてはすでに『県道報告』に掲載されている。今回の調査でもわずかながら木製品が出土しており、本節において用途ごとに記述をすすめていくこととする。なお、964～967は90A区、968・969は90B区の出土である。

①農耕具

鍬の未製品が2点ある。964は広鍬で、上端部と下端部の幅が変わらず、平面が縦長の長方形を呈するタイプである。柄を装着する部分の隆起は輪郭が不明瞭で、中央部が若干厚くなる。全長30.0㎝、幅20.8㎝で、厚さは6.2㎝である。SD09出土で時期はIII期に属する。965は下端部から上端部にかけてゆるやかに幅が狭くなる平面形をもつ。964同様、柄孔は開けられていないが、着柄部分の隆起はきわめて厚くつくられている。全長18.8㎝、幅13.6㎝、厚さ5.6㎝で、広鍬としてはやや小さいことから小型鍬の未製品と思われる。SK18出土で、時期は弥生時代中期である。

②容器

966は槽の破片である。図上で右側約2分の1が欠損している。現存長は35.5㎝、最大幅は11.6㎝、槽の深さは図の上部で5.0㎝、下部で3.4㎝をはかる。下端部にわずかに突起が残ることから、この部分に把手がついていたことが考えられる。一方にのみ把手がつき、槽の深さが把手側に浅くなることから報すくい、あるいはアカカキとなるかもしれない。SD09出土でIII期に属する。

③その他

967・968は用途不明品である。967は四分割した丸太材を、梯子のように上半部はそのままにして下半部のみ板状に加工している。下端部は欠損しており、全体の形状はわからない。現存長は23.6㎝、幅13.6㎝で、厚さは上半部が8.5㎝、下半部で2.6㎝ある。SD09出土、III期である。968は細い丸太棒で、一端は欠損しているために本来の長さはわからない。遺存しているもう一方の端は面取りがなされている。有頭棒の破片であろうか。残存長37.2㎝、径4.2㎝である。NR04出土で、V期に属する。969は杭である。上端部は欠損しており、下端部には丁寧に加工をほどこして先端を尖らせている。現存長42.4㎝、径は3.6㎝あり、半截されている。NR04出土で、V期に属する。　　（樋上　昇）

第5節　石器・石製品

岡島遺跡から出土した石器・石製品は、土器の出土量に比べると相対的に少なく、出土地点も調査区全体に散在して分布する。器種としては、磨製石庖丁、磨製石斧、石鏃、磨石、叩石、石剣、管玉などがみられた。

これらの石質については、凝灰岩、溶結凝灰岩、塩基性凝灰岩、緑色凝灰岩、泥岩、チャート、安山岩、ガラス質石英安山岩、玄武岩、頁岩、緑色片岩、紅レン石片岩、細粒花崗岩、巨晶花崗岩、砂岩、ハイアロクロスタイトなどがみられた。なお石質については、本センターの楯真美子が鑑定を行った。

1010・1011は磨製石庖丁片である。いずれも全形は窺い得ないが、1010の平面形態は直線刃半月形または杏仁形の可能性を有し、背部寄りに二孔一対の紐部が穿たれている。

1001～1007・1024・1025は磨製石斧である。形態的には太型蛤刃（1004～1007）、柱状片刃（1002）、小型方柱状片刃（1024・1025）、扁平片刃（1001）などがみられる。100・1005（剥落後）には研ぎ直しの痕跡が認められ、1006には凹石として、1007には刃部欠損の後叩石として再利用された痕跡が認められる。1002は土器棺内からの出土である。1015～1021は石鏃である。形態的には茎の長短はあってもすべて有茎石鏃で、無茎のものはみられなかった。しかしこの有茎のものも長さが4.5～5cmの大形品と、3cm前後のものとの間に明瞭な規格の差異が認められる。さらに大形品の中で平面形態上、側辺が先端から基部に向かって緩やかに外反するもの（1015・1016）と、側辺中程がやや内彎するもの（1017・1018）とがみられた。

1013・1014は磨石である。2点ともに扁平な円礫を使用しており、側縁には磨痕が認められる。

1009は叩石である。長さ13cm程の細長い円礫を使用しており、端部には打撃痕が認められる。

1012は石剣片である。全形を窺い得ないため平面形態上の特徴は判じ得ないが、鉄剣形の茎部ではないかと思われる。茎部端には意図的に研がれた刃部が設けられており、破損した後に再加工して使用されたものと思われる。

1022・1023は管玉である。長さはそれぞれ1.3・2.0cmで、管の外径は0.5・0.6cm、内径（孔径）は0.2・0.2～0.3cmを測る。

本遺跡出土の石器・石製品は、推定できる伴出土器の時期から考えると弥生時代中期前～後葉（岡島II～IV）の時間幅に収まる。遺構から時期が判断できる遺物は1002がSZ29土器棺内で中期後葉（岡島IV）、1004・1006・1007がNR03で中期後葉（岡島IV）、1009がSB02で中期後葉（岡島IV）、1019がSD10で中期中葉（岡島III）、1022・1023がSD08で中期中葉（岡島III）、1025がSD12で中期前葉（岡島II）である。　（松田　訓）

参考文献

平井勝　1991　『弥生時代の石器』　ニューサイエンス社

第Ⅳ章　科学分析

第１節　珪藻および昆虫化石群集から得られた岡島遺跡の古環境変遷

①．はじめに

遺跡立地

岡島遺跡は、西三河平野南部、碧海台地と幡豆山塊にはさまれた矢作古川左岸の氾濫平野に位置している（図 42）。遺跡の標高は、弥生時代中期の生活面で＋4.0ｍ～＋4.5ｍである。

これまでの調査によって、岡島遺跡からは弥生時代中期～後期の方形周溝墓群、および同時期の多数の土器・木製品・石製品等が発見され、調査区の北方に三河地方最大級の弥生時代の集落遺跡の存在が推定されている。

古地理の変遷

自然科学的な分析では 1989～1990 年の調査によって、イネノクロカメムシなどの稲作害虫や湿原性のキヌツヤミズクサハムシ等、多数の昆虫化石や種実ほかの自然遺物が発見され、また岡島遺跡地下のボーリング試料中からは広域テフラとして著名なアカホヤ火山灰層（K—Ａｈ）が確認されるなど、岡島遺跡の遺跡立地のみならず広く三河平野における古地理の変遷を考えるうえで多くのデータが得られている（森ほか、1990）。

本論では、1990～1991 年にかけての発掘調査の過程で明らかになった弥生時代中・後期～中世を中心とした遺物包含層、およびその基盤層中から抽出した珪藻遺骸・昆虫化石の分析を通じて、岡島遺跡における古環境の復元を試みる。

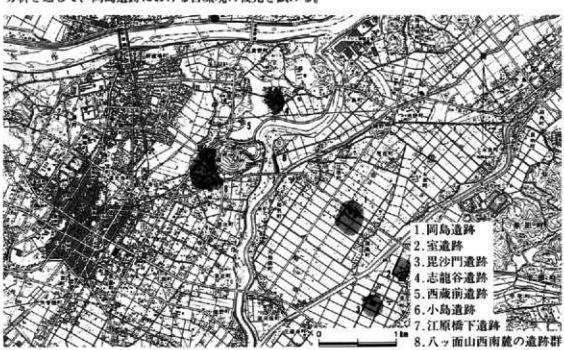


図 42　岡島遺跡位置図

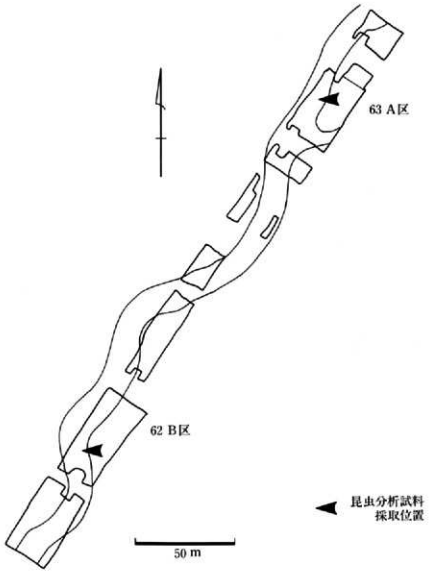


図 43　分析試料採取地点(62 B区・63 A区)

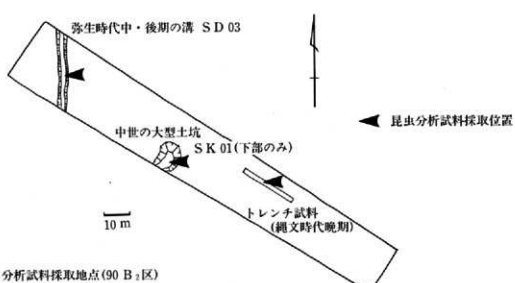


図 44　分析試料採取地点(90 B₂区)

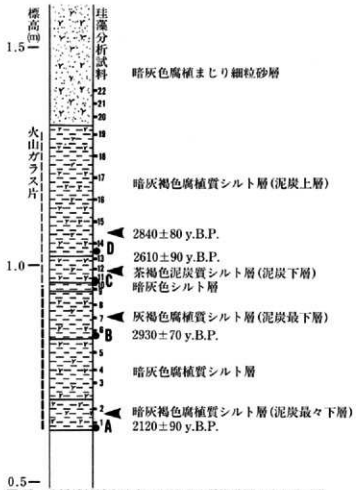


図 45 分析試料採取地点における地質柱状図 1 (90 B_2区)

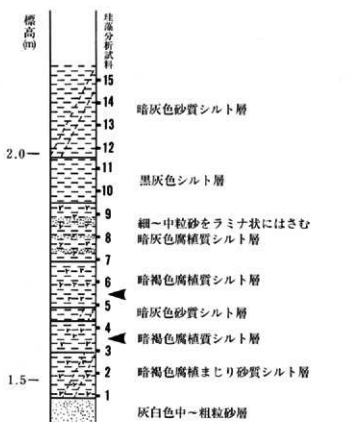


図 46 分析試料採取地点における地質柱状図 2 (91 A区)

②．試料および分析方法

珪藻および昆虫化石の分析試料採取地点は図43・44に示した。

A．珪藻遺骸

分析試料は、岡島遺跡90 B_2区の縄文時代晩期を中心とした連続試料(試料1)、91 A区の弥生時代後期の連続試料（試料2）より採取した。地層断面図（柱状図）および地層の層相などについては図45・46に示したとおりである。なお、90 B_2区の連続試料からは、

松河戸火山灰　縄文時代後・晩期の境界付近に位置する松河戸火山灰層（MT；3120±120 y.B.P.；森ほか、1990）に対比される少量の多孔質型の火山ガラス片が、試料全体に分散した状態で検出された(図45)。分析試料の年代は考古遺物による相対年代に加え、名古屋大学タンデトロン加速器質量分析計、学習院大学理学部^{14}C測定用比例計数管によって測定された放射性炭素年代値を加味して編年した。これは昆虫化石の分析試料についても同様である。

試料の分析方法　試料の分析にあたって、乾燥重量1gをトールビーカーにとり、過酸化水素水（35%）を加えて煮沸し、有機物の分解と粒子の分散を行った。岩片除去ののち、水洗を4～5回繰り返しながら、同時に比重選別を行った。次に分離した試料を希釈し、マウントメディア（和光純薬製）にて封入した。検鏡は1000倍の光学顕微鏡を使用し各試料とも200個の珪藻殻を同定した。しかし、試料中に含まれる珪藻殻が極端に少ない場合は、200個に達しなくても検鏡を打ち切った。

珪藻の文献　珪藻の分類およびその生態的特性などは、Hustedt（1930, 1937-1938, 1927-1966）・Krammer and Lange-Bertalot（1986, 1988, 1991 a, 1991 b）・Hendey（1964）・Desikachary（1987, 1988, 1989）・Cholnoky（1968）・Foged（1954）・Schoeman（1973）・Round *et. al.*（1990）などによった。発見された主な珪藻化石については図63および64に示した。

B．昆虫化石

分析試料の採取場所（地区名）およびその相対年代、湿潤重量等については図47に、層位・地層断面図・地層の層相などは珪藻分析試料と同じ図45・46に示した。

昆虫の分析試料は、層序が明確になった地層断面からできるだけ多く採取した。昆虫化石の検出は、主にブロック割り法によって抽出した。

昆虫化石の抽出　なお、昆虫の検出にあたってはアサヒペンタックス単眼顕微鏡（20倍）を利用し、実体顕微鏡下でクリーニングののち、一つずつの節片について、筆者採集の現生標本の各部位と実体顕微鏡下で比較・検討しながら行った。鞘翅目の分類および検索は、主に森本ほか（1984）・平嶋ほか（1989）によった。また、地表性歩行虫など個々の昆虫の生態については筆者の観察所見に加え、中根ほか(1975 b)等を参考にした。同定後の標本は、エチルアルコール（50%）を十分噴霧したのち、土ごと密閉ケースに入れ愛知県埋蔵文化財調査センター収蔵庫にて保管中である。

調査区		試料の種類	層　　相	時　　代	湿潤重量
11	90 B_2	大型土坑上部	砂質シルト層	中世前期（13 C）	26.4 kg
10	90 B_2	大型土坑下部	砂質シルト層	中世前期（13 C）	22.6 kg
9	90 B_2	山中式期講堆積物	細砂混じりシルト層	弥生時代後期後半	30.5 kg
8	91 A	上層泥炭	褐色泥炭層	弥生時代後期	72.0 kg
7	62 B	河道堆積物	植物片混じりシルト層	弥生時代中期以降	70.0 kg
6	90 B_2	瓜郷式期講堆積物	細砂混じりシルト層	弥生時代中期	56.4 kg
5	63 A	トレンチ泥炭	黒褐色泥炭層	縄文時代晩期	123.3 kg
4	90 B_2	泥炭上層	暗灰褐色腐植質シルト層	縄文時代晩期	37.9 kg
3	90 B_2	泥炭下層	茶褐色腐植質シルト層		62.8 kg
2	90 B_2	泥炭最下層	灰褐色腐植質シルト層		50.8 kg
1	90 B_2	泥炭最々下層	暗灰褐色腐植質シルト層		40.5 kg

図47　昆虫化石試料の種類およびその相対年代

③．分析結果

A．珪藻遺骸群集

同定した珪藻遺骸のリストを図51・52に、その生態値の百分値と出現頻度等を図49・50に示した。出現した珪藻遺骸は、90 B_2区深掘りトレンチ内の縄文時代晩期の頃の22試料（試料1；泥炭最々下層～泥炭上層）では、39属156種（9変種および3未同定種を含む）計2,160個体であった（図51）。

91 A区の弥生時代後期を中心とした15試料（試料2；暗褐色腐植混じり砂質シルト層～暗褐色砂質シルト層）では、24属93種（10変種を含む）計1,568個体であった（図52）。

次に、分析試料ごとに珪藻の群集組成の特徴について述べる。

1．試料1（90 B_2区深掘りトレンチ）

珪藻遺骸群集は群集組成の特徴から、下位よりA帯～E帯の5帯に区分される。以下に各帯の群集組成の特徴、優占種等について記す。　**珪藻の群集組成**

A帯（試料1～9）

A帯の試料では、出現珪藻のすべてが淡水生種で占められた。pHについては真～好アルカリ性種（平均49.6%）、水流性については不定性種（同約72.3%）、生態性については付着生種（同65.0%）が優占する群集組成であるとみなすことができる。

種ごとにみると、好アルカリ性・水流不定性で、付着生種の*Synedra ulna*（8.6%）や、同じく好アルカリ性・水流不定性で、付着生種の*Cocconeis placentula*およびその変種の*C. placentula* var. *euglypta*（計8.5%）などが比較的多く出現した。ほかに河川や池沼等の水生植物の茎や葉に付着して生活する*Cymbella*属（13.9%）や*Eunotia*属（7.1%）の種群が多数認められた。

湿潤地表面や水量の乏しい水たまりなどの好気的環境を好む*Hantzschia amphioxys*、*Navicula contenta*、*Navicula mutica*、*Pinnularia borealis*、*Pinnularia subcapitata*などの陸生珪藻が計12.8%出現した。その結果、この頃の地層（泥炭最々下層・泥炭最下層）は、水深の浅い環境下で堆積したものであろうと推定される。

B帯（試料10～12）

汽水～海水生珪藻の出現

本帯は汽水生ないし海水生珪藻の出現によって特徴づけられる。試料12（標高+1.00 m）の75.0%を最高に、試料10で68.8%、試料11においても半数を超える55.3%の汽水～海水生種（平均66.4%）が認められた。

種組成では、汽水産・浮遊生種の*Melosila nummuloides*（平均36.6%）が優占し、汽水産・付着生種の*Achnanthes brevipes* var.*intermedia*（同11.4%）や、同じく汽水産・付着生種の*Cocconeis scutellum*（同6.2%）、海水産・浮遊生種の*Thalassionema nitzschioides*（同6.2%）などが随伴した。淡水生種の出現率は3試料ともごくわずかであった。

C帯（試料13～15）

淡水生種を主体に、平均で30.9%の汽水～海水生種が伴われた。汽水～海水生珪藻では、*C.scutellum*（13.8%）、*M.nummuloides*（8.4%）が比較的多く認められた。淡水生珪藻では、好アルカリ性・水流不定性種で、付着生種の*Achnanthes lanceolata*（4.8%）、*Gomphonema clevei* var.*inaequilongum*（4.2%）、*Eunotia pectinalis*（3.0%）、*Flagilaria brevistriata*（3.0%）などが出現した。

しかし、本層準では珪藻の出現殻数が少なく、またA帯同様*Hantzschia amphioxys*（6.4%）、*Navicula mutica*（4.2%）などの陸生珪藻が計12.6%認められた。

D帯（試料16～19）

全体に珪藻の出現殻数が少なく、出現珪藻のすべてが淡水生種で占められた。珪藻殻数の極端に少ない試料18をのぞき、pHについては真～好アルカリ性種（平均で52.6%）、水流性については不定性種（同87.5%）、生態性については底生種（同50.0%）が優占する群集組成であるとみなすことができる。

種組成では、pH、水流性ともに不定性で、底生種の*Nitzschia parvula*が試料17で42.6%出現した。ほかに*C.placentula*およびその変種の*C.placentula* var.*euglypta*（9.7%）、

陸生珪藻

S.ulna（6.2%）などが比較的多く出現した。陸生珪藻は計23.4%認められた。

E帯（試料20～22）

珪藻の出現殻数はD帯より増加した。pHについては真～好アルカリ性種（平均で73.6%）、水流性については不定性種（同71.6%）、生態については付着生種（同91.4%）がそれぞれ優占した。

種ごとにみると、*S.ulna*（14.9%）や好アルカリ性・好止水性で、付着生種の*Gomphonema clevei*（11.2%）、*Epithemia turgida*（8.3%）などが比較的多く認められた。陸生珪藻の出現率は4.6%と大変少なかった。

2．試料2（91 A区、弥生時代後期の泥炭層）

15試料の分析結果を出現珪藻の群集組成の特徴から以下のように下位からⅠ～Ⅱ帯の2帯に区分することができる。次にそれぞれの群集組成の特徴について記す。

Ⅰ帯（試料1～9）

出現珪藻のすべてが淡水生種で占められた。珪藻の出現殻数は少なかった。pHについては真～好アルカリ性種が77.7%（平均、以下同様）と優占し、不定性種（13.0%）、真～好酸性種（8.9%）の出現率は低率であった。水流性については真～好止水性種が10.3%、不定性種が82.8%、真～好流水性種は6.6%であった。生態性では、付着生種（91.7%）が底生種（平均7.1%）を大きく上回り、浮遊生種の出現率はわずか1.1%にとどまった。

真～好アルカリ性種の優占

種組成では、好アルカリ性・水流不定性で、付着生種の*Achnanthes brevipes* var. *intermedia*（13.3%）、好アルカリ性・好止水性で、付着生種の*Gomphonema clevei*（9.5%）などが比較的多く出現した。陸生珪藻の出現率は低率であった。

Ⅱ帯（試料10～15）

Ⅰ帯同様、出現珪藻のすべてが淡水生種で占められた。珪藻の出現殻数はⅠ帯にくらべてはるかに多く、珪藻殻の保存状態も良好であった。

pHについては、真～好アルカリ種の出現率は54.2%、不定性種は29.1%、真～好酸性種は11.7%であった。Ⅰ帯にくらべ、不定性種や真～好酸性種の出現率が増加した。水流性については真～好止水性種が16.2%、不定性種が72.1%、真～好流水性種は9.3%で、Ⅰ帯にくらべわずかながら真～好止水性種が増加している。生態性では、付着生種（91.5%）がⅠ帯同様、底生種（平均6.4%）を大きく上回った。浮遊生種の出現率は1.8%であった。

種組成では、*C. placentula*およびその変種の*C. placentula* var. *euglypta*（12.7%）や*S. ulna*（10.2%）が比較的多く出現した。ほかに*Cymbella*属の種群（28.3%）や*Gomphonema*属の種群（12.6%）が多数認められた。

B．昆虫化石群集

昆虫化石の同定結果を図53に示した。総点数（節片または破片数）は現時点での集約数で計1,058点、発見された節片についての詳細な種の検討を実施していない標本も多く、そのため昆虫化石の分析はまだ未完成の状態にあるが、これまでに明らかになった知見について述べる。

科以上のレベル（亜科を含む）まで同定できたもの16科4亜科451点（41.6%）、族レベル（亜族を含む）まで同定できたもの5族1亜族24点（2.2%）、属レベルまで同定できたもの16属127点（11.7%）、種まで同定できたもの68種390点（35.9%）であった。目のレベルでとどめたものは1目1点（0.09%）、未分類および所属不明の甲虫目等は計92点（8.5%）であった。

生息環境および生態による分類では、湿原性ないし湿地性のネクイハムシ亜科を含む水生昆虫199点（18.3%）、食糞性および食屍性昆虫11点（1.1%）、食肉性および雑食性の地表性歩行虫280点（25.8%）、食葉性昆虫など陸生の植生依存型昆虫500点（46.1%）、

生息環境別出現率

その他所属不明および未分類のため生態が判明していない昆虫片は91点（8.4%）であった。

次に層準ごとの昆虫化石の出現傾向について述べる。

1．縄文時代

湿潤重量総計315.3 kgの試料中より計631点の昆虫化石が発見された。うち水生昆虫は136点（21.6%）、地表性歩行虫198点（31.4%）、陸生の植生依存型昆虫234点（37.1%）、その他は63点（9.9%）であった。陸生の植生依存型昆虫と、地表性歩行虫・水生昆虫の三者が共存する群集組成であると考えることができる。

泥炭最々下層（90 B_2区）

泥炭最々下層（試料の湿潤重量は40.5 kg）では計49点の昆虫化石が発見され、うち水生昆虫は計2点（4.1%）、地表性歩行虫は25点（51.0%）、陸生の植生依存型昆虫は17点（34.7%）であった。種組成では、水辺などの湿潤地表面に好んで生息する地表性歩行虫のヤマトトックリゴミムシ*Lachnocrepis japonica*をはじめ、トックリゴミムシ属*Lachnocrepis* sp.が2点見いだされた。陸生の植生依存型昆虫では、主に樹葉を食するコガネムシ*Mimela splendens*（2点）、ヒメコガネ*Anomala rufocuprea*（4点）、サクラコガネ属*Anomala* sp.（4点）など、スジコガネ亜科 RUTELINAEに属する昆虫化石が計14点発見された。

地表性歩行虫

ヤマトトックリゴミムシ

泥炭最下層（90 B_2区）

泥炭最下層（90 B_2区、試料の湿潤重量は50.8 kg）では計25点が発見された。うち水生昆虫は計2点(8.0%)、地表性歩行虫は11点(44.0%)、陸生の植生依存型昆虫は10点(40.0%)であった。種組成では、泥炭最々下層と同様、トックリゴミムシ*Lachnocrepis prolixa*など、トックリゴミムシ属*Lachnocrepis* sp.が2点発見されている。

泥炭下層（90 B_2区、試料の湿潤重量は62.8 kg）

210点のうち、水生昆虫は計69点(32.9%)、地表性歩行虫は85点(40.5%)、陸生の植生依存型昆虫は41点(19.5%)であった。種組成では、食肉性の水生昆虫であるマメゲンゴロウ属*Hyphydrus* sp.（3点）、ヒメゲンゴロウ亜科COLYMBETINAE（4点）などのゲンゴロウ科DYTISCIDAEが計22点発見された。また、セマルガムシ*Coelostoma stultum*（25点）をはじめ、食植性の水生昆虫が計44点見いだされた。また、湿地性の食植性昆虫であるキヌツヤミズクサハムシ*Plateumaris sericea*が1点発見された。

ヒラタゴミムシ亜族

地表性歩行虫では、池沼や川べりなどの水辺環境に多く生息するヒラタゴミムシ亜族PLATYNINA（8点）や、ツヤヒラタゴミムシ属*Synuchus* sp.（2点）、モンコミズギワゴミムシ属*Tachyura* sp.（4点）、ヤマトトックリゴミムシ（6点）、およびアオヘリアオゴミムシ*Chlaenius praefectus*（2点）などのゴミムシ科が多数認められた。陸生の植生依存型昆虫では、アザミ類を食するオナガカツオゾウムシ*Lixus moiwanus*（2点）などのゾウムシ科CURCULIONIDAE（9点）、イネ科の草本とりわけ水稲を加害することで著名なイネノクロカメムシ*Scotinophara lurida*が10点出現したことが特筆される。

泥炭上層（90 B_3区、試料の湿潤重量は37.9 kg）

計43点発見され、うち水生昆虫は3点（7.0%）、地表性歩行虫は19点（44.2%）、陸生の植生依存型昆虫は17点（39.5%）であった。地表性歩行虫のなかに、アシの茂った川べりの草地に多く生息するヨツボシゴミムシ*Panagaeus japonicus*が出現した。 ヨツボシゴミムシ

トレンチ泥炭（91 A区、試料の湿潤重量は123.3 kg）

計304点発見された。うち水生昆虫は60点（19.7%）、地表性歩行虫は58点（19.1%）、陸生の植生依存型昆虫は149点（49.0%）であった。種組成では、湿地性の食植性昆虫であるキヌツヤヤミズクサハムシが計9点出現した。全体に90 B_2区の泥炭下層と昆虫の群集組成のうえではよく似た出現傾向を示した。 キヌツヤヤミズクサハムシ

2．弥生時代

湿潤重量総計228.9 kgの試料中より計278点の昆虫化石が発見された。うち水生昆虫は23点（8.3%）、食糞性および食屍性昆虫は5点（1.8%）、地表性歩行虫は40点（14.4%）、陸生の植生依存型昆虫は190点（68.3%）、その他20点（7.2%）であった。全体に陸生の植生依存型昆虫が優占する群集組成であるとみなすことができる。

弥生時代中期（試料の湿潤重量は56.4 kg）

計16点発見され、うち水生昆虫は2点（12.5%） 地表性歩行虫は4点（25.0%）、陸生の植生依存型昆虫は9点（56.3%）であった。地表性歩行虫では砂地に多いセアカヒラタゴミムシ*Dolichus halensis*が発見された。また、陸生の食植性昆虫のなかにクヌギやコナラなどの樹液に集まるコクワガタ*Macrodorcas rectus*や、山地のブナやヤナギ林に多いアカアシクワガタ*Nipponodorcus rubrofemoratus*が見いだされたことは、弥生時代中期の頃の岡島遺跡の古環境を考えるうえで重要である。 コクワガタ アカアシクワガタ

弥生時代中期以降（試料の湿潤重量は70.0 kg）

弥生時代中期から後期にかけての河道堆積物中から計164点の昆虫化石が発見された。うち水生昆虫は6点(3.7%)、食糞性昆虫は4点(2.4%)、地表性歩行虫は17点(10.4%)、陸生の植生依存型昆虫は122点（74.4%）で、植生依存型昆虫が優占する群集組成であるとみなすことができる。

山地のニレ類やカエデ類等に多い樹上性のツノアオカメムシ*Pentatoma japana*（2点） ツノアオカメムシ
や、アオカナブン*Rhomborrhina unicolor*（2点）、タマムシ*Chrysochroa fulgidissima*（10点）、コクワガタ（1点）、コカブトムシ*Eophileurus chinensis*（1点）などの樹木起源の食植性昆虫が多数発見された。また、ルリハムシ*Linaeidae aenea*（7点）をはじめ草本植生を好むハムシ科が計14点見いだされた。ほかにセンチコガネ*Geotrupes laevistratus*（3点）をはじめ、計4点の食糞性昆虫が出現している。

弥生時代後期（試料の湿潤重量は72.0 kg）

計75点発見された。うち水生昆虫は3点（4.0%）、食屍性昆虫は1点（1.3%）、地表性歩行虫は17点（22.7%）、陸生の植生依存型昆虫は51点（68.0%）であった。弥生時代中期の試料同様、植生依存型の昆虫が優占した。

ハンミョウ　乾燥した砂地を好む地表性歩行虫であるハンミョウ*Cicindela chinensis japonica*が3点出現する一方、枯れ木や朽ち木などに多いキマワリ*Plesiophthalmus nigrocyaneus*・ヒメナガキマワリ*Strongylium impigrum*がそれぞれ1点ずつ発見された。また、コガネムシ(15点)やアオドウガネ*Anomala albopilosa*(4点)・クロコガネ*Holotrichia kiotoensis*などの樹葉を好む食葉性昆虫が多数発見された。

弥生時代後期後半(試料の湿潤重量は30.5kg)

計23点発見され、うち水生昆虫は12点(52.2%)、地表性歩行虫は2点(8.7%)、陸生の植生依存型昆虫は8点(34.6%)であった。水生昆虫のなかに池沼や溝・水路などに多

キベリクロヒメゲンゴロウ　く認められるキベリクロヒメゲンゴロウ*Ilybius apicalis*(3点)・ガムシ*Hydrophilus acuminatus*(4点)などが検出された。食植性昆虫では主に樹葉を食害するスジコガネ*Mimela testaeceipes*(1点)が出現した。

3．中　世

13世紀の大型土坑内の試料(湿潤重量計49.0kg)中より計176点の昆虫化石が発見された。うち水生昆虫は39点(22.2%)、食糞性および食屍性昆虫は6点(3.4%)、地表性歩行虫は42点(23.9%)であった。また、陸生の植生依存型昆虫が76点(43.2%)、その他13点(7.4%)が見いだされた。試料は下部と上部に分けて採取したが、分析結果に明瞭な差異が認められなかったので、ここでは両者の出現傾向を併せて述べる。中世の試料では植生依存型昆虫を中心に、地表性歩行虫と水生昆虫が共存する群集組成であった。

ゲンゴロウ　水生昆虫では、ゲンゴロウ*Cybister japonicus*(2点)、コガタノゲンゴロウ*C. tripunctatus orientalis*(1点)、コシマゲンゴロウ*Hydaticus grammicus*(1点)などの食肉性のゲンゴロウ科DYTISCIDAEが計14点発見された。また、食植性の水生昆虫では、ガムシ(3点)・コガムシ*Hydrochara affinis*(2点)・ヒメガムシ*Sternolophus rufipes*(3点)など計20点のガムシ科に加え、溝や水田・小河川などの止水環境に生息するコガシラミズムシ*Pelloydtes intermedius*(2点)が認められた。人為度の高い止水域(水田等)に生息

イネネクイハムシ　し、稲作害虫としても知られるイネネクイハムシ*Donacia provosti*が計3点発見された。

地表性歩行虫では、ツヤヒラタゴミムシ属(8点)をはじめ水路や川べりなどの湿潤地表面を特徴づけるゴミムシ科が多数見いだされた。

また、食植性昆虫では、樹葉を食するスジコガネ亜科やサクラコガネ属とともに、アオバネサルハムシ*Basilepta fulvipes*(2点)・ドウガネサルハムシ*Scelodonta lewisii*(2点)・ルリハムシ*Linaeidae aenea*(1点)などの草本植生を好むハムシ科CHRYSOMELIDAEが計8点発見された。

④．古環境の変遷

1．縄文時代晩期のはじめの頃

岡島遺跡の基盤層を構成する腐植質シルト層ないし泥炭層の放射性炭素年代（計6点）は最も新しいもので2120±90 y.B.P.(GaK-15762、試料は90 B_3区の泥炭最々下層)、最も古いもので2930±70 y.B.P.(GaK-15763、試料は90 B_3区の泥炭最下層)を示し、現在の編年によればこれらはいずれも縄文時代晩期に相当する年代値である。また、90 B_2区の柱状試料の全層準にわたって松河戸火山灰層（MT；3120±120 y.B.P.）に対比される火山ガラス片が発見されたことから、90 B_2区における腐植質シルト層の堆積が松河戸火山灰層降灰後、すなわち縄文時代晩期に入ってから行われたものであることがわかる。

水深の浅い湿地帯

この頃、岡島遺跡周辺は水深の浅い湿地帯のような状況にあったことが推定される。珪藻分析の結果は90 B_2区深掘りトレンチのA帯に相当し、付着生種が優占する一方、12.8%の陸生珪藻が出現する。昆虫分析では51.0%(90 B_2区泥炭最々下層)、および44.0%(90 B_3区泥炭最下層）の水辺を好む地表性歩行虫の産出によって特徴づけられる。この層準からは水生昆虫はごく少数しか発見されておらず、36.5%の主に樹葉を食する食葉性昆虫が出現した。その結果、岡島遺跡一帯には小規模な止水域が点在し、起伏のある湿潤地表面のところどころに落葉性の低木が生育していたものと推定される。

地表性歩行虫の多産

小規模な止水域

2．縄文時代晩期半ば頃

縄文後期の海進

岡島遺跡90 B_3区の標高+1.0 m付近には、汽水～海水生珪藻が多産する層準(90 B_3区B帯）が認められ、この時期に小規模ながら明瞭な海進があったことが明らかになった。岡島遺跡の海成層は、これまで朝日遺跡63 A'区（縄文時代後期前半の土器片（堀之内II式土器)を含む地層より上位、標高+1.25 m；森ほか、1989)、同じく朝日遺跡62 A_3区(<3790±90 y.B.P.,標高±0 m；森，1992)，土田遺跡（<2530±190 y.B.P.、標高0～+1.0 m；森ほか、1991 a)、苦薙遺跡（3400±110 y.B.P.、標高+2.0～2.15 m；森ほか、1991 a)をはじめ、濃尾平野各地で認められた海進（縄文後期の再海進）より、いくぶん新しい年代値を示している。しかし、現在までのところ放射性炭素年代以外にこれら海～汽水成層を対比する材料に乏しく、岡島遺跡および濃尾平野各地で見いだされた両海進がそれぞれ時期を異にする二時期の海進を示したものなのか、それとも年代値はやや前後するものの同時期の海進期のものであるかを確定するには至っていない。

草本植生を好む植生依存型昆虫

生物群集はこの海進を境に、大きな変化が認められた。陸生の植生依存型昆虫では樹葉性の昆虫にかわって、ハムシ科やゾウムシ科、イネノクロカメムシなどの草本植生に由来する食植性昆虫が多数を占めるようになり、水生昆虫では8～9種のガムシ科をはじめ、2種類のミズスマシ科、少なくとも5種類以上のゲンゴロウ科など食植性ないし食肉性の多様な水生昆虫が認められた。また、酸性の湿原域を好む湿地性のキヌツヤミズクサハムシも発見された。

塩性遷移

地表性歩行虫では、水辺に多いヤマトトックリゴミムシやアオヘリアオゴミムシ、ミズギワゴミムシの仲間、ヒラタゴミムシの仲間が出現した。塩性遷移の進行に伴って多様な

植生が繁茂し、そのことが昆虫相に多大な影響を及ぼしたものと推定される。

3．縄文時代晩期の終り～弥生時代前期の頃

珪藻の分析結果では、90 B_2区のC帯～D帯にみられるように陸生珪藻の出現率が高く、底生の種群も比較的多く認められた。アシの茂った水辺に生息するヨツボシゴミムシの出現によって水深が浅くなり、挺水植物の繁殖する水たまり的な止水域に変化したものと思われる。

水たまり的な止水域

4．弥生時代中期

90 B_2区の溝中の堆積物からは数は少ないものの、当時の植生環境を考えるうえで重要な昆虫化石が発見された。アカアシクワガタ（前胸背板）は現在は山地帯（冷温帯）のブナ林に多く、しばしば低山地のヤナギ類の樹液に集まることが知られている。コクワガタ（前胸背板）はクヌギやコナラなどの樹液に集まる森林性の食植性昆虫であり、3点発見されたアオドウガネ（前胸背板など）は海岸部の樹葉上に多く認められる食葉性昆虫の一種である。

森林性昆虫

これらの昆虫片の大きさはいずれもかなり大きく、しかもほとんど壊れていないことから、遠くから運ばれたものとは考えにくい。その結果、弥生時代中期の頃、岡島遺跡90 B_2区付近にはクヌギやコナラを中心とした落葉広葉樹が生育していたことはほぼ確実であろう。

落葉広葉樹林

弥生時代中期から一部後期を含む62 B区の河道堆積物中の試料からは、コクワガタをはじめ、コクワガタ同様クヌギやコナラなどの樹液に集まるアオカナブン、エノキやヤマザクラなどの古木に多いタマムシ、さらにニレやカエデ類に集まるツノアオカメムシが発見され、弥生時代中期から後期にかけて、岡島遺跡一帯に森林植生が成立していたことを推定させる。

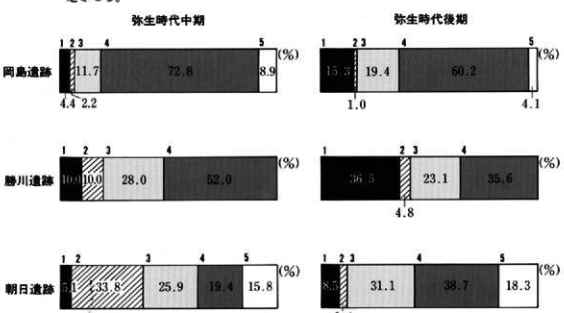


図 48　弥生時代中期および後期の地層から検出された昆虫化石の生息環境別出現率

5．弥生時代後期

弥生時代後期の試料でも陸生の植生依存型昆虫の出現率が高く、コガネムシやクロコガネ・サクラコガネ属などの樹葉を食害する食葉性昆虫が多数見いだされた。弥生時代後期の前半では、砂地を好むハンミョウ、枯れ木や朽ち木に集まるキマワリ・ヒメナガキマワリ・ハネカクシ科などの地表性歩行虫の出現率が高いことから、岡島遺跡周辺では樹木の伐採が進み、裸地的空間が拡大したことが推定される。

裸地的空間の拡大

弥生時代後期後半になると、地表性歩行虫の出現率が低下し、かわって水生昆虫の出現率が増加する。珪藻分析でも、付着生珪藻の出現率が増大して、遺跡の周囲に水（流水）の影響が及んだことが考えられる。

図48に岡島遺跡の弥生時代中期および後期の試料中から発見された昆虫化石の生息環境別出現率を示した。比較のために、ほぼ同時期の勝川遺跡（低位段丘上から低位段丘直下に営まれた環濠集落：愛知県春日井市）、朝日遺跡（濃尾平野の沖積低地上に成立した弥生「都市」：愛知県西春日井郡清洲町ほか）から産した昆虫化石の生息環境別出現率を掲げた。勝川遺跡の弥生時代中期の試料（計50点）は低位段丘直下の木製品貯蔵施設と推定される流路内、弥生時代後期の試料（計104点）は同じく低位段丘直下の自然流路内から採取した。一方、朝日遺跡の試料（弥生時代中期139点、弥生時代後期235点）は、いずれも環濠集落外の居住域に掘られた溝中より採取した。

勝川遺跡
朝日遺跡

それぞれの遺跡の立地環境、遺跡内における分析試料の採取位置、および昆虫化石包含層による差異などを考慮する必要はあるものの、岡島遺跡では他の2遺跡にくらべ、陸生の植生依存型昆虫の占める割合が著しく高いことがわかる。このことから、岡島遺跡の周りには、弥生時代中・後期を通じて森林植生が相当残存していたことが容易に推定される。一方、朝日遺跡では、植生依存型昆虫の出現率が低く、食糞性昆虫を含め地表性歩行虫の出現率が格段に高いことがわかる。その結果、朝日遺跡では「都市」の造営にあたって森林植生の伐採が進み、遺跡内に占める裸地的空間の割合が著しく高かったことが考えられる。

森林植生に囲まれた農村

6．中　世

植生依存型昆虫には樹葉を食する種群に加え、草本植生を加害するハムシ科などが多く見いだされた。ガムシ科やゲンゴロウ科などの水生昆虫も多く出現し、とりわけ水稲を食害することで知られるイネネクイハムシの精巣の完全品が大型土抗中から3点も発見されたことから、岡島遺跡の周りに水田が営まれていた可能性が考えられる。

稲作害虫

⑤．まとめ

縄文時代晩期の半ば頃、水深の浅い湿地帯のような環境下に海水が侵入し、岡島遺跡周辺の氾濫平野では塩性遷移が進行した。やがて、やや水深のある沼沢地のような環境に移り変わり、草本植生に由来する多様な生物群集が認められた。

海水の浸入
水深のある沼沢地

縄文時代晩期から弥生時代前期にかけて、岡島遺跡周辺では水域が縮小し、落葉広葉樹を中心とした森林植生が成立していた。

弥生時代中期～後期を通じて、岡島遺跡の周りにはクヌギやコナラなどの樹木が生育し、

岡島ムラの景観

岡島ムラの景観は「雑木林に囲まれた農村」といったイメージであった可能性が考えられる。弥生時代後期後半になると、岡島遺跡の周りでは再び水域の占める割合が高くなり村が衰退に向かった。

そして、中世の頃の岡島遺跡は、人工改変の進んだ水田地帯のような状況であったことが考えられる。（森　勇一・前田弘子）

謝　辞

小論を草するにあたり、三重大学生物資源学部昆虫学研究室の松浦　誠・山田佳廣両氏、ならびに大阪市立自然史博物館の宮武頼夫氏には現在標本の借用、および有益な助言をいただいた。昆虫化石の電子顕微鏡写真撮影にあたっては、名古屋大学年代測定資料研究センターの森　忍氏に御世話になった。昆虫化石・珪藻遺骸の抽出・分類作業には楯　真美子・服部俊之・服部恵子・中村明実・永草康次氏をはじめ、多くの方々に協力いただいた。これらの方々に心よりお礼申し上げる。

文　献

Cholnoky, B. J. (1968), Die Ökologie der Diatomeen Binnengewassern. Cramer, Germany. 699 p.

Desikachary, T.V. (1987・1988・1989), Marine Diatoms of the Indian Ocean Region. Atlas of Diatoms, Madras Science Foundation Madras, pls.1-809

Foged, N. (1954), On the Diatom flora of some Funen lakes. *Fol. Limnol. Scandinavica*. **6**, 76 p.

Hendey, N.I. (1964), An introductory Account of the smaller algae of British coastal waters. Part V:Bacillariophyceae (diatom). Her Majesty's Stationary Office, London, 317 p.

日浦　勇・宮武頼夫・那須孝悌 (1984), 昆虫遺体群集による遺跡環境の復元に関する基礎的研究. 古文化財の自然科学的研究. 古文化財編集委員会編, 同朋舎, 411-429.

平嶋義宏・森本　桂・多田内修 (1989), 昆虫分類学. 川島書店, 597 p.

Hustedt, F. (1930), Bacillariophyta, *Die Süsswasser Flora Mitteleuropas*, 10, G. Fischer. Jena, 466 p.

Hustedt, F. (1937-1938), Systimatische und Ökologische Untersuchungen über die Diatomeen Flora von Java, Bali und Sumatra. nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. *Arch. Hydrobiol*, Suppl, **15**, 131-177.

Hustedt, F. (1927-1966), Die Kieselalgen Deutschland, Österreichs und der Schweiz unter Berucksichtigung der ubrigen Länder Europas sowie der angrenzenden Meeresgebiete. *Kryptogamen-Flora von Deutschland*, Teil 1 ~ 3, Leipzig, W. Deutschland. 920 p., 845 p., 816 p.

Kobayasi, H. (1968), A Survey of Fresh Water Diatoms in the Vicinity of Tokyo. *Journ. Bot. Japan*, **20**, 93-122.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1986・1988・1991a・1991b), Bacillariophyceae. Teil 1, Teil 2, Teil 3, Teil 4, *Pascher A. Süsswasserflora von Mitteleuropa*, 876 p., 596., 576 p., 437 p.

森　勇一 (1988a), 愛知県勝川遺跡及びその周辺地域から産した昆虫化石. 愛知県埋蔵文化財センター年報 (昭和62年度), 118-137.

森　勇一 (1988b), 昆虫化石と古環境. －愛知県勝川遺跡を中心として－, 弥生文化の研究. 10, 雄山閣出版, 202-212.

森　勇一 (1989a), 町田遺跡における珪藻遺骸群集. 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書(第9集), 町田遺跡, 64-73.

森　勇一 (1989b), 昆虫化石から得られた愛知県勝川遺跡周辺の古環境. 考古学と自然科学, 21, 57-71.

森　勇一・伊藤隆彦 (1989), 古生物学的にみた朝日遺跡の古環境の変遷. 愛知県埋蔵文化財センター年報 (昭和63年度), 76-91.

森　勇一・伊藤隆彦・中村俊夫 (1990), 西尾市岡島遺跡より発見された昆虫の年代とその古生態. 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第14集), 岡島遺跡, 107-115.

森　勇一・伊藤隆彦・宮田英嗣（1990），愛知県町田・松河戸遺跡から発見された縄文時代後・晩期の境界付近に位置する火山灰層について．第四紀研究．**29**,17-23.

森　勇一・前田弘子（1991 a），珪藻分析からみた愛知県土田遺跡における古環境．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第23集），土田遺跡，17-25.

森　勇一・前田弘子（1991 b），珪藻分析からみた菩薩遺跡における古環境．緑区大高町・菩薩遺跡（第2次調査の概要），名古屋市教育委員会，8-14.

森　勇一（1992），愛知県・朝日遺跡（弥生時代）における都市型昆虫群集．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第31集），朝日遺跡（自然科学編），183-205.

森　勇一・前田弘子・伊藤隆彦（1992），珪藻および昆虫化石から得られた朝日遺跡の古環境変遷．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第31集），朝日遺跡（自然科学編），71-131.

森　勇一（1992），勝川遺跡群より産した昆虫化石と古環境．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第29集），勝川遺跡IV，77-92.

森本　桂ほか（1986），原色日本甲虫図鑑（I）・（II）・（III）・（IV），保育社．

中根猛彦ほか（1975 a），学研中高生図鑑（昆虫II・甲虫），学習研究社．

中根猛彦ほか（1975 b），原色日本昆虫図鑑（上）・（下），保育社．

中根猛彦ほか（1978），原色昆虫大図鑑II（甲虫編），北隆館．

野尻湖昆虫グループ（1985），アトラス・日本のネクイハムシ．182 p.

野尻湖昆虫グループ（1987），第9次野尻湖発掘および第4回陸上発掘で産出した昆虫化石．地団研専報．**32**，117-136.

野尻湖昆虫グループ（1988），昆虫化石ハンドブック．ニューサイエンス社，126 p.

Patrick, R. and C.W. Reimer (1966・1975), The Diatoms of the United States. *Monogr. Acad. Nat. Sci. Philadelphia*, no.13 Philadelphia. 688 p. 213 p.

Round F.E., Crawford, R.M. and Mann D.D. (1990), The Diatoms, Biology and Morphology of the Genera. Cambridge Univ. Press, Cambridge. 747 p.

Schoeman, F.R. (1973), A Systematical and Ecological Study of the Diatom Flora of Lesotho with special Reference to the water quality, Pretoria, South Africa. 355 p.

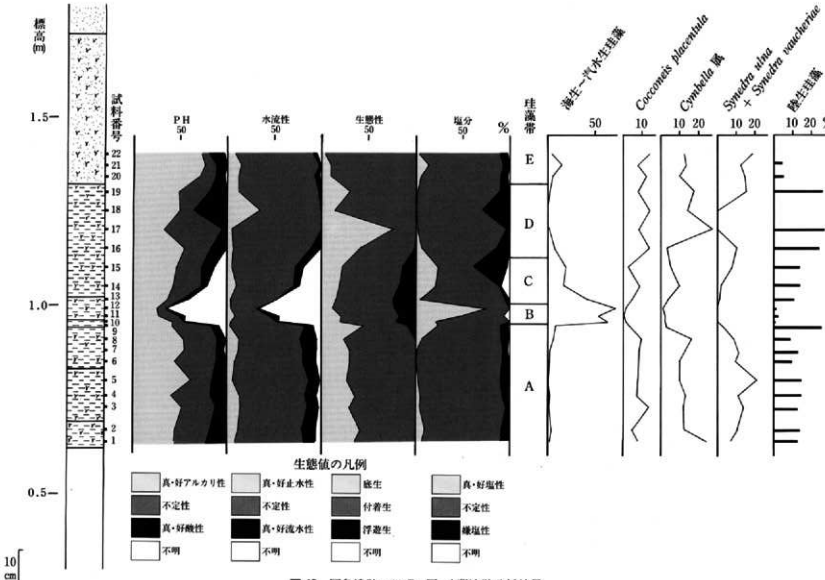


図 49　岡島遺跡・90 B_2 区 珪藻遺骸分析結果

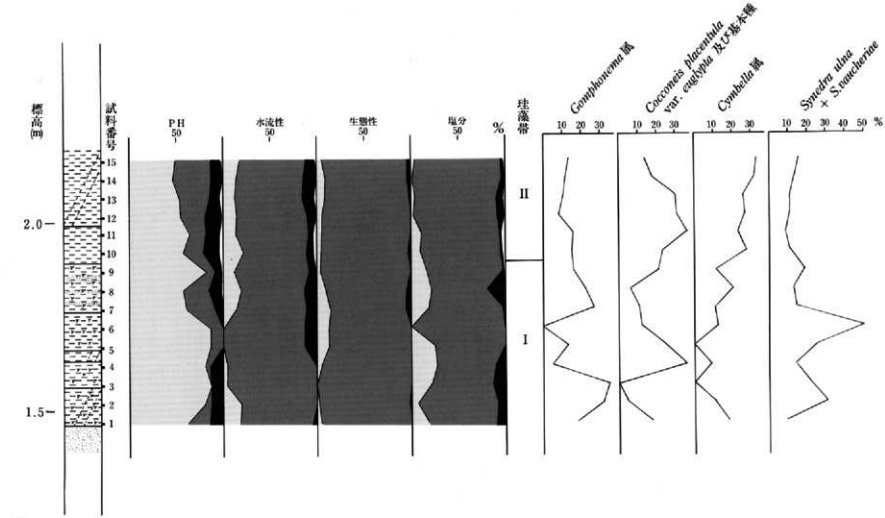


図 50　岡島遺跡・91 A区 珪藻遺骸分析結果

図51　岡島遺跡産の珪藻遺骸分析結果(1)　岡島90B$_2$区

	Species	pH	CURRENT	ECOL	CI	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	TOTAL
1	*Achnanthes brevipes* AGARDH	Alph	?	Epip	Meta	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	1
2	*Achnanthes brevipes* var. *intermedia* (KÜTZ.) CLEVE	Alph	Ind	Epip	Meta	5	8	1	2	·	3	4	5	1	23	4	15	2	·	2	2	1	·	·	7	10	2	98
3	*Achnanthes conspicua* A.MAYER	Ind	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
4	*Achnanthes crenulata* GRUNOW	?	?	Epip	?	1	·	·	·	·	·	3	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2	·	·	7
5	*Achnanthes delicatula* (KÜTZ.) GRUNOW	Albi	Ind	Epip	Meta	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2	·	2	1	2	·	·	·	·	·	·	·	·	7
6	*Achnanthes exigua* GRUNOW	Alph	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	1	4	2	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	8
7	*Achnanthes hauckiana* GRUNOW				Meta	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
8	*Achnanthes inflata* (KÜTZ.) GRUNOW	Alph	Ind	Epip	Ind	5	·	·	1	3	4	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	15
9	*Achnanthes kraskei* KOBAYASI & SAWATARI	Alph	Ind	Epip	Ind	2	1	·	·	·	2	1	·	·	1	·	2	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	10
10	*Achnanthes kryophila* PETERSEN	?	?	Epip	?	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2	·	·	·	·	·	·	·	1	3
11	*Achnanthes lanceolata* (BRÉB.) GRUNOW	Alph	Ind	Epip	Ind	1	6	3	1	1	9	9	4	6	1	2	3	5	2	1	2	2	·	·	1	·	·	59
12	*Achnanthes lanceolata* var. *rostrata* HUSTEDT	Alph	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	1
13	*Achnanthes laterostrata* (BRÉS.) GRUNOW	Ind	Ind	Epip		·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2	1	·	·	·	·	1	·	·	4
14	*Achnanthes linearis* (W.SMITH) GRUNOW	Ind	Ind	Epip	Ind	2	9	4	3	2	18	16	6	·	2	1	2	1	1	2	·	·	1	·	·	·	·	70
15	*Amphora ovalis* var. *libyca* (EHR.) CLEVE	Alph	Ind	Bent	Ind	1	·	·	2	·	·	2	·	·	·	·	1	·	2	·	1	·	·	·	2	1	1	13
16	*Anomoeoneis brachysira* (BRÉB.) GRUNOW	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
17	*Auliscus caelatus* BAILEY				Euha	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
18	*Bacillaria paradoxa* GMELIN	Ind	Ind	Bent	Meta	·	·	·	·	·	·	·	·	·	3	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	3
19	*Caloneis aerophila* BOCK	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	3	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	3
20	*Caloneis bacillum* (GRUN.) CLEVE	Alph	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
21	*Caloneis silicula* (EHR.) CLEVE	Acph	Ind	Bent	Ind	·	2	1	1	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	5
22	*Cocconeis diminuta* PANTOCSEK	Albi	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	1	·	·	·	2	·	1	·	1	·	·	·	·	·	1	·	·	6
23	*Cocconeis placentula* EHRENBERG	Alph	Ind	Epip	Ind	4	3	1	5	2	4	4	·	·	2	·	2	1	2	·	1	1	·	·	2	2	·	36
24	*Cocconeis placentula* var. *euglypta* (EHR.) CLEVE	Alph	Ind	Epip	Ind	12	7	9	4	5	12	13	9	2	·	·	1	3	2	1	3	4	2	3	14	3	7	116
25	*Cocconeis pseudomarginata* GREGORY				Meta	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
26	*Cocconeis scutellum* EHRENBERG				Meta	·	·	·	·	·	·	·	·	3	6	5	12	7	5	3	·	·	·	·	·	·	·	41
27	*Coscinodiscus* sp.				Euha	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	1
28	*Cyclotella striata* (KÜTZ.) GRUNOW				Meta	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
29	*Cyclotella stylorum* BRIGHTWELL				Euha	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2
30	*Cymbella affinis* KÜTZING	Acbi	Ind	Epip	Ind	1	·	·	1	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	3
31	*Cymbella aspera* (EHR.) CLEVE	Acph	Ind	Epip	Ind	1	·	·	1	·	2	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	2	·	·	1	8
32	*Cymbella gracilis* (EHR.) KÜTZING	Ind	Liph	Epip	Ind	2	·	·	·	·	1	·	1	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2	·	·	7
33	*Cymbella leptoceros* (EHR.) KÜTZING	Ind	Liph	Epip	Ind	2	·	1	·	·	·	1	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	1	·	7
34	*Cymbella minuta* HILSE	Ind	R-ph	Epip	Ind	10	9	2	6	3	8	10	7	1	·	1	1	·	·	·	·	·	·	1	·	1	1	61
35	*Cymbella naviculiformis* AUERSWALD	Ind	Ind	Epip	Ind	·	·	2	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2
36	*Cymbella sinuata* GREGORY	Ind	Libi	Epip	Ind	4	2	·	2	·	1	2	·	·	·	·	1	2	2	·	1	·	·	·	·	1	1	19
37	*Cymbella tumida* (BRÉB.) VAN HEURCK	Acph	Ind	Epip	Ind	14	9	2	5	3	·	3	1	·	1	·	·	1	2	·	·	·	2	1	6	3	3	56
38	*Cymbella turgida* (GREG.) CLEVE	Albi	Libi	Epip	Ind	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
39	*Cymbella turgidula* GRUNOW	Ind	Ind	Epip	Ind	14	6	2	2	3	6	10	5	1	1	·	·	·	1	2	·	2	·	3	4	3	·	65
40	*Diatoma vulgare* BORY	Alph	Ind	Epip	Ind	·	1	·	·	·	1	1	1	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	5
41	*Dimeregramma fulvum* (GREG.) RALFS				Euha	·	·	·	·	·	·	·	·	·	4	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	4
42	*Diploneis bombus* (EHR.) CLEVE				Euha	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
43	*Diploneis ovalis* (HILSE) CLEVE	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	2	·	·	·	2	·	·	6
44	*Diploneis parma* CLEVE	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
45	*Diploneis puella* (SCHUM.) CLEVE	Ind	Ind	Bent	Ind	2	3	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	5
46	*Diploneis smithii* (BRÉB.) CLEVE	Alph	Ind	Epip	Meta	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
47	*Epithemia sorex* KÜTZING	Alph	Liph	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	1
48	*Epithemia turgida* (EHR.) KÜTZING	Alph	Liph	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	1	1	·	·	·	·	·	·	·	·	2	1	1	9	6	5	26
49	*Epithemia zebra* (EHR.) KÜTZING	Alph	Ind	Epip	Ind	·	1	·	·	·	2	·	·	2	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	3	·	1	10
50	*Eunotia bigibba* KÜTZING	Acph	?	Epip	Hpho	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	2	·	·	·	·	·	·	·	·	1	4
51	*Eunotia flexuosa* KÜTZING	Acph	Ind	Epip	Hpho	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	1
52	*Eunotia lunaris* (EHR.) GRUNOW	Acph	Ind	Epip	Hpho	·	·	·	·	·	2	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	4
53	*Eunotia pectinalis* (KÜTZ.) RABENHORST	Acph	Ind	Epip	Hpho	6	6	3	3	6	11	10	5	4	·	2	·	1	1	3	1	1	1	1	3	3	3	74
54	*Eunotia pectinalis* var. *minor* (KÜTZ.) RABENHORST	Acph	Ind	Epip	Hpho	1	2	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	4
55	*Eunotia pectinalis* var. *undulata* (RALFS) RABENHORST	Acph	Ind	Epip	Hpho	·	·	·	·	1	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	1	·	·	·	4
56	*Eunotia polydentula* BRON.	Acph	Ind	Epip	Hpho	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	1
57	*Eunotia praerupta* EHRENBERG	Acph	Ind	Epip	Hpho	2	5	·	·	·	1	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	3	·	·	12
58	*Eunotia praerupta* var. *bidens* GRUNOW	Acbi	Ind	Epip	Hpho	8	3	·	2	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	14
59	*Eunotia robusta* RALFS	Acph	Ind	Epip	Hpho	·	1	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	3
60	*Fragilaria bicapitata* A.MAYER	Alph	Ind	Ind	Hpho	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
61	*Fragilaria brevistriata* GRUNOW	Alph	Ind	Epip	Hpho	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2	1	2	3	1	1	·	·	·	·	·	·	·	10
62	*Fragilaria construens* (EHR.) GRUNOW	Alph	Ind	Epip	Hpho	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
63	*Fragilaria intermedia* GRUNOW	Alph	Ind	Epip	Hpho	·	·	·	1	·	1	·	·	·	·	·	1	1	·	1	·	·	·	·	·	·	·	4
64	*Frustulia rhomboides* (EHR.) DE TONY	Acph	Liph	Epip	Hpho	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	1	·	·	·	·	1	·	4
65	*Frustulia vulgaris* (THWAITES) DE TONY	Ind	Ind	Epip	Ind	·	·	·	10	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	11
66	*Glyphodesmis* sp.				Euha	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2
67	*Gomphonema abbreviatum* (AGARDH) KÜTZING					1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
68	*Gomphonema acuminatum* var. *coronata* (EHR.) W.SMITH	Ind	Liph	Epip	Ind	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
69	*Gomphonema angustatum* (KÜTZ) RABENHORST	Alph	Ind	Epip	Ind	1	·	·	·	·	·	2	·	·	·	·	·	·	·	2	·	·	·	·	·	·	·	5
70	*Gomphonema angur* EHRENBERG	Ind	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2
71	*Gomphonema augur* var. *turris* (EHR.) LANGE-BERTALOT	Alph	Ind	Epip	Ind	1	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2
72	*Gomphonema clevei* FRICKE	Alph	Liph	Epip	Ind	5	7	4	5	3	7	10	4	2	1	1	3	·	2	·	·	·	2	3	15	9	3	86
73	*Gomphonema clevei* var. *inaequilongum* H.KOBAYASI	Alph	Ind	Epip	Ind	3	4	2	3	5	6	3	4	·	1	·	·	3	2	2	2	·	·	1	7	6	6	60
74	*Gomphonema constrictum* EHRENBERG	Alph	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	2
75	*Gomphonema gracile* EHRENBERG	Ind	Liph	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	1
76	*Gomphonema longiceps* EHRENBERG	Ind	Ind	Epip	Hpho	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	1	2	·	·	4
77	*Gomphonema olivaceum* (LYNGBYE) KÜTZING	Alph	Ind	Epip	Ind	2	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	3
78	*Gomphonema parvulum* (KÜTZ.) KÜTZING	Ind	R-ph	Epip	Ind	4	5	3	3	3	6	3	2	1	·	2	·	·	3	2	1	·	·	·	4	·	1	43
79	*Gomphonema sphaerophorum* EHRENBERG	Alph	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	1
80	*Grammatophora oceanica* (EHR.) GRUNOW				Euha	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	1

No.	Species	pH	CURR	ECOL	Cl	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	TOTAL
81	*Hantzschia amphioxys* (EHR.) GRUNOW	Alph	Ind	Bent	Ind	11	7	3	·	12	6	14	2	4	·	·	2	7	2	2	3	11	·	8	5	4	·	103
82	*Hantzschia amphioxys* var. *vivax* (HANTZ.) GRUNOW	Alph	Ind	Bent	Ind	·	·	·	1	·	2	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	4
83	*Mastogloia braunii* GRUNOW	Ind	Ind		Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
84	*Mastogloia pumila* (CLEVE & MOLLER) CLEVE	Ind	Ind		Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	4	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	4
85	*Melosira ambigua* (GRUN.) O.MÜLLER	Ind	Liph	Plan	Ind	·	·	2	·	·	2	4	·	·	1	·	2	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	11
86	*Melosira granulata* (EHR.) RALFS	Alph	Liph	Plan	Ind	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	2
87	*Melosira nummuloides* (DILLW.) C.A.AGARDH			Plan	Meha	·	·	·	·	·	·	·	·	·	30	13	92	14	·	·	·	·	·	·	·	·	·	149
88	*Meridion circulare* AGARDH	Alph	R-ph	Epip	Ind	·	·	·	·	·	1	1	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	4
89	*Navicula bacillum* EHRENBERG	Alph	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	1	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2
90	*Navicula cincta* (EHR.) RALFS	Alph	R-ph	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	4	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	5
91	*Navicula clementis* GRUNOW	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
92	*Navicula cocconeiformis* GREGORY	Acph	R-ph	Bent	Hpho	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
93	*Navicula contenta* GRUNOW	Alph	R-ph	Bent	Ind	1	·	·	·	·	1	·	2	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	4
94	*Navicula cryptocephala* KÜTZING	Alph	Ind	Bent	Ind	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·		1
95	*Navicula elginensis* (GREG.) RALFS	Alph	R-bi	Bent	Ind	8	7	·	1	·	2	8	1	1	·	·	1	·	·	·	2	·	·	·	1	·	·	32
96	*Navicula gastrum* (EHR.) KÜTZING	Ind	Ind	Bent	Ind	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·		1
97	*Navicula goeppertiana* (BLEISCH) H.L.SMITH	Ind	Ind	Bent	Ind	6	6	·	5	·	·	1	3	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	22
98	*Navicula lacustris* GREGORY	Ind	Ind	Bent	Ind	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·		1
99	*Navicula laevissima* KÜTZING	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·		2
100	*Navicula menisculus* SHÜMANN	Alph	R-ph	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·		1
101	*Navicula mutica* RALFS	Ind	Ind	Bent	Ind	9	12	3	6	1	6	2	·	10	1	·	·	2	3	2	3	5	·	2	1	1	·	69
102	*Navicula oppugnata* HÜSTEDT	Alph	Ind	Bent	Ind	·	·	·	1	1	2	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·		4
103	*Navicula placenta* EHRENBERG	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·		1
104	*Navicula pseudolanceolata* LANGE-BERTALOT	Alph	Ind	Bent	Ind	1	·	·	2	·	1	1	1	·	5	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·		11
105	*Navicula pupula* KÜTZING	Ind	Ind	Bent	Ind	·	3	2	·	·	3	1	1	1	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	12
106	*Navicula pusio* CLEVE	Acph	R-ph	Bent	Hpho	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·		1
107	*Navicula pygmaea* KÜTZING	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	4	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·		5
108	*Navicula viridula* (KÜTZ.) EHRENBERG	Alph	R-ph	Bent	Ind	·	·	1	1	·	·	2	2	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	6
109	*Neidium affine* (EHR.) CLEVE	Ind	Libi	Bent	Ind	·	4	·	1	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	7
110	*Neidium ampliatum* (EHR.) KRAMMER	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	2
111	*Neidium bisulcatum* (LAGERSTEDT) CLEVE	?	?	Bent	?	1	·	·	1	·	1	2	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	5
112	*Neidium iridis* (EHR.) CLEVE	Ind	Liph	Bent	Hpho	·	1	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2
113	*Nitzschia amphibia* GRUNOW	Albi	Ind	Bent	Ind	1	1	2	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	4
114	*Nitzschia constricta* (KÜTZ.) RALFS	Ind	Ind		Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	4	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	4
115	*Nitzschia debilis* ARNOFT					·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	2
116	*Nitzschia dissipata* (KÜTZ.) GRUNOW	Albi	R-ph	Bent	Ind	·	·	·	·	·	2	1	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	4
117	*Nitzschia fonticola* GRUNOW	Albi	R-ph	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
118	*Nitzschia frustulum* (KÜTZ.) CRUNOW	Alph	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	6	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	7
119	*Nitzschia gracilis* HANTZSCH	Ind	Libi	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
120	*Nitzschia holsatica* HÜSTEDT	?	?	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
121	*Nitzschia linearis* (AGARDH) W.SMITH	Alph	R-bi	Bent	Ind	·	·	·	·	·	3	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	4
122	*Nitzschia obtusa* W.SMITH	Alph	?	Bent	Meha	9	12	2	4	1	10	3	3	·	·	·	3	·	·	2	·	·	·	·	·	·	·	49
123	*Nitzschia palea* (KÜTZ.) W.SMITH	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	2	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2
124	*Nitzschia parvula* W.SMITH	Ind	Ind	Bent	Ind	1	1	·	1	3	4	3	·	10	1	2	2	2	1	·	·	30	·	1	1	·	1	64
125	*Nitzschia romana* GRUNOW	Alph	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	6	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	7
126	*Opephora martyi* HERIBAUD	Albi	LIPH	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2	·	2	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	5
127	*Paralia sulcata* (EHR.) CLEVE				Euha	·	·	·	·	·	·	·	·	·	3	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	4
128	*Pinnularia acrosphaeria* RABENHORST	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2
129	*Pinnularia aestuarii*? CLEVE	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	2	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2
130	*Pinnularia borealis* EHRENBERG	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	3	·	·	1	·	1	·	·	·	·	1	·	1	1	·	·	·	·	·	8
131	*Pinnularia divergens* W.SMITH	Acph	Ind	Bent	Ind	·	·	·	2	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2
132	*Pinnularia divergentissima* (GRUN) CLEVE	Acph	Ind	Bent	Ind	·	·	·	2	·	2	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	5
133	*Pinnularia gibba* EHRENBERG	Acph	Ind	Bent	Ind	4	1	1	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	7
134	*Pinnularia hemiptera* (KÜTZ.) CLEVE	Acph	Libi	Bent	Ind	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
135	*Pinnularia interrupta* W.SMITH	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
136	*Pinnularia major* (KÜTZ.) RABENHORST	Acph	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	1	1	·	·	·	·	·	1	·	·	1	·	·	·	1	·	·	·	5
137	*Pinnularia microstauron* (EHR.) CLEVE	Acph	Ind	Bent	Ind	2	7	2	·	1	·	1	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	14
138	*Pinnularia subcapitata* GREGORY	Ind	Libi	Bent	Ind	4	8	3	8	·	4	7	4	·	·	1	·	·	1	1	·	·	·	·	·	·	·	41
139	*Pinnularia viridis* (NITZ.) EHRENBERG	Ind	Ind	Bent	Ind	5	1	1	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	9
140	*Plagiogramma pulchellum* var. *pygmaea* (GREV.) PERAGARY				Euha	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
141	*Pleurosigma elongatum* W.SMITH				Euha	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
142	*Rhaphoneis surirella* (EHR.) GRUNOW				Meha	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	3	5	·	2	·	·	·	·	·	·	·	11
143	*Rhopalodia gibberula* (EHR.) O.MÜLLER	Alph	Ind	Epip	Meha	·	·	·	·	1	·	·	·	1	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	1	·	·	4
144	*Rhopalodia musculus* (KÜTZ.) O.MÜLLER	Alph	Ind	Epip	Haph	·	·	·	·	·	·	·	·	2	1	1	1	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	6
145	*Stauroneis anceps* EHRENBERG	Ind	Ind	Bent	Ind	1	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2
146	*Stauroneis lauenburgiana* HÜSTEDT	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
147	*Stauroneis phoenicenteron* (NITZ.) EHRENBERG	Ind	Ind	Bent	Ind	1	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2
148	*Stauroneis producta* GRUNOW	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
149	*Stauroneis smithii* GRUNOW	Ind	R-ph	Bent	Ind	1	3	·	1	·	2	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	8
150	*Synedra rumpens* KÜTZING	Ind	Liph	Epip	Ind	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	2
151	*Synedra ulna* EHRENBERG	Alph	Ind	Epip	Ind	13	16	8	11	16	15	18	7	2	·	·	·	1	1	2	3	·	·	6	19	8	9	155
152	*Synedra vaucheriae* KÜTZING	Alph	R-ph	Epip	Ind	1	5	2	3	3	4	5	1	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	25
153	*Tabellaria fenestrata* (LYNG.) KÜTZING	Acph	Ind	Epip	Hpho	·	·	·	1	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2
154	*Tabellaria flocculosa* (ROTH) KÜTZING	Ind	Ind	Epip	Ind	1	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	1	·	·	4
155	*Thalassionema nitzschioides* GRÜNOW				Euha	·	·	·	·	·	·	·	·	1	7	·	16	4	2	·	·	·	·	·	·	·	·	30
156	*Thalassiosira* spp.				Euha	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2
	TOTAL					200	200	73	126	89	199	208	91	60	122	47	200	79	51	37	29	63	14	39	128	65	48	2,160

生態値凡例

pH(pH spectra)
- Albi : Alkalibiontic forms (真アルカリ性種)
- Alph : Alkaliphilous forms (好アルカリ性種)
- Ind : Indifferent forms (不定性種)
- Acph : Acidophilous forms (好酸性種)
- Acbi : Acidobiontic forms (真酸性種)
- ? : Unknown (不明種)

水流性(Current spectra)
- Libi : Limnobiontic forms (真止水性種)
- Liph : Limnophilous forms (好止水性種)
- Ind : Indifferent forms (不定性種)
- Rph : Rheophilous forms (好流水性種)
- R-bi : Rheobiontic forms (真流水性種)
- ? : Unknown (不明種)

生態性(Ecology)
- Bent : Benthonic forms (底生種)
- Epip : Epiphytic forms (付着生種)
- Plan : Planktonic forms (浮遊生種)
- ? : Unknown (不明種)

塩分(Halobion spectra)
- Euha : Euhalobous forms (真塩性種)
- Meha : Mesohalobous forms (中塩性種)
- Haph : Halophilous forms (好塩性種)
- Ind : Indifferent forms (不定性種)
- Hpho : Halophobous forms (嫌塩性種)
- ? : Unknown (不明種)

図52 岡島遺跡産の珪藻遺骸分析結果(2) 岡島91A区

	Species	Ecological Value				Sample															TOTAL
		pH	CURR	ECOL	CI	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
1	*Achnanthes brevipes* var. *intermedia* (KÜTZ.) CLEVE	Alph	Ind	Epip	Meha	4	4	5	6	2	·	5	10	13	19	21	5	7	2	9	112
2	*Achnanthes clevei* GRUNOW	Alph	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	1	1	·	·	·	·	·	2
3	*Achnanthes crenulata* GRUNOW	?	?	Epip	?	·	·	·	·	·	·	·	·	1	2	8	2	4	1	4	22
4	*Achnanthes delicatula* (KÜTZ.) GRUNOW	Albi	Ind	Epip	Meha	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	1
5	*Achnanthes exigua* GRUNOW	Alph	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	1	1	1	·	4
6	*Achnanthes hungarica* GRUNOW	Alph	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	3	·	·	·	3
7	*Achnanthes inflata* (KÜTZ.) GRUNOW	Alph	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2	1	·	1	·	·	4
8	*Achnanthes kraskei* KOBAYASI & SAWATARI	Alph	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	3	·	·	1	3	·	1	8
9	*Achnanthes kryophila* PETERSEN	?	?	Epip	?	·	·	·	·	·	·	·	·	·	5	·	·	·	·	·	5
10	*Achnanthes lanceolata* (BRÉB.) GRUNOW	Alph	Ind	Epip	Ind	1	·	2	·	·	1	2	3	1	7	6	20	9	10	7	69
11	*Achnanthes lanceolata* var. *rostrata* HUSTEDT	Alph	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	2	·	1	·	·	4
12	*Achnanthes lapidosa* KRASSKE	Ind	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	4	2	8	1	1	17
13	*Achnanthes laterostrata* (BRÉB.) GRUNOW	Ind	Ind	Epip		·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	1	2
14	*Achnanthes linearis* (W.SMITH) GRUNOW	Ind	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	3	1	·	3	5	16	14	19	14	75
15	*Amphipleura lindheimeri* GRUNOW	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	1
16	*Amphora ovalis* var. *libyca* (EHR.) CLEVE	Alph	Ind	Bent	Ind	·	1	·	·	·	·	2	·	1	4	4	1	2	1	4	20
17	*Amphora ovalis* var. *pediculus* (KÜTZ.) CLEVE	Alph	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	1	·	1	·	·	3
18	*Caloneis silicula* (EHR.) CLEVE	Acph	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	1
19	*Cocconeis diminuta* PANTOCSEK	Albi	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	2	·	2	1	6
20	*Cocconeis placentula* EHRENBERG	Alph	Ind	Epip	Ind	·	1	·	2	1	1	1	1	5	3	4	5	6	4	4	38
21	*Cocconeis placentula* var. *euglypta* (EHR.) CLEVE	Alph	Ind	Epip	Ind	4	2	·	6	1	·	6	5	11	20	32	26	24	14	10	161
22	*Cocconeis scutellum* EHRENBERG				Meha	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	1
23	*Cymbella affinis* KÜTZING	Acbi	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2	·	·	·	·	·	2
24	*Cymbella aspera* (EHR.) CLEVE	Acph	Ind	Epip	Ind	·	1	·	·	·	·	1	·	·	6	4	1	2	3	3	21
25	*Cymbella cuspidata* KÜTZING	Alph	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	1
26	*Cymbella gracilis* (EHR.) KÜTZING	Ind	Liph	Epip	Ind	1	·	·	·	·	·	·	·	·	6	2	3	4	3	3	22
27	*Cymbella leptoceros* (EHR.) KÜTZING	Ind	Liph	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	1	·	3	4	6	2	2	2	20
28	*Cymbella minuta* HILSE	Ind	R-ph	Epip	Ind	1	·	·	·	·	1	4	6	2	9	8	8	13	16	8	76
29	*Cymbella naviculiformis* AUERSWALD	Ind	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	2	3
30	*Cymbella sinuata* GREGORY	Ind	Libi	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	1	1	2	5	2	6	3	1	9	30
31	*Cymbella tumida* (BRÉB.) VAN HEURCK	Acph	Ind	Epip	Ind	1	2	·	2	·	·	1	4	3	18	16	7	12	18	13	97
32	*Cymbella turgida* (GREG.) CLEVE	Albi	Libi	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	5	3	·	3	11
33	*Cymbella turgidula* GRUNOW	Ind	Ind	Epip	Ind	1	3	·	·	·	·	·	2	2	8	10	17	12	21	23	99
34	*Diatoma vulgare* BORY	Alph	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2	·	2
35	*Diploneis ovalis* (HILSE) CLEVE	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	1	·	1	·	3
36	*Diploneis parma* CLEVE	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	2	·	·	·	·	·	·	·	2
37	*Epithemia turgida* (EHR.) KÜTZING	Alph	Liph	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	1	1	8	2	·	1	1	·	14
38	*Epithemia zebra* (EHR.) KÜTZING	Alph	Ind	Epip	Ind	·	2	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2
39	*Eunotia flexuosa* KÜTZING	Acph	Ind	Epip	Hpho	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	1
40	*Eunotia pectinalis* (KÜTZ.) RABENHORST	Acph	Ind	Epip	Hpho	2	4	2	·	·	·	1	4	1	2	2	3	5	·	2	28
41	*Eunotia pectinalis* var. *undulata* (RALFS) RABENHORST	Acph	Ind	Epip	Hpho	·	·	1	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2
42	*Eunotia praerupta* EHRENBERG	Acph	Ind	Epip	Hpho	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	1
43	*Eunotia robusta* RALFS	Acph	Ind	Epip	Hpho	·	·	·	·	·	·	·	2	·	·	·	·	·	·	·	2
44	*Fragilaria brevistriata* GRUNOW	Alph	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	1
45	*Fragilaria capucina* DESMAZIERES	Alph	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	1
46	*Fragilaria intermedia* GRUNOW	Alph	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	1	1	·	2	5
47	*Fragilaria virescens* RALFS	Ind	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	1
48	*Frustulia rhomboides* (EHR.) De TONI	Acph	Liph	Epip	Hpho	·	·	·	·	·	·	·	2	·	1	1	2	·	2	2	10
49	*Gomphonema acuminatum* var. *coronata* (EHR.) W.SMITH	Ind	Liph	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	1
50	*Gomphonema angustatum* (KÜTZ.) RABENHORST	Alph	Ind	Epip	Ind	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	1	·	3
51	*Gomphonema augur* var. *turris* (EHR.) LANGE・BERTALOT	Alph	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	1
52	*Gomphonema clevei* FRICKE	Alph	Liph	Epip	Ind	3	10	1	1	·	·	4	10	6	15	16	7	10	9	8	100
53	*Gomphonema clevei* var. *inaequilongum* H.KOBAYASI	Alph	Ind	Epip	Ind	1	7	7	·	·	·	10	6	4	11	7	4	6	12	13	88
54	*Gomphonema constrictum* EHRENBERG	Alph	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	3	·	1	·	·	5
55	*Gomphonema gracile* EHRENBERG	Ind	Liph	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	1	1	1	4
56	*Gomphonema olivaceum* (LYNGBYE) KÜTZING	Alph	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	2	1	·	·	1	5
57	*Gomphonema parvulum* (KÜTZ.) KÜTZING	Ind	R-ph	Epip	Ind	·	·	·	·	1	·	2	3	·	3	1	4	3	1	4	22
58	*Gomphonema sphaerophorum* EHRENBERG	Alph	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2	·	·	·	·	2
59	*Gomphonema subtile* EHRENBERG	Ind	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	1
60	*Gyrosigma strigiris* W.SMITH	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	1
61	*Hantzschia amphioxys* (EHR.) GRUNOW	Alph	Ind	Bent	Ind	1	·	·	·	1	1	·	1	·	·	·	·	·	1	1	6
62	*Hantzschia amphioxys* var. *vivax* (HANTZ.) GRUNOW	Alph	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	1
63	*Melosira ambigua* (GRUN.) O.MÜLLER	Ind	Liph	Plan	Ind	·	1	·	·	·	·	3	3	·	4	1	2	1	7	7	29
64	*Navicula bacillum* EHRENBERG	Alph	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	1	2
65	*Navicula clementis* GRUNOW	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	2	·	·	1	1	·	1	·	5
66	*Navicula elginensis* (GREG.) RALFS	Alph	R-bi	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	2	·	·	·	·	·	1	·	3
67	*Navicula elginensis* var. *neglecta* (KRASS) PATRICK	Alph	R-bi	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	1	·	2
68	*Navicula goeppertiana* (BLEISCH) H.L.SMITH	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	1	1	·	·	3
69	*Navicula laevissima* KÜTZING	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	1
70	*Navicula mutica* KÜTZING	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	1	2
71	*Navicula pseudolanceolata* LANGE・BERTALOT	Alph	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2	1	2	·	5
72	*Navicula pupula* KÜTZING	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2	·	·	2
73	*Navicula viridula* (KÜTZ.) EHRENBERG	Alph	R-ph	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2	5	2	·	9
74	*Neidium iridis* (EHR.) CLEVE	Ind	Liph	Bent	Hpho	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	2	1	4
75	*Pinnularia acrosphaeria* RABENHORST	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	1
76	*Pinnularia borealis* EHRENBERG	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1
77	*Pinnularia divergens* W.SMITH	Acph	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	1	·	1	·	·	3
78	*Pinnularia gibba* EHRENBERG	Acph	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	1
79	*Pinnularia interrupta* W.SMITH	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	1
80	*Pinnularia legumen* EHRENBERG	Acph	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	3	·	1	1	·	5
81	*Pinnularia major* (KÜTZ.) RABENHORST	Acph	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	1	2	·	·	·	·	·	3
82	*Pinnularia microstauron* (EHR.) CLEVE	Acph	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	1
83	*Pinnularia subcapitata* GREGORY	Ind	Libi	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	1
84	*Pinnularia viridis* (NITZ.) EHRENBERG	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	1	·	1	1	·	·	·	3	·	6
85	*Rhaphoneis surirella* (EHR.) GRUNOW				Meha	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	2	·	·	3
86	*Rhopalodia musculus* (KÜTZ.) O.MÜLLER	Alph	Ind	Epip	Haph	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	1
87	*Stauroneis anceps* EHRENBERG	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	·	·	·	1
88	*Stauroneis phoenicenteron* (NITZ.) EHRENBERG	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	2	·	·	·	2
89	*Stauroneis producta* GRUNOW	Ind	Ind	Bent	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	1
90	*Synedra rumpens* KÜTZING	Ind	Liph	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	·	·	1
91	*Synedra ulna* EHRENBERG	Alph	Ind	Epip	Ind	2	17	5	3	2	4	8	12	11	20	19	18	20	21	24	186
92	*Synedra vaucheriae* KÜTZING	Alph	R-ph	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	1	·	3	2	·	4	2	6	8	26
93	*Tabellaria flocculosa* (ROTH) KÜTZING	Ind	Ind	Epip	Ind	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	·	1	·	·	·	1
	TOTAL					22	56	23	22	8	8	63	91	75	200	200	200	200	200	200	1,568

図53　岡島遺跡産の昆虫化石リスト

生態	食性	和名	学名	縄文時代晩期				縄文晩期	弥生中期	弥生中期～	弥生後期	古墳前期	中世		合計
				[illegible]	[illegible]	泥炭下層	泥炭上層	トレンチ泥炭	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
水生	食肉性	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE			W7 P1 T1 A1					T1	W1 A1	W1 A2 T1	A1 T1	23
		ゲンゴロウ	*Cybister japonicus* SHARP						W1 A1				W1	W1	4
		コガタノゲンゴロウ	*Cybister tripunctatus orientalis* GSCHWENDTNER										W1		1
		オオイチモンジシマゲンゴロウ	*Hydaticus pacificus* AUBE							W1					1
		コシマゲンゴロウ	*Hydaticus grammicus* (GERMAR)					W1					W1	W1	3
		マルガタゲンゴロウ	*Graphoderus adamsii* (CLARK)					F1							1
		ヒメゲンゴロウ亜科	COLYMBETINAE			W2 T1 A1		1			A1		T1		7
		ヒメゲンゴロウ	*Rhantus pulverosus* (STEPHENS)							W1				T1	2
		キベリクロヒメゲンゴロウ	*Ilybius apicalis* SHARP									W1 T1 A1			3
		マメゲンゴロウ属	*Hyphydrus* sp.			T2 A1	P1								4
		モンキマメゲンゴロウ	*Platambus pictipennis* (SHARP)							W1					1
		クロズマメゲンゴロウ	*Agabus conspicuus* AHARP									W2			2
		クロマメゲンゴロウ	*Agabus optatus* SHARP			W1									1
		ケシゲンゴロウ族	HYPHYDYINI			W1	P1								2
		ミズスマシ科	GYRINIDAE			A1									1
		ミズスマシ	*Gyrinus japonicus* SHARP					W2							2
		コミズスマシ	*Gyrinus curtus* MOTSCHULSKY					W1		W1					2
		ヒメミズスマシ	*Gyrinus gestroi* REGIMBART			W1									1
		オオミズスマシ	*Dineutus orientalis* MODEER			P1		W1					W1 P1		4
	食植性	ガムシ科	HYDROPHILIDAE			W3 L3		4				W1		W1 L3	15
		ガムシ	*Hydrophilus acuminatus* MOTSCHULSKY			W1					P1	W1 A3	L1	W1 H1	9
		コガムシ	*Hydrochara affinis* (SHARP)			W1		W4 T2					W1	W1	9
		ヒメガムシ	*Sternolophus rufipes* (FABRICIS)			P1		W1						W3	5
		セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	W1	W2	W[illegible] P1 L1		W2[illegible] P1 H[illegible]		W2			W1	W1 P2	55
		ヒメセマルガムシ	*Coelostoma orbiculare* (FABRICIUS)			W5							W1		6
		ケシガムシ族	CERCYONINI	P1		W1									2
		ケシガムシ属	*Cercyon* sp.			P1									1
		ヒラタガムシ属	*Helochares* sp.										W1		1
		ウスグロヒラタガムシ	*Enochrus uniformis* (SHARP)			W2									2
		キイロヒラタガムシ	*Enochrus simulans* (SHARP)			W1									1
		ヒメコガシラミズムシ属	*Haliplus* sp.					3							3
		コガシラミズムシ	*Peltodytes intermedius* (SHARP)			W1								W2	3
湿地性	食植性	ネクイハムシ亜科	DONACIINAE				W1								1
		イネネクイハムシ	*Donacia provosti* FAIRMAIRE					W2					W1	W2	5
		ミズクサハムシ属	*Plateumaris* sp.					5							5
		キヌツヤミズクサハムシ	*Plateumaris sericea* LINNE			W1		W6 T1 L1 H1							10
地表性	食糞・食屍性	センチコガネ	*Geotrupes laevistriatus* MOTSCHULSKY							W2 F1					3
		エンマコガネ属	*Onthophagus* sp.							1			P1 L1	W2	5
		マルエンマコガネ	*Onthophagus viduus* HAROLD										H1		1
		エンマムシ科	HISTERIDAE										A1		1
		シデムシ科	SILPHIDAE								P1				1
	食肉・雑食性	ゴミムシ科	HARPALIDAE	W8 P1 L1 T2 A1 1	W3 P1 T1	W6 P1 H5 L1 T8 A8 2	W1 P1 T1 H1 A8	54	P1 H1	14	P1 T4 A4 L1		W2 A3 T2 P1	W2 H3 A5	185
		ヒョウタンゴミムシ属	*Scarites* sp.										W1		1
		ナガヒョウタンゴミムシ	*Scarites terricola pacificus* BATES											P1	1
		ナガゴミムシ族	PTEROSTICHINI						W1						1
		ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.								W1				1
		オオナガゴミムシ	*Pterostichus fortis* MORAWITZ											W1	1
		ヒラタゴミムシ族	PLATYNINI			P5 W1							W1	W1	6
		ヒラタゴミムシ亜族	PLATYNINA			W6	W1 P1								8
		ヒラタゴミムシ属	*Platynus* sp.			W1									1
		モリヒラタゴミムシ属	*Colpodes* sp.			W1	P1						W1		3
		セアカヒラタゴミムシ	*Dolichus halensis* (SCHALLER)						W1						1
		ツヤヒラタゴミムシ属	*Synuchus* sp.			W2						W1	W4 P1 A1	W2	11
		モンコミズギワゴミムシ属	*Tachyura* sp.			W2							W1		3
		ヒラタコミズギワゴミムシ	*Tachyura exarata* (BATES)			W1									1
		キボシクロコミズギワゴミムシ	*Tachys gradatus* BATES			W1									1
		トックリゴミムシ族	OODINI				A1	4							5
		トックリゴミムシ属	*Lachnocrepis* sp.	P1	P2										3
		トックリゴミムシ	*Lachnocrepis prolixa* (BATES)		P1	W1									2
		ヤマトトックリゴミムシ	*Lachnocrepis japonica* BATES	P1		W6									7
		アオヘリアオゴミムシ	*Chlaenius praefectus* BATES			W2									2
		ゴモクムシ属	*Harpalus* sp.										W1		1
		ヨツボシゴミムシ	*Panagaeus japonicus* CHAUDOIR				P1								1
		オサムシ科	CARABIDAE							1					1
		ハネカクシ科	STAPHYLINIDAE	P1	W1	W5 P6 H1 A1	W1				H1	P1	A2 P1 H2	W1	24
		ハンミョウ	*Cicindela chinensis japonica* THUNBERG								W1 A2				3
		ゴミムシダマシ科	TENEBRIONIDAE							2			P1		3
		クロホソゴミムシダマシ	*Hypophloeus colydioides* (LEWIS)				W1								1
		キマワリ	*Plesiophthalmus nigrocyaneus* MOTSCHULSKY								W1				1
		ヒメナガキマワリ	*Strongylium impigrum* LEWIS								W1				1

		和名	学名	縄文時代晩期				縄文晩期	弥生中期	弥生中期～	弥生後期	弥生後期[illegible]	中世		合計
				[illegible]	[illegible]	[illegible]	泥炭上層	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
		コガネムシ科	SCARABAEIDAE			S1		26		27	W1	W1		W1 H1	58
		スジコガネ亜科	RUTELINAE		W1	P1	L1	48		24	L2		A1		78
		サクラコガネ属	*Anomala* sp.	W3 L1	W2 L1	W1 T1 L3	L1	7	L1	30	W2 A1 L2	W1	W1 L6 T1	W5 P3 A2 L5	86
		サクラコガネ	*Anomala daimiana* HAROLD						P1		W11		P1	W3 P1	17
		ドウガネブイブイ	*Anomala cuprea* HOPE	W1					W1	A1	A3 L2		A1 W2	W1 A1 L1	14
		アオドウガネ	*Anomala albopilosa* HOPE			P1			P3		P3 H1				8
		ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	W1 P2 L1			T1 A1			W2	P2	W1 P1	W1 A1 P1	W6 P5 L1	29
		コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	W2	P1	W3 S1	W3 P1	W27 P4		W1	W11 P1 S2 L1				58
		マメコガネ	*Popillia japonica* NEWMANN	P3			L1	W1						A1	6
		スジコガネ	*Mimela testaceipes* MOTSCHULSKY									H1	H1		2
		オオスジコガネ	*Mimela costata* HOPE											H1	1
		ハナムグリ亜科	CETONIINAE									H1	P1		2
		アオハナムグリ	*Eucetonia roelofsi* (HAROLD)							W1 S1					2
		コアオハナムグリ	*Oxycetonia jucunda* (FALDERMANN)	W1		P1				W1	W1				4
陸		ヒメカンショコガネ	*Apogonia amida* LEWIS											W1	1
	食	クロコガネ	*Holotrichia kiotoensis* BRENSKE								A1		L1	L1	3
		アオカナブン	*Rhomborrhina unicolor* MOTSCHULSKY							W1 A1					2
		コカブトムシ	*Eophileurus chinensis* (FALDERMANN)							L1					1
		コクワガタ	*Macrodorcus rectus* (MOTSCHULSKY)						P1	W1					2
	植	アカアシクワガタ	*Nipponodorcus rubrofemoratus* (SNELLEN VAN VOLLENHOVEN)						P1						1
		カミキリムシ科	CERAMBYCIDAE		L3										3
		タマムシ	*Chrysochroa fulgidissima* (SCHONHERR)							W2 L2 F6					10
		コメツキムシ科	ELATERIDAE				W1	1		3		P1		W1	7
	性	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE		W1	W5	W2	4		7			W2	W1 T1	23
生		クビボソハムシ属	*Lema* sp.					1							1
		セアカクビボソハムシ	*Lema scutellaris* (KRAATZ)											W1	1
		ルリハムシ	*Linaeidea aenea* (LINNE)							W6 P1		W1	W1		9
		クワハムシ	*Fleutiauxia armata* (BALY)								W1				1
		ドウガネサルハムシ	*Scelodonta lewisii* BALY											W2	2
		キムネアオハムシ	*Cneorane elegans* BALY								W1				1
		アオバネサルハムシ	*Basilepta fulvipes* (MOTSCHULSKY)										W2		2
		ヨモギハムシ	*Chrysolina aurichalcea* (MANNERHEIM)					P1 H1							2
		ゾウムシ科	CURCULIONIDAE		W1	W6 T1	T1				W2			W2	13
		カツオゾウムシ	*Lixus impressiventris* ROELOFS				W1								1
		オナガカツオゾウムシ	*Lixus moiwanus* KONO			W1 M1									2
		ハダカヒゲボソゾウムシ	*Phyllobius japonicus* FAUST	W1											1
		カメムシ科	PENTATOMIDAE							1					1
		カメムシ目	HEMIPTERA				T1								1
		イネノクロカメムシ	*Scotinophara lurida* BURMEISTER	S1		P1 S3 A4	A2	W2 P3 S11 T1 A9	S1						42
		ツノアオカメムシ	*Pentatoma japonica* DISTANT							W2					2
		アリ科	FORMICIDAE	T1		T1							H2		4
		水生甲虫	Aquatic beetle			W1									1
		不明甲虫	COLEOPTERA	A1 L1 F11	W1 A1	W1 P1 L5 6	L1 3	37	L1	15	P1 2	P1	W1 P14	5	91
		総計		49	25	210	43	304	16	164	75	23	81	95	1085

検出部位凡例

W：鞘翅（Wings）
P：前胸背板（Pronotum）
H：頭部（Head）
L：脚節（Legs）
M：大顎（Mandible）

T：胸部（Thorax）
A：腹部（Abdomen）
S：小楯板（Scutellum）
F：破片（Fragment）
B：ほぼ一体分

一部の試料では、科・属レベルまでのものについては検出部位を表現しなかった。

図 54　岡島遺跡産昆虫化石の分析結果　1（90 B_2泥炭最々下層）

No.	和　名	学　名	部 位 名	備考	生息地	食性
1	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸腹板		地表性	雑食性
2	マメコガネ	*Popillia japonica* NEWMANN	前胸背板		好植性	食植性
3	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	鞘翅片		好植性	食植性
4	ドウガネブイブイ	*Anomala cuprea* HOPE	鞘翅片		好植性	食植性
5	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板片		地表性	雑食性
6	マメコガネ	*Popillia japonica* NEWMANN	前胸背板片		好植性	食植性
7	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	脛節片		好植性	食植性
8	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	鞘翅片		好植性	食植性
9	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	脛節片		好植性	食植性
10	マメコガネ	*Popillia japonica* NEWMANN	前胸背板		好植性	食植性
11	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左鞘翅		地表性	雑食性
12	ゴミムシ科	HARPALIDAE	右鞘翅		地表性	雑食性
13	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	鞘翅片		好植性	食植性
14	コアオハナムグリ	*Oxycetonia jucunda* (FALDERMANN)	鞘翅片		好植性	食植性
15	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	鞘翅片		好植性	食植性
16	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	鞘翅片		好植性	食植性
17	ハダカヒゲボソゾウムシ	*Phyllobius japonicus* FAUST	左鞘翅		好植性	食植性
18	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	鞘翅片		好植性	食植性
19	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	前胸背板		好植性	食植性
20	アリ科	FORMICIDAE	胸部		好植性	雑食性
21	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	前胸背板		好植性	食植性
22	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左鞘翅上半部		地表性	雑食性
23	トックリゴミムシ属	*Lachnocrepis* sp.	前胸背板片		地表性	雑食性
24	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板片		地表性	雑食性
25	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左鞘翅上半部		地表性	雑食性
26	ゴミムシ科	HARPALIDAE	脛節		地表性	雑食性
27	ゴミムシ科	HARPALIDAE	部位不明		地表性	雑食性
28	不明甲虫	COLEOPTERA	腹部腹板			
29	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板		地表性	雑食性
30	ハネカクシ科	STAPHYLINIDAE	前胸背板		地表性	雑食性
31	ゴミムシ科	HARPALIDAE	後胸側板		地表性	雑食性
32	ケシガムシ族	CERCYONINI	前胸背板		水生	食植性
33	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
34	ゴミムシ科	HARPALIDAE	脛節		地表性	雑食性
35	ゴミムシ科	HARPALIDAE	鞘翅片		地表性	雑食性
36	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左鞘翅		地表性	雑食性
37	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	右鞘翅		水生	食植性
38	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左鞘翅上半部		地表性	雑食性
39	ゴミムシ科	HARPALIDAE	脛節		地表性	雑食性
40	不明甲虫	COLEOPTERA	脛節			
41	ゴミムシ科	HARPALIDAE	右鞘翅		地表性	雑食性
42	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左鞘翅		地表性	雑食性
43	ヤマトトックリゴミムシ	*Lachnocrepis japonica* BATES	前胸背板	図 66-7	地表性	雑食性
44	ゴミムシ科	HARPALIDAE	右鞘翅		地表性	雑食性
45	イネノクロカメムシ	*Scotinophara lurida* BURMEISTER	小楯板片		好植性	食植性
46	不明甲虫	COLEOPTERA	前胸背板			
47	ゴミムシ科	HARPALIDAE	中脚節		地表性	雑食性
48	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
49	ゴミムシ科	HARPALIDAE	中胸腹板		地表性	雑食性

図 55　岡島遺跡産昆虫化石の分析結果 2 (90 B_2泥炭最下層)

No	和　名	学　名	部 位 名	備考	生息地	食性
1	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左鞘翅片		地表性	雑食性
2	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	右鞘翅		水生	食植性
3	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	左鞘翅片		水生	食植性
4	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	鞘翅片		好植性	食植性
5	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左鞘翅上半部		地表性	雑食性
6	カミキリムシ科	CERAMBYCIDAE	脚腿節		好植性	食植性
7	ハネカクシ科	STAPHYLINIDAE	鞘翅片		地表性	雑食性
8	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板		地表性	雑食性
9	スジコガネ亜科	RUTELINAE	鞘翅片		好植性	食植性
10	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	左鞘翅		好植性	食植性
11	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	鞘翅片		好植性	食植性
12	不明甲虫	COLEOPTERA	腹部腹板			
13	ゴミムシ科	HARPALIDAE	中胸側板		地表性	雑食性
14	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	鞘翅片		好植性	食植性
15	不明甲虫	COLEOPTERA	鞘翅片			
16	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	前胸背板片		好植性	食植性
17	トックリゴミムシ	*Lachnocrepis prolixa* (BATES)	前胸背板		地表性	雑食性
18	カミキリムシ科	CERAMBYCIDAE	脚腿節		好植性	食植性
19	トックリゴミムシ属	*Lachnocrepis* sp.	前胸背板片		地表性	雑食性
20	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	脚節		好植性	食植性
21	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板片		地表性	雑食性
22	カミキリムシ科	CERAMBYCIDAE	前脚腿節		好植性	食植性
23	トックリゴミムシ属	*Lachnocrepis* sp.	前胸背板片		地表性	雑食性
24	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板		地表性	雑食性
25	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左鞘翅		地表性	雑食性

図 56　岡島遺跡産昆虫化石の分析結果　3（90 B_2泥炭下層）

No.	和　名	学　名	部位名	備考	生息地	食性
1	ゴミムシ科	HARPALIDAE	右鞘翅下半部		地表性	雑食性
2	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	腿節節		好植性	食植性
3	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	左鞘翅		水生	食植性
4	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
5	ゴミムシ科	HARPALIDAE	頭部		地表性	雑食性
6	ゴミムシ科	HARPALIDAE	鞘翅片		地表性	雑食性
7	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
8	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	鞘翅片		地表性	雑食性
9	ゴミムシ科	HARPALIDAE	鞘翅片		地表性	雑食性
10	不明甲虫	COLEOPTERA	腿節			
11	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
12	ヒラタゴミムシ亜族	PLATYNINA	鞘翅片		地表性	雑食性
13	ゴミムシ科	HARPALIDAE	中胸腹板		地表性	雑食性
14	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
15	イネノクロカメムシ	*Scotinophara lurida* BURMEISTER	小楯板片		好植性	食植性
16	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板片		地表性	雑食性
17	ヒラタゴミムシ亜族	PLATYNINA	左鞘翅		地表性	雑食性
18	イネノクロカメムシ	*Scotinophara lurida* BURMEISTER	小楯板片		好植性	食植性
19	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	頭部		地表性	雑食性
20	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左鞘翅片		地表性	雑食性
21	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板片		地表性	雑食性
22	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板片		地表性	雑食性
23	イネノクロカメムシ	*Scotinophara lurida* BURMEISTER	腹部腹板	図 70-2	好植性	食植性
24	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
25	オナガカツオゾウムシ	*Lixus molvanus* KONO	口吻	図 67-8	好植性	食植性
26	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	鞘翅片		好植性	食植性
27	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
28	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
29	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
30	ゴミムシ科	HARPALIDAE	後胸腹板		地表性	雑食性
31	ガムシ	*Hydrophilus acuminatus* MOTSCHULSKY	鞘翅片		水生	食植性
32	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	鞘翅片		好植性	食植性
33	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	胸部		好植性	食植性
34	ゴミムシ科	HARPALIDAE	第三腹板		地表性	雑食性
35	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腿節		地表性	雑食性
36	ゴミムシ科	HARPALIDAE	部位不明		地表性	雑食性
37	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	腹部背板		地表性	雑食性
38	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
39	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	鞘翅片		好植性	食植性
40	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
41	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
42	ヒラタコミズギワゴミムシ	*Tachyura exarata* (BATES)	右鞘翅	図 65-7	地表性	雑食性
43	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	左右鞘翅		好植性	食植性
44	ヒラタゴミムシ亜族	PLATYNINA	左右鞘翅		地表性	雑食性
45	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
46	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	前胸背板		地表性	雑食性
47	イネノクロカメムシ	*Scotinophara lurida* BURMEISTER	腹部腹板		好植性	食植性
48	オナガカツオゾウムシ	*Lixus molvanus* KONO	左右鞘翅基部		好植性	食植性
49	イネノクロカメムシ	*Scotinophara lurida* BURMEISTER	前胸背板片		好植性	食植性
50	ゴミムシ科	HARPALIDAE	頭部		地表性	雑食性
51	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹板片		地表性	雑食性
52	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
53	イネノクロカメムシ	*Scotinophara lurida* BURMEISTER	腹部腹板		好植性	食植性
54	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	腹部背板		地表性	雑食性
55	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	左右鞘翅		地表性	雑食性
56	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
57	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	右鞘翅		水生	食植性
58	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	左右鞘翅		地表性	雑食性
59	ヒメガムシ	*Hydrophilus acuminatus* MOTSCHULSKY	前胸背板片		水生	食植性

No.	和　名	学　名	部　位　名	備考	生息地	食性
60	キヌツヤミズクサハムシ	*Phlaeomaris sericea* LINNE	左鞘翅	図 65-4	湿地性	食植性
61	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
62	アオヘリアオゴミムシ	*Chlaenius praefectus* BATES	右鞘翅片		地表性	食肉性
63	ゴミムシ科	HARPALIDAE	中胸腹板	図 65-9	地表性	雑食性
64	ゴミムシ科	HARPALIDAE	頭部片		地表性	雑食性
65	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	小楯板		好植性	食植性
66	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
67	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	左鞘翅		水生	食植性
68	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	前胸背板片		水生	食植性
69	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	鞘翅片		水生	食肉性
70	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
71	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸腹板片		地表性	雑食性
72	ゴミムシ科	HARPALIDAE	後胸腹板		地表性	雑食性
73	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	左鞘翅		水生	食植性
74	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	鞘翅片		好植性	食植性
75	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	左右鞘翅		好植性	食植性
76	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
77	イキノクロカメムシ	*Scotinophara lurida* BURMEISTER	腹部腹板		好植性	食植性
78	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	鞘翅片		水生	食植性
79	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
80	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	鞘翅片		水生	食肉性
81	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
82	コガシラミズムシ	*Peltodytes intermedius* (SHARP)	鞘翅片		水生	食肉性
83	コアオハナムグリ	*Oxycetonia jucunda* (FALDERMANN)	前胸背板	図 68-3	好植性	食植性
84	ヤマトトックリゴミムシ	*Lachnocrepis japonica* BATES	右鞘翅	図 66-2	地表性	雑食性
85	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前脚節		地表性	雑食性
86	ヒメセマルガムシ	*Coelostoma orbiculare* (FABRICIUS)	左鞘翅		水生	食植性
87	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	右鞘翅		地表性	雑食性
88	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	鞘翅片		水生	食植性
89	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	左鞘翅		水生	食植性
90	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	前胸背板		水生	食植性
91	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
92	ゴミムシ科	HARPALIDAE	胸部		地表性	雑食性
93	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
94	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	鞘翅片		水生	食植性
95	ヤマトトックリゴミムシ	*Lachnocrepis japonica* BATES	右鞘翅		地表性	雑食性
96	不明甲虫	COLEOPTERA	前胸背板			
97	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	脚脛節		水生	食植性
98	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	左鞘翅		水生	食植性
99	ゴミムシ科	HARPALIDAE	部位不明		地表性	雑食性
100	ゴミムシ科	HARPALIDAE	脛節		地表性	雑食性
101	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
102	モリヒラタゴミムシ属	*Colpodes* sp.	右鞘翅片		地表性	雑食性
103	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
104	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	鞘翅片		水生	食植性
105	イキノクロカメムシ	*Scotinophara lurida* BURMEISTER	腹板片		好植性	食植性
106	イキノクロカメムシ	*Scotinophara lurida* BURMEISTER	小楯板片		好植性	食植性
107	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	前胸背板片		地表性	雑食性
108	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
109	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
110	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
111	アリ科	FORMICIDAE	胸部		好植性	雑食性
112	ケシゲムシ族	CERCYONINI	鞘翅片		水生	食植性
113	ヒラタゴミムシ亜族	PLATYNINA	左右鞘翅	図 66-1	地表性	雑食性
114	オオミズスマシ	*Dineutes orientalis* MODEER	前胸背板		水生	食肉性
115	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸腹板		地表性	雑食性
116	ケシゲンゴロウ族	HYPHYDRINI	鞘翅片		水生	食肉性
117	マメゲンゴロウ属	*Hyphydrus* sp.	中胸腹板		水生	食肉性
118	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	鞘翅片		好植性	食植性

No	和　名	学　名	部位名	備考	生息地	食性
119	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	左鞘翅片		好植性	食植性
120	ヒラタゴミムシ亜族	PLATYNINA	右鞘翅	図69-2	地表性	雑食性
121	ヒメセマルガムシ	*Coelostoma orbiculare* (FABRICIUS)	左鞘翅		水生	食植性
122	水生甲虫	Aquatic beetle	鞘翅片		水生	
123	マメゲンゴロウ属	*Hyphydrus* sp.	腹部腹板		水生	食肉性
124	不明甲虫	COLEOPTERA	脚節			
125	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
126	ヒラタゴミムシ亜族	PLATYNINA	鞘翅片		地表性	雑食性
127	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	鞘翅片		好植性	食植性
128	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸腹板		地表性	雑食性
129	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	脛節		好植性	食植性
130	スジコガネ亜科	RUTELINAE	前胸背板片		好植性	食植性
131	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
132	サクラコガネ属	Anomala sp.	鞘翅片		好植性	食植性
133	不明甲虫	COLEOPTERA	脚節			
134	ミズスマシ科	GYRINIDAE	腹部腹板		水生	食肉性
135	コガネムシ科	SCARABAEIDAE	小楯板		好植性	食植性
136	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	鞘翅片		水生	食肉性
137	ヒメセマルガムシ	*Coelostoma orbiculare* (FABRICIUS)	左右鞘翅		水生	食植性
138	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	腹部腹板		水生	食肉性
139	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	鞘翅片		水生	食植性
140	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	前胸背板片		水生	食植性
141	ケシガムシ属	Cercyon sp.	前胸背板		水生	食植性
142	アオヘリアオゴミムシ	*Chlaenius praefectus* BATES	左鞘翅		地表性	食肉性
143	ヤマトトックリゴミムシ	*Lachmocrepis japonica* BATES	左右鞘翅		地表性	雑食性
144	ヤマトトックリゴミムシ	*Lachmocrepis japonica* BATES	左右鞘翅		地表性	雑食性
145	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	前胸背板片		水生	食肉性
146	不明甲虫	COLEOPTERA	脚節			
147	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	腹部腹板		水生	食肉性
148	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	脚節		水生	食植性
149	キイロヒラタガムシ	*Enochrus simulans* (SHARP)	鞘翅片		水生	食植性
150	ゴミムシ科	HARPALIDAE	鞘翅片		地表性	雑食性
151	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	鞘翅片		水生	食肉性
152	ヒラタゴミムシ族	PLATYNINI	前胸背板		地表性	雑食性
153	ヤマトトックリゴミムシ	*Lachmocrepis japonica* BATES	右鞘翅	図66-5	地表性	雑食性
154	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	脛節		水生	食植性
155	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	前胸背板片		水生	食肉性
156	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
157	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	前胸背板		地表性	雑食性
158	ツヤヒラタゴミムシ属	*Synuchus* sp.	左鞘翅	図65-8	地表性	雑食性
159	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
160	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	前胸背板		地表性	雑食性
161	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板		地表性	雑食性
162	ツヤヒラタゴミムシ属	*Synuchus* sp.	右鞘翅上半部		地表性	雑食性
163	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	左鞘翅		水生	食植性
164	マメゲンゴロウ属	*Hyphydrus* sp.	中胸腹板		水生	食肉性
165	ヒメセマルガムシ	*Coelostoma orbiculare* (FABRICIUS)	左右鞘翅		水生	食植性
166	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	前胸背板片		水生	食肉性
167	ヒメゲンゴロウ亜科	COLYMBETINAE	鞘翅片		水生	食肉性
168	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
169	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	鞘翅片		水生	食植性
170	ゴミムシ科	HARPALIDAE	頭部		地表性	雑食性
171	ゴミムシ科	HARPALIDAE	後胸腹板		地表性	雑食性
172	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
173	コガムシ	*Hydrophilus acuminatus* MOTSCHULSKY	右鞘翅		水生	食植性
174	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	胸部		好植性	食植性
175	モンコミズギワゴミムシ属	*Tachyura* sp.	左鞘翅片		地表性	雑食性
176	ヒラタゴミムシ族	PLATYNINI	左鞘翅		地表性	雑食性
177	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	鞘翅片		水生	食肉性

No.	和　名	学　名	部　位　名	備考	生息地	食性
178	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	左鞘翅		水生	食植性
179	ヒラタゴミムシ属	*Platynus* sp.	左鞘翅片		地表性	雑食性
180	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
181	モンコミズギワゴミムシ属	*Tachyura* sp.	左鞘翅		地表性	雑食性
182	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	鞘翅片		水生	食肉性
183	ゴミムシ科	HARPALIDAE	頭部		地表性	雑食性
184	ゴミムシ科	HARPALIDAE	中胸側板		地表性	雑食性
185	ヒメセマルガムシ	*Coelostoma orbiculare* (FABRICIUS)	左鞘翅		水生	食植性
186	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	左右鞘翅		好植性	食植性
187	不明甲虫	COLEOPTERA	脚節			
188	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	鞘翅片		水生	食植性
189	ヒラタゴミムシ族	PLATYNINI	前胸背板		地表性	雑食性
190	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	右鞘翅		好植性	食植性
191	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	鞘翅片		水生	食肉性
192	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
193	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
194	イネノクロカメムシ	*Scotinophara lurida* BURMEISTER	腹部腹板	図 67-3	好植性	食植性
195	ゴミムシ科	HARPALIDAE	右鞘翅		地表性	雑食性
196	サクラコガネ属	Anomala sp.	腿節		好植性	食植性
197	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
198	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	脚節		水生	食植性
199	ゴミムシ科	HARPALIDAE	脚腿節		地表性	雑食性
200	アオドウガネ	*Anomala albopilosa* HOPE	前胸背板片	図 68-5	好植性	食植性
201	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
202	ウスグロヒラタガムシ	*Enochrus uniformis* (SHARP)	左鞘翅		水生	食植性
203	ヒメゲンゴロウ亜科	COLYMBETINAE	中胸側板		水生	食肉性
204	ゴミムシ科	HARPALIDAE	後胸腹板		地表性	雑食性
205	不明甲虫	COLEOPTERA	鞘翅片			
206	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸腹板		地表性	雑食性
207	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	鞘翅片		水生	食植性
208	ヒメミズスマシ	*Gyrinus japonicus* SHARP	左鞘翅	図 65-3	水生	食肉性
209	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	鞘翅片		水生	食植性
210	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	鞘翅片		地表性	雑食性
211	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸腹板		地表性	雑食性
212	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	右鞘翅		好植性	食植性
213	キボシクロコミズギワゴミムシ	*Tachys gradatus* BATES	左鞘翅		地表性	雑食性
214	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸腹板		地表性	雑食性
215	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	鞘翅片		好植性	食植性
216	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	左右鞘翅		好植性	食植性
217	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	左鞘翅		水生	食植性
218	トックリゴミムシ	*Lachnocrepis prolixa* (BATES)	右鞘翅		地表性	雑食性
219	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	鞘翅片		好植性	食植性
220	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	前胸背板		水生	食植性
221	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	鞘翅片		水生	食植性
222	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	左右鞘翅		好植性	食植性
223	ヒメゲンゴロウ亜科	COLYMBETINAE	腹部腹板		水生	食肉性
224	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	胸部		水生	食肉性
225	クロマメゲンゴロウ	*Agabus aptatus* SHARP	右鞘翅上半部		水生	食肉性
226	ヒラタゴミムシ族	PLATYNINI	前胸背板		地表性	雑食性
227	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	左右鞘翅	図 67-7	好植性	食植性
228	ヒメゲンゴロウ亜科	COLYMBETINAE	鞘翅片		水生	食肉性
229	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	右鞘翅		水生	食植性
230	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板片		地表性	雑食性
231	ウスグロヒラタガムシ	*Enochrus uniformis* (SHARP)	鞘翅片		水生	食植性
232	ヤマトトックリゴミムシ	*Lachnocrepis japonica* BATES	左右鞘翅		地表性	雑食性
233	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	鞘翅片		水生	食植性
234	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	鞘翅片		好植性	食植性
235	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸側板		地表性	雑食性

図 57　岡島遺跡産昆虫化石の分析結果 4（90 B_2 泥炭上層）

No.	和　　名	学　　名	部　位　名	備考	生息地	食性
1	ヨツボシゴミムシ	*Panagaeus japonicus* CHAUDOIR	前胸背板	図 66-8	地表性	雑食性
2	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	前胸背板		好植性	食植性
3	カメムシ目	HEMIPTERA	胸部		好植性	食植性
4	モリヒラタゴミムシ属	*Colpodes* sp.	前胸背板		地表性	雑食性
5	ケシゲンゴロウ族	HYPHYDRINI	前胸背板片		水生	食肉性
6	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板		地表性	雑食性
7	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	右鞘翅	図 66-9	地表性	雑食性
8	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	右鞘翅下半部	図 68-7	好植性	食植性
9	ゴミムシ科	HARPALIDAE	頭部		地表性	雑食性
10	イネノクロカメムシ	*Scotinophara lurida* BURMEISTER	腹部腹板		好植性	食植性
11	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	左鞘翅		好植性	食植性
12	カツオゾウムシ	*Lixus impressiventris* ROELOFS	左鞘翅	図 67-9	好植性	食植性
13	イネノクロカメムシ	*Scotinophara lurida* BURMEISTER	腹部腹板片		好植性	食植性
14	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	後胸腹板		好植性	食植性
15	クロホソゴミムシダマシ？	*Hypophloeus colydioides* (LEWIS)	右鞘翅	図 67-4	地表性	雑食性
16	マメコガネ	*Popillia japonica* NEWMANN	左後腿脛節		好植性	食植性
17	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹板片		地表性	雑食性
18	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
19	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	中胸腹板		好植性	食植性
20	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	腹部腹板		好植性	食植性
21	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹板片		地表性	雑食性
22	ゴミムシ科	HARPALIDAE	右鞘翅		地表性	雑食性
23	スジコガネ亜科	RUTELINAE	脛節		好植性	食植性
24	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
25	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	脛節		好植性	食植性
26	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	鞘翅片		好植性	食植性
27	ヒラタゴミムシ亜族	PLATYNINA	右鞘翅		地表性	雑食性
28	トックリゴミムシ族	CODINI	腹部腹板		地表性	雑食性
29	不明甲虫	COLEOPTERA	節			
30	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹板片		地表性	雑食性
31	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
32	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
33	ヒラタゴミムシ亜族	PLATYNINA	前胸背板		地表性	雑食性
34	ネクイハムシ亜科	DONACIINAE	鞘翅片		水生	食植性
35	マメゲンゴロウ属	*Hyphydrus* sp.	前胸背板		水生	食肉性
36	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
37	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	左右鞘翅上半部		好植性	食植性
38	コメツキムシ科	ELATERIDAE	左鞘翅下半部		好植性	食植性
39	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸腹板		地表性	雑食性
40	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
41	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
42	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	左鞘翅下半部		好植性	食植性
43	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性

図 58　岡島遺跡産昆虫化石の分析結果 5　（90 B_2）

No.	和　　名	学　　名	部　位　名	備考	生息地	食性
1	イネノクロカメムシ	*Scotinophara lurida* BURMEISTER	小楯板他		好植性	食植性
2	アオドウガネ	*Anomala albopilosa* HOPE	前胸背板		好植性	食植性
3	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板		地表性	雑食性
4	ゴミムシ科	HARPALIDAE	頭部		地表性	雑食性
5	アオドウガネ	*Anomala albopilosa* HOPE	前胸背板		好植性	食植性
6	サクラコガネ	*Anomala daimiana* HAROLD	前胸背板		好植性	食植性
7	ナガゴミムシ族	PTEROSTICHINI	右鞘翅		地表性	食肉性
8	アオドウガネ	*Anomala albopilosa* HOPE	前胸背板		好植性	食植性
9	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	腿脛節		好植性	食植性
10	ゲンゴロウ	*Cybister japonicus* SHARP	右鞘翅上半部		水生	食肉性
11	ゲンゴロウ	*Cybister japonicus* SHARP	右鞘翅上半部		水生	食肉性
12	ドウガネブイブイ	*Anomala cuprea* HOPE	左鞘翅	図 68-8	好植性	食植性
13	不明甲虫	COLEOPTERA	腿節			
14	コクワガタ	*Macrodorcas rectus* (MOTSCHULSKY)	前胸背板	図 68-1	好植性	食植性
15	アカアシクワガタ	*Nipponodorcus rubrofemoratus* (SNELLEN VAN VOLLENHOVEN)	前胸背板	図 68-2	好植性	食植性
16	セアカヒラタゴミムシ	*Dolichus halensis* (SCHALLER)	左鞘翅下半部	図 67-1	地表性	雑食性

図 59　岡島遺跡産昆虫化石の分析結果　6（91 A 上層泥炭）

No.	和　名	学　名	部　位　名	備考	生息地	食性
1	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	胸部		水生	食肉性
2	ヒメゲンゴロウ亜科	COLYMBETINAE	腹部腹板		水生	食肉性
3	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
4	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	前胸背板		好植性	食植性
5	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	脚節		好植性	食植性
6	ハンミョウ	*Cicindela chinensis japonica* THUNBERG	腹部腹板	図 67-2	地表性	食肉性
7	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	右鞘翅上半部		好植性	食植性
8	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	鞘翅片		好植性	食植性
9	ガムシ	*Hydrophilus acuminatus* MOTSCHULSKY	前胸背板片		水生	食植性
10	アオドウガネ	*Anomala albopilosa* HOPE	頭楯		好植性	食植性
11	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	右後脚腿節		好植性	食植性
12	ドウガネブイブイ	*Anomala cuprea* HOPE	腹部腹板		好植性	食植性
13	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	小楯板		好植性	食植性
14	ハンミョウ	*Cicindela chinensis japonica* THUNBERG	腹部腹板		地表性	食肉性
15	アオドウガネ	*Anomala albopilosa* HOPE	前胸背板	図 68-4	好植性	食植性
16	サクラコガネ	*Anomala daimiana* HAROLD	左鞘翅片		好植性	食植性
17	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	前胸背板		好植性	食植性
18	サクラコガネ	*Anomala daimiana* HAROLD	左鞘翅		好植性	食植性
19	サクラコガネ	*Anomala daimiana* HAROLD	鞘翅片		好植性	食植性
20	ゴミムシ科	HARPALIDAE	脚節		地表性	雑食性
21	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	頭部		地表性	雑食性
22	サクラコガネ	*Anomala daimiana* HAROLD	鞘翅片		好植性	食植性
23	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	腹部腹板		好植性	食植性
24	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	鞘翅片		好植性	食植性
25	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸側板		地表性	雑食性
26	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	前胸背板		好植性	食植性
27	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸側板		地表性	雑食性
28	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
29	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	小楯板	図 68-6	好植性	食植性
30	キムネアオハムシ	*Creoxane elegans* BALY	左鞘翅	図 68-11	好植性	食植性
31	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
32	サクラコガネ	*Anomala daimiana* HAROLD	右鞘翅		好植性	食植性
33	ヒメナガキマワリ	*Styongylium impigrum* LEWIS	右鞘翅	図 67-6	地表性	雑食性
34	アオドウガネ	*Anomala albopilosa* HOPE	前胸背板		好植性	食植性
35	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	鞘翅片		好植性	食植性
36	アオドウガネ	*Anomala albopilosa* HOPE	前胸背板片		好植性	食植性
37	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	左鞘翅上半部		好植性	食植性
38	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板片		地表性	雑食性
39	サクラコガネ	*Anomala daimiana* HAROLD	左鞘翅		好植性	食植性
40	サクラコガネ	*Anomala daimiana* HAROLD	左鞘翅		好植性	食植性
41	シデムシ科	SILPHIDAE	前胸背板片		地表性	食腐性
42	ドウガネブイブイ	*Anomala cuprea* HOPE	腹部腹板		好植性	食植性
43	スジコガネ亜科	RUTELINAE	腿節		好植性	食植性
44	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	鞘翅片		好植性	食植性
45	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
46	不明甲虫	COLEOPTERA	前胸背板			
47	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	鞘翅片		好植性	食植性
48	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	鞘翅片		好植性	食植性
49	サクラコガネ	*Anomala daimiana* HAROLD	鞘翅片		好植性	食植性
50	ドウガネブイブイ	*Anomala cuprea* HOPE	腹部腹板		好植性	食植性
51	ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.	左鞘翅		地表性	食肉性
52	ゴミムシ科	HARPALIDAE	胸部		地表性	雑食性
53	クワハムシ	*Fleutiauxia armata* (BALY)	左鞘翅片	図 68-10	好植性	食植性
54	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	左鞘翅上半部		好植性	食植性
55	コアオハナムグリ	*Oxycetonia jucunda* (FALDERMANN)	鞘翅片		好植性	食植性

No.	和　名	学　名	部 位 名	備考	生息地	食性
56	ゴミムシ科	HARPALIDAE	胸部		地表性	雑食性
57	サクラコガネ	*Anomala daimiana* HAROLD	鞘翅片		好植性	食植性
58	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	左鞘翅		好植性	食植性
59	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	腹部節		好植性	食植性
60	クロコガネ	*Holotrichia Kiotoensis* BRENSKE	腹部腹板		好植性	食植性
61	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	鞘翅片		好植性	食植性
62	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部		地表性	雑食性
63	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	右鞘翅		好植性	食植性
64	サクラコガネ	*Anomala daimiana* HAROLD	鞘翅片		好植性	食植性
65	スジコガネ亜科	RUTELINAE	腹腹節		好植性	食植性
66	コガネムシ科	SCARABAEIDAE	左右鞘翅		好植性	食植性
67	キマワリ	*Pleiophthalmus nigricyaneus* MOTSCHULSKY	左鞘翅上半部	図 67-5	地表性	雑食性
68	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	鞘翅片		好植性	食植性
69	ドウガネブイブイ	*Anomala cuprea* HOPE	腹節		好植性	食植性
70	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	鞘翅片		好植性	食植性
71	ハンミョウ	*Cicindela chinensis japonica* THUNBERG	鞘翅片		地表性	食肉性
72	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
73	ドウガネブイブイ	*Anomala cuprea* HOPE	腹節		好植性	食植性
74	コガネムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	鞘翅片		好植性	食植性
75	サクラコガネ	*Anomala daimiana* HAROLD	鞘翅片		好植性	食植性

図 60　岡島遺跡産昆虫化石の分析結果　7（90 B₂II F 17 b シルト）

No.	和　名	学　名	部 位 名	備考	生息地	食性
1	ルリハムシ	*Linaeidae aenea* (LINNE)	左鞘翅片		好植性	食植性
2	コメツキムシ科	ELATERIDAE	前胸背板		食植性	食植性
3	コガネムシ科	SCARABAEIDAE	鞘翅片		食植性	食植性
4	クロズマメゲンゴロウ	*Agabus conspicuus* AHARP	左鞘翅		水生	食肉性
5	クロズマメゲンゴロウ	*Agabus conspicuus* AHARP	右鞘翅		水生	食肉性
6	スジコガネ	*Mimela testaceipes* MOTSCHULSKY	頭部		食植性	食植性
7	ヒメコガネ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	鞘翅片		好植性	食植性
8	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	鞘翅片		食植性	食植性
9	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	左鞘翅		水生	食植性
10	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	前胸背板片		地表性	雑食性
11	ヒメコガネ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	前胸背板		好植性	食植性
12	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	腹部腹板		水生	食肉性
13	ガムシ	*Hydrophilus acuminatus* MOTSCHULSKY	左鞘翅上半部		水生	食植性
14	ツヤヒラタゴミムシ属	*Synuchus* sp.	右鞘翅上半部		地表性	雑食性
15	ガムシ	*Hydrophilus acuminatus* MOTSCHULSKY	腹部腹板		水生	食植性
16	ガムシ	*Hydrophilus acuminatus* MOTSCHULSKY	腹部腹板		水生	食植性
17	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	鞘翅片		水生	食肉性
18	キベリクロヒメゲンゴロウ	*Ilybius apicalis* SHARP	後胸腹板	図 65-2	水生	食肉性
19	キベリクロヒメゲンゴロウ	*Ilybius apicalis* SHARP	腹部腹板		水生	食肉性
20	ハナムグリ亜科	CETONIINAE	頭部		好植性	食植性
21	ガムシ	*Hydrophilus acuminatus* MOTSCHULSKY	腹部腹板		水生	食植性
22	キベリクロヒメゲンゴロウ	*Ilybius apicalis* SHARP	右鞘翅		水生	食肉性
23	不明甲虫	COLEOPTERA	前胸背板			

図61　岡島遺跡産の昆虫化石の分析結果　8（90 B_7大型土坑下部）

No	和　名	学　名	部　位　名	備考	生息地	食性
1	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
2	エンマコガネ属	*Onthophagus* sp.	前胸背板		地表性	食糞性
3	ツヤヒラタゴミムシ属	*Synuchus* sp.	右鞘翅上半部		地表性	雑食性
4	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
5	スジコガネ	*Mimela testaceipes* MOTSCHULSKY	頭部		好植性	食植性
6	ドウガネブイブイ	*Anomala cuprea* HOPE	腹部腹板		好植性	食植性
7	ツヤヒラタゴミムシ属	*Synuchus* sp.	右鞘翅		地表性	雑食性
8	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	脚節		好植性	食植性
9	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	鞘翅片		好植性	食植性
10	モンコミズギワゴミムシ属	*Tachyura* sp.	左鞘翅		地表性	雑食性
11	スジコガネ亜科	RUTELINAE	腹板片		好植性	食植性
12	ゴミムシ科	HARPALIDAE	右鞘翅上半部		地表性	雑食性
13	アオバネサルハムシ	*Basilepta fulvipes* (MOTSCHULSKY)	左鞘翅		好植性	食植性
14	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	脚節		好植性	食植性
15	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	左鞘翅		水生	食植性
16	コガタノゲンゴロウ	*Cybister tripunctatus orientalis* GSCHWENDTNER	右鞘翅片		水生	食植性
17	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	鞘翅片		好植性	食植性
18	モリヒラタゴミムシ属	*Colpodes* sp.	右鞘翅		地表性	雑食性
19	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
20	コガムシ	*Hydrochara affinis* (SHARP)	左鞘翅		水生	食植性
21	ゴモクムシ属	*Harpalus* sp.	右鞘翅		地表性	雑食性
22	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	腹部腹板		好植性	食植性
23	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹板片		地表性	雑食性
24	ハネカクシ科	STAPHYLINIDAE	腹部背板片		地表性	雑食性
25	ヒョウタンゴミムシ属	*Scarites* sp.	左鞘翅上半部		地表性	食肉性
26	アオバネサルハムシ	*Basilepta fulvipes* (MOTSCHULSKY)	左右鞘翅	図68-12	好植性	食植性
27	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	鞘翅片		水生	食肉性
28	ルリハムシ	*Linaeidae aenea* (LINNE)	右鞘翅		好植性	食植性
29	ゴミムシ科	HARPALIDAE	鞘翅片		地表性	雑食性
30	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	左鞘翅片		好植性	食植性
31	ガムシ	*Hydrophilus acuminatus* MOTSCHULSKY	脚節		水生	食植性
32	ゴミムシダマシ科	TENEBRIONIDAE	前胸背板		地表性	雑食性
33	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸腹板		地表性	雑食性
34	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板		地表性	雑食性
35	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸腹板		地表性	雑食性
36	サクラコガネ	*Anomala daimiana* HAROLD	前胸背板		好植性	食植性
37	ヒメセマルガムシ	*Coelostoma orbiculare* (FABRICIUS)	左鞘翅		水生	食植性
38	ゲンゴロウ	*Cybister japonicus* SHARP	鞘翅片		水生	食肉性
39	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	脛節		好植性	食植性
40	コシマゲンゴロウ	*Hydaticus grammicus* (GERMAR)	鞘翅片		水生	食肉性
41	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	鞘翅片		好植性	食植性
42	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	腹部腹板		水生	食肉性
43	オオミズスマシ	*Dineutus orientalis* MODEER	左鞘翅		水生	食肉性
44	不明甲虫	COLEOPTERA	鞘翅片			
45	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	脚節		好植性	食植性
46	エンマムシ科	HISTERIDAE	腹部腹板		地表性	食純性
47	ツヤヒラタゴミムシ属	*Synuchus* sp.	前胸背板		地表性	雑食性
48	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
49	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	前胸背板		地表性	雑食性
50	ヒラタゴミムシ族	PLATYNINI	左鞘翅		地表性	雑食性
51	アリ科	FORMICIDAE	頭部		好植性	食植性
52	オオミズスマシ	*Dineutus orientalis* MODEER	前胸背板		水生	食肉性
53	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	頭部		地表性	雑食性
54	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	腹部腹板		水生	食肉性
55	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	中胸腹板		水生	食肉性
56	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	腹部腹板		水生	食肉性
57	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	前胸背板		好植性	食植性
58	ツヤヒラタゴミムシ属	*Synuchus* sp.	腹部腹板		地表性	雑食性
59	ヒラタガムシ属	*Helochares* sp.	左鞘翅		水生	食植性
60	クロコガネ	*Holotrichia biotoensis* BRENSKE	脛脈節		好植性	食植性
61	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	腹部背板		地表性	雑食性
62	ツヤヒラタゴミムシ属	*Synuchus* sp.	左鞘翅		地表性	雑食性
63	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	鞘翅片		好植性	食植性

No	和名	学名	部位名	備考	生息地	食性
64	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	前胸背板		地表性	雑食性
65	不明甲虫	COLEOPTERA	前胸背板片			
66	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
67	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	腿節		好植性	食植性
68	マルエンマコガネ	*Onthophagus vidnus* HAROLD	頭部		地表性	食糞性
69	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	左前脚腿節		好植性	食植性
70	ツヤヒラタゴミムシ属	*Synuchus* sp.	左鞘翅		地表性	雑食性
71	イネネクイハムシ	*Donacia provosti* FAIRMAIRE	左鞘翅	図 65-5	水生	食植性
72	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	鞘翅片板		好植性	食植性
73	ドウガネブイブイ	*Anomala cuprea* HOPE	鞘翅片		好植性	食植性
74	ハナムグリ亜科	CETONIINAE	前胸背板片		好植性	食植性
75	エンマコガネ属	*Onthophagus* sp.	腿節節		地表性	食糞性
76	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
77	ドウガネブイブイ	*Anomala cuprea* HOPE	鞘翅片		好植性	食植性
78	ヒメダンゴロウ亜科	COLYMBETINAE	後胸腹板		水生	食肉性
79	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	頭部		地表性	雑食性
80	アリ科	FORMICIDAE	頭部		好植性	雑食性
81	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	中胸側板		好植性	食植性

図 62　岡島遺跡産昆虫化石の分析結果　9（90 B_2 大型土坑上部）

No.	和　名	学　名	部位名	備考	生息地	食性
1	マメコガネ	*Popillia japonica* NEWMANN	腹部腹板		好植性	食植性
2	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
3	サクラコガネ	*Anomala daimiana* HAROLD	鞘翅片		好植性	食植性
4	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	鞘翅片		好植性	食植性
5	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	鞘翅片		好植性	食植性
6	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	後脚節	図 68-9	好植性	食植性
7	ゲンゴロウ	*Cybister japonicus* SHARP	右鞘翅	図 65-1	水生	食肉性
8	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	左鞘翅		好植性	食植性
9	オオナガゴミムシ	*Pterostichus fortis* MORAWITZ	右鞘翅上半部	図 66-4	地表性	食肉性
10	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
11	イネネクイハムシ	*Donacia provosti* FAIRMAIRE	右鞘翅	図 65-6	水生	食植性
12	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	腹部腹板		好植性	食植性
13	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	鞘翅片		好植性	食植性
14	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	脚節		好植性	食植性
15	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	前胸背板片		好植性	食植性
16	ドウガネブイブイ	*Anomala cuprea* HOPE	鞘翅片		好植性	食植性
17	ゴミムシ科	HARPALIDAE	頭部		地表性	雑食性
18	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	前胸背板片		好植性	食植性
19	コガネムシ科	SCARABAEIDAE	頭部		好植性	食植性
20	コガムシ	*Mimela splendens* GYLLENHAL	左鞘翅下半部		水生	食植性
21	オオスジコガネ	*Mimela costata* HOPE	頭部		好植性	食植性
22	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	前胸背板片		好植性	食植性
23	ヒメゲンゴロウ	*Rhantus pulverosus* (STEPHENS)	後胸腹板		水生	食肉性
24	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	脚節		水生	食植性
25	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	脚節		好植性	食植性
26	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	前胸背板		好植性	食植性
27	コメツキムシ科	ELATERIDAE	右鞘翅		好植性	食植性
28	サクラコガネ	*Anomala daimiana* HAROLD	前胸背板		好植性	食植性
29	コガシラミズムシ	*Peltodytes intermedius* (SHARP)	右鞘翅		水生	食植性
30	ヒメガムシ	*Hydrophilus acuminatus* MOTSCHULSKY	左鞘翅		水生	食植性
31	ゴミムシ科	HARPALIDAE	頭部		地表性	雑食性
32	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左鞘翅		地表性	雑食性
33	イネネクイハムシ	*Donacia provosti* FAIRMAIRE	左鞘翅		水生	食植性
34	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左鞘翅片		地表性	雑食性
35	ガムシ	*Hydrophilus acuminatus* MOTSCHULSKY	鞘翅片		水生	食植性
36	ヒメガムシ	*Hydrophilus acuminatus* MOTSCHULSKY	鞘翅片上半部		水生	食植性
37	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	鞘翅片		好植性	食植性
38	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	腿節		好植性	食植性
39	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	前胸背板		好植性	食植性
40	ヒメガムシ	*Hydrophilus acuminatus* MOTSCHULSKY	左鞘翅		水生	食植性
41	ナガヒョウタンゴミムシ	*Scarites terricola pacificus* BATES	前胸背板		地表性	食肉性
42	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	鞘翅片		好植性	食植性
43	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	前胸背板		好植性	食植性
44	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部		地表性	雑食性
45	エンマコガネ属	*Mimela splendens* GYLLENHAL	左鞘翅		地表性	食糞性
46	サクラコガネ	*Anomala daimiana* HAROLD	鞘翅片		好植性	食植性
47	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	右鞘翅		地表性	雑食性
48	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	鞘翅片		好植性	食植性
49	ゴミムシ科	HARPALIDAE	頭部		地表性	雑食性
50	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
51	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	腹部腹板		好植性	食植性
52	ガムシ	*Hydrophilus acuminatus* MOTSCHULSKY	頭部		水生	食植性
53	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	前胸背板片		好植性	食植性
54	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	鞘翅片		好植性	食植性
55	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	腹部腹板		水生	食肉性
56	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
57	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	鞘翅片		水生	食植性
58	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
59	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	脚節		水生	食植性
60	サクラコガネ	*Anomala diimiana* HAROLD	左鞘翅		好植性	食植性
61	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	鞘翅片		水生	食植性
62	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹板片		地表性	雑食性
63	ヒラタゴミムシ族	PLATYNINI	鞘翅片		地表性	雑食性

No	和　名	学　名	部位名	備考	生息地	食性
64	ヒメカンショウコガネ	*Apogonia amida* LEWIS	鞘翅片		好植性	食植性
65	ツヤヒラタゴミムシ属	*Synuchus* sp.	左鞘翅		地表性	雑食性
66	ツヤヒラタゴミムシ属	*Synuchus* sp.	右鞘翅		地表性	雑食性
67	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	前胸背板		水生	食植性
68	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	腿節		水生	食植性
69	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (WALKER)	前胸背板		水生	食植性
70	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	胸部		水生	食肉性
71	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	腿節		好植性	食植性
72	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	腿節		好植性	食植性
73	コシマゲンゴロウ	*Hydaticus grammicus* (GERMAR)	左鞘翅片		水生	食肉性
74	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	左鞘翅片		好植性	食植性
75	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
76	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	左鞘翅片		好植性	食植性
77	ドウガネブイブイ	*Anomala cuprea* HOPE	腹部腹板		好植性	食植性
78	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	鞘翅片		好植性	食植性
79	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	腿節		好植性	食植性
80	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
81	ドウガネサルハムシ	*Scelodonta lewisii* BALY	右鞘翅		好植性	食植性
82	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	左鞘翅		好植性	食植性
83	エンマコガネ属	*Mimela splendens* GYLLENHAL	左鞘翅片		地表性	食糞性
84	ドウガネブイブイ	*Anomala cuprea* HOPE	腿節		好植性	食植性
85	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
86	コガシラミズムシ	*Peltodytes intermedius* (SHARP)	左鞘翅		水生	食植性
87	サクラコガネ属	*Anomala* sp.	鞘翅片		好植性	食植性
88	セアカクビボソハムシ	*Lema scutessaris* (KRAATZ)	左鞘翅		好植性	食植性
89	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	腿節		好植性	食植性
90	クロコガネ	*Holotrichia kiatoensis* BRENSKE	脛節		好植性	食植性
91	コガネムシ科	SCARABAEIDAE	鞘翅片		好植性	食植性
92	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	鞘翅片		好植性	食植性
93	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY	前胸背板		好植性	食植性
94	ドウガネサルハムシ	*Scelodonta lewisii* BALY	左鞘翅		好植性	食植性
95	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	中胸腹板		好植性	食植性

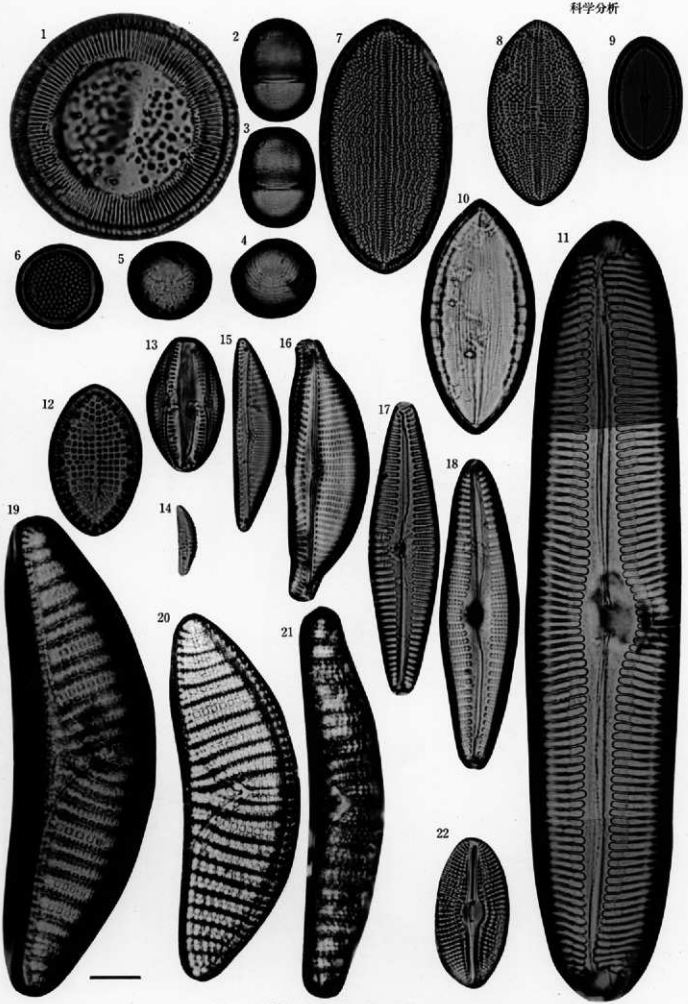


図 63　岡島遺跡産の珪藻遺骸の顕微鏡写真　1

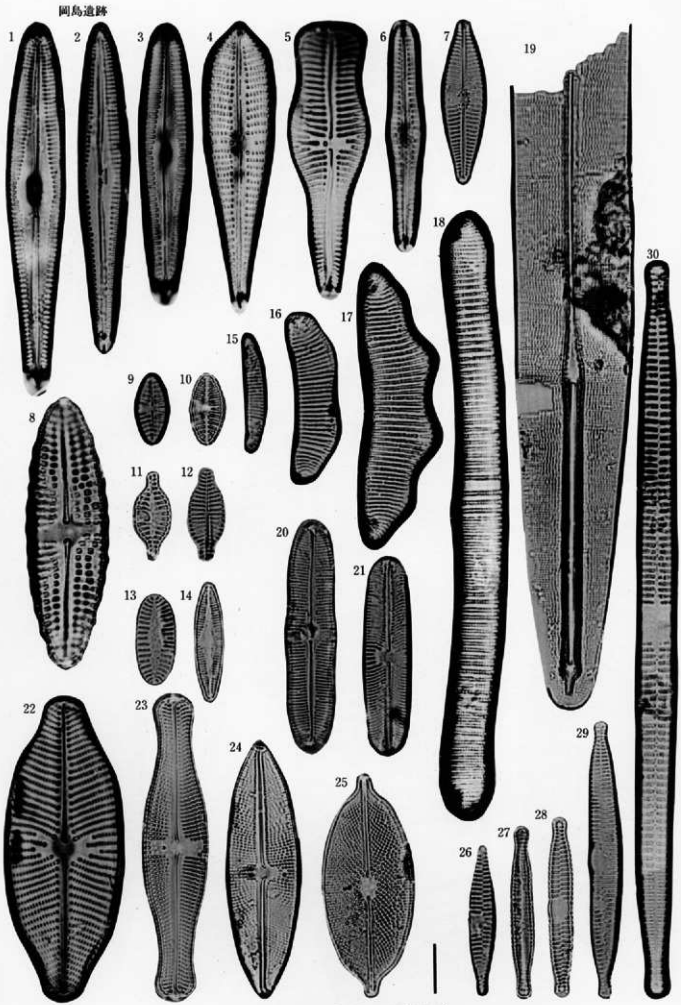


図 64 岡島遺跡産の珪藻遺骸の顕顕微鏡写真 2

図 63　岡島遺跡産珪藻遺骸の顕微鏡写真　1

1. *Cyclotella stylorum* BRIGHTWELL
2. *Melosira nummuloides* (DILLW.) C. A. AGARDH
3. *Melosira nummuloides* (DILLW.) C. A. AGARDH
4. *Melosira nummuloides* (DILLW.) C. A. AGARDH
5. *Melosira nummuloides* (DILLW.) C. A. AGARDH
6. *Thalassiosira* sp.
7. *Cocconeis placentula* var. *euglypta* (EHR.) CLEVE
8. *Cocconeis placentula* var. *euglypta* (EHR.) CLEVE
9. *Cocconeis placentula* EHRENBERG
10. *Cocconeis pseudomarginata* GREGORY
11. *Pinnularia macilenta* EHRENBERG
12. *Cocconeis scutellum* EHRENBERG
13. *Amphora ovalis* var. *libyca* (EHR.) CLEVE
14. *Cymbella sinuata* GREGORY
15. *Cymbella minuta* HILSE
16. *Cymbella turgidula* GRUNOW
17. *Cymbella leptoceros* (EHR.) GRUNOW
18. *Cymbella leptoceros* (EHR.) GRUNOW
19. *Epithemia zebra* (EHR.) KÜTZING
20. *Epithemia zebra* (EHR.) KÜTZING
21. *Epithemia turgida* (EHR.) KÜTZING
22. *Diploneis parma* CLEVE

（スケールは 10 μm）

図 64　岡島遺跡産珪藻遺骸の顕微鏡写真　2

1. *Gomphonema clevei* var. *inaequilongum* H. KOBAYASI
2. *Gomphonema clevei* var. *inaequilongum* H. KOBAYASI
3. *Gomphonema clevei* var. *inaequilongum* H. KOBAYASI
4. *Gomphonema augur* var. *turris* (EHR.) LANGE-BERTALOT
5. *Gomphonema constrictum* EHRENBERG
6. *Gomphonema longiceps* EHRENBERG
7. *Gomphonema parvulum* KÜTZING
8. *Achnanthes brevipes* var. *intermedia* (KÜTZ.) CLEVE
9. *Achnanthes lanceolata* BRÉBISSON
10. *Achnanthes lanceolata* BRÉBISSON
11. *Achnanthes lanceolata* var. *rostrata* HUSTEDT
12. *Achnanthes lanceolata* var. *rostrata* HUSTEDT
13. *Achnanthes conspicua* A. MAYER
14. *Achnanthes lapidosa* HUSTEDT
15. *Eunotia pectinalis* var. *minor* (KÜTZ.) RABENHORST
16. *Eunotia praerupta* var. *bidens* GRUNOW
17. *Eunotia robusta* RALFS
18. *Eunotia pectinalis* var. *undulata* (RALFS) RABENHORST
19. *Amphipleura lendheimeri* GRUNOW
20. *Caloneis silicula* (EHR.) CLEVE
21. *Navicula laevissima* KÜTZING
22. *Navicula gastrum* (EHR.) KÜTZING
23. *Navicula* sp.
24. *Navicula goeppertiana* (BLEISCH) SMITH
25. *Navicula placenta* EHRENBERG
26. *Synedra vaucheriae* KÜTZING
27. *Fragilaria bicapitata* A. MAYER
28. *Caratoneis arcus* KÜTZING
29. *Caratoneis arcus* KÜTZING
30. *Synedra ulna* EHRENBERG

（スケールは 10 μm）

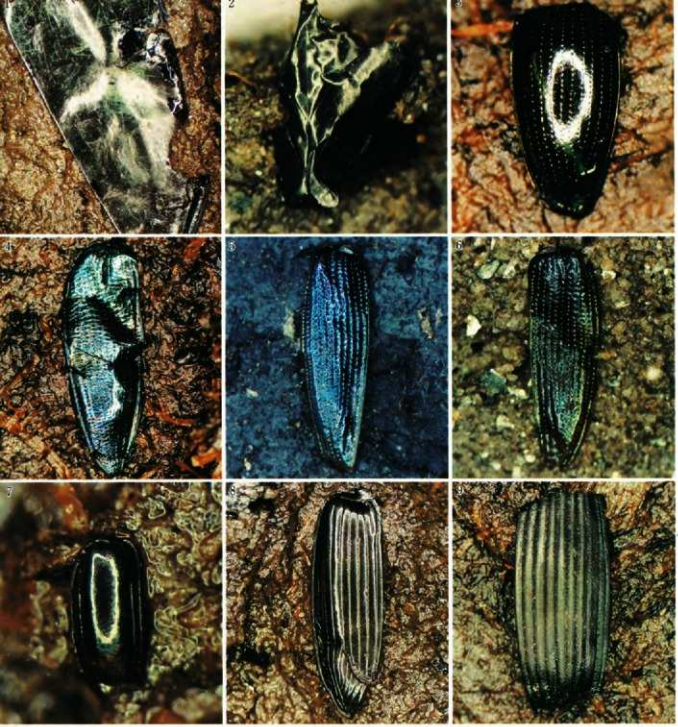


図 65　岡島遺跡産の昆虫化石の顕微鏡写真　1

1．ゲンゴロウ *Cybister japonicus* SHARP
　右鞘翅下半部　長さ 18.2 mm(中世 2，大型土坑，標本 7)

2．キベリクロヒメゲンゴロウ *Ilybius apicalis* SHARP
　後胸腹板　長さ 4.6 mm(発生後期後半，IIF 17hシルト，標本 18)

3．ヒメミズスマシ *Gyrinus gestroi* REGIMBART
　左鞘翅　長さ 3.3 mm(縄文晩期，泥炭下層，標本 208)

4．キヌツヤミズクサハムシ *Plateumaris sericea* LINNE
　左鞘翅　長さ 5.2 mm(縄文晩期，泥炭下層，標本 60)

5．イネネクイハムシ *Donacia provosti* FAIRMAIRE
　左鞘翅　長さ 4.7 mm(中世 1，大型土坑，標本 71)

6．イネネクイハムシ *Donacia provosti* FAIRMAIRE
　右鞘翅　長さ 4.8 mm(中世 2，大型土坑，標本 11)

7．ヒラタコミズギワゴミムシ *Tachyura exarata* (BATES)
　右鞘翅　長さ 1.4 mm(縄文晩期，泥炭下層，標本 42)

8．ツヤヒラタゴミムシ属 *Synuchus* sp.
　左鞘翅片　長さ 7.1 mm(縄文晩期，泥炭下層，標本 158)

9．アオヘリアオゴミムシ *Chlaenius praefectus* BATES
　右鞘翅片　長さ 9.8 mm(縄文晩期，泥炭下層，標本 62)

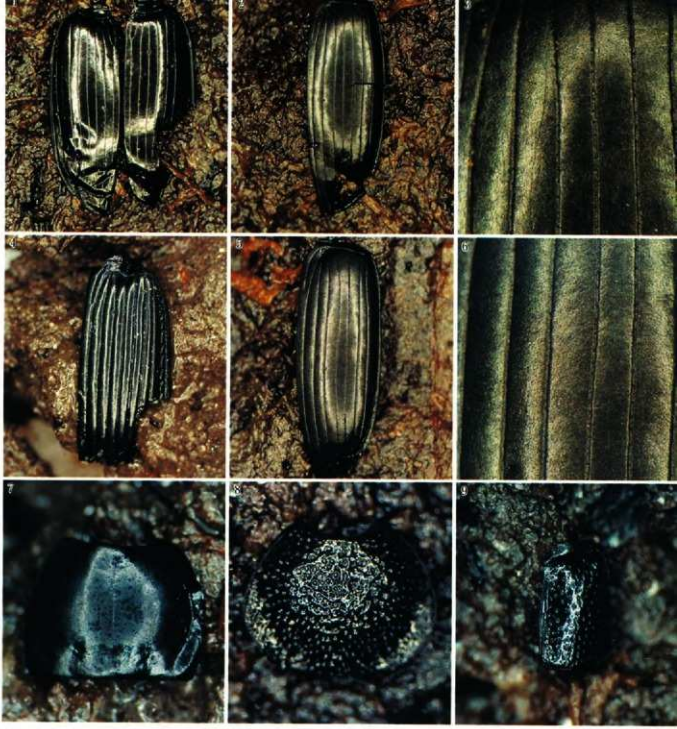


図 66　岡島遺跡産の昆虫化石の顕微鏡写真　2

1．ヒラタゴミムシ亜族 PLATYNINA
　左右鞘翅 長さ 8.4 mm(縄文晩期，泥炭下層，標本 113)
2．ヤマトトックリゴミムシ *Lachnocrepis japonica* BATES
　右鞘翅 長さ 6.8 mm(縄文晩期，泥炭下層，標本 84)
3．ヤマトトックリゴミムシ *Lachnocrepis japonica* BATES
　右鞘翅 拡大(標本 84)
4．オオナガゴミムシ *Pterostichus fortis* MORAWITZ
　右鞘翅上半部 長さ 9.6 mm(中世 2，大型土坑，標本 9)
5．ヤマトトックリゴミムシ *Lachnocrepis japonica* BATES
　右鞘翅 長さ 7.2 mm(縄文晩期，泥炭下層，標本 153)
6．ヤマトトックリゴミムシ *Lachnocrepis japonica* BATES
　右鞘翅拡大（標本 153)
7．ヤマトトックリゴミムシ *Lachnocrepis japonica* BATES
　前胸背板 幅 3.4 mm(縄文晩期，泥炭最々下層，標本 43)
8．ヨツボシゴミムシ *Panagaeus japonicus* CHAUDOIR
　前胸背板 幅 3.4 mm(縄文晩期，泥炭上層，標本 1)
9．ハネカクシ科 STAPHYLININAE
　右鞘翅 長さ 1.2 mm(縄文晩期，泥炭上層，標本 7)

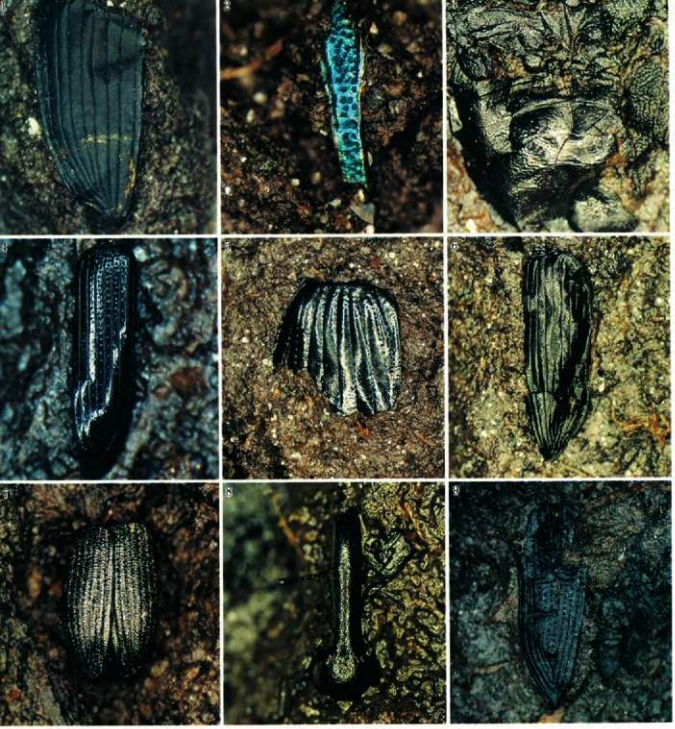


図 67　岡島遺跡産の昆虫化石の顕微鏡写真　3

1．セアカヒラタゴミムシ *Dolichus halensis* (SCHALLER)
左鞘翅下半部　長さ 6.8 mm（弥生中期，IIE 5 f，標本 16）

2．ハンミョウ *Cicindela chinensis japonica* THUNBERG
腹部腹板　長さ 2.6 mm（弥生後期，上層泥炭，標本 6）

3．イネノクロカメムシ *Scotinophara lurida* BURMEISER
腹部腹板　幅 7.2 mm（縄文晩期，泥炭下層，標本 194）

4．クロホソゴミムシダマシ？ *Hypophloeus cobaloides* (LEWIS)
右鞘翅　長さ 3.0 mm（縄文晩期，泥炭上層，標本 15）

5．キマワリ *Plesiophthalmus nigrocyaneus* MOTSCHULSKY
左鞘翅上半部　長さ 5.6 mm（弥生後期，上層泥炭，標本 67）

6．ヒメナガキマワリ *Strongylium impigrum* LEWIS
右鞘翅　長さ 8.2 mm（弥生後期，上層泥炭，標本 33）

7．ゾウムシ科 CURCLIONIDAE
左右鞘翅　長さ 3.2 mm（縄文晩期，泥炭下層，標本 227）

8．オナガカツオゾウムシ *Lixus moiwanus* KONO
口吻および触角　長さ 4.8 mm（縄文晩期，泥炭下層，標本 25）

9．カツオゾウムシ *Lixus impressiventris* ROELOFS
左鞘翅　長さ 5.8 mm（縄文晩期，泥炭上層，標本 12）

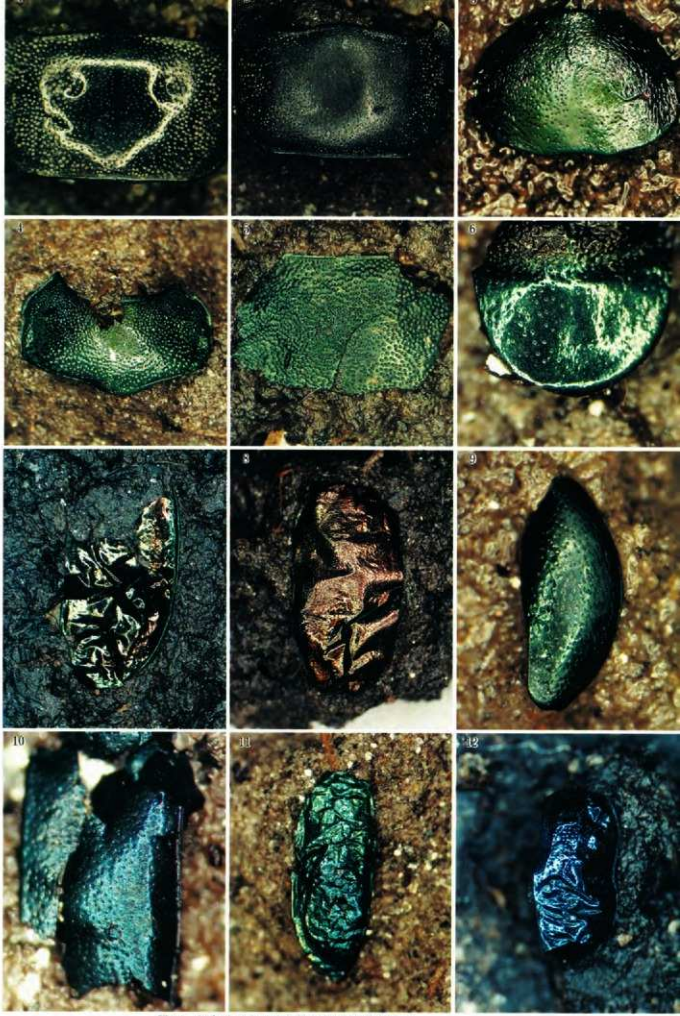


図 68　岡島遺跡産の昆虫化石の顕微鏡写真　4

図 68 岡島遺跡産の昆虫化石の顕微鏡写真 4

1．コクワガタ♀ *Macrodorcas rectus* (MOTSCHULSKY)
前胸背板 幅 8.8 mm(弥生中期，IIE 5 f，標本 14)

2．アカアシクワガタ♀ *Nipponodorcus rubrofemoratus* (SNELLEN VAN VOLLENHOVEN)
前胸背板 幅 10.1 mm(弥生中期，IIE 5 f，標本 15)

3．コアオハナムグリ *Oxycetonia jucunda* (FALDERMANN)
前胸背板 幅 6.3 mm(縄文晩期，泥炭下層，標本 83)

4．アオドウガネ *Anomala albopilosa* HOPE 前板背板 幅 9.8 mm(弥生後期，上層泥炭，標本 15)

5．アオドウガネ *Anomala albopilosa* HOPE 前胸背板片 幅 4.8 mm(縄文晩期，泥炭下層，標本 200)

6．コガネムシ *Mimela splendens* GYLLENHAL 小楯板 幅 2.2 mm(弥生後期，上層泥炭，標本 29)

7．コガネムシ *Mimela splendens* GYLLENHAL 右鞘翅下半部 長さ 13.6 mm(縄文晩期，泥炭上層，標本 8)

8．ドウガネブイブイ *Anomala cuprea* (HOPE) 左鞘翅 長さ 14.1 mm(弥生中期，IIE 5 f，標本 12)

9．ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY 後腿節 長さ 4.3 mm(中世 2，大型土坑，標本 6)

10．クワハムシ *Fleutiauxia armata* (BALY) 左鞘翅片 長さ 2.4 mm(弥生後期，上層泥炭，標本 53)

11．キムネアオハムシ *Cneorane elegans* BALY 左鞘翅 長さ 6.1 mm(弥生後期，上層泥炭，標本 30)

12．アオバネサルハムシ *Basilepta fulvipes* (MOTSCHULSKY) 右鞘翅 3.1 mm(中世 1，大型土坑，標本 26)

図 69 岡島遺跡産昆虫化石の電子顕微鏡写真 1

1 a．ヒラタゴミムシ亜族(PLATYNINA) 左鞘翅 90 B_2区 泥炭下層(標本 113) 縄文時代晩期
ツヤヒラタゴミムシ属(*Synuchus* sp.)の可能性が高い

1 b．ヒラタゴミムシ亜族(PLATYNINA) 左鞘翅上半部 第 4 条溝，第 3 および第 4 間室の彫刻

2 a．ヒラタゴミムシ亜族(PLATYNINA) 右鞘翅 90 B2区 泥炭下層(標本 120) 縄文時代晩期

2 b．ヒラタゴミムシ亜族(PLATYNINA) 右鞘翅上半部 第 4 条溝および第 3 間室の彫刻

3 a．ヤマトトックゴミムシ(*Lachnocrepis japonica* BATES) 右鞘翅
90 B_2区 泥炭下層(標本 153) 縄文時代晩期

3 b．右鞘翅上半部 第 3 間室の模様および第 4 条溝

(バースケールはμm)

図 70 岡島遺跡産昆虫化石の電子顕微鏡写真 2

1 a．イネネクイハムシ(*Donacia provosti* FAIRMAIRE) 右鞘翅 90 B_2区 大形土坑(標本 11) 中世

1 b．同上 右鞘翅上半部 第 2～第 5 点刻列，第 2～第 6 間室

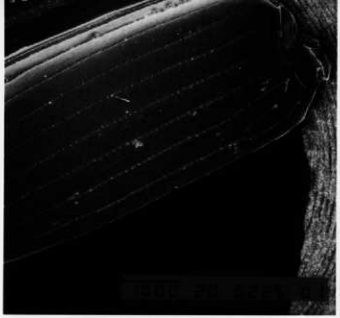
1 c．同上 右鞘翅上半部 第 2 点刻列(長さ約 20 μmの微毛が認められる)

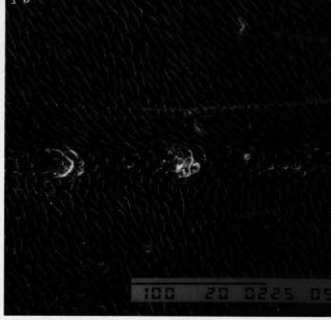
2 a．イネノクロカメムシ(*Scotinophara lurida* (BURMEISTER) 第 5 および第 6 腹板 90 B_2区 泥炭下層(標本 23) 縄文時代晩期

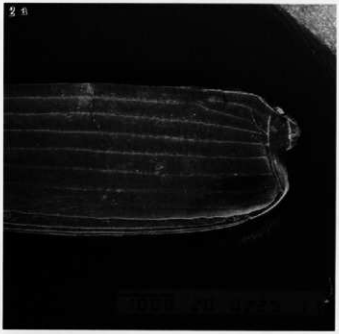
2 b．同上 第 5 腹板上の点刻列(点刻の直径約 25 μm)

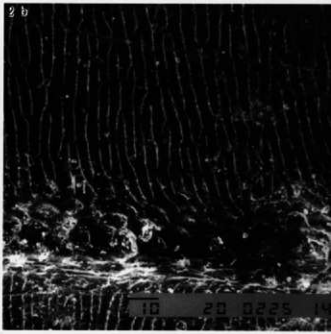
2 c．同上 第 3 腹板縁片部の点刻と気門(気門の直径約 90 μm)

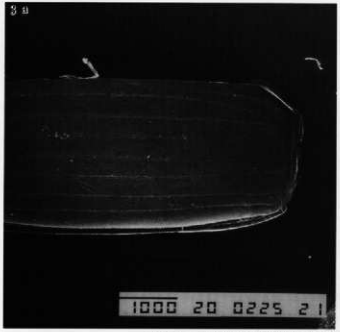
(バースケールはμm)











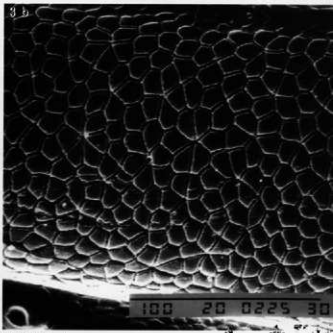


図 69　岡島遺跡産昆虫化石の電子顕微鏡写真 1

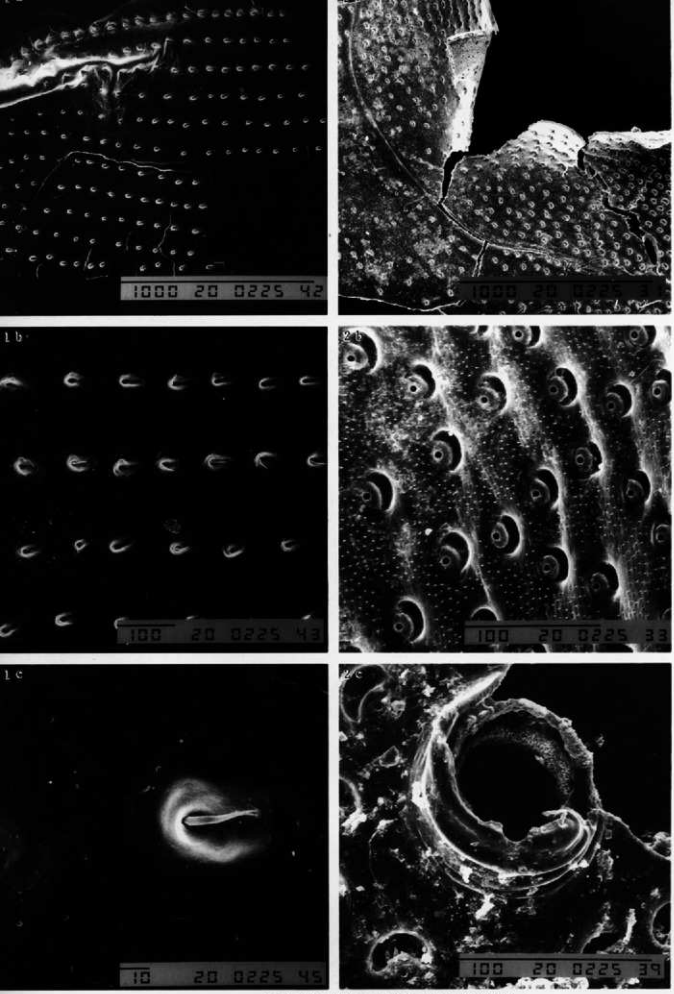


図 70　岡島遺跡産昆虫化石の電子顕微鏡写真 2

第2節　岡島遺跡における花粉化石

①. はじめに

岡島遺跡は西三河平野南部・愛知県西尾市に位置する弥生時代の遺跡であり、地形的には矢作川左岸の沖積平野上の微高地（海抜＋4.0～＋4.5 m）に存在する（図71）。今回、岡島遺跡の基盤を構成する縄文時代晩期の堆積物中の花粉化石の分析を行ったので、その概略を報告する。

矢作川左岸の沖積平野

②. 試料および分析方法

今回扱った分析試料は、ⅢNO 90 B$_2$区の地層断面から、連続的に採取された細粒砂層・シルト層および腐植質シルト層などの20試料である。模式柱状図および層相は図72～74に示したとおりである。

分析方法は以下の手順によった。

試料の処理

（1）約20 gの試料を10%KOH溶液処理（1晩）。

（2）60メッシュの篩に通し粗粒物質を除去。

（3）10%KOH溶液を加え湯煎（4分間）した後、傾斜法により細粒物質を除去。

（4）$ZnCl_2$溶液による比重分離（1,500回転／分の遠心分離を2回繰り返す）。

（5）HF溶液処理（1晩）で鉱物片を除去。

（6）アセトリシス処理（40秒間）。

（7）グリセリン・ゼリーで封入。

検鏡は400倍で、本本花粉が200個体に達するまで行った。出現率の算出は本本花粉については本本花粉の総数を基数とし、草本花粉については総本本花粉と総草本花粉の和を基数として計算した。

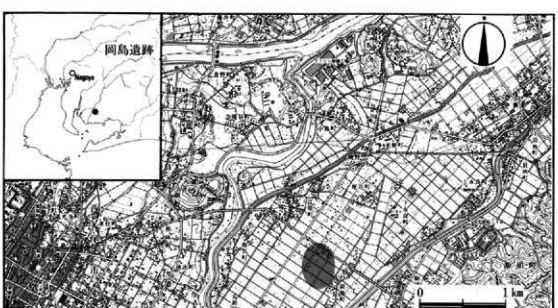


図71　岡島遺跡位置図　国土地理院2万5千分の1「西尾」より縮図

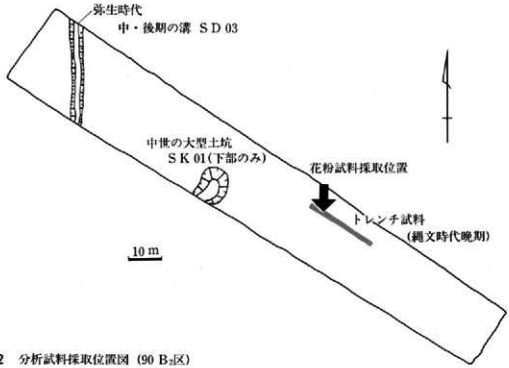


図 72　分析試料採取位置図（90 B_2区）

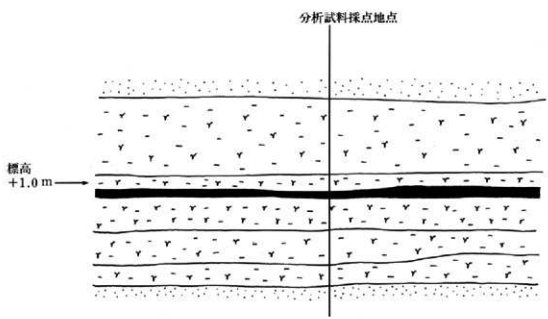


図 73　岡島遺跡 90 B_2区トレンチ断面図

③. 分析結果

分析結果を図75および図76に示した。今回花粉化石を分析した20試料の中、茶褐色泥炭質シルト層、暗灰褐色腐植質シルト層および暗灰色腐植混じり細粒砂層に含まれる13試料（試料№8～20）は、花粉化石が非常に少なかった。また、試料№1～7の中でも、時間的な制限などにより総木本花粉の基数が200個体に達しないままで出現率を算出し、花粉ダイアグラムを描いてある試料もある。

花粉ダイアグラムを描いた6試料は、いずれもよく似た傾向を示した。試料№3を除く5試料は、いずれもTaxaceae-Cupressaceae（イチイ科－ヒノキ科）が優勢に出現し、試料№2では24.5%にも達する。

これに次いで*Cyclobalanopsis*（アカガシ亜属）、*Lepidobalanus*（コナラ亜属）が高率に出現する。

Taxaceae-Cupressaceae（イチイ科－ヒノキ科）以外の針葉樹では、*Pinus*（マツ属）がどの試料からもかなり高率に出現し、次いで*Abies*（モミ属）、*Sciadopitys*（コウヤマキ属）が低率ながら、普遍的に出現する。また、*Tsuga*（ツガ属）*Cryptomeria*（スギ属）もほとんどの試料から出現する。

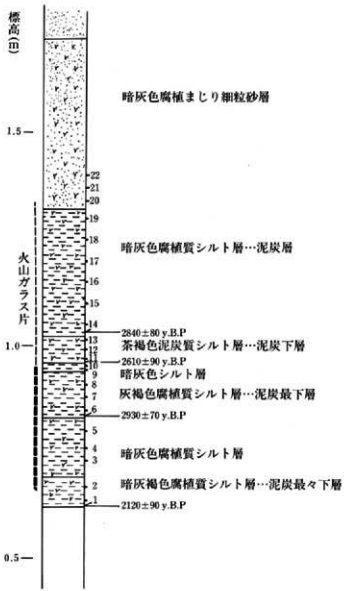


図74　分析試料採取地点における地質柱状図

Cyclobalanopsis（アカガシ亜属）、*Lepidobalanus*（コナラ亜属）以外の広葉樹では*Castanopsis*（シイノキ属）がかなり高率に出現する。その他には、*Aesculus*（トチノキ属）、*Ulumus-Zelkova*（ニレ属－ケヤキ属）、*Corylus*（ハシバミ属）、Oleaceae（モクセイ科）、*Viburnum*（ガマズミ属）などが低率ながら出現する。

草本花粉は、どの試料とも種類は少なく出現率も低率である。その中でもGramineae（イネ科）は、ほとんどの試料からかなり高率に出現する。（本本花粉が非常に少ないため花粉ダイアグラムを描くまでには至らなかったが、試料№10では、このGramineaeが非常に多くみられた）。次いでCyperaceae（カヤツリグサ科）が出現する。その他にはCarduoideae（キク亜科）がほぼ全試料に非常に低率ながら出現し、試料によっては*Ranunculus*（キンポンゲ属）、Umbelliferae（セリ科）などが出現する。

図 75 岡島遺跡 90 B-区の花粉ダイアグラム

図 76　花粉化石リストおよび出現率

	学　名	花粉化石実数							出現率					
		7	6	5	4	3	2	1	7	6	4	3	2	1
木本花粉	*Pinus*	20	27	2	20	19	15	16	12.42	13.04	8.44	9.13	7.18	7.88
	Abies	7	7		5	6	3	1	4.35	3.38	2.11	2.88	1.44	0.49
	Picea		1		1				0.00	0.48	0.42	0.00	0.00	0.00
	Tsuga	6	9		4	3	1		3.73	4.35	1.69	1.44	0.48	0.00
	Podocarpus	1							0.62	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	Sciadopitys	3	3		3	4	7	6	1.86	1.45	1.27	1.92	3.35	2.96
	Cryptomeria	7	8		4	4	1	1	4.35	3.86	1.69	1.92	0.48	0.49
	Taxaceae-Cupressaceae	37	48	12	53	26	55	48	22.98	23.19	22.36	12.50	26.32	23.65
	Salix	1	2	1	2	3	4	11	0.62	0.97	0.84	1.44	1.91	5.42
	Juglans-Pterocarya			1	9	5	4		0.00	0.00	3.80	2.40	1.91	0.00
	Alnus	3	3		3	6	8	4	1.86	1.45	1.27	2.88	3.83	1.97
	Betula	3	2		2	2	1	1	1.86	0.97	0.84	0.96	0.48	0.49
	Carpinus	2	3		3			2	1.24	1.45	1.27	0.00	0.00	0.99
	Corylus	2	3	1	3	3	1	5	1.24	1.45	1.27	1.44	0.48	2.46
	Fagus	1				2			0.62	0.00	0.00	0.96	0.00	0.00
	Lepidobalanus	17	31	3	30	25	14	38	10.56	14.98	12.66	12.02	6.70	18.72
	Cyclobalanopsis	28	31	8	40	39	33	37	17.39	14.98	16.88	18.75	15.79	18.23
	Castanea		1		2	4	5		0.00	0.48	0.84	1.92	2.39	0.00
	Castanopsis	9	12	2	24	28	35	14	5.59	5.80	10.13	13.46	16.75	6.90
	Ulmus-Zelkova	4	2		7	2	2	1	2.48	0.97	2.95	0.96	0.96	0.49
	Celtis-Aphananthe	1			2	6	4	2	0.62	0.00	0.84	2.88	1.91	0.99
	Rutaceae				2				0.00	0.00	0.84	0.00	0.00	0.00
	Rhus				1	1	1		0.00	0.00	0.42	0.48	0.48	0.00
	Ilex		1						0.00	0.48	0.00	0.00	0.00	0.00
	Acer	3	1			2	3		1.86	0.48	0.00	0.96	1.44	0.00
	Aesculus	2	3	1	10	11	8	6	1.24	1.45	4.22	5.29	3.83	2.96
	Vitis				1	1			0.00	0.00	0.42	0.48	0.00	0.00
	Parthenocissus					1			0.00	0.00	0.00	0.48	0.00	0.00
	Symplocos					1			0.00	0.00	0.00	0.48	0.00	0.00
	Oleaceae	3	6	2	1	3	3		1.86	2.90	0.42	1.44	1.44	0.00
	Viburnum	1			1		1	6	0.62	0.00	0.42	0.00	0.48	2.96
	Araliaceae		3			1		3	0.00	1.45	0.00	0.48	0.00	1.48
	Styrax				4			1	0.00	0.00	1.69	0.00	0.00	0.49
草本花粉	*Persicaria*		1				1		0.00	0.44	0.00	0.00	0.35	0.00
	Chenopodiaceae					1		2	0.00	0.00	0.00	0.39	0.00	0.84
	Ranunculus	2	2		1			1	1.16	0.88	0.35	0.00	0.00	0.42
	Thalictrum							2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.84
	Impatiens						1		0.00	0.00	0.00	0.00	0.35	0.00
	Haloragis				1				0.00	0.00	0.35	0.00	0.00	0.00
	Umbelliferae	1		1			1	2	0.58	0.00	0.00	0.00	0.35	0.84
	Labiatae					1			0.00	0.00	0.00	0.39	0.00	0.00
	Patrinia		1						0.00	0.44	0.00	0.00	0.00	0.00
	Cichorioideae				1		1	1	0.00	0.00	0.35	0.00	0.35	0.42
	Carduoideae	1	2	1	1	1			0.58	0.88	0.35	0.39	0.00	0.00
	Artemisia				1	1	3	3	0.00	0.00	0.35	0.39	1.05	1.26
	Typha	2	1		2	2	5		1.16	0.44	0.70	0.79	1.75	0.00
	Gramineae	3	10	9	25	26	46	12	1.74	4.41	8.75	10.24	16.14	5.04
	Cyperaceae	2	3	3	17	14	18	12	1.16	1.32	5.94	5.51	6.32	5.04
シダ類胞子	Spore	38	65	14	63	48	34	55	18.10	22.26	18.05	15.89	10.66	18.77
	Tree	161	207	33	237	208	209	203	76.67	70.89	67.91	68.87	65.52	69.28
	Grass	11	20	14	49	46	76	35	5.24	6.85	14.04	15.23	23.82	11.95
	Spore	38	65	14	63	48	34	55	18.10	22.26	18.05	15.89	10.66	18.77
総花粉数	Total	210	292	61	349	302	319	293	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

＊木本花粉の出現率は木本花粉総数を基数として算出
＊草本花粉の出現率は(木本花粉総数＋草本花粉総数)を基数として算出

④. 考察

（1）花粉組成からみた古環境と時代

放射性炭素年代

今回花粉化石の分析を行い、花粉ダイアグラムが描かれた試料は、岡島遺跡（弥生時代中期～後期）の基盤層を構成する地層（泥炭最々下層、泥炭最下層など）である（図74）。これらの腐植質シルト層ないし泥炭層の放射性炭素年代は、その年代と層準が逆転している場合もあるが、最も新しいものは2120±90 y.B.P.で、最も古いものは2930±70 y.B.P.を示し、いずれも縄文時代晩期に相当する（森,1993）。

森（1993）によれば、愛知県松河戸遺跡で発見された松河戸火山灰層（森ら、1990）に対比される火山ガラス片が、今回の柱状試料の全層準にわたり発見されることから、これら一連の泥質シルト層～泥炭層の堆積の時期は松河戸火山灰降灰以降であるとしている。

古植生

今回の分析結果が得られた6試料は、花粉組成はほとんど類似していて、花粉化石群集から推定される古植生はTaxaceae-Cupressaceae（イチイ科－ヒノキ科）、*Cyclobalanopsis*（アカガシ亜属）、*Lepidobalanus*（コナラ亜属）が優勢な植生であったと推定される。*Castanopsis*（シイノキ属）もかなり高率に出現することから、照葉樹林を中心とする林が広がっていた可能性が考えられる。

これらの樹下にあるいは周縁域にはGramineae（イネ科）、Cyperaceae（カヤツリグサ科）を中心とする草地が広がっていたと思われる。*Typha*（ガマ属）などの化石がほとんどみられないことから、水域（湿地）はあまり顕著には発達していなかったものと思われる。*Castanopsis*（シイノキ属）を伴う*Cyclobalanopsis*（アカガシ亜属）の高率の出現は、温暖な気候を反映しているものと思われる。このことは濃尾平野でも認められている縄文時代後期の再海進の名残を示しているのかもしれない（吉野ら，1992）。

（2）花粉化石群集の比較

楯ら（1993）は愛知県下に分布する朝日遺跡（西春日井郡清洲町ほか）をはじめ、勝川遺跡（春日井市）・町田遺跡（春日井市）および1988年度の岡島遺跡（西尾市）の業者委託による花粉分析結果により、縄文時代中期から古墳時代にかけての花粉組成の変遷をまとめた。

今回の分析結果は、上記の岡島遺跡に示された分析結果と非常によく一致している。

西三河平野での沖積層の花粉分析結果はほとんど報告されていないが、周辺地域では濃尾平野の佐屋町ボーリング・コアの南陽層上部の花粉化石群集（吉野ら，1980）、浜名湖々底堆積物の花粉群集（Matushita et.al, 1988）には、今回の分析結果と類似したTaxaceae-Cupressaceae（イチイ科－ヒノキ科）、*Cyclobalanopsis*（アカガシ亜属）および*Lepidobalanus*（コナラ亜属）の優勢な出現が報告されている。しかしながら同じ濃尾平野でありながら、津島ボーリング・コアの沖積層（南陽層）および濃尾平野第四紀研究グループ（1977）による飛島村のボーリング・コアの南陽層には*Cyclobalanopsis*（アカガシ亜属）と*Lepidobalanus*（コナラ亜属）の優勢な層準は認められるが、これに随伴するTaxaceae-Cupressaceae（イチイ科－ヒノキ科）の優勢は認められない。このことは、今後の詳細な

検討を要する問題である。

⑤．まとめ

愛知県西尾市に位置する岡島遺跡の基盤を構成する堆積物（縄文時代晩期）の花粉化石の分析を行った。その花粉組成はTaxaceae-Cupressaceae、*Cyclobalanopsis*、*Lepidobalanus*の高率の出現で特徴づけられる。

縄文後期の再海進

*Castanopsis*を伴う高率の*Cyclobalanopsis*の出現は縄文時代後期の再海進の名残を示しているものと思われる。（吉野道彦・楯真美子・萬谷さつき）

謝　辞

今回の小論をまとめるにあたり、研究の機会を与えられた愛知県埋蔵文化財センターの方々、愛知県立明和高等学校教諭森　勇一氏には種々の面でお世話になった。記して深く感謝の意を表します。

文　献

Matsushita,Mariko and Sanukida, Satoshi (1988), Holocene Begetation History around Lake Hamana on the Pacific Coast of Central Japan. *The Quaternary Reserch*, **26**(4),393-399.

森　勇一・伊藤隆彦・宮田英嗣（1990），愛知県町田・松河戸遺跡から発見された縄文時代後・晩期の境界付近に位置する火山灰層について．第四紀研究，**29**，17-23.

森　勇一（1993），珪藻および昆虫化石群集から得られた愛知県・岡島遺跡の古環境変遷．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第43集），岡島遺跡，87-131.

濃尾平野第四紀研究グループ(1977)，濃尾平野第四系の層序と微化石分析．地質学論集，**14**，161-183.

楯真美子・中垣内薫・服部俊之（1993），自然科学分析データの活用その１―花粉分析と樹種同定―，愛知県埋蔵文化財センター年報（平成４年度），140-151.

吉野道彦・酒井潤一・西村祥子（1980），濃尾平野佐屋・津島におけるボーリング・コアの花粉分析，第四紀研究，**19**(3)，163-171.

吉野道彦・萬谷さつき(1992)，花粉化石からみた朝日遺跡．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書(第31集)，朝日遺跡Ⅱ・(自然科学編)，56-69.

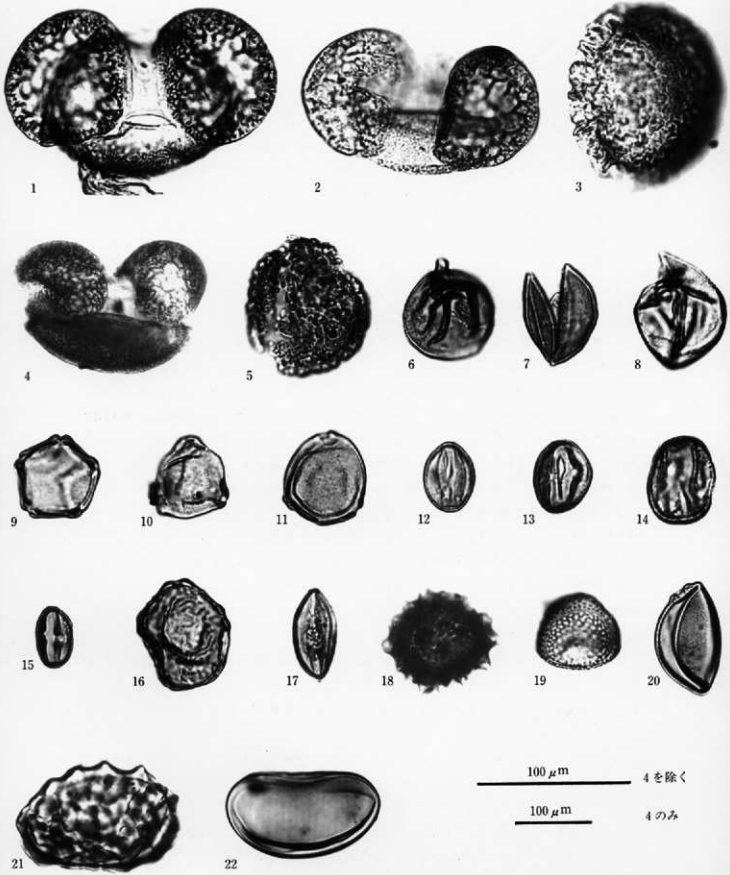


図 77　岡島遺跡出土の花粉化石

1. *Pinus*
2. *Pinus*
3. *Tsuga*
4. *Abies*
5. *Sciadopitys*
6. *Cryptomeria*
7. *Cryptomeria*
8. Taxaceae-Cupressaceae
9. *Alnus*
10. *Betula*
11. *Corylus*
12. *Cyclobalanopsis*
13. *Cyclobalanopsis*
14. *Lepidobalanus*
15. *Castanopsis*
16. *Ulmus-Zelkova*
17. *Aesculus*
18. Carduoideae
19. *Typha*
20. Gramineae
21. Spore
22. Spore

第3節　岡島遺跡出土の土器胎土

①．はじめに

岡島遺跡周辺の堆積環境

岡島遺跡（愛知県西尾市）は西三河地区を代表する弥生時代の集落遺跡であり、矢作川の東岸、幡豆山塊の麓に位置する。矢作川の上流には、地質区分でいう領家帯に属する花こう岩が広く分布しており、ここから供給される砂礫によって岡崎平野が形成されている。1987～1989年度の当遺跡の発掘調査においても旧矢作川（その分流も含む）と思われる旧河道も検出され、遺跡周辺は同川による運搬物の堆積の場であった。

土器中に含まれる砂礫には、普通、製作地周辺の堆積物が用いられており、形式が在地の特徴を示す土器では、含まれる砂礫は遺跡近辺で採取できる砂礫種とほぼ一致する。岡島遺跡においても1990年発行の調査報告書において胎土分析が実施され、同遺跡出土土器のほとんどが花こう岩起源の砂礫組成を示すことが筆者らによって報告されており、このことを裏付ける結果が得られている。しかし同時に土器形式の変化にともなって土器中の砂礫組成にも変化が認められることがわかっており、土器製作時に、形のみならず混和する砂礫にも意識がはらわれていたことがうかがえる。

分析の目的

1990年以降の当遺跡の継続した発掘調査によって、これまでに時期区分された土器群に続く新たな土器形式の一群（岡島Ⅴ期）が出土した。そこで、この一群への土器形式の変化にともなって、土器胎土に混入する砂礫の変化の有無を明らかにすることを本稿の第一の目的とする。

またこれまでの調査の結果、尾張地区を代表する同時期の遺跡である朝日遺跡（愛知県清洲町ほか）では、岡島遺跡の土器と形式・胎土ともに共通する土器が出土するが、岡島遺跡では形式は他地域の影響を受ける土器も、胎土は在地の土器と共通した特徴を示し、他地域から土器が直接搬入された明らかな証拠は見つかっていなかった。そこで、他地域から岡島遺跡への土器搬入の有無を確認することを第二の目的とする。

②．分析試料と方法

池本（1990）は、岡島遺跡から出土する弥生土器をその型式的変化によってⅠ～Ⅳ期に時期区分した。今回の調査でこれにⅤ期が加えられることにともなって、Ⅰ～Ⅳ期の区分に若干変更が生じたので、本稿中では新しい時期区分に従って分析結果の報告を行っている。

分析試料

分析を行った試料は、新たに設定された岡島Ⅴ期に属する土器から10点（B－1～10）と、他地域から岡島遺跡に搬入された可能性がある土器12点（X－1～12）である。このうちXサンプルは、形式的に他地域産の可能性があるものと、肉眼的に判断して在地産土器と異なった胎土である可能性のあるものとを、今回の調査によって出土した土器中から抽出した。またこの中に形式的に静岡県産の可能性があるものが含まれており、その比較試料として角江遺跡（静岡県浜松市）出土試料（S－1～3）を、静岡県埋蔵文化財調査研究所の木下智章氏に提供して頂き、同時に分析を行った。（図78）。

分析方法

分析の方法は土器表面の実体顕微鏡観察と、土器片から作製した薄片プレパラートの偏光顕微鏡観察の二方法である。これは筆者がこれまでに行ってきた、岡島遺跡をはじめとする愛知県内外の遺跡出土土器の分析方法と同じである。共通した方法で分析を行うことにより、他の遺跡産の土器胎土と比較検討が可能である。詳しい方法は愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第14集「岡島遺跡」(1990)を参照されたい。

粒径による三角ダイアグラム

また特に今回はBサンプルに対して砂礫の粒径の違いを明らかにするため、粒径をもとにした三角ダイヤグラムも作成した。このとき、土器表面の砂礫が占める面積比の比較と考え、粒径がLの砂礫は個数に9を、Mには4を乗じてダイヤグラム化した。

この砂礫数に乗じた9や4という定数は、各々の砂礫が相似形であると仮定し、粒径S(0.25~0.5mm)に対しL(1mm以上)は3倍、M(0.5~1mm)は2倍の直径をもつと考え、面積比は相似比の2乗に比例することに基づく。

試料番号	図番号	調査区	登録番号	遺　構	時期	その他
B-1	280	89 A 2	E-77	S X 04	V	
B-2	282	89 A 2	E-86	S X 04	V	
B-3	288	89 A 2	E-88	S X 04	V	
B-4	227	90 A 1	E-70	S K 03	V	
B-5	249	89 A 2	E-70	S X 03	V	
B-6	255	89 A 2	E-67	S X 03	V	
B-7	267	89 A 2	E-69	S X 03	V	
B-8	272	89 A 2	E-58	S X 03	V	
B-9	278	89 A 2	E-80	S X 04	V	
B-10	279	89 A 2	E-75	S X 04	V	
X-1	370	91 A 1	E-14	S K 08		
X-2	900	90 B 1	E-51	包含層	IV	
X-3	936	89 B 2	E-18	包含層	IV	
X-4	22	試掘	——	——	I	
X-5	531	90 A 2	E-43	S K 11	II	
X-6	532	90 A 2	E-41	S K 11	II	
X-7	426	89 A 2	E-216	S X 05	IV	
X-8	895	90 A 2	E-351	包含層		
X-9	643	90 B 2	E-1	S K 27	III	
X-10	564	90 A 2	E-127	S K 15	III	
X-11	742	90 A 2	E-3	S D 12	II	
X-12	527	90 A 2	E-40	S K 11	II	
S-1		角江遺跡	P-1942			静岡県浜松市
S-2		〃	P-1785			〃
S-3		〃	P-1946			〃

図78　分析試料一覧

③．分析結果と考察

(1)岡島V期試料(Bサンプル)の土器胎土の特徴

実体顕微鏡観察結果

実体顕微鏡観察の結果を図79に、これより作成した鉱物三角ダイヤグラムを図80に示す。雲母以外の有色鉱物はほとんど含まれず、無色鉱物と雲母で主要造岩鉱物の95%以上を占める。この点ではI~IV期までの試料(Aサンプル)の特徴に一致するが、特に雲母について注目するとAサンプルに比べ白雲母の比率が高くなる傾向がある。また粒径別にみた場合Bサンプルは S サイズがほとんどを占め、Aサンプルより砂礫が細かい傾向がある(図81)。

試料番号	石英 L	M	S	長石 L	M	S	黒雲母 L	M	S	白雲母 L	M	S	有色鉱物 L	M	S	花崗岩 L	M	S	チャート L	M	S	その他 L	M	S	合計	観察視野数
B-1	3	14	163	0	0	22	0	0	2	0	0	9	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	217	8
B-2																										
B-3	4	10	98	0	3	22	0	1	20	0	0	40	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	200	9
B-4	4	15	138	0	0	9	0	0	19	0	0	14	0	0	6	0	2	0	0	0	0	0	0	0	207	7
B-5	2	10	176	0	1	11	0	0	14	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	219	9
B-6	0	13	129	0	1	13	0	1	41	0	1	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	217	9
B-7	0	0	136	0	1	3	0	0	6	0	2	67	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	221	6
B-8	2	19	127	0	3	28	0	1	10	0	0	23	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	215	9
B-9	7	33	92	3	9	15	0	3	30	0	0	17	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	214	11
B-10	1	3	146	0	1	30	0	0	15	0	0	20	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	218	6

図79　岡島V期試料の実体顕微鏡観察結果

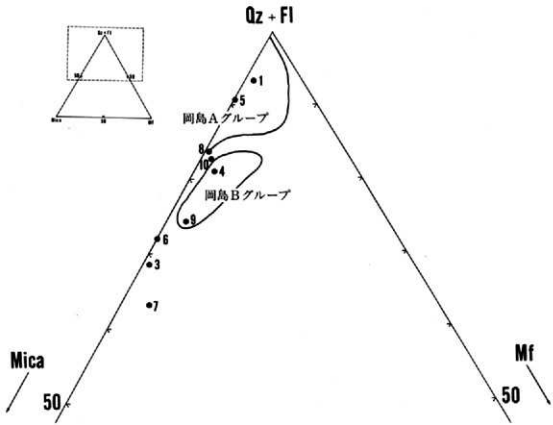


図80　鉱物組成の三角ダイアグラム（Bサンプル）

偏光顕微鏡観察の結果を図82に示す。鉱物ではすべての試料に共通して石英が多く含まれる。これに長石や雲母がともない、角閃石が含まれることもある。岩片では花崗岩が共通し、チャートが含まれることもある。石英は波動消光を示すものが多く、長石には双晶やパーサイト構造が見られる。これらの組織は花こう岩中の石英や長石に見られるもので、岩片でも花こう岩が主体であることより、これらの砂礫は花こう岩に由来するものと考えられる。また量にはばらつきがあるが、白雲母が共通して含まれることが特徴といえる。

この結果とAサンプルとの比較を行う。三角ダイヤグラム上でもAサンプルの領域と同じ傾向にあるし、偏光顕微鏡観察結果を見ても花こう

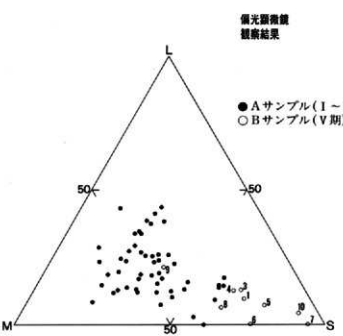


図81　粒径による三角ダイアグラム

試料番号	石英	斜長石	正長石	黒雲母	白雲母	角閃石	普通輝石	斜方輝石	ジルコン	花こう岩	チャート	砂岩	変成岩	火山岩
B-1	◎	○	○	−	−	−			−	○	△			
B-2	◎	△	△	○	△					△				
B-3	◎	○	○	○	△	−				○	−			
B-4	◎	△	△	○	△					○			−	
B-5	○	○	△	○	○	−			−	○				
B-6	◎	△	○	◎	○				−	○				
B-7	◎	△	○	○	△	−			−	○	−			
B-8	◎	△	△	○	△				−	○	−			
B-9	◎	△	△	◎	−	−				○	−			
B-10	◎	△	△	○	△				−	○	−			

図82　岡島Ⅴ期試料の偏光顕微鏡観察結果

岩やあるいは花こう岩源の砂礫が主体であることなど、全体ではAサンプルと共通した特徴を示す。つまり岡島Ⅴ期の段階でも土器製作の際砂礫は遺跡の近辺で入手していた可能性が高い。

A・Bサンプルの胎土の差

またAサンプルを雲母の量で分類したA・Bグループと比べると、B－1，5が三角ダイヤグラム上でAグループに入る他はBグループに近い。岡島Ⅳ期以降雲母が多くなる傾向にあることとも一致する結果といえる。しかしAサンプルに比較して、砂礫が細かいことや雲母のうち白雲母が多いことは、遺跡周辺であっても砂礫の採取場所は異なっていたことを示す。

岡島遺跡周辺の地質と砂礫

遺跡周辺の地質に目を向けると、前述のように矢作川流域には広く花こう岩が分布する。このうち矢作川上流部に分布するものは伊奈川花こう岩と呼ばれ、粗粒で石英・長石・黒雲母の他に角閃石を比較的多く含んでいる。これに対し、矢作川中流部の左岸（岡崎市周辺）には武節花こう岩と呼ばれる花こう岩が露出する。これは伊奈川花こう岩に比べ細粒であり、また黒雲母とともに白雲母を含むことが特徴である（図83）。

これと土器中の砂礫とを比較すると、Aサンプルでは粗粒で黒雲母が多いことより伊奈川花こう岩の影響を受けており、Bサンプルは細粒で白雲母を含む武節花こう岩源の堆積物が使用されているものと思われる。

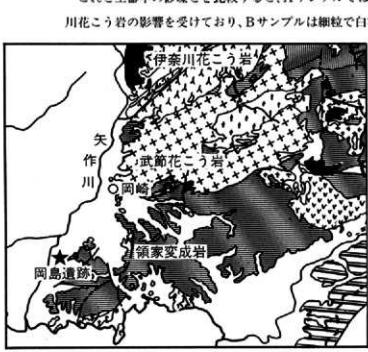


図83　岡島遺跡周辺の地質

このような違いが発生した理由には、いくつかのことが考えられる。偶発的なことを考えるならばまず河道の変遷が挙げられが、短期間での急激な河道変遷には無理がある。また発掘担当者によると、旧河道の堆積物には大きな変化が見られないとのことより、このような原因は考えにくい。むしろこれまでにも岡島遺跡では時期による胎土の変化が明らかになっており、偶然と考えるよりは人為的な影響と考えたい。しかし当時の人

々にとって、堆積物中の鉱物の種類に対する認識があったとは思えない。おそらく土器形式の変化にともない、混和材にもこれまでより細粒の砂礫を求め、より細粒の武節花こう岩を源岩とする砂礫を使用することになった。その結果、土器中の砂礫の粒径だけでなく鉱物組成にも変化が生じたものと思われる。

砂礫の採取地

岡島遺跡から最も近距離に武節花こう岩源の堆積物を求める。岡島遺跡の東を流れる広田川は額田郡幸田町周辺に源を発し、武節花こう岩も面積は狭いがこの周辺にも分布する。つまり、広田川の堆積物であれば武節花こう岩に由来する砂礫が得られることになる。しかし途中で領家変成岩を侵食するので、やや上流に遡る必要があろう。おそらく岡島遺跡からは5km程度以内の距離と思われる。あるいは距離的には少し遠いが、岡崎市を流れる大平川でも武節花こう岩源の堆積物を得られる。

（2）岡島遺跡出土の他地域産土器（Xサンプル）の胎土

Xサンプルの胎土

実体顕微鏡観察結果を図84に、それより作成した三角ダイヤグラムを図85に、また偏光顕微鏡観察結果を図86に示す。Xサンプルのうち X－3・4・7・9・10の5試料は、粒径や胎土の質感など肉眼的には岡島遺跡の土器とやや異なった傾向を示したが、実体顕微鏡・偏光顕微鏡観察の結果では在地の土器とほぼ共通の特徴を持ち、他地域からの搬入品の可能性は少ない。肉眼的特徴の差は小地域内での土器移動を示すかもしれないが、現時点ではそれを明確にすることは難しい。西三河地区における同時期の他の遺跡の分析結果との比較が必要である。他の7試料はこれまでに分析を行った岡島遺跡の在地土器とは明らかに異なった特徴を示し、地質の異なった地域からの搬入品であるものと思われる。

搬入された土器

X－1は、土器形式より静岡県産の可能性がある土器である。三角ダイヤグラムでは岡島遺跡産土器の領域に入るが、実体顕微鏡・偏光顕微鏡観察ともにチャートが多く観察され、また火山岩やそれに由来すると思われる輝石も含まれるなど岡島遺跡の土器胎土とは異なる。チャートや火山岩、輝石はこれまで尾張産の土器の特徴と考えられていたが、尾張産の土器では輝石のうち斜方輝石が優占するのに対し、この土器では単斜輝石の方が多

試料番号	石英 L	M	S	長石 L	M	S	黒雲母 L	M	S	白雲母 L	M	S	有色鉱物 L	M	S	花こう岩 L	M	S	チャート L	M	S	その他 L	M	S	合計	観察視野数
X-1	2	29	133	0	8	21	0	0	5	0	0	0	0	0	8	0	0	0	2	6	3	0	2	0	219	10
X-2	7	37	102	0	7	26	0	0	4	0	0	1	1	4	12	0	1	0	0	2	2	0	0	1	207	12
X-3	4	35	120	1	3	10	3	1	5	0	0	21	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	207	10
X-4	2	4	21	0	1	4	0	3	10	0	0	4	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	52	4
X-5	40	17	36	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	12	1	1	3	0	0	114	15
X-6	20	48	116	1	0	12	0	0	0	0	0	2	0	0	4	1	0	0	1	1	1	1	0	0	208	13
X-7	8	72	83	2	4	10	0	0	1	0	0	0	0	1	7	0	0	0	0	7	0	1	6	1	203	18
X-8	2	15	97	0	4	55	0	2	7	0	0	1	0	2	22	1	1	0	0	0	0	0	1	0	210	9
X-9	3	28	152	0	2	11	0	0	1	0	0	1	0	0	10	0	1	0	0	0	1	0	0	0	210	11
X-10																										
X-11	34	33	7	3	3	1	1	0	0	0	0	0	6	7	1	12	2	0	3	2	0	25	18	0	158	30
X-12	25	17	107	7	4	19	0	0	4	0	0	3	0	0	1	0	0	0	9	3	1	1	0	0	201	14
S-1	14	37	115	0	9	15	0	0	1	0	0	0	0	0	5	0	0	0	4	2	0	1	0	6	209	15
S-2	1	14	117	0	5	34	0	1	5	0	0	1	0	0	21	0	2	0	0	0	0	0	1	0	202	8
S-3	4	19	129	1	3	20	0	0	14	0	0	2	0	0	14	0	0	0	0	0	0	1	1	0	208	11

図84　Xサンプルの実体顕微鏡観察結果

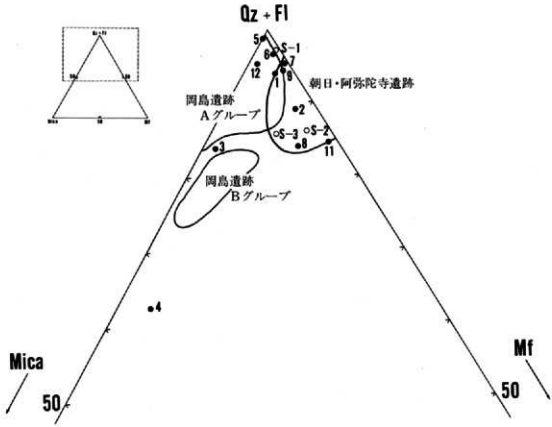


図85　X・Sサンプルの鉱物三角ダイヤグラム

試料番号	石英	斜長石	正長石	黒雲母	白雲母	角閃石	斜方輝石	単斜輝石	ジルコン	花崗岩	チャート	砂岩	変成岩	火山岩
X-1	◎	△	○	△		−	−	△	−	−	○	△		△
X-2	○	△	△	−		−	△	△		−	△	−		△
X-3	○	○	○	○	−	△				○	−		−	−
X-4	◎	○	△	○	−	△			−	○				
X-5	◎	△			−						◎	○	○	−
X-6	◎	△	○	−	−		−		−	△	○		−	−
X-7	◎	○	△	○	△	−			△					
X-8	◎	○	△	△			○	△		−	○			◎
X-9	◎	○	△	△						○				
X-10	○	○	○	△	−					◎				
X-11	△										○		◎	
X-12	◎	○	○	−					−		○	△	−	
S-1	◎	△	△	−	−			−			○	−	○	
S-2	○	△				△	−	△			−	△	○	△
S-3	◎	○	△	○				−		△	△		△	

図86　X・Sサンプルの偏光顕微鏡観察結果

い傾向にある。比較試料として分析したSサンプル（静岡県浜松市出土）をみると、個々の試料のばらつきはあるがチャートや単斜輝石が含まれるなど、比較的共通した特徴がみられ、X－1が静岡県産の可能性も充分に考えられる。

またX－11は静岡県の発掘担当の方から静岡県産の黒土である可能性の指摘を受けた土器である。この試料では塩基性岩やそれを源岩とする変成岩が主体をなす。これらの

岩石はいわゆる西南日本外帯を形成する三波川帯に由来するものと考えられ、これは豊川と天竜川に挟まれた地域に産する。特に豊橋市から新城市にかけての、豊川東岸に広く分布することが知られている。また個々の砂礫を見るとよく円磨されており、山沿いの地域よりは河川下流部（あるいは海岸部）の砂礫と思われる。

X－5・12はチャートが主体となる試料である。これら2試料はLサイズの砂礫を多く含み、またよく円磨されている。このような特徴はX－11とよく似ており、また量は少ないが2試料とも塩基性岩を源岩とする変成岩が含まれていた。この点よりこの2試料はX－11と地質的にも関わりの強い地域産の可能性がある。この付近ではチャートは豊橋市南部から渥美半島にかけて分布しており、この地域に産地が求められるかもしれない。

これら3試料は胎土の肉眼的特徴も一致するので、豊橋市から静岡県西部にかけての同一文化圏産と考えることもできそうである。砂礫組成の違いはその中での地質の違いであろう。この地域は岡島遺跡ともさほど距離はないので、交流もあったものと思われる

尾張産の土器

X－2・6・8はチャートとともに火山岩や斜方輝石が含まれる。この組み合わせは尾張産（特に尾張西部）の土器と一致し、また三角ダイヤグラム上でも朝日遺跡（西春日井郡清洲町ほか）や阿弥陀寺遺跡（海部郡甚目寺町）の領域にほぼ一致する。このうちX－8は偏光顕微鏡下での火山岩や斜方輝石の比率が、尾張産の土器と比較しても非常に高くやや異なった傾向を示すといえるが、X－2・6は尾張地域の土器とよく似ており、この地域からの搬入であるものと思われる。

尾張地区と三河地区の土器交流

これまで岡島遺跡への他地域産の土器搬入の確かな証拠は見つかっていなかった。この分析結果によって岡島遺跡へも土器の搬入があったことは明らかとなったといえる。特に尾張地区と三河地区の土器交流という点でも、前述のように尾張地区と西三河地区の間の土器の移動は、これまで後者から前者への一方通行とされていた。すなわち朝日遺跡や阿弥陀寺遺跡など尾張地区の遺跡では西三河産の土器は出土するけれども、西三河地区には尾張地区産の土器が西三河地区に搬入されることはなかったと考えられていた。今回西三河で尾張産の可能性のある土器が見つかったことは、尾張と三河の土器交流のあり方を考える上で重要なことである。今後の考古学的な観点からの検討も必要であるし、量に関しての問題も解決しなければならないであろう。（永草康次）

謝　辞

本稿の執筆に際し、愛知県埋蔵文化財センターの方々、特に岡島遺跡の調査担当者であり本報告書の編集担当者でもある池本正明氏と科学分析室の方々には、多くの有益なご教示を頂くなどたいへんお世話になった。また静岡県埋蔵文化財調査研究所の木下智章氏には、貴重な資料を快よく提供頂いた。また愛知県立明和高等学校教諭である森　勇一氏にも多くの助言を頂いた。記して感謝の意を表す。

文　献

愛知県埋蔵文化財センター（1991 a）愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第 18 集）大渕遺跡，148 p.

愛知県埋蔵文化財センター（1991 b）愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第 30 集）朝日遺跡，206 p.

池本正明（1990）自然科学的分析．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第 13 集）志貴野遺跡・小島遺跡，19-25.

池本正明・永草康次（1990 a）岡島遺跡の土器胎土の特徴．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第 14 集）岡島遺跡，51-63.

池本正明・永草康次（1990 b）岡島遺跡の土器胎土に関する考察．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第 14 集）岡島遺跡，98-101.

神谷友和（1989）S 字状口縁台付甕の分析．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第 9 集）町田遺跡，32-43.

森　勇一・永草康次・楯真美子（1989 a）尾張地方を中心とした土器胎土の地域色について．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第 9 集）町田遺跡，44-49.

森　勇一・永草康次・楯真美子（1989 b）町田遺跡出土の弥生土器胎土の特徴．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第 9 集）町田遺跡，50-53.

森　勇一・伊藤隆彦・楯真美子・永草康次（1990）濃尾平野周辺地域における遺跡基盤層の粒度および鉱物組成．愛知県埋蔵文化財センター年報（平成元年度），131-143.

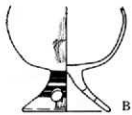
永草康次（1990）阿弥陀寺遺跡の土器胎土の特徴について．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第 11 集）阿弥陀寺遺跡，289-299.

永草康次（1991）S 字状口縁台付甕の胎土について（予察）．文化財科学会第 8 会大会研究発表要旨集，日本文化財科学会，63-64.

永草　康次（1992）朝日遺跡出土の土器胎土．愛知県埋蔵文化財センター調査報告書（第 31 集）朝日遺跡 II（自然科学編），299-314.

領家研究グループ（1972）中部地方領家対の花崗岩類の相互関係．地球科学，**26**（5），205-214.

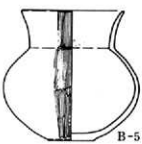
矢作健二・橋本真紀夫・赤塚次郎（1990）東海地域における弥生時代の土器の胎土分析．日本文化財科学会第 7 会大会研究発表要旨集，日本文化財科学会，24-25.


B-1

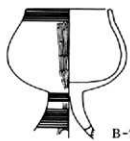
B-2

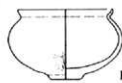
B-4

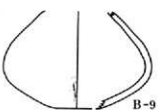
B-3

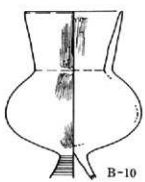

B-5

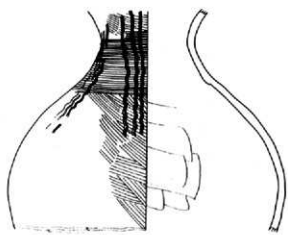
B-6

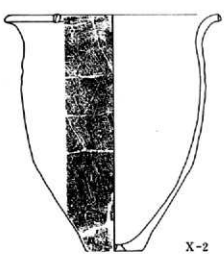

B-7

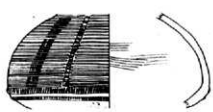

B-8


B-9


B-10

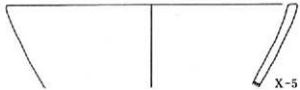

X-1

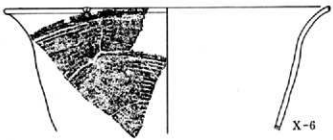

X-2

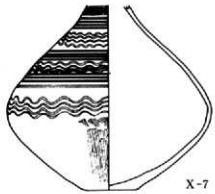

X-3

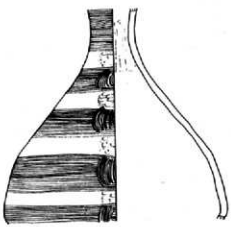
X-4

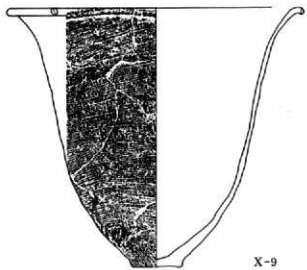
図87 分析土器実測図 1

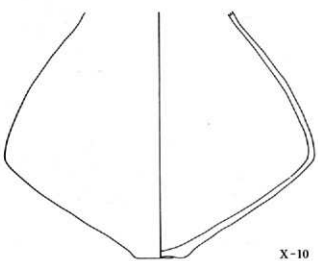

X-5

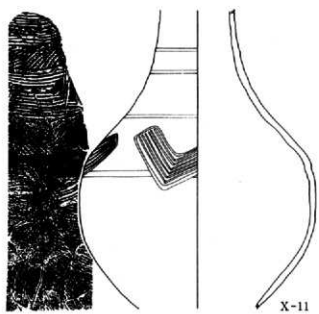

X-6


X-7


X-8


X-9


X-10


X-11

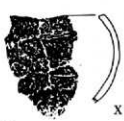
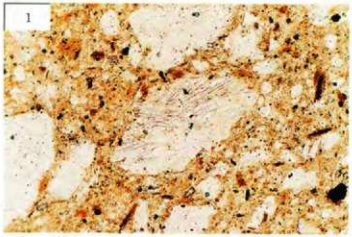
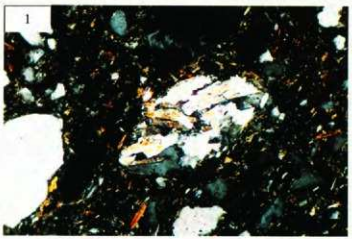
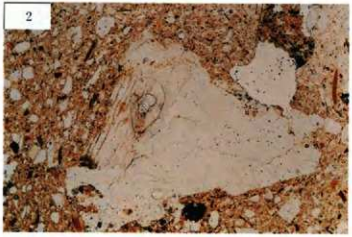
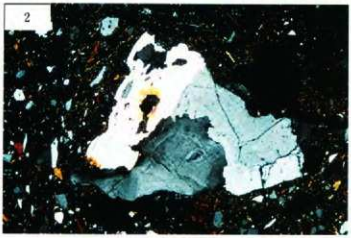

X-12

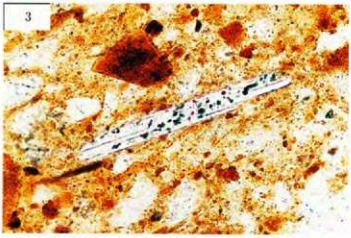
図88 分析土器実測図 2

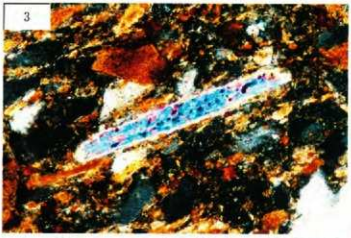


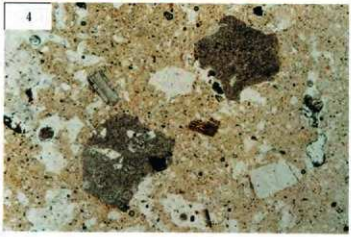












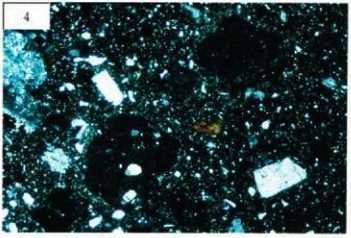
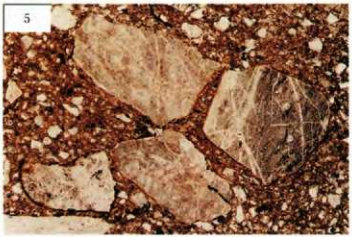
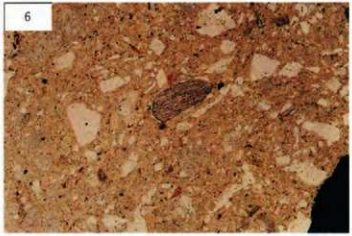
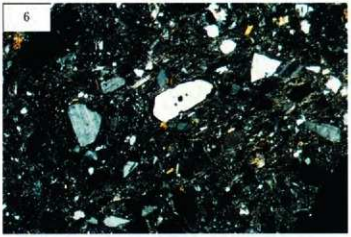
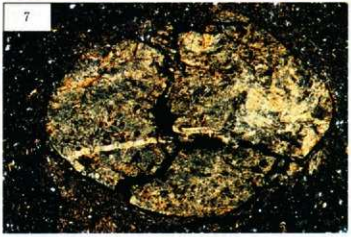


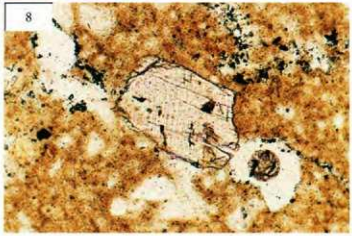
図 89 土器薄片の偏光顕微鏡写真 (1) (左：単ニコル、右：直交ニコル)
1 B-5 白雲母を含む花崗岩 (0.3 mm)
2 B-6 白雲母を含む花崗岩 (2.5 mm)
3 B-6 白雲母 (0.2 mm)
4 X-2 火山岩 (左 1.0 mm) および斜方輝石











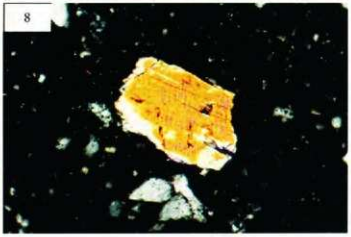


図 90 土器薄片の偏光顕微鏡写真 (2) (左：単ニコル、右：直交ニコル)
5 X-5 チャート岩片 (右 1.1 ㎜)
6 X-8 斜方輝石 (0.7 ㎜)
7 X-11 塩基性の変成岩 (2.8 ㎜)
8 S-2 単斜輝石 (0.3 ㎜)

第4節　残存脂肪酸分析

① 試料の性格

残存脂肪酸をズコーシャ総合科学研究所に依頼して実施した。ここではこの結果を、ズコーシャ総合科学研究所より提出された報告書を要約して掲載する。なお、今回の分析では、墓に関係すると推定される遺構を中心に、総数8点について実施した。具体的な採取地点は、試料1～3がSZ 31の棺身の充塡土。試料は柱状に採取したもの。採取位置は、試料1が最も内部底に近い部分、試料2が最上部、試料3はこれらの中間部分に該当する。試料4、5は、土坑b 1から採取した試料。採取地点はいずれも中央部分の埋土下部で、試料4がSK 28、試料5がSK 18。試料6・7がSZ 05の主体部埋土、試料8は、試料6・7の比較サンプルでSZ 05主体部付近のマウンド上部から採取した。

② 残存脂肪の抽出

分析に際し、事前に各試料から残存脂肪酸を抽出した。ここで使用した具体的方法は、試料に3倍量のクロロホルム－メタノール（2：1）混液を加え、超音波浴槽中で30分間処理する方法。その後、処理液を濾過後再度クロロホルム－メタノール3液を加え、再び30分間超音波処理を加える。今回は、この操作をさらに2回繰り返して残存脂肪を抽出した。次に、得られた全抽出液溶媒に1％塩化バリウムを全抽出液溶媒の4分の1容量加え、これをクロロホルム層と水層に分配後、下層のクロロホルム層を濃縮して残存脂肪を分離した。この結果得られた残存脂肪の抽出量は、平均0.0132％であった。また、残存脂肪をケイ酸薄層クロマトグラフィーで分析した結果、脂肪は単純脂質から構成されていた。このうち遊離脂肪酸が最も多く、次いでグリセノールと脂肪酸の結合したトリアシルグリセロール（トリグリセリド）・ステロールエステル・ステロードの順に多く、微量の長鎖炭化水素も存在していた。

③ 残存脂肪の脂肪酸組成

ステロール組成の所見

上記の方法により抽出した残存脂肪酸の組成は、残存脂肪に5％メタノール性塩酸を加え、摂氏125度封管中で2時間分解した後、メタノール分解によって生成した脂肪酸メチルエステルをクロロホルムで分離し、ヘキサン－エチルエーテル－酢酸（80：30：1）またはヘキサン－エチルエーテル酢酸（85：15）を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで精製後、ガスクロマトグラフィーで分析した。その結果、残存脂肪から12種類の脂肪酸を抽出した(図91)

この中で注目できるのは、炭素数20以上のアラキジン酸・ヘベン酸・リグノセリン酸などの高級脂肪酸類で、これらは高等動物、特にその臓器・脳・神経組織・血液・胎盤等に特徴的にみられるものとされている。今回の試料中には、試料1～3・6～8が約11％～22％、試料4・5がこれよりやや高い数値を示し、いずれも高等動物の存在を示すのに十分な量に達している(図93)

④ 残存脂肪のステロール組成

試料番号	採取遺構	湿重量(g)	全脂質(mg)	抽出率(%)
試料1	SZ 31	713.4	12.9	0.0018
2	〃	753.2	11.9	0.0016
3	〃	665.7	11.5	0.0018
4	SK 28	997.3	13.7	0.0014
5	SK 18	603.7	584.9	0.0969
6	SZ 05 主体	420.1	4.0	0.0010
7	〃	531.3	2.6	0.005
8	〃	979.0	6.3	0.0006

図 91　試料の残存脂肪抽出量

試料番号	コレステロール(%)	シトステロール(%)	コレステロール/シトステロール
試料1	3.08	18.92	0.16
2	3.16	20.64	0.15
3	2.49	10.89	0.23
4	3.63	29.15	0.12
5	2.34	19.41	0.12
6	1.94	39.33	0.05
7	3.39	23.66	0.14
8	1.12	43.64	0.03

図 92　試料中に分布するコレステロールとシトステロールの割合

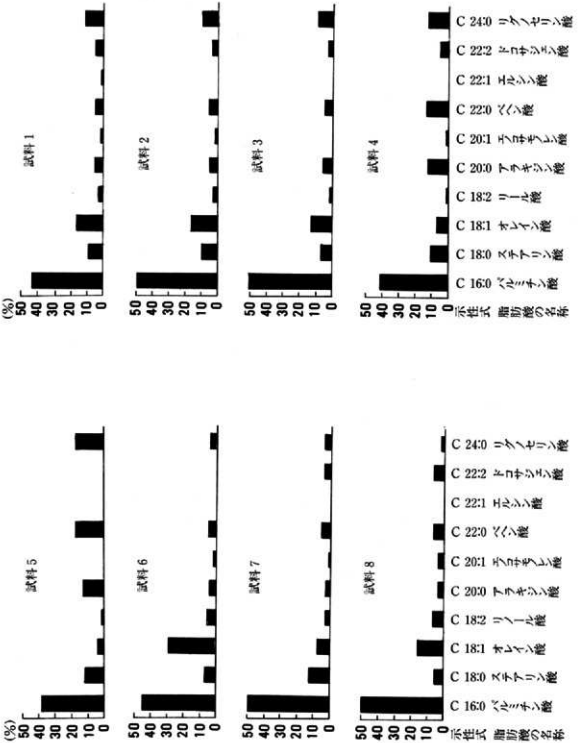


図 93　各試料に残存する脂肪の脂肪酸組成

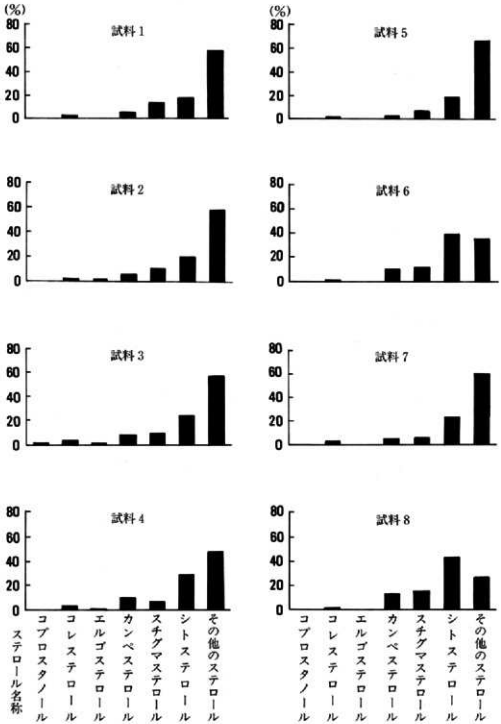


図 94　各試料に残存する脂肪のステロール組成

次に、残存脂肪のステロール組成の分析作業結果について報告する。

分析方法は、残存脂肪酸をヘキサン－エチルエーテル－酢酸（80：30：1）を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィー分離・精製後、ピリジン－無水酢酸（1：1）を窒素気流下で反応させてアセテート誘導体にしてからガスクロマトグラフィー法をおこなった。その結果、残存脂肪からは15種類程度のステロールを検出した。今回はこれらのうち、コレステロール・エルゴステロール・カンペステロール・スチグマステロール・シトステロールなど特徴的なステロールをガスクロマトグラフィー質量分析により同定した（図92・94）

以下、所見を記述する。

1　コレステロールは、各試料中に1～4％程度検出されている。コレステロールは、動物由来で一般的な土壌に4～8％程度含有され、今回の試料ではいずれもこの数値には達してはいない。ただし、植物由来のシトステロールの検討もこれに加えると、各試料に11～29％程度の数値を示した。一般的な植物腐植土では、シトステロールの含有量が30～40％以上とされている関係から、今回の試料は、通常の土壌ではなく、これに異物が混入している可能性がある。

2　コレステロールとシトステロールの分布比の指標値は、動物遺体の存在を示唆するもので、今回の試料では試料7が0.14となり、比較試料である試料8の0.03より高い数値を示す。

3　カンペステロールとスチグマステロールは堅果植物に由来するもので、今回の試料のうち、試料4、6、8が10～13％と、通常含有率3～9％より高い数値を示した。

4　微生物由来のエルゴステロールは土壌微生物による自然発酵を示唆するものとされ、今回の試料には試料2～4で検出されている。

5　哺乳動物の腸および排泄物に特異的に分布するコプロスタノールが試料3で若干検出されている。なお、コプロスタノールとコレステロールの含有比から動物種と動物の性別を判定することができるが、その判定にはコプロスタノールが10％以上必要とされる関係から今回は実施してはいない。

6　試料4・5では高級脂肪酸が検出されて、明らかに動物遺体の存在が推測できたが、動物性のコレストロールの分布は微量で、脂肪酸とステロールの検出量は整合してはいない。

⑤　脂肪酸組成の数理解析

ヒトの脂肪酸

ここでは、脂肪酸組成をパターン化し、重回帰分析により各試料間の相関係数を求め、これを基礎にクラスター分析を実施して、各試料の類似度を比較し、樹状構造図を作成した（図95）。なお、比較試料として、すでに性格が明瞭となっている、摺萩遺跡・原川遺跡、寺田遺跡などのデータと類似度も検討した。その結果、今回の試料の全てがヒトの遺体を直接埋葬した寺田遺跡・原川遺跡試料と類似度が認められた。なお、試料8は、SZ05主体部付近のマウンド上部の土壌で、主体部の比較試料として採取した試料であるが、同様の

性格を持ったものとなる。未確認の主体部が存在していた可能性を残す。

ヒトの脂肪酸

⑥ 脂肪酸組成による特殊異性相関

次に残存脂肪の脂肪酸組成から種を特定する。中級脂肪(炭素数16のパルミン酸から炭素数18のステアリン酸・オレイン酸・リノール酸まで)と高級脂肪(炭素数20のアラキジン酸以上)との比をX軸に、飽和脂肪酸と、不飽和脂肪酸との比をY軸にとり種特異性相関を求めた(図96)。この比例配分により第1象限の原点から離れた位置に高等生物の血液・脳・神経組織・臓器等に由来する脂肪、第1象限から第2象限の原点と離れた位置にヒトの胎盤、第2象限の原点から離れた位置に高等生物の体脂肪、骨油に由来する脂肪がそれぞれ分布する。第2象限から第3象限にかけての原点付近に植物と微生物、原点からはなれた位置に植物腐植、第3象限から第4象限に移る原点から離れた位置に海産生物が分布する。

求められたドット分布状況は、試料1～3・7・8が第2象限の原点寄りの位置でA群を、試料6は同じ第2象限のX軸寄りの位置でB群を形成した。なお、これらは非常に近い位置に分布している。また、試料4・5は、第1象限の広い範囲に分布し、C群を形成した。

以上の事実から、試料1～3・6～8はいずれも第2象限内に分布することからヒトの体脂肪や骨油、試料4・5は特にヒトの頭部・血液・臓器にそれぞれ由来する脂肪が残存している可能性が高い。

⑦ まとめ

以上の成果から、今回分析した試料は、いずれもヒトに関連する脂肪酸の残存が認められた。今回の分析成果に立脚すれば、試料5～7を採取したSZ 31と、試料6～8を採取したSZ 05主体部は、いずれもヒトの遺体を直接埋葬した施設であったことが考えられる。なお、前者は土器棺である関係から、小児遺体を直接埋葬したものと想定できる。次に、試料4を採取したSK 28や試料5を採取したSK 18は、SZ 05主体部やSZ 31とは、分布領域を異にしたものとなっている。これらの差は、骨油に由来する脂肪酸の検出量に起因している。したがってこれらについては、前二者とは異なった性格、つまり、改葬を前提として設定された一次墓としての用途を考えることができるのかもしれない。ただし、現状では分析件数が乏しく、推定の域を出ない。今後、資料の増加が急務であろう。 (池本正明)

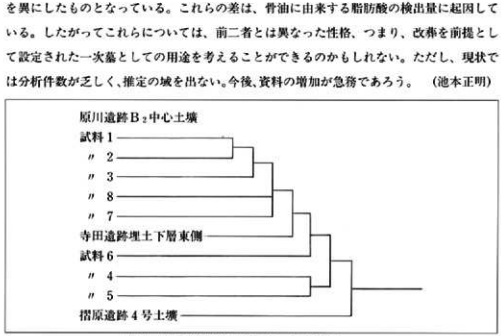


図95 脂肪酸組成によるデンドログラム

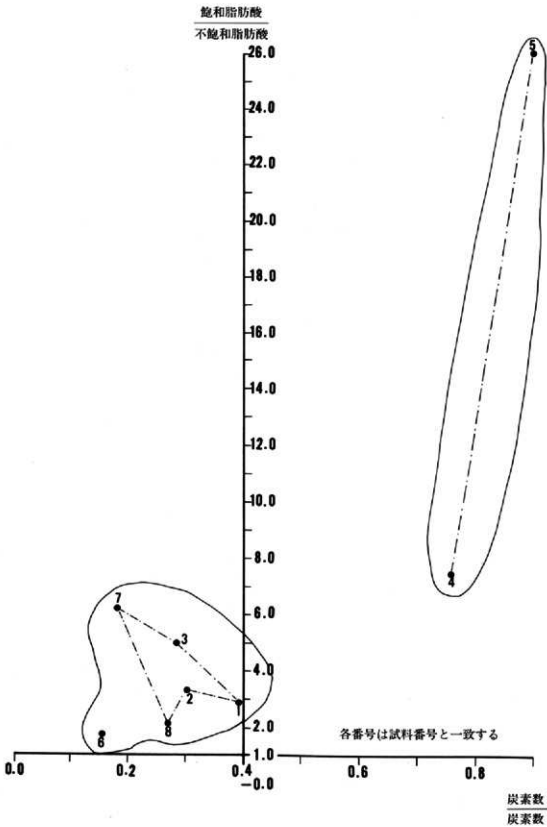


図 96　各試料に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特異相関

第Ⅴ章　考察

第1節　主要遺構の変遷

今回の調査では、3面の検出面から、6つの時期に区分できる遺構群を検出している。ここでは、これを時期別に整理する。

A期

NR 02の右岸で、1棟の掘立柱建物と若干の土坑・溝を検出した。分布域は90年度調査区に集中する。掘立柱建物は、年代を明確にする資料に乏しいが、12世紀を前後した時期が一応想定できる。

B期

89 B区で古墳時代の方形周溝墓を4基検出している。この部分に、墓域としての性格を考えることができる。

C期

弥生時代後期前葉の方形周溝墓を1基検出している。西溝内に陸橋部をもつ形状で、陸橋部は中央よりやや南側にずれる。

D期

年代的には、弥生時代中期後葉に属する。構造的には、NR 02の東側で検出された竪穴住居1棟を評価し、この部分に居住域としての性格を考えるほか、NR 02の西側では方形周溝墓・土器棺墓などが検出され、墓域としての性格を想定することができる。方形周溝墓・土器棺墓は分布域を異にしているようで、前者が90年度調査区、後者が89年度調査区でそれぞれ分布を密にする。場合によってはNR 03を境界としている可能性も考えられるが、SZ 16～22、SZ 30～32と多数の土器棺墓がNR 03の左岸にも分布しており、この点についてはひとまずおく。

E期

年代的には弥生時代中期の中葉に属する。遺構は、若干の土坑と溝を検出したにとどまり、不明瞭となる。詳細は不明。

F期

年代的には弥生時代中期の前葉に属する。今回の調査で最もまとまった数の遺構を検出している。分布域は90・91年度調査区に集中し、89年度調査区では未検出となる。遺構の分布域は、NR 05の両岸である。このうち性格が判明している遺構は、右岸のみで、方形周溝墓4基をはじめ、溝・土坑などが検出されている。遺構の分布状況は、比較的密となる。検出された方形周溝墓はいずれも四隅に陸橋部をもつ形状である。SZ 34～36は周溝を共有する。方形周溝墓が検出されたことを根拠に、墓域としての性格を考えることができ

る。また、SD 10 は、NR 05 に近接した地点から、ほぼ直線的に北西方向に伸びる溝である。規模から判断し、環濠である可能性をもつ。また、調査区の北側部分では、方向的にSD 10 と平行するSD 09 が存在する。堆土から、いずれも後述するⅢ－１期に属する遺物が出土していることから考え、これらはほぼ同一時期で、しかも有機的な関連性をもった施設であった可能性が強い。なお、SD 10 の埋没後にSZ 33 が構築されていることから、SD 10 は比較的短時間で埋没している可能性をもつ。

一方、左岸では若干の土坑を検出した。ただし 91 年度調査区のほとんどがNR 05 で占められている状況から、これらはいずれも調査区の縁辺部で検出されたものとなる。調査区の北側に、遺構がさらに広がる可能性はきわめて高い。（池本正明）

第2節　岡島Ⅰ期～Ⅴ期の設定

①

今回の報告書は、本書で度々触れているように、岡島遺跡としては二冊目に該当する。前回の報告書（『県道報告』）では、本書の第Ⅰ章第4節に記述したように、多量の土器が遺構差をもった状態で出土し、これらの資料を中心に、岡島遺跡に限定した弥生時代中期の土器編年が報告されている。ここでは、弥生時代中期の土器をⅠ期～Ⅳ期に大区分した後、それぞれをさらに2つに細分し、これを第二項目にアラビア数字を付与することで表現している。(以下、県道Ⅰ期、県道Ⅱ期、県道Ⅲ期、県道Ⅳ期と呼称する。)。具体的内容は、県道Ⅰ期が条痕文系土器、県道Ⅱ期が櫛描文系土器、県道Ⅲ期、県道Ⅳ期がⅡ期以来の伝統的な一群に凹線文系土器が加わる。

ところで、今回の調査でも本書で述べてきたように、弥生時代中期を中心とする多量の土器が出土している。本節ではこれらの資料を中心に、前回の編年作業の充実化をはかりたい。

再検討部分

②

まず、従来の作業を再検討の結果、時期区分上の問題点が指摘できた。ここでこれらを訂正するが、以下、変更点とその理由を明記する。

まず、県道Ⅰ期は、Ⅰ－1期とⅠ－2期に区分して考えたが、このうち前者を、以下に記述する県道Ⅰ－2期の理解の関係から、「Ⅰ期」とする。次に県道Ⅰ－2期であるが、この段階は、視覚的には器面調整に手法Ｄａまたは Ｄｂが多用され、大きくは条痕文系土器の範疇ではあろうが、甕に朝日形甕（石黒　1990）が含まれているほか、35に代表される壺Ａも存在する。従って、このような新たな要素を評価し、県道Ⅰ－2期と呼称してきたこの段階を、新たに「Ⅱ期」と呼称する。

県道Ⅱ期については、区分上の問題は存在しない。ただし、上記のように県道Ⅰ－2期を「Ⅱ期」とした関係上、これをそのまま「Ⅲ期」と呼称する。従って、Ⅲ期は、Ⅲ－1期とⅢ－2期に区分できる。

次に、県道Ⅲ・Ⅳ期についてであるが、これらの一群は、基本的にはⅢ期以来の伝統的

『県道報告』	修正案	
Ⅰ －1 －2	Ⅰ	岩滑
	Ⅱ	(　)
Ⅱ －1 －2	Ⅲ －1 Ⅲ －2	瓜郷
Ⅲ －1 －2	Ⅵ －1a －1b －2a －2b	古井
Ⅳ －1 －2		長床
	Ⅴ	山中

図96　編年対照表

な一群に、外来系である凹線文系土器が加わる状況を呈している。器種の消長は乏しい。このことから、今回はこれらを「IV期」として、同一概念で理解する。新名称は、県道III期をIV－１期、県道IV期をIV－２期とする。また、細分については、第三項目に小文字アルファベットをつけ区別する。具体的には、県道III－１期がIV－１ａ期、県道III－２期がIV－１ｂ期、県道IV－１期がIV－２ａ期、県道IV－２期がIV－２ｂとなる。

また、今回の調査では、弥生時代中期のほかに後期に属する土器も若干得ており、これを「V期」として新たに加える。

以上説明したように、『県道報告』の時期区分を変更し、以下この呼称を使用するが、煩雑になるので図96に『県道報告』との対照関係を提示しておく。なお、本文中で『県道報告』の遺構を引用する場合、丸括弧付で表現している。

③

ここでは前述のⅠ～Ⅵ期の具体的内容にふれる。なお、層位学的・型式学的前後関係などの手続きは、県道報告（池本　1990）に基づく。

Ⅰ期　　Ⅰ期の様相

基準資料は、(SD 30)。出土資料は乏しい。器種には、広口壺B・広口壺E・広口壺F・甕A・甕C・厚口鉢がある。器種は乏しく、比較的単純な組成となるが、量的な安定性を欠くため、明確にはできない。

Ⅰ期の土器は、大きくは条痕文系土器の範疇で、外面の調整は手法Ｄａを基本とする。調整工具は、判断できるものは貝殻が多い。

Ⅱ期　　Ⅱ期の様相

基準資料は、SK 11・SK 17・SD 12・SD 17 出土資料。器種には、広口壺A・広口壺B・広口壺E・広口壺F・細頸壺A・細頸壺B・無頸壺A・甕A・甕C・大鉢がある。広口壺A・細頸壺A・細頸壺B・大鉢は新器種。厚口鉢は消滅する。また、貝田町式や、須和田式の『平沢型』などがこれに加わる。器種はⅠ期と比較して増大する。

Ⅰ期の土器も、やはり条痕文系土器の範疇で、外面の調整は、手法Ｄａを基本とする。調整工具は、確認できるものは貝殻が多い。ヘラ・竹管など別工具による文様の付加もみられる。

Ⅲ期　　Ⅲ期の様相

基準資料には、SZ 33～36・SD 08・SD 09・SD 10・SX 06・(SD 24) 出土資料がある。器種には広口壺A・広口壺B・細頸壺A・細頸壺B・細頸壺C・細頸壺D・無頸壺A・無頸壺B・甕B・甕C・甕D・大鉢がある。細頸壺C・細頸壺D・細頸壺Ⅰ・無頸壺B・甕B・甕Dは新器種。広口壺E・広口壺F・甕Aは消滅する。また、嶺田・阿島式の一群や、いわゆる美濃型貝田町式がこれに加わる。器種はさらに増大するが、口縁部が「受け口」状を呈する細頸壺にその傾向が著しい。

Ⅲ期の土器は櫛描文系土器の範疇。前段階で貝田町式にみられた付加沈線磨消技法が、一般化するほか、頸部文様帯強調技法・黒色焼成技法の成立期に該当する。外面の調整は、

壺・甕を通じて横方向の手法Ｄｂによる。調整痕は、鋭く、深いものが多く、後述するⅣ期以後のいわゆるハケメ調整とは形状が若干異なる。

Ⅲ期は、Ⅲ－１期とⅢ－２期に細分する。この変化は遺構差にも現れ、Ⅲ－１期の内容をもつSD 10と、Ⅲ－２期の内容をもつSZ 33は重複しており、後者が前者を破壊している。型式差は、おもに壺の加飾法に現れる。なお、後者は前者に比較して、付加沈線磨消技法は省略傾向に、頸部文様帯強調技法は衰退するほか、文様構成も全体的に省略傾向をたどる。なお、施文原体は、ヘラ優位からクシｂ種優位へと変化する。

Ⅳ期　　Ⅳ期の様相

基準資料には、SZ 07・SD 07・SX 05・(SD 25)・(SX 08) 出土資料がある。器種には広口壺Ａ・広口壺Ｂ・広口壺Ｃ・広口壺Ｄ・広口壺Ｇ・広口壺Ｈ・広口壺Ｉ・広口壺Ｊ・細頸壺Ｂ・細頸壺Ｃ・細頸壺Ｄ・細頸壺Ｅ・細頸壺Ｆ・細頸壺Ｇ・細頸壺Ｈ・細頸壺Ｉ・無頸壺Ａ・無頸壺Ｂ・無頸壺Ｃ・甕Ｅ・甕Ｆ・甕Ｇ・甕Ｈ・大形鉢・大鉢・高杯Ａ・高杯Ｂがある。広口壺Ｃ・広口壺Ｄ・広口壺Ｇ・広口壺Ｈ・広口壺Ｉ・広口壺Ｊ・細頸壺Ｅ・細頸壺Ｆ・細頸壺Ｇ・細頸壺Ｈ・無頸壺Ｃ・甕Ｇ・甕Ｈ・高杯Ａ・高杯Ｂ・大形鉢は新器種。甕Ｃ・甕Ｄは消滅する。また、まれに超大形の壺も加わる。

Ⅳ期の土器はⅢ期からの伝統的な器種（在地系）に、外来系である回線文系土器が加わり、大きく二系統に区分できる。器種は、回線文系土器が構成因子に加わった関係上、Ⅲ期と比較して著しく増大する。

在地系では、壺の黒色焼成技法の完成期～崩壊期、肩部突出技法の成立期に該当する。壺の加飾法は、前段階に特徴的であった、付加沈線磨消技法・頸部文様帯強調技法が基本的に消滅し、クシによる直線文と波状文を重ねる形状がもっともスタンダードとなる。また、調整工具と施文原体とが分化し、クシａ種のような、特殊な原体を多用する。このクシａ種は、三河地域に特徴的な原体で、「ササラ」もしくは「ホウキ」のような形状が推定できるほど、１本１本が細く、そして深い独特ものとなる。甕は台付に変化し、台部柱状技法により独特な形状を呈する。

外来系は、在地系の特色である黒色焼成技法、肩部突出技法、台部柱状技法や施文原体にクシａ種の使用はみられず、高杯に連続成形技法や施文原体にクシｃ種・クシｄ種・クシｅ種などを特徴的に用いる。

Ⅳ期は、遺構差・型式差などを根拠として前後に区分（Ⅳ－１期・Ⅳ－２期）したのち、それぞれをさらに細分する。これらの差は、在地系優位の器種組成が外来系優位の構成へと変化していく過程として理解できる。なお、遺構の帰属時期は、Ⅳ－１期がSD 07・(SD 25)、Ⅳ－２ａ期がSX 05・(SX 08)、Ⅳ－２ｂ期がSZ 07である。

Ⅳ－１期の器種組成は、在地系が圧倒的優位で、外来系は散見されるにすぎない。壺では黒色焼成技法、肩部突出技法が特徴的で、施文原体にクシａ種を多用する。Ⅳ－Ⅰａ期とⅣ－Ⅰｂ期との差は、おもに壺の加飾法に現れ、器種の消長を伴うものではない。具体的には前者が、クシａ種とともにヘラによる斜格子文・斜線文・はね上げ文などを多用す

るもので、後者ではこれが基本的にクシａ種のみの単純構成となる。

Ⅳ－１ｂ期からⅣ－２期への変化は、在地系土器では、壺に特徴的となる。具体的には、黒色焼成技法の、色調が全体的に淡くなることが際立つ変化で、文様構成も、前者がクシａ種による直線文・波状文が主体であるのに対し、後者では、区画文１種の多用やクシａ種の使用頻度の低下がうかがえる。また、肩部突出技法はより明瞭に、体部の形状が四角をイメージできるほど発達する。また甕は、台部柱状技法が明瞭になるようである。一方、凹線文系土器は前者との比率が増大する方法で進み、明瞭な変化はうかがうことができない。また、Ⅳ－２ａ期とⅣ－２ｂ期との差は、外来系土器の占有率に現れる。

Ⅴ期

Ⅴ期の様相

基準資料は、SX 03・SX 04 出土資料。器種には広口壺K・広口壺L・短頸壺B・短頸壺C・短頸壺D・短頸壺E・短頸壺F・小形壺A・小形壺B・高杯C・高杯D・高杯F・高杯G・器台・甕Ⅰがある。Ⅳ期と器種の断絶性が非常に高く、前段階からの系譜を引く器種が現状では存在せず、すべて新器種となる。組成は不十分となる。器形の小型化、ミニチュア品の増大が特色で、いずれも外面の調整に、手法Ｃａを施すことが通有。黒色焼成技法、肩部突出技法、台部柱状技法はいずれも消滅する。

④

SK 17の位置

以下、上記の内容に若干の私見を加えまとめる。

Ⅰ期は、いわゆる「岩滑式」に該当する。縄文時代以来の伝統下に成立した一群。甕Cはいわゆる朝日式に起因する甕である。

Ⅱ期には、名古屋城三の丸遺跡下層遺構に類似する名称未命名の一群。広口壺Aの出現など、尾張低地及びその周辺部の要素が伝統的な要素に加わる。ここで注意しておきたいのが、SK 17 出土資料である。図版 46・47 に掲載したもののうち、ほとんどはこの段階の特色をよく示してはいるが、厚口鉢の存在や、甕Aの口端に施されるオシビキ文はむしろ前時期の特色といえる。なお、586 は貝田町式の壺である。SK 17 は、第２章第２節で述べているように、土坑ｂ１に分類される大型土坑で、埋土は自然堆積の様相を呈している。このような資料の存在が、SK 17 以外で検出されていない現状では、これを早急に一括性の高いものと判断することはできない。ただし、器壁の薄い甕Aなどが、良好な残存状況で数点出土していることは無視できない事実である。あるいはこの様な内容をもつ資料の位置づけが、Ⅱ期の成立に大きく関わってくる問題となるのかもしれない。

Ⅲ期は「瓜郷式」の範疇。貝田町式との類似性が高い。そうした点で、Ⅱ期段階に貝田町式が確実に存在していることは重要な事実と考えなければならないであろう。これと伝統的な条痕文系土器の相乗作用により、Ⅲ期の土器群が成立したことは先学によりすでに指摘されている。このように考えるのであれば、頸部文様帯強調技法も、貝田町式に特徴的な付加沈線磨消技法のデフォルメされたものと理解できるほか、Ⅳ期に特徴的に発達する黒色焼成技法の成立も、貝田町式を視覚的に模倣した結果と考えられる。

Ⅵ期は、前半が「古井式」、後半が「長床式」に該当する。学史によれば、大型品に特色

をみた前者と、小型品に特色をみた後者であったが、岡島遺跡の内容をみる限り、両者の差は加飾法など若干の相違でしかない。したがって、前者に回線文系土器の概念がすでに岡島遺跡に到達している事実と、布地系土器に回転台使用の痕跡が明瞭に読み取れる事実から、ここではこれらを時間差に起因した内的な変遷と理解し、同一概念でまとめた。Ⅳ期の内容は、いわゆる古井式とか長床式とか呼称された在地系の一群と、回線文系土器の一群で構成される。両者は、器形・手法・技法・文様など全く異なった概念下で製作されているが、部分的には融合し、両者の特色を兼ね備えた器種も出現させている。なお、Ⅳ期の内容は、器種構成上の断絶がⅤ期と著しく、さらにもう一段階、回線文系土器が圧倒的優位を占める時期（Ⅳ－３期）も想定できるが、岡島遺跡ではこうした内容をもつ資料を得てはいない。

Ⅴ期は、「山中式」に該当する。ただし、今回の調査では土器集積遺構を検出したに留まり、組成は不十分なものとなる。（池本正明）

参考・引用文献

石黒立人　1990「弥生中期土器にみる複数の系」『考古学フォーラム』1　愛知考古学談話会

石黒立人他　1990『阿弥陀寺遺跡』　愛知県埋蔵文化財センター

神谷友和　1988「愛知県安城市古井堤遺跡出土の条痕文土器」『古代』第86号　早稲田大学考古学会

久永春男　1966「弥生文化の発展と地域性　東海」『日本の考古学Ⅲ　弥生時代』

久永春男他　1963『瓜郷』　豊橋市遺跡調査会

松田　訓　1990「弥生時代中期の遺物」『名古屋城三の丸遺跡（1）』　愛知県埋蔵文化財センター

第3節　矢作川流域における沖積地の形成と遺跡の分布

昭和62年以降、本センターが実施してきた岡島遺跡の調査結果によれば、弥生期における旧河道は調査区内において少なくとも3～4条が確認され、分流あるいは合流して南下していることが明かとなった。これらの事実記載および科学分析による古環境の変遷等については、第II章第2節および第IV章に譲ることとして、ここではこれらの河川の営力による沖積地の形成を、遺跡分布の有り様から考えることとしたい。

弥生前期の水神平式土器を出土する遺跡は、清水・久麻久神社・十念坊遺跡の3例を数え、古地あるいは丘陵上に立地している(図97)。このことは、低地部分が居住に不向きな状況であったことを想起させる。いまだ後退せずに入り込んでいる入り江、もしくは湿地状の土地であったことが考えられる。清水・久麻久両遺跡からは海産性の貝類が出土しており、汀線が近かったことを示している。

中期の瓜郷式土器を出土する遺跡は、岡島・住崎遺跡が加わり、ここに初めて沖積地に立地する集落の出現を見るところとなった(絆97)。しかしその数は少なく、自然堤防上のごく限られた場所にのみ居住し得たことが伺われる。

遺跡の数が爆発的に増加するのは、古井・長床式（高蔵式）土器の時期であり、図98に示したように碧海台地縁辺部や丘陵上、沖積地などに分布が広がっている。とりわけ、これまで分布を見なかった南部の吉良町内にも、岡山丘陵に密集するかの如き分布状況を呈している。沖積地の自然堤防上に立地していないこの状況は、やはり居住に適した土地が沖積低地部分には見いだせなかったことを意味していると解さざるを得ない。その意味で、池端遺跡の存在は注目に値するが、やはり限られた中での自然堤防上の居住地であったのだろう。八ツ面町の松崎八反田・熊子山・久麻久神社遺跡などからはハイガイ・アカニシなどの貝殻が出土し、前二者からは石錘も出土している。明らかに、近辺に汀線があったことを伺わせる。海は南下せず、網状流となって流れる川の運搬した土砂は、吉良町北部や碧海台地寄りの部分に堆積したようである。八ツ面山より東方の岡島・毘沙門遺跡において、貝殻の出土を見ない事実は、海からの距離差を示していると解したい。

後期の山中式土器を出土する遺跡は、これらの遺跡に加えて更に吉良町の沖積地に現れてくる。とりわけ岡山丘陵の南に広がる沖積低地部分には、山ケ田・畑ケ仲遺跡と呼ばれる遺跡を含む広大な岡山南遺跡がある。発掘調査の手が加えられていないため、その規模や内容等が詳しく明らかにし得ないのが残念である。最も南に位置する遺跡は、新井前遺跡で、現在の標高2mの等高線状に位置している。このことは、瀬田遺跡や須西遺跡においても同様である。新井前遺跡からは海産性の貝の出土が確認されており、汀線の近きことを証左するものである。

矢作川下流域における弥生時代の沖積地と海岸線の状況を、以上の知見により推定すると、図98のごとき汀線が考えられる。

（大橋正明）

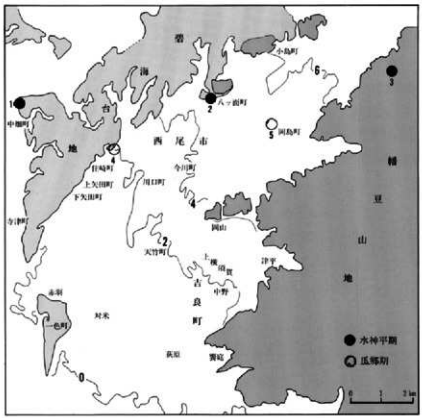


図 97　水神平期・瓜郷期の遺跡分布

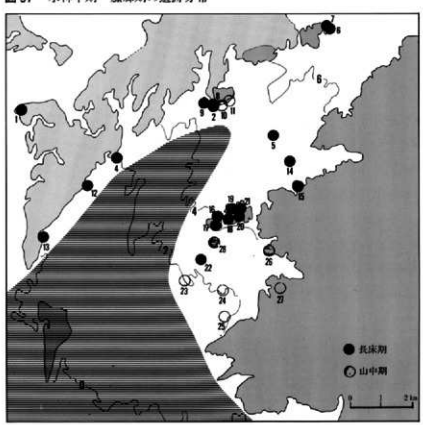


図 98　長床期・山中期の遺跡分布

6 不毛郭２遺跡
7 西山遺跡
8 熊子山遺跡
9 松崎八反田遺跡
10 新御堂遺跡
11 八ツ面南麓遺跡
12 川原遺跡
13 中縄遺跡
14 毘沙門遺跡
15 別曽山遺跡
16 中根山遺跡
17 曽山遺跡
18 善光寺遺跡
19 大岩山遺跡
20 山王山南遺跡
21 石流遺跡
22 池端遺跡
23 須西遺跡
24 瀬田遺跡
25 新井前遺跡
26 東条遺跡
27 大入遺跡
28 岡山南遺跡

第VI章　まとめ

岡島遺跡の今回の調査は、総面積 19000 ㎡にも及ぶ大規模なものとなった。調査成果は、前述のごとくである。本文にも触れているように、発掘調査により確認された遺構・遺物は、大きく 6 期にまとめることができた。ここではこれをふたたび日本史の時代区分にもどし、簡単にまとめる。

弥生時代

岡島遺跡の中心的な時期に該当する。今回の調査区は、遺跡の南側外縁部に該当することから、明瞭な遺構はあまり多数とはいえない。今回検出した遺構のうち、性格を推定できるものは、周溝墓や土器棺墓に多い。従って、これらの集中する 89･90 年度調査区は墓域としての性格をもつことが考えられる。また、91 年度調査区については、SB 02 の存在を評価し、居住域としての性格を推定できる。なお、同調査区に集中する土坑Aも、竪穴住居としての性格を付与することができるのであれば、これはさらに濃厚となる。つまり、今回の調査区では、NR 05 を挟んで東側に墓域、西側に居住域が展開していた様子を想定することができるのである。

ところで岡島遺跡では、今回の調査区北側部分に居住域が存在すると考えられてきた。この考え方は、西尾市教育委員会の調査で弥生時代後期の竪穴住居が検出されていることや、『県道報告』の、63 D･A区で土坑Aが集中して検出されていることともよく整合している。つまり岡島遺跡では、大きく二つ以上の居住域が設定されていた可能性が考えられるのである。ただし、遺跡の大部分が未調査である現状では断言することはできない。今後に委ねられた課題である。

古墳時代

遺構・遺物の分布は希薄であった。『県道報告』の第 1 面と一致し、基本的には蛇行する溝が若干検出されているに留まる。これらの遺構には、生活に直接関連するような性格は付与しがたく、弥生時代の集落がこの時代にはすでに解体または大幅に縮小していることを考えさせる。

平安時代～鎌倉時代

遺構の分布は希薄で、明瞭な遺構は 90 B区で検出されているにすぎない。90 B区で検出された掘立柱建物（SB 01）は、平安時代後期から活発化する遺跡の拡散現象に関連する動きとして理解できるのかもしれない。ただし、これは現在の岡島町集落とは直接の関連を

もたない。中世後期の遺物が希薄なこと、91年度調査区でまとまって出土している近世の遺物が、大規模な整地をともなっているからである。

科学分析

科学分析は、努めて多角的に実施した。その結果、矢作川下流域の古環境の変遷を考える重要な資料を提供する結果となった。今後こうした方法を利用して遺跡を取り巻く環境の変遷についても課題とし、比較資料を増大させることを急務と考えたい。ただし、今回の事例は、考古学と自然科学が基本的に異なった方法論に立脚するのが原因し、両者の整合性に不十分な点が若干みられた。今後の課題としておきたい。

（池本正明）

報告書抄録

フリガナ	オカジマイセキ2
書名	岡島遺跡II
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第43集
編著者名	池本正明・森勇一・松田訓・樋上昇・野本欽也・大橋正明・川井啓介・楯真美子・永草康次
編集機関	財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802−24
発行年	西暦1993年3月31日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	南緯 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
岡島 (オカジマ)	西尾市岡島町 (ニシオシ オカジマチョウ)	23213	55074	34°51′48″	137°5′38″	19860601 19860731 19890901 19900331 19900901 19910331 19911201 19920331	1900	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
岡島	集落跡	弥生時代	竪穴住居 方形周溝墓 土器棺墓	弥生土器 石器	弥生時代中期に属する多量の土器が出土している

主要遺構計測一覧

住居 (SB)

番　号	調査区別遺構番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	検出面	時期
SB01	90B1SE98~114,116~118	−	−	−	第1面	A期
02	91B1SB01	5.6	−		第2面	D期

土坑 (SK)

番　号	調査区別遺構番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	検出面	時期
SK01	90B,SK68,90B,SK47	−	8.0	0.5	第1面	A期
02	89A_1SK1001	2.6	1.7		第1面	B期
03	90A_1SK05	−	2.5	0.2	第2面	C期
04	90A_1SK44	−	3.5	0.2	第2面	D期
05	91A_1SK114	5.4	3.4	0.3	第2面	D期
06	91A_1SK132	4.6	3.4	0.2	第2面	D期
07	91A_1SK126	3.3	2.4	0.4	第2面	D期
08	91A_1SK117	1.2	0.7	0.5	第2面	D期
09	91A_1SK70	5.0	2.8	0.3	第2面	D期
10	90B,SK11	1.6	0.9	0.2	第3面	E期
11	90A_2SK133	4.7	1.0	0.5	第3面	F期
12	90A_2SK141	3.1	1.3	0.4	第3面	F期
13	90A_2SK145	2.7	0.9	0.4	第3面	F期
14	90A_2SK163	2.1	1.9	0.3	第3面	F期
15	90A_2SK153	2.9	2.1	0.5	第3面	F期
16	90A_2SK120	1.8	1.4	0.6	第3面	F期
17	90A_2SK167	7.0	5.4	0.7	第3面	F期
18	90A_2SK129	3.8	1.5	0.9	第3面	F期
19	90A_2SK111	2.0	1.7	0.2	第3面	F期
20	90B_2SK16	2.5	1.8	0.4	第3面	F期
21	90B_2SK17	−	1.1	0.6	第3面	F期
22	90B_2SK81	2.3	1.7	0.3	第3面	F期
23	90B_2SK72	2.6	1.9	0.3	第3面	F期
24	90B_2SK53	2.2	1.3	0.3	第3面	F期
25	90B_2SK58	1.7	1.2	0.4	第3面	F期
26	91A_2SK1005	1.7	1.1		第3面	F期
27	91A_2SK1006	−	1.1		第3面	F期
28	90A_2SK120	2.8	1.3	0.6	第3面	F期
29	90B_2SK03	5.2	2.1	0.2	第3面	F期
30	90B_2SK01	−	1.3	0.3	第3面	F期
31	90B_2SK07	1.0	0.5	0.2	第3面	F期

周溝墓、土器棺 (SZ)

番号	調査区別遺構番号	長辺(m)	短辺(m)	検出面	時期
SZ01	89B,SZ01周	9.7	−	第1面	B期
02	89B,SD31周	4.4	3.6	第1面	B期
03	89B,SD29周	(6.1)	−	第1面	B期
04	89B,SD30周	4.3	3.4	第1面	B期
05	90B,SZ01周	12.6	12.1	第2面	C期
06	89A_1SD1002周	9.5	7.8	第2面	D期
07	90A_1SZ01周	−	−	第2面	D期
08	90A_1SZ02周	−	−	第2面	D期
09	90A_1SZ03周	9.2	−	第2面	D期
10	89A_1土器16棺	−	−	第2面	D期
11	89A_1土器11棺	−	−	第2面	D期
12	89A_1土器86棺	−	−	第2面	D期
13	89A_1土器13棺	−	−	第2面	D期
14	89A_1土器1棺	−	−	第2面	D期
15	89A_1土器97棺	−	−	第2面	D期
16	89A_1土器23棺	−	−	第2面	D期
SZ17	89A_1土器26棺	−	−	第2面	D期
18	89A_1SZ04棺	−	−	第2面	D期
19	89A_1SZ05棺	−	−	第2面	D期
20	89A_1SZ03棺	−	−	第2面	D期
21	89A_1SZ01棺	−	−	第2面	D期
22	89A_1土器104棺	−	−	第2面	D期
23	89A_1土器110棺	−	−	第2面	D期
24	89B_1土器107棺	−	−	第2面	D期
25	89B_1土器102棺	−	−	第2面	D期
26	89B_1土器103棺	−	−	第2面	D期
27	89B_1土器115棺	−	−	第2面	D期
28	89B_1土器116棺	−	−	第2面	D期
29	89B_1土器131棺	−	−	第2面	D期
30	90B_1土器2棺	−	−	第2面	D期
31	90B_1土器3棺	−	−	第2面	D期
32	90B_1SK86棺	0.7	0.7	第2面	D期
33	90A_2SK165,142,141,166周	7.6	6.1	第3面	F期
34	90B_2SD05,06,09周	7.6	−	第3面	F期
35	90B_2SD08,09,10周	5.1	4.6	第3面	F期
36	90B_2SD88,21,SK18,25周	8.0	7.4	第3面	F期

井戸 (SZ)

番　号	調査区別遺構番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	検出面	時期
SE01	90B1SE01	−	−	1.3	第2面	C期

溝 (SD)

番　号	調査区別遺構番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	検出面	時期
SD01	90B,SD47	4.9	0.5	0.1	第1面	A期
02	90B,SD48	3.2	0.4	0.1	第1面	A期
03	89A_1SD10	−	1.0	0.4	第1面	B期
04	89B,SD34	18.3	0.7	0.1	第1面	B期
05	90A_1SD05	−	0.9	0.3	第2面	C期
06	91A_1SD02	9.5	0.2	0.1	第2面	D期
07	90B,SD01A	−	1.6	0.5	第3面	E期
08	90B,SD01B	−	3.5	0.6	第3面	F期
09	90A_2SD12	−	−	0.8	第3面	F期
10	90A_2SD07	−	1.6	0.6	第3面	F期
11	90A_2SD13	−	2.1	0.5	第3面	F期
12	90A_2SK149	7.6	1.8	0.3	第3面	F期
13	90B_2SD04	3.6	0.8	0.2	第3面	F期
14	90B_2SD11	5.9	1.5	0.2	第3面	F期
15	90B_2SD19	−	1.0	0.3	第3面	F期
16	90B_2SD07	12.1	1.7	0.5	第3面	F期
17	90A_2SD88	9.8	1.8	0.8	第3面	F期
18	90A_2SD18	4.4	0.8	0.2	第3面	F期

土器集積遺構 (SX)

番　号	調査区別遺構番号	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	検出面	時期
SX01	89A_1SX01	−	−	−	第1面	B期
02	90B_1SD88	−	−	−	第1面	B期
03	89A_2SX1001	−	−	−	第2面	C期
04	89A_1SX1002	−	−	−	第2面	C期
05	89A_1土器群	−	−	−	第2面	D期
06	90B_2SX01	5.2	3.9	0.2	第3面	F期

遺物計測一覧

土器・土製品

番号	口径	底径	器高	登録番号	色調	備考	容量cc	番号	口径	底径	器高	登録番号	色調	備考	容量cc
1	18.2	–	(29.0)			東部中学資料		63	6.7	–	–	62-E-93	灰		
2	–	5.2	(28.5)			東部中学資料		64	7.4	–	–	62-E-66	黒褐		
3	8.6	4.6	18.6			東部中学資料		65	6.0	–	–	62-E-86	黄灰		
4	–	7.4	(21.5)			東部中学資料		66	11.2	–	–	62-E-85	灰白	A29	
5	18.6	–	(8.0)			東部中学資料		67	5.6	–	–	62-E-101	灰白		
6	8.6	3.3	14.8			東部中学資料		68	10.4	–	–	62-E-1	オリーブ褐		
7	9.7	4.8	12.6			東部中学資料		69	29.7	–	–	62-E-63	明黄褐		
8	9.2	–	(5.2)			東部中学資料		70	28.6	–	–	62-E-64	黒褐		
9	–	–	(7.6)			東部中学資料		71	19.6	–	–	62-E-42	灰黄	A30	
10	23.2	–	(3.8)			東部中学資料		72	27.8	–	–	62-E-77	灰黄		
11	–	12.5	(10.4)			東部中学資料		73	–	7.7	–	62-E-5	暗灰黄		
12	8.3	–	(10.8)			東部中学資料		74	14.4	–	–	62-E-404	灰白	A2	
13	–	10.0	(7.9)			東部中学資料		75	–	–	–	62-E-394	暗灰黄		
14	–	13.8	(14.1)			東部中学資料		76	–	–	–	62-E-390	浅橙		
15	–	14.7	(11.6)			東部中学資料		77	14.4	–	–	62-E-387	灰黄		
16	–	–	(14.7)			東部中学資料		78	–	–	–	62-E-398	黄灰	A24	
17	15.3	7.8	25.0			東部中学資料		79	–	–	–	62-E-401	灰黄	A33	
18	–	8.1	(6.7)			東部中学資料		80	7.3	4.6	–	62-E-384	灰白		
19	–	6.4	(5.2)			東部中学資料		81	11.0	–	–	62-E-385	にぶい黄	A29	
20	–	4.1	(6.0)			東部中学資料		82	6.7	–	–	62-E-403	灰黄褐		
21	4.5	3.0	4.8			東部中学資料		83	–	8.8	–	62-E-393	灰白		
22	–	–	(12.2)			試掘資料		84	21.4	–	–	62-E-14	灰黄褐		
23	10.8	5.6	18.2			試掘資料		85	11.8	5.2	25.1	63-E-7	灰白		
24	10.9	4.3	19.7			試掘資料		86	8.0	–	–	63-E-6	灰オリーブ	A41	
25	9.7	3.0	6.6			試掘資料		87	11.6	6.3	22.3	63-E-27	灰黄	A48	
26	9.2	–	9.7			試掘資料		88	8.4	3.5	7.6	63-E-5	にぶい黄橙		
27	–	–	–	63-E-60	浅黄	27~46県道報告		89	19.0	–	–	63-E-3	浅黄	A42	
28	13.8	–	–	63-E-56	灰色			90	–	11.2	–	63-E-17	灰黄		
29	14.5	–	–	63-E-62	浅黄橙			91	19.6	–	–	63-E-29	灰オリーブ	A50	
30	–	8.6	–	63-E-57	にぶい黄橙			92	14.0	7.8	19.7	63-E-30	にぶい橙	A49	
31	–	–	–	63-E-75	にぶい黄橙			93	7.9	2.0	8.3	89A_1-E-5	にぶい黄橙		
32	–	5.2	–	63-E-74	浅黄橙			94	12.5	5.8	4.5	89A_1-E-4	にぶい黄橙		
33	–	–	–	63-E-79	浅黄			95	16.2	2.6	21.5	89A_1-E-21	橙		
34	–	–	–	63-E-78	浅黄			96	14.6	–	(18.0)	89A_1-E-2	にぶい黄褐		
35	21.8	8.4	–	63-E-98	にぶい黄橙	A-6		97	10.2	4.6	14.7	89A_1-E-24	黒褐		
36	9.8	–	–	63-E-53	にぶい黄橙			98	11.6	4.7	13.5	89A_1-E-29	暗灰黄		
37	12.8	–	–	63-E-55	にぶい赤褐			99	10.0	5.1	11.4	89A_1-E-22	にぶい黄橙		
38	–	–	–	63-E-50	明赤灰			100	–	2.7	(6.7)	89A_1-E-14	暗灰黄		
39	–	6.0	–	63-E-47	浅黄			101	–	5.0	(7.0)	89A_1-E-5	黒褐		
40	10.2	4.4	8.4	63-E-52	灰白			102	–	–	(7.8)	89A_1-E-7	黒		
41	–	–	–	63-E-49	浅黄			103	–	5.0	13.5	89A_1-E-1	黒褐		
42	–	6.2	–	63-E-48	灰黄褐			104	10.1	–	10.1	89A_1-E-18	にぶい黄褐		
43	17.0	7.2	41.5	62-E-417	黒褐	TP2		105	18.2	–	(6.2)	89A_1-E-8	にぶい黄褐		
44	16.0	6.3	35.1	62-E-102	灰			106	–	–	(7.5)	89A_1-E-12	暗灰黄		
45	21.0	–	–	62-E-219	オリーブ黒			107	–	–	(8.0)	89A_1-E-13	にぶい黄橙		
46	16.5	–	–	62-E-237	灰黄褐			108	–	–	(9.3)	89A_1-E-11	褐		
47	21.5	–	–	62-E-268		A15　TP6		109	–	12.7	(8.7)	89A_1-E-4	オリーブ褐		
48	18.9	–	–	62-E-221	黒褐	TP5		110	(18.0)	–	(4.7)	89A_2-E-388	にぶい橙		
49	6.7	–	–	62-E-117	黒褐	A18		111	(18.8)	–	(3.6)	89A_2-E-389	赤灰		
50	7.2	–	–	62-E-119	黒褐			112	16.4	–	(4.1)	89A_2-E-390	浅黄		
51	9.5	–	–	62-E-17	暗灰黄			113	–	5.5	(19.8)	89B_2-E-20	にぶい黄橙		
52	15.8	–	–	62-E-118	灰白			114	18.6	–	(28.2)	90B_2-E-35	浅黄		
53	7.7	2.8	8.9	62-E-218	黒			115	13.4	–	(25.4)	90B_2-E-64-1	にぶい褐		
54	13.9	–	–	62-E-204	黒			116	–	5.8	(17.4)	90B_2-E-64-2	にぶい赤褐		
55	37.0	7.2	31.1	62-E-270	灰オリーブ			117	18.3	6.9	34.4	89B_1-E-18	黄橙		
56	30.7	–	–	62-E-206	黒			118	18.0	–	(5.0)	89B_1-E-13	橙		
57	26.3	–	–	62-E-216	暗オリーブ褐			119	16.5	–	(12.9)	89B_1-E-19	にぶい橙		
58	24.6	–	–	62-E-267	オリーブ黒			120	15.9	–	(5.3)	89B_2-E-17	にぶい褐		
59	18.0	–	–	62-E-305	黒	A24		121	5.5	–	6.6	89B_1-E-21	にぶい橙		
60	11.4	5.3	35.6	62-E-84	黄灰	TP10		122	10.6	–	4.2	89A_1-E-1005	褐灰		
61	16.1	–	–	62-E-65	黒			123	–	7.0	–	90B_1-E-1004	灰白		
62	14.2	–	–	62-E-94	灰白			124	–	7.4	–	90B_1-E-1005	灰白		

番号	口径	底径	器高	登録番号	色調	備考	容量cc
125	−	3.6	−	90B_2−E−1012	灰白		
126	−	8.4	−	90B_1−E−1001	灰白		
127	7.4	−	−	90B_1−E−1002	灰		
128	−	−	−	90B_1−E−1006	灰白		
129	−	9.2	−	90B_1−E−1003	灰白		
130	13.4	−	−	89B_1−E−1011	灰白		
131	−	7.5	−	90B_2-E-1010	明褐灰		
132	7.4	4.9	1.9	90B_2-E-1015	にぶい黄橙		
133	12.0	5.9	3.7	90B_2-E-1017	にぶい黄橙		
134	12.8	6.1	3.8	90B_2-E-1016	にぶい橙		
135	124	5.5	4.3	90B_2-E-1014	にぶい黄橙		
136	11.9	−	−	90B_2-E-1013	にぶい橙		
137	−	15.9	−	90B_1-E-1019	にぶい黄橙		
138	12.8	−	−	89A_1-E-1005	灰白		
139	−	7.3	−	89A_1-E-1013	明褐灰		
140	−	7.2	−	89A_1-E-1007	明褐灰		
141	10.6	−	−	89B_1-E-1002	黄灰		
142	9.8	−	−	89B_1-E-1000	にぶい橙		
143	12.8	5.8	5.6	90A_1-E-1002	黄灰		
144	−	8.0	−	90A_1-E-1001	にぶい黄褐		
145	−	8.0	−	90A_1-E-1000	灰白		
146	−	−	−	89A_1-E-1014	にぶい褐		
147	13.9	5.5	5.2	89A_1-E-1000	灰白		
148	13.6	5.9	5.5	89A_1-E-1001	灰白		
149	15.2	−	−	89A_1-E-1024	灰白		
150	−	6.2	−	89A_1-E-1008	明褐灰		
151	−	6.6	−	89A_1-E-1031	灰白		
152	−	7.6	−	89A_1-E-1020	灰黄		
153	8.0	4.0	2.4	89A_1-E-1002	明褐灰		
154	8.5	5.8	1.8	89A_1-E-1029	明褐灰		
155	−	−	−	89A_1-E-1009	にぶい橙		
156	8.0	4.8	1.3	89A_1-E-1004	浅黄		
157	−	−	−	89A_1-E-1012	橙		
158	−	−	−	89A_1-E-1023	橙		
159	−	−	−	89A_1-E-1030	にぶい黄橙		
160	12.9	5.7	9.0	91B_1-E-1001	−		
161	10.5	4.2	7.2	91B_1-E-1002	−		
162	10.8	2.7	6.9	91B_1-E-1003	−		
163	10.5	4.8	6.9	91B_1-E-1004	−		
164	9.9	3.6	6.0	91B_1-E-1005	−		
165	11.7	5.7	6.9	91B_1-E-1006	−		
166	−	6.3	−	91B_1-E-1007	−		
167	11.7	3.3	5.7	91B_1-E-1008	−		
168	10.2	3.6	6.3	91B_1-E-1009	−		
169	11.7	3.9	4.2	91B_1-E-1010	−		
170	9.3	4.2	3.3	91B_1-E-1011	−		
171	4.8	4.4	2.4	91B_1-E-1012	−		
172	10.2	4.8	2.1	91B_1-E-1013	−		
173	8.1	4.5	6.3	91B_1-E-1014	−		
174	7.2	3.0	5.7	91B_1-E-1015	−		
175	9.6	4.2	5.1	91B_1-E-1016	−		
176	12.3	4.2	6.3	91B_1-E-1017	−		
177	13.8	8.1	3.9	91B_1-E-1018	−		
178	7.2	3.3	5.7	91B_1-E-1019	−		
179	−	−	254.5g	90B_2-E-327	にぶい橙	台盤状土製品	
180	−	−	42.7g	90B_1-E-31	にぶい黄橙	不明土製品	
181	−	−	92.3g	89A_1-E-386	にぶい黄橙	コップ状土製品	
182	−	−	20.0g	89A_1-E-398	灰黄褐	紡錘車	
183	6.5	6.2	32.4g	89A_2-E-1038	にぶい黄橙	加工円盤	
184	6.4	6.1	42.9g	89A_2-E-1040	褐灰	加工円盤	
185	7.0	6.2	30.4g	90A_1-E-1003	灰黄褐	加工円盤	
186	5.5	5.4	23.5g	90B_1-E-1018	浅黄	加工円盤	
187	6.7	6.5	47.6g	90A_1-E-1005	にぶい赤褐	加工円盤	
188	6.4	6.0	59.1g	89A_2-E-1037	明赤褐	加工円盤	

番号	口径	底径	器高	登録番号	色調	備考	容量cc
189	4.0	4.0	14.3g	90A_1-E-1013	黄灰	加工円盤	
190	6.6	5.5	45.7g	90A_1-E-1012	にぶい黄橙	加工円盤	
191	5.4	5.0	24.8g	90A_2-E-1014	褐灰	加工円盤	
192	6.2	5.9	35.8g	89A_1-E-1035	浅黄	加工円盤	
193	3.9	3.8	11.6g	90B_1-E-1019	灰褐	加工円盤	
194	4.5	4.2	10.7g	90A_1-E-1007	にぶい黄橙	加工円盤	
195	3.4	3.3	7.9g	90A_1-E-1010	橙	加工円盤	
196	4.2	3.9	14.4g	89A_1-E-1036	褐灰	加工円盤	
197	3.6	3.2	7.3g	90A_1-E-1008	灰褐	加工円盤	
198	5.1	4.9	21.6g	90A_1-E-1006	黒	加工円盤	
199	4.4	4.0	17.6g	90A_1-E-1009	褐灰	加工円盤	
200	4.2	3.6	15.4g	89A_1-E-1033	明黄褐	加工円盤	
201	4.9	4.5	26.4g	90A_1-E-1011	黒褐	加工円盤	
202	5.6	(4.1)	12.3g	90B_2-E-1020	浅黄	加工円盤	
203	3.7	3.5	12.2g	89A_2-E-1039	褐灰	加工円盤	
204	4.1	3.9	13.0g	90A_1-E-1004	にぶい黄橙	加工円盤	
205	3.9	3.5	10.3g	89A_2-E-1041	にぶい黄橙	加工円盤	
206	4.6	4.1	14.4g	89A_2-E-1042	浅黄	加工円盤	
207	3.5	3.4	8.5g	89A_1-E-1032	明黄褐	加工円盤	
208	3.9	3.7	9.8g	89A_1-E-1034	明赤褐	加工円盤	
209			5.4g	89A_2-M-1	−	銅銭	
210	23.6	−	(3.7)	90B_1-E-12	灰白		
211	−	7.3	(4.2)	90B_1-E-13	にぶい黄橙		
212	7.5	−	(7.4)	90B_1-E-2	にぶい黄橙		
213	9.8	−	(5.4)	90B_1-E-6	にぶい赤橙		
214	−	−	(6.2)	90B_1-E-4	にぶい黄橙		
215	−	−	(4.7)	90B_1-E-5-2	にぶい黄橙		
216	−	13.1	(1.6)	90B_1-E-11	にぶい黄橙		
217	−	13.0	(3.6)	90B_1-E-3	にぶい橙		
218	−	13.1	(2.3)	90B_1-E-7	浅黄橙		
219	8.2	3.8	8.3	90B_1-E-1	明褐灰		289
220	(19.4)	−	(2.1)	90B_1-E-19	にぶい赤褐		
221	−	−	(5.7)	90B_1-E-26	灰白		
222	−	(6.4)	(3.8)	90B_1-E-14	浅黄		
223	−	5.8	(5.2)	90B_1-E-15	浅黄橙		
224	−	−	(10.5)	90B_1-E-31	にぶい橙		
225	18.0	−	(8.3)	90B_1-E-16	灰黄		
226	−	(9.0)	(9.5)	90B_1-E-27	灰白		
227	−	−	(25.3)	90A_1-E-70	橙		
228	13.8	−	(3.0)	90A_1-E-62	浅黄		
229	−	7.0	(4.4)	90A_1-E-71	灰黄褐		
230	7.9	−	(16.2)	90A_1-E-74	にぶい黄橙		479
231	25.5	−	(4.4)	90A_1-E-62	浅黄		
232	25.7	−	(5.8)	90A_1-E-61	橙		
233	13.0	−	(8.4)	90A_1-E-73			
234	−	−	−	90A_1-E-63	橙		
235	−	16.0	(4.5)	90A_1-E-60	黄橙		
236	−	10.2	(6.1)	90A_1-E-59	灰白		
237	−	8.3	(5.3)	90A_1-E-66	明赤褐		
238	15.0	−	(5.3)	90A_1-E-69	にぶい黄橙		
239	15.0	−	(13.1)	90A_1-E-64	黒褐		1,136
240	−	8.5	(7.6)	90A_1-E-69	橙		
241	10.7	3.9	3.1	90A_1-E-87	にぶい黄橙		93
242	10.7	14.2	6.6	90A_1-E-88	にぶい黄橙		468
243	16.9	5.2	31.4	89A_2-E-37	にぶい橙		7,714
244	10.5	5.0	13.0	89A_2-E-38	橙		1,108
245	8.9	6.1	10.3	89A_2-E-39	明褐		762
246	8.3	−	9.1	89A_2-E-53	橙		352
247	8.4	4.0	10.3	89A_2-E-51	橙		364
248	9.2	5.2	11.2	89A_2-E-59	灰白		621
249	11.0	4.9	14.2	89A_2-E-70	橙		1,120
250	9.8	12.7	22.7	89A_2-E-55	橙		1,028
251	9.6	−	(16.8)	89A_2-E-42	明褐		643
252	8.2	−	17.1	89A_2-E-66	橙		680

番号	口径	底径	器高	登録番号	色　調	備　考	容量cc	番号	口径	底径	器高	登録番号	色　調	備　考	容量cc
253	7.3	−	(14.5)	89A$_1$-E-65	橙		396	317	9.6	5	16.0	90A$_1$-E-54	暗灰		2,940
254	7.7	3.1	16.0	89A$_1$-E-43	橙		809	318	−	11.4	(4.6)	90A$_1$-E-31	灰白		
255	(6.0)	11.6	(14.3)	89A$_1$-E-67	明褐			319	−	4.8	(12.5)	90A$_1$-E-42	褐灰		
256	5.8	2.2	6.8	89A$_1$-E-61	にぶい橙		89	320	−	7.3	(11.0)	90A$_1$-E-14	灰白		
257	5.8	3.0	7.5	89A$_1$-E-52	明赤褐		100	321	−	5.1	(3.7)	90A$_1$-E-37	黒褐		
258	5.9	3.6	7.4	89A$_1$-E-62	明赤褐		148	322	−	8.3	(15.2)	90A$_1$-E-1	淡茶褐		
259	5.3	3.0	7.8	89A$_1$-E-63	橙		128	323	−	6.1	(20.5)	90A$_1$-E-43	にぶい黄橙		
260	5.9	3.2	6.5	89A$_1$-E-41	橙		58	324	−	5.0	(11.8)	90A$_1$-E-4	灰		
261	5.5	3.1	7.8	89A$_1$-E-60	明褐		146	325	−	3.9	6.6	90A$_1$-E-3	赤褐		
262	5.1	3.1	7.3	89A$_1$-E-49	明赤褐		118	326	19.0	−	(11.3)	90A$_1$-E-12	にぶい褐		
263	6.6	4.0	7.2	89A$_1$-E-50	にぶい橙		72	327	−	11.3	(10.5)	90A$_1$-E-26	灰黄褐		
264	6.0	3.7	7.0	89A$_1$-E-48	にぶい橙		37	328	−	−	6.5)	90A$_1$-E-25	にぶい橙		
265	10.8	10.8	14.5	89A$_1$-E-47	にぶい橙		506	329	17.8	9.4	14.6	90A$_1$-E-112	淡茶褐		909
266	8.5	9.2	15.2	89A$_1$-E-44	橙		479	330	12.0	6.0	4.4	90A$_1$-E-55	にぶい黄橙		243
267	9.1	−	(14.0)	89A$_1$-E-69	にぶい橙		521	331	24.0	−	(18.0)	90A$_1$-E-51	暗褐		
268	12.4	9.1	12.5	89A$_1$-E-45	明褐		502	332	20.0	−	(19.8)	90A$_1$-E-15	にぶい黄橙		
269	13.1	(10.2)	13.6	89A$_1$-E-71	橙		491	333	20.5	−	(4.4)	90A$_1$-E-27	にぶい黄橙		
270	13.1	10.8	13.5	89A$_1$-E-54	橙		542	334	18.4	−	(16.8)	90A$_1$-E-56	灰褐		
271	12.6	10.4	16.2	89A$_1$-E-64	橙		821	335	17.9	−	(10.2)	90A$_1$-E-53	淡茶褐		
272	10.2	3.2	7.6	89A$_1$-E-58	にぶい橙		445	336	18.7	−	(11.0)	90A$_1$-E-34	黒褐		
273	11.1	3.6	4.8	89A$_1$-E-73	灰白		142	337	19.0	−	(3.5)	90A$_1$-E-212	明褐		
274	9.5	2.2	4.9	89A$_1$-E-40	にぶい橙		107	338	−	−	(10.7)	90A$_1$-E-47	灰黄褐		
275	21.4	7.5	27.0	89A$_1$-E-155	にぶい橙		7,128	339	−	−	(11.8)	90A$_1$-E-46	褐		
276	7.3	4.7	10.2	89A$_1$-E-87	橙		305	340	−	11.1	(7.3)	90A$_1$-E-23-1	黒褐		
277	(6.5)	4.0	8.3	89A$_1$-E-85	にぶい橙		212	341	−	7.3	(3.5)	90A$_1$-E-30	橙		
278	−	−	(10.5)	89A$_1$-E-80	橙			342	−	9.2	(7.0)	90A$_1$-E-32	にぶい橙		
279	10.4	−	(10.8)	89A$_1$-E-75	にぶい橙		996	343	−	9.6	(7.4)	90A$_1$-E-23-2	黒褐		
280	−	9.2	(10.9)	89A$_1$-E-77	浅黄			344	19.6	−	(8.4)	90A$_1$-E-8	にぶい赤褐		
281	11.0	9.6	12.8	89A$_1$-E-74	にぶい橙		460	345	−	14.0	(5.0)	90A$_1$-E-29	にぶい橙		
282	8.2	4.9	9.0	89A$_1$-E-86	浅黄橙		176	346	33.1	−	(17.6)	90A$_1$-E-13	灰白		
283	(7.6)	4.6	7.2	89A$_1$-E-78	にぶい橙		65	347	22.7	−	(25.8)	90A$_1$-E-9	茶褐	TP43	
284	7.1	5.1	7.4	89A$_1$-E-90	にぶい橙		80	348	−	8.6	(5.4)	90A$_1$-E-24	にぶい黄橙		
285	7.0	4.0	6.7	89A$_1$-E-89	浅黄橙		65	349	−	4.9	(25.6)	89A$_2$-E-192	黄灰		
286	4.2	2.9	4.6	89A$_1$-E-79	橙		15	350	−	5.8	(18.0)	89A$_2$-E-191	黒褐		
287	−	5.9	(7.6)	89A$_1$-E-83	浅黄橙			351	−	10.4	(39.2)	89A$_2$-E-206	にぶい橙		
288	11.7	4.8	6.9	89A$_1$-E-88	にぶい橙		430	352	−	4.6	(10.0)	89A$_2$-E-201	黒褐		
289	12.4	4.2	16.3	89A$_1$-E-84	にぶい橙		133	353	−	4.8	(25.5)	89A$_2$-E-199	オリーブ黒		
290	6.4	4.2	6.9	89A$_1$-E-82	にぶい橙		89	354	−	4.6	(26.0)	89A$_2$-E-153	黄灰		
291	11.2	6.2	12.5	89A$_1$-E-76	橙		491	355	−	−	(16.7)	89A$_2$-E-168	浅黄		
292	14.9	8.0	23.3	89A$_1$-E-46	にぶい橙		2,607	356	26.7	7.0	52.0	89A$_2$-E-169	にぶい黄橙		34,984
293				91B$_1$-E-1-1				357	−	9.6	(38.4)	89A$_2$-E-171	にぶい橙		
294				91B$_1$-E-1-2				358	−	−	−	89A$_2$-E-165	にぶい黄橙		
295	−	−	(16.9)	89A$_1$-E-156	黄灰			359	−	9.6	(30.4)	89A$_2$-E-170	にぶい黄橙		
296	−	5.4	(23.4)	89A$_1$-E-179	黒			360	−	−	(22.7)	89A$_2$-E-172	灰黄褐		
297	−	8.0	(35.7)	89A$_1$-E-204	にぶい橙			361	−	11.0	(34.5)	89A$_2$-E-92	にぶい橙		
298	−	4.2	(8.4)	89A$_1$-E-17	浅黄橙			362	−	8.2	(19.7)	89A$_2$-E-203	明黄褐		
299	−	4.5	(10.0)	89A$_1$-E-198	褐灰			363	36.6	7.5	79.9	89B$_1$-E-20	にぶい黄橙		132,279
300	14.0	−	(14.2)	89A$_1$-E-151	灰黄褐			364	28.0	−	(67.2)	89B$_1$-E-21	橙		
301	19.6	−	(8.4)	90A$_1$-E-8	にぶい赤褐			365	33.6	5.1	32.0	89B$_1$-E-10	褐灰		26,586
302	−	−	(12.4)	90A$_1$-E-10	褐灰			366	31.9	6.3	33.0	89B$_1$-E-11	橙		23,734
303	−	−	(13.9)	90A$_1$-E-16	暗灰			367	−	5.9	(21.0)	90B$_1$-E-48	黒褐		
304	−	−	(9.0)	90A$_1$-E-45	にぶい赤褐			368	−	−	(20.5)	90B$_1$-E-67	黒褐		
305	26.0	−	(17.3)	90A$_1$-E-5	にぶい黄橙			369	−	4.5	(22.5)	90B$_1$-E-68			
306	25.3	−	(21.1)	90A$_1$-E-11	灰白			370	−	−	(23.5)	91A$_1$-E-14	にぶい橙		
307	23.6	−	46.5)	90A$_1$-E-35	にぶい黄橙			371	14.2	−	(35.9)	89A$_2$-E-272	黒		
308	12.2	5.0	27.1	90A$_1$-E-56	灰		5,357	372	23.6	−	(14.0)	89A$_2$-E-247	にぶい黄橙		
309	17.1	5.4	38.8	90A$_1$-E-2	黒褐		18,656	373	20.5	−	(10.4)	89A$_2$-E-221	浅黄		
310	−	4.8	(25.7)	90A$_1$-E-6	黒褐			374	−	−	(29.5)	89A$_2$-E-294	黄灰		
311	−	4.5	(25.8)	90A$_1$-E-48	灰			375	24.6	−	(11.8)	89A$_2$-E-350	浅黄橙		
312	−	−	(12.0)	90A$_1$-E-7	にぶい赤褐			376	15.8	4.9	34.0	89A$_2$-E-260	黄灰		12,059
313	−	−	(15.9)	90A$_1$-E-44	黄灰			377	15.4	−	(24.5)	89A$_2$-E-282	にぶい黄橙		
314	9.3	5.8	22.1	90A$_1$-E-57	暗灰		2,305	378	16.5	−	(24.1)	89A$_2$-E-281	暗灰黄		
315	8.7	−	47.3)	90A$_1$-E-17	灰黄褐			379	(16.2)	−	(28.9)	89A$_2$-E-253	灰		
316	12.5	7.9	39.5	90A$_1$-E-49	黒褐		6,980	380	(17.0)	−	(8.7)	89A$_2$-E-343	灰		

番号	口径	底径	器高	登録番号	色調	備考	容量cc
381	16.5	−	(29.4)	89A_2-E-245	黄灰		
382	16.7	−	(10.4)	89A_2-E-235	灰白		
383	18.0	−	(15.5)	89A_2-E-208	灰黄褐		
384	16.7	−	(18.3)	89A_2-E-234	暗灰黄		
385	17.8	−	(8.0)	89A_2-E-363	黄灰		
386	14.6	−	(21.3)	89A_2-E-269	褐灰		
387	16.6	−	(9.5)	89A_2-E-369	黒褐		
388	16.4	−	(5.9)	89A_2-E-362	褐灰		
389	17.4	−	(9.0)	89A_2-E-364	灰黄		
390	19.2	−	(21.2)	89A_2-E-376	褐灰		
391	16.5	−	(22.9)	89A_2-E-240	黒		
392	16.7	−	(10.3)	89A_2-E-246	黄灰		
393	16.4	−	(7.5)	89A_2-E-359	黄灰		
394	15.5	−	(5.0)	89A_2-E-366	灰黄		
395	−	5.1	(32.5)	89A_2-E-285	暗赤灰		
396	−	7.2	(22.2)	89A_2-E-286	黄灰		
397	−	4.8	(25.3)	89A_2-E-217	黒		
398	15.7	−	(19.5)	89A_2-E-250	黄灰		
399	18.8	−	(5.0)	89A_2-E-265	灰黄褐		
400	17.1	−	(19.2)	89A_2-E-251	黒		
401	27.0	−	(5.0)	89A_2-E-380	灰黄褐		
402	21.7	−	(10.6)	89A_2-E-377	浅黄橙		
403	26.1	−	(17.0)	89A_2-E-287	にぶい黄橙	赤彩	
404	17.6	8.0	36.1	89A_2-E-292	橙		13,821
405	19.4	9.0	(31.2)	89A_2-E-258	橙		11,240
406	−	6.2	(25.0)	89A_2-E-261	にぶい黄橙		
407	10.1	5.0	22.6	89A_2-E-32	黒褐		2,091
408	7.6	−	(10.4)	89A_2-E-378	灰白		
409	15.4	−	−	89A_2-E-36	暗褐		
410	8.0	−	(5.1)	89A_2-E-344	灰黄		
411	8.1	−	(7.9)	89A_2-E-347	赤黒		
412	6.2	5.9	23.3	89A_2-E-137	灰白		2,270
413	7.4	−	(9.0)	89A_2-E-226	灰		
414	8.5	−	(22.7)	89A_2-E-271	灰黄褐		
415	7.8	4.9	22.4	89A_2-E-140	にぶい黄橙		2,049
416	(8.0)	−	(5.7)	89A_2-E-323	黄灰		
417	10.1	−	(6.5)	89A_2-E-295	にぶい黄橙		
418	9.4	−	(5.1)	89A_2-E-331	浅黄橙		
419	10.2	−	(6.0)	89A_2-E-297	にぶい黄橙		
420	9.7	−	(5.0)	89A_2-E-303	にぶい黄橙		
421	−	−	(19.2)	89A_2-E-157	灰		
422	−	−	(8.0)	89A_2-E-324	褐灰		
423	−	4.9	(19.3)	89A_2-E-209	黒		
424	−	4.9	(17.4)	89A_2-E-220	にぶい黄橙	赤彩	
425	−	6.0	(17.8)	89A_2-E-228	黒		
426	−	5.5	(20.0)	89A_2-E-216	にぶい黄橙		
427	−	4.7	(15.4)	89A_2-E-243	灰白		
428	−	5.3	(14.2)	89A_2-E-213	浅黄		
429	−	5.0	(10.1)	89A_2-E-215	灰白		
430	−	4.0	(12.5)	89A_2-E-33	にぶい黄橙		
431	−	−	−	89A_2-E-327	褐灰		
432	−	−	−	89A_2-E-325	黒褐		
433	−	−	−	89A_2-E-336	にぶい黄橙		
434	−	−	−	89A_2-E-392	暗灰黄		
435	−	−	−	89A_2-E-394	黄灰		
436	−	−	−	89A_2-E-395	黒		
437	−	−	−	89A_2-E-379	灰黄褐		
438	−	−	−	89A_2-E-330	にぶい黄橙		
439	−	−	−	89A_2-E-397	黒褐		
440	−	−	−	89A_2-E-393	黒		
441	−	−	−	89A_2-E-396	黒		
442	−	−	−	89A_2-E-335	にぶい黄橙		
443	−	−	−	89A_2-E-328	橙		
444	−	−	−	89A_2-E-340	灰褐		
445	−	−	−	89A_2-E-308	にぶい黄橙		
446	−	−	−	89A_2-E-332	橙		
447	19.4	−	(4.6)	89A_2-E-284	褐灰		
448	13.6	11.4	13.2	89A_2-E-283	黒褐		347
449	42.2	−	(24.0)	89A_2-E-249	赤褐		
450	30.0	5.8	21.1	89A_2-E-248	にぶい黄橙		10,014
451	29.9	−	(13.5)	89A_2-E-314	灰黄褐		
452	18.8	−	(10.4)	89A_2-E-352	灰黄		
453	24.1	−	(9.5)	89A_2-E-296	黒褐		
454	23.0	−	(22.8)	89A_2-E-91	灰黄		
455	(21.5)	−	(14.9)	89A_2-E-342	にぶい黄橙		
456	−	8.8	(9.3)	89A_2-E-312	にぶい橙		
457	−	8.0	(11.2)	89A_2-E-368	褐灰		
458	19.1	−	(23.9)	90B_1-E-39	黒褐		
459	−	−	−	90B_1-E-37	灰黄褐		
460	−	4.8	(2.4)	90B_1-E-38	黒		
461	(15.7)	−	(3.8)	90B_2-E-94	黄灰		
462	(19.6)	−	(8.1)	90B_2-E-100	灰白		
463	−	−	−	90B_2-E-86	にぶい黄橙		
464	−	−	−	90B_2-E-98	黄灰		
465	−	−	−	90B_2-E-90	黒褐		
466	−	−	−	90B_2-E-99-①	灰		
467	−	−	−	90B_2-E-99-②	灰		
468	−	−	−	90B_2-E-96	黄灰		
469	−	−	−	90B_2-E-89	灰		
470	−	−	−	90B_2-E-88	灰		
471	−	−	−	90B_2-E-87	暗灰黄		
472	(10.2)	7.3	10.1	90B_2-E-101	にぶい黄橙		286
473	−	−	(2.8)	90B_2-E-93	にぶい橙		
474	−	(9.0)	(3.5)	90B_2-E-91	オリーブ黒		
475	−	−	−	90A_2-E-141	灰黄褐		
476	−	−	−	90A_2-E-144	にぶい黄橙		
477	−	−	−	90A_2-E-148	にぶい橙		
478	−	−	−	90A_2-E-143	灰黄褐		
479	−	−	−	90A_2-E-146	にぶい黄橙		
480	−	−	−	90A_2-E-152	淡黄		
481	−	−	−	90A_2-E-147	にぶい黄橙		
482	−	−	−	90A_2-E-149	にぶい橙		
483	−	−	−	90A_2-E-150	にぶい黄褐		
484	−	−	−	90A_2-E-151	黒		
485	−	−	−	90A_2-E-153	暗灰黄		
486	−	−	−	90A_2-E-145	赤黒		
487	−	−	−	90A_2-E-142	にぶい黄		
488	(6.0)	(4.6)	19.0	90A_2-E-48	暗灰黄		1,408
489	−	−	−	90A_2-E-50	灰オリーブ		
490	−	−	−	90A_2-E-61	黄灰		
491	−	−	−	90A_2-E-60	黒		
492	−	−	−	90A_2-E-49	黄灰		
493	−	−	−	90A_2-E-56	黒		
494	−	−	−	90A_2-E-57	黄灰		
495	−	−	−	90A_2-E-62	にぶい褐		
496	−	−	−	90A_2-E-55	黒褐		
497	−	−	−	90A_2-E-59	黒褐		
498	−	5.6	(2.0)	90A_2-E-65	黒褐		
499	−	5.6	(2.0)	90A_2-E-52	橙		
500	−	−	−	90A_2-E-64	にぶい黄橙		
501	−	−	−	90A_2-E-51	灰黄褐		
502	7.5	4.3	23.8	90B_2-E-196	黒褐		2,022
503	−	−	−	90B_2-E-200	黒褐		
504	−	−	−	90B_2-E-201	黒		
505	−	−	−	90B_2-E-197	暗灰黄		
506	−	−	−	90B_2-E-326	黒褐		
507	−	−	(18.9)	90B_2-E-195	褐灰		
508	30.6	4.8	28.4	90B_2-E-194	黒褐		7,793

番号	口径	底径	器高	登録番号	色調	備考	容量cc
509	－	－	－	90B$_2$-E-220	にぶい黄		
510	－	－	－	90B$_2$-E-221	暗褐		
511	7.5	3.9	26.7	90B$_2$-E-215	黒褐		2,852
512	－	－	－	90B$_2$-E-222	赤黒		
513	－	－	－	90B$_2$-E-319	灰黄褐		
514	－	－	－	90B$_2$-E-321	黒褐		
515	－	－	－	90B$_2$-E-21	黒褐		
516	－	－	－	90B$_2$-E-26	浅黄		
517	－	－	－	90B$_2$-E-22	にぶい黄橙		
518	－	－	－	90B$_2$-E-27	灰黄褐		
519	(16.8)	－	(8.4)	90A$_2$-E-37	灰		
520	16.0	－	(7.9)	90A$_2$-E-34	にぶい黄橙		
521	－	－	－	90A$_2$-E-44	にぶい黄橙		
522	12.4	－	(7.0)	90A$_2$-E-35	暗赤灰		
523	－	－	－	90A$_2$-E-45	灰黄褐		
524	－	－	－	90A$_2$-E-38-1	褐灰		
525	－	－	－	90A$_2$-E-38-2	褐灰		
526	－	－	－	90A$_2$-E-47	褐灰		
527	(28.2)	－	(9.5)	90A$_2$-E-40	にぶい黄橙		
528	(38.6)	－	(13.8)	90A$_2$-E-42	灰褐		
529	－	－	－	90A$_2$-E-46-1	黒褐		
530	－	－	－	90A$_2$-E-46-2	黒褐		
531	(31.0)	－	(9.0)	90A$_2$-E-43	灰白		
532	(34.4)	－	(13.2)	90A$_2$-E-41	淡黄		
533	－	－	－	90A$_2$-E-205	灰白		
534	－	－	－	90A$_2$-E-213	灰黄褐		
535	－	－	－	90A$_2$-E-210	灰黄褐		
536	－	－	－	90A$_2$-E-209	赤灰		
537	－	－	－	90A$_2$-E-200	黒褐		
538	－	－	－	90A$_2$-E-203	にぶい赤褐		
539	－	－	－	90A$_2$-E-207	褐灰		
540	21.8	－	(8.5)	90A$_2$-E-176	赤褐		
541	4.8	－	(4.7)	90A$_2$-E-179-2	にぶい黄橙		
542	－	－	－	90A$_2$-E-252	黒褐		
543	－	－	(14.8)	90A$_2$-E-177	黒		
544	－	－	－	90A$_2$-E-188	黒		
545	－	－	－	90A$_2$-E-184	にぶい黄褐		
546	－	5.4	(3.0)	90A$_2$-E-189	にぶい黄橙		
547	26.3	－	(11.3)	90A$_2$-E-179-1	にぶい黄褐		
548	18.8	－	(16.2)	90A$_2$-E-178-1	黒褐		
549	－	(6.6)	－	90A$_2$-E-178-2	黒褐		
550	－	－	－	90A$_2$-E-183	褐		
551	－	－	－	90A$_2$-E-180	黒褐		
552	－	－	－	90A$_2$-E-181	黒褐		
553	－	－	－	90A$_2$-E-187	黒褐		
554	－	－	－	90A$_2$-E-185	にぶい黄褐		
555	－	4.3	(9.6)	90A$_2$-E-167	黒褐		
556	－	－	－	90A$_2$-E-166	にぶい黄褐		
557	－	－	－	90A$_2$-E-165	黒		
558	－	－	－	90A$_2$-E-164	黒褐		
559	－	－	－	90A$_2$-E-195	黒褐		
560	－	4.1	(12.4)	90A$_2$-E-168	にぶい褐		
561	－	5.4	(9.8)	90A$_2$-E-191	褐		
562	－	－	－	90A$_2$-E-123	黒褐		
563	12.7	－	(6.0)	90A$_2$-E-128	にぶい黄橙		
564	－	5.1	(26.6)	90A$_2$-E-127	灰白		
565	－	－	(21.2)	90A$_2$-E-125-1	にぶい黄橙		
566	－	5.5	(6.0)	90A$_2$-E-125-2	にぶい黄橙		
567	－	6.1	(2.0)	90A$_2$-E-134	にぶい褐		
568	－	4.6	(4.8)	90A$_2$-E-138	灰褐		
569	(14.1)	－	(9.4)	90A$_2$-E-169	灰オリーブ		
570	－	－	－	90A$_2$-E-171	灰黄		
571	－	－	－	90A$_2$-E-170	灰黄褐		
572	－	－	－	90A$_2$-E-173	暗灰黄		

番号	口径	底径	器高	登録番号	色調	備考	容量cc
573	20.9	－	(11.5)	90A$_2$-E-124	黄褐		
574	15.5	－	(6.0)	90A$_2$-E-81	にぶい黄橙		
575	14.6	－	(4.7)	90A$_2$-E-88	にぶい黄褐		
576	－	－	－	90A$_2$-E-115	にぶい黄		
577	－	－	－	90A$_2$-E-100	灰黄		
578	－	－	－	90A$_2$-E-107	灰オリーブ		
579	－	－	－	90A$_2$-E-120	にぶい黄橙		
580	－	－	－	90A$_2$-E-119	にぶい褐		
581	－	－	－	90A$_2$-E-103	にぶい黄褐		
582	－	－	(7.5)	90A$_2$-E-74	黒褐		
583	－	－	－	90A$_2$-E-102	灰黄		
584	－	－	－	90A$_2$-E-112	灰黄		
585	－	－	－	90A$_2$-E-111	灰黄褐		
586	－	6.0	(20.3)	90A$_2$-E-66	黒褐		
587	－	6.9	(10.1)	90A$_2$-E-67	灰黄褐		
588	－	7.9	(3.0)	90A$_2$-E-87	暗褐		
589	－	5.7	(5.0)	90A$_2$-E-85	黒褐		
590	－	7.1	(5.7)	90A$_2$-E-93	にぶい黄橙		
591	－	6.9	(6.0)	90A$_2$-E-86	にぶい褐		
592	－	6.6	(3.5)	90A$_2$-E-84	にぶい黄橙		
593	－	6.1	(2.7)	90A$_2$-E-78	黒褐		
594	－	7.0	(2.3)	90A$_2$-E-90	にぶい黄褐		
595	－	6.5	(1.5)	90A$_2$-E-94	明赤褐		
596	－	－	－	90A$_2$-E-117	灰オリーブ		
597	－	－	－	90A$_2$-E-116	灰白		
598	－	－	－	90A$_2$-E-118	灰白		
599	－	－	－	90A$_2$-E-99	黄褐		
600	13.5	－	(6.8)	90A$_2$-E-80	明赤褐		
601	28.6	－	(6.3)	90A$_2$-E-68	黒		
602	34.5	－	(18.0)	90A$_2$-E-71	黒褐		
603	27.8	－	(19.5)	90A$_2$-E-70	黒		
604	29.0	－	(4.0)	90A$_2$-E-82	黒褐		
605	30.0	－	(7.6)	90A$_2$-E-76	黒褐		
606	－	－	(18.3)	90A$_2$-E-69	黒		
607	30.0	－	(13.3)	90A$_2$-E-72	黒褐		
608	25.5	－	(6.8)	90A$_2$-E-92	黒褐		
609	－	－	－	90A$_2$-E-122	にぶい黄橙		
610	－	－	－	90A$_2$-E-98	暗灰黄		
611	－	5.4	(7.4)	90A$_2$-E-83	にぶい赤褐		
612	－	5.8	(3.3)	90A$_2$-E-79	黒褐		
613	－	4.5	(2.0)	90A$_2$-E-77	黒褐		
614	－	－	－	90A$_2$-E-199	浅黄		
615	－	(7.6)	(4.8)	90A$_2$-E-197	灰黄		
616	(29.6)	－	(8.9)	90A$_2$-E-196	黄灰		
617	16.3	－	(19.9)	90B$_2$-E-5	灰黄褐		
618	－	6.1	(23.7)	90B$_2$-E-6	浅黄橙		
619	－	－	(8.9)	90B$_2$-E-12	灰黄褐		
620	－	－	－	90B$_2$-E-11	灰黄褐		
621	－	6.9	(3.7)	90B$_2$-E-13	にぶい黄橙		
622	－	4.8	(2.7)	90B$_2$-E-14	灰黄褐		
623	(10.0)	－	(10.0)	90B$_2$-E-59	にぶい黄		
624	－	－	－	90B$_2$-E-61	灰黄		
625	－	－	－	90B$_2$-E-62-1	褐灰		
626	－	－	－	90B$_2$-E-62-2	褐灰		
627	－	－	(16.8)	90B$_2$-E-58	褐灰		
628	(32.2)	－	(18.5)	90B$_2$-E-57	橙		
629	(18.2)	－	(3.7)	90B$_2$-E-43	にぶい黄橙		
630	－	－	－	90B$_2$-E-47	にぶい黄		
631	－	－	－	90B$_2$-E-41	にぶい黄橙		
632	－	－	－	90B$_2$-E-40	にぶい黄褐		
633	－	－	－	90B$_2$-E-44	にぶい黄褐		
634	－	－	－	90B$_2$-E-46	褐灰		
635	－	－	－	90B$_2$-E-32	浅黄		
636	－	－	－	90B$_2$-E-33	黄灰		

番号	口径	底径	器高	登録番号	色　調	備　考	容量cc	番号	口径	底径	器高	登録番号	色　調	備　考	容量cc
637		–	–	99B」-E-34	にぶい黄橙			701	–	–	–	99A」-E-339	暗灰黄		
638	(5.6)	–	(7.3)	99B」-E-38-1	にぶい黄			702	–	–	–	99A」-E-341	暗灰黄		
639	–	–	–	99B」-E-38-2	にぶい黄			703	–	7.0	(6.7)	99A」-E-333	黒褐		
640	–	–	–	99B」-E-38-3	にぶい黄			704	–	–	–	99A」-E-345	オリーブ黒		
641	–	–	–	99B」-E-37	灰白			705	–	–	–	99A」-E-349	黄褐		
642	–	–	–	99B」-E-3	黒褐			706	–	–	–	99A」-E-348	オリーブ黒		
643	30.5	5.2	28.9	99B」-E-1	灰白		7,473	707	–	–	–	99A」-E-350	黒褐		
644	–	–	(29.7)	99B」-E-4	黒褐			708	–	–	–	99A」-E-347	黒		
645	–	–	(9.5)	99B」-E-255	にぶい黄橙	TP29		709	14.1	–	(5.6)	99A」-E-234	にぶい黄褐		
646	9.8	–	(9.6)	99B」-E-277	灰黄褐			710	19.6	–	(11.7)	99A」-E-223	灰褐		
647	8.3	–	(10.2)	99B」-E-278	灰黄褐			711	10.4	–	(10.6)	99A」-E-219	褐灰		
648	–	–	(17.8)	99B」-E-253	にぶい黄橙			712	10.2	–	(9.7)	99A」-E-224	黒褐		
649	–	–	(4.2)	99B」-E-266	灰黄褐			713	–	–	–	99A」-E-254	黒褐		
650	–	–	–	99B」-E-140	黒			714	–	–	(9.3)	99A」-E-226	にぶい黄橙		
651	–	–	–	99B」-E-110	黄褐			715	–	–	–	99A」-E-269	黒褐		
652	–	–	–	99B」-E-111	黄褐			716	–	–	–	99A」-E-260	にぶい黄橙		
653	–	–	–	99B」-E-124	黒褐			717	–	–	–	99A」-E-238	黒		
654	–	–	–	99B」-E-107	浅黄			718	–	–	–	99A」-E-259	黒褐		
655	–	–	–	99B」-E-314	にぶい赤褐			719	–	5.5	(21.6)	99A」-E-218	黒褐		
656	–	–	–	99B」-E-133	浅黄			720	–	5.2	(8.2)	99A」-E-232	黒褐		
657	–	–	–	99B」-E-256	オリーブ黒			721	–	–	(16.8)	99A」-E-221	黒褐		
658	–	–	–	99B」-E-257	黄灰			722	–	6.8	(19.5)	99A」-E-222	灰黄褐		
659	–	–	–	99B」-E-261	暗灰黄			723	–	6.6	(13.6)	99A」-E-220	褐灰		
660	–	–	–	99B」-E-104	にぶい黄			724	–	–	–	99A」-E-243	黒褐		
661	–	–	–	99B」-E-268	黒			725	–	–	–	99A」-E-270	黒褐		
662	–	–	–	99B」-E-139	灰			726	–	–	–	99A」-E-251	黒褐		
663	–	–	–	99B」-E-123	オリーブ黄			727	–	–	–	99A」-E-261	黒褐		
664	–	–	–	99B」-E-270	黒			728	–	–	–	99A」-E-268	にぶい黄橙		
665	–	–	–	99B」-E-271	浅黄			729	–	–	–	99A」-E-262	黒褐		
666	–	–	–	99B」-E-262	黒褐			730	–	–	–	99A」-E-256	にぶい黄橙		
667	–	–	–	99B」-E-116	灰オリーブ			731	–	–	–	99A」-E-240	にぶい黄橙		
668	–	–	–	99B」-E-135	オリーブ黒			732	12.9	–	(5.1)	99A」-E-228	にぶい黄橙		
669	–	–	–	99B」-E-137	オリーブ黒			733	–	–	–	99A」-E-249	にぶい黄橙		
670	–	–	–	99B」-E-263	黒褐			734	31.6	–	(14.8)	99A」-E-217	にぶい黄橙		
671	–	–	–	99B」-E-315	黒			735	27.2	–	(18.5)	99A」-E-216	黒褐		
672	–	–	–	99A」-E-113	黒褐			736	–	3.8	(5.5)	99A」-E-230	黒褐		
673	–	–	–	99A」-E-265	にぶい褐			737	–	–	–	99A」-E-271	黒		
674	–	6.9	(3.3)	99A」-E-279	黒褐			738	–	–	–	99A」-E-257	黒褐		
675	–	–	–	99A」-E-105	にぶい黄橙			739	–	–	–	99A」-E-253	にぶい黄橙		
676	–	(8.4)	(10.4)	99A」-E-276	黄灰			740	–	–	–	99A」-E-248	黒褐		
677	–	6.1	(2.0)	99A」-E-134	にぶい褐			741	19.9	3.9	24.6	99A」-E-215	黒褐		4,197
678	–	–	–	99A」-E-316	にぶい黄橙			742	–	–	(32.4)	99A」-E-3	にぶい橙		
679	–	–	–	99A」-E-317	暗褐			743	–	5.6	(17.1)	99A」-E-4	暗灰黄		
680	–	–	–	99A」-E-114	黒褐			744	10.4	–	(4.2)	99A」-E-12	灰		
681	–	–	–	99A」-E-115	にぶい黄			745	9.8	–	(3.6)	99A」-E-10	灰黄		
682	–	–	(27.4)	99A」-E-274	黒褐			746	–	–	–	99A」-E-6	暗褐		
683	33.6	(6.4)	35.7	99A」-E-275	黒褐			747	–	–	–	99A」-E-13	橙		
684	–	–	–	99A」-E-308	黒			748	–	–	–	99A」-E-30	黒褐		
685	–	–	–	99A」-E-131	暗褐			749	–	–	–	99A」-E-18-1	灰黄		
686	25.9	–	(6.6)	99A」-E-126	にぶい黄橙			750	–	–	–	99A」-E-18-2	灰黄		
687	–	–	–	99A」-E-121	にぶい褐			751	–	–	–	99A」-E-5	黒褐		
688	–	–	–	99A」-E-118	灰白			752	–	–	–	99A」-E-19	にぶい黄褐		
689	–	–	–	99A」-E-304	にぶい黄橙			753	–	–	–	99A」-E-17	暗灰黄		
690	–	–	–	99A」-E-303	にぶい黄褐			754	–	–	–	99A」-E-16	浅黄		
691	16.1	–	(17.3)	99A」-E-331	褐灰			755	–	–	–	99A」-E-11	暗灰黄		
692	–	–	–	99A」-E-343	黄褐			756	–	–	–	99A」-E-8-2	淡黄		
693	–	–	–	99A」-E-342	褐灰			757	–	–	–	99A」-E-8-1	淡黄		
694	–	–	–	99A」-E-334	オリーブ黒			758	–	–	–	99A」-E-8-3	淡黄		
695	–	–	–	99A」-E-335	オリーブ黒			759	–	–	–	99A」-E-8-4	淡黄		
696	–	–	–	99A」-E-337	灰オリーブ			760	–	–	–	99A」-E-9-1	黄灰		
697	–	–	–	99A」-E-336	オリーブ黒			761	–	–	–	99A」-E-9-2	黄灰		
698	–	–	–	99A」-E-338	にぶい黄橙			762	–	–	–	99A」-E-37	黒		
699	–	–	–	99A」-E-346	オリーブ黄			763	29.0	6.3	26.6	99A」-E-1	にぶい黄褐		6,971
700	–	–	–	99A」-E-344	灰			764	23.4	–	(14.7)	99A」-E-23	にぶい橙		

番号	11種	底径	器高	登録番号	色　調	備　考	容量cc
765	23.0	–	(13.6)	90A$_1$-E-2	黒褐		
766	28.7	–	(6.7)	90A$_1$-E-26	黒口		
767	–	–	–	90A$_1$-E-14	黒褐		
768	23.5	–	(8.3)	90A$_1$-E-25	灰		
769	–	–	–	90A$_1$-E-24	黒		
770	–	–	–	90A$_1$-E-7	黒		
771	25.6	–	(11.7)	90A$_1$-E-22	にぶい黄橙		
772	–	5.3	(3.4)	90A$_1$-E-21	にぶい橙		
773	–	5.0	(3.4)	90A$_1$-E-15	黄褐		
774	–	–	–	90A$_1$-E-143	灰黄褐		
775	–	–	–	90A$_1$-E-141	灰黄褐		
776	–	–	–	90A$_1$-E-142	にぶい黄		
777	–	–	–	90A$_1$-E-144	にぶい黄橙		
778	–	–	–	90B$_1$-E-269	にぶい黄		
779	–	–	–	90B$_1$-E-295	橙		
780	–	–	–	90B$_1$-E-288	暗灰黄		
781	–	–	–	90B$_1$-E-219	黄褐		
782	–	–	–	90B$_1$-E-292	黄褐		
783	–	–	–	90B$_1$-E-204-4	にぶい黄		
784	–	–	–	90B$_1$-E-204-5	にぶい黄		
785	–	–	–	90B$_1$-E-204-6	にぶい黄		
786	–	–	–	90B$_1$-E-293	黒褐		
787	–	–	–	90B$_1$-E-206	黒褐		
788	–	–	–	90B$_1$-E-207-1	黒褐		
789	–	–	–	90B$_1$-E-207-2	黒褐		
790	–	4.6	(2.1)	90B$_1$-E-211	灰褐		
791	–	–	–	90B$_1$-E-218	黒褐		
792	(39.1)	–	(24.4)	90B$_1$-E-216	黄灰		
793	(29.4)	–	(12.7)	90B$_2$-E-217	灰黄		
794	17.0	–	(8.5)	90B$_1$-E-152	にぶい黄橙		
795	–	–	(8.5)	90B$_1$-E-178	黒褐		
796	–	–	(8.3)	90B$_1$-E-150	黒褐		
797	–	–	(6.0)	90B$_1$-E-148	褐灰		
798	10.0	–	(6.4)	90B$_1$-E-146	灰黄褐		
799	–	–	–	90B$_1$-E-174	にぶい黄		
800	–	–	–	90B$_1$-E-182-2	にぶい黄橙		
801	–	–	–	90B$_1$-E-182-1	にぶい黄橙		
802	–	–	–	90B$_1$-E-179	灰		
803	–	–	–	90B$_1$-E-190-2	浅黄		
804	–	–	–	90B$_1$-E-165-3	暗灰黄		
805	–	–	–	90B$_1$-E-165-1	暗灰黄		
806	–	–	–	90B$_1$-E-164-1	浅黄		
807	–	–	–	90B$_1$-E-164-3	浅黄		
808	–	–	–	90B$_1$-E-164-2	浅黄		
809	–	–	–	90B$_1$-E-164-4	浅黄		
810	–	–	–	90B$_2$-E-164-5	浅黄		
811	–	–	–	90B$_1$-E-151	黒褐		
812	–	5.3	(3.6)	90B$_1$-E-175	灰褐		
813	–	6.3	(3.7)	90B$_1$-E-149	暗褐		
814	–	7.5	(3.6)	90B$_1$-E-177	灰黄褐		
815	–	5.0	(3.6)	90B$_1$-E-182	褐灰		
816	19.8	5.0	17.5	90B$_1$-E-153	黒褐		3,516
817	–	–	–	90B$_1$-E-181	オリーブ黒		
818	24.2	–	(14.0)	90B$_1$-E-189	黒褐		
819	–	–	–	90B$_1$-E-158	にぶい橙		
820	–	–	–	90B$_1$-E-166	にぶい黄褐		
821	–	–	–	90B$_1$-E-179	暗オリーブ黒		
822	–	–	–	90B$_1$-E-162	黒褐		
823	–	–	–	90B$_1$-E-168	オリーブ褐		
824	–	–	–	90B$_1$-E-160	浅黄		
825	–	–	–	90B$_1$-E-191	黒褐		
826	–	–	–	90B$_1$-E-163	暗褐		
827	–	–	–	90B$_1$-E-172	暗褐		
828	–	–	–	90B$_1$-E-189	黒		

番号	11種	底径	器高	登録番号	色　調	備　考	容量cc
829	–	–	–	90B$_1$-E-193	暗灰黄		
830	–	–	–	90B$_1$-E-167	にぶい黄橙		
831	–	–	–	90B$_1$-E-186	オリーブ黒		
832	–	5.5	(7.8)	90B$_1$-E-184	灰黄褐		
833	–	4.0	(4.4)	90B$_1$-E-145	黒		
834	–	–	(27.4)	90A$_1$-E-274	黒褐		
835	–	–	(15.6)	90A$_1$-E-277	黒褐		
836	–	–	(8.5)	90A$_1$-E-280	黒褐		
837	–	–	–	90A$_1$-E-291	にぶい黄褐		
838	–	–	–	90A$_1$-E-312	黒褐		
839	–	–	–	90A$_1$-E-292	灰黄褐		
840	–	–	–	90A$_1$-E-317	暗褐		
841	–	–	–	90A$_1$-E-309	にぶい黄橙		
842	–	–	–	90A$_1$-E-316	にぶい黄褐		
843	–	–	–	90A$_1$-E-303	にぶい黄褐		
844	–	–	–	90A$_1$-E-306	灰黄褐		
845	–	–	–	90A$_1$-E-299	黒褐		
846	–	–	–	90A$_1$-E-310	にぶい黄褐		
847	–	–	–	90A$_1$-E-295	暗褐		
848	–	–	–	90A$_1$-E-304	にぶい黄褐		
849	–	(8.4)	(10.4)	90A$_1$-E-276	黄灰		
850	–	6.9	(3.9)	90A$_1$-E-281	黄灰		
851	–	6.9	(3.3)	90A$_1$-E-279	黒褐		
852	–	6.1	(5.4)	90A$_1$-E-284	暗褐		
853	–	8.2	(6.5)	90A$_1$-E-278	にぶい黄橙		
854	–	6.5	(1.8)	90A$_1$-E-286	灰黄褐		
855	–	–	–	90A$_1$-E-311	褐		
856	12.0	–	(5.1)	90A$_1$-E-282	灰黄褐		
857	–	–	–	90A$_1$-E-289	黒褐		
858	–	–	–	90A$_1$-E-307	黒		
859	–	–	–	90A$_1$-E-313	黒褐		
860	–	–	–	90A$_1$-E-315	黒褐		
861	–	–	–	90A$_2$-E-300	暗灰黄		
862	–	–	–	90A$_1$-E-297	黒褐		
863	–	–	–	90A$_1$-E-318	にぶい橙		
864	–	–	–	90A$_1$-E-293	にぶい黄橙		
865	–	–	–	90A$_1$-E-298	にぶい黄橙		
866	33.6	(6.4)	35.7	90A$_1$-E-275	黒褐		17,103
867	–	6.3	(5.0)	90A$_1$-E-283	にぶい黄橙		
868	–	5.4	(3.1)	90A$_1$-E-302	黒褐		
869	–	–	–	90B$_1$-E-238	にぶい黄褐		
870	–	–	–	90B$_1$-E-237	にぶい黄褐		
871	–	–	–	90B$_1$-E-232	にぶい褐		
872	–	–	–	90B$_2$-E-233	にぶい黄橙		
873	–	–	–	90B$_1$-E-229	褐		
874	–	–	–	90B$_1$-E-231	黒褐		
875	–	–	–	90B$_1$-E-230	黒褐		
876	–	5.2	(3.1)	90B$_1$-E-226	灰黄褐		
877	–	4.9	(3.4)	90B$_1$-E-225	黒褐		
878	(35.0)	–	(19.9)	90B$_1$-E-224	灰褐		
879	30.7	5.1	32.1	90B$_1$-E-223	黒褐		10,353
880	–	–	–	90B$_1$-E-236	灰黄褐		
881	–	–	–	90B$_1$-E-234	にぶい黄褐		
882	16.7	–	(11.5)	90B$_1$-E-228	にぶい黄褐		
883	26.6	–	(19.8)	91A-E-24	灰黄褐		
884	(19.5)	–	(16.6)	90B-E-62	にぶい黄橙		
885	20.2	–	(16.0)	90B$_2$-E-239	にぶい黄褐		
886	(13.7)	–	(9.1)	91A-E-30-1	浅黄		
887	–	–	(22.3)	91A-E-30-2	浅黄		
888	–	6.4	(17.5)	90A$_1$-E-354	黒褐		
889	28.9	6.1	27.7	90B-E-49	黒褐		6,216
890	28.0	–	(17.2)	90A-E-98	黒		
891	17.0	–	(4.8)	90B-E-69-1	暗赤褐		
892	–	–	(21.8)	90B-E-69-2	暗赤褐		

番号	口径	底径	器高	登録番号	色　調	備　考	容量cc
893	–	5.4	(13.4)	90B-E-499-3	暗赤褐		
894	6.6	4.8	23.0	90B$_1$-E-251	黒褐		2,798
895	–	–	(23.0)	90A$_1$-E-351	にぶい黄橙		
896	–	6.0	(28.1)	90B$_1$-E-250	黒褐		
897	15.5	5.6	16.7	90B$_1$-E-240	灰黄褐		5,643
898	13.4	–	(14.0)	90B$_1$-E-252	黒褐		
899	–	–	(41.7)	90A-E-91	灰褐		
900	22.4	6.0	25.6	90B-E-51	淡黄		4,670
901	19.2	5.8	25.4	90B-E-50	橙		3,053
902	25.2	6.1	22.7	90B-E-70	黒褐		4,335
903	14.3	5.5	30.5	90A-E-119	灰		8,214
904	15.6	–	(30.3)	89A$_1$-E-193-1	灰黄褐		
905	–	5.65	(14.6)	89A$_1$-E-193-2	灰黄褐		
906	13.4	5.4	37.1	89B$_1$-E-13	黄灰		11,260
907	17.8	–	(8.5)	89A$_1$-E-150	にぶい黄橙		
908	16.8	–	(19.4)	89A$_1$-E-141	にぶい橙		
909	20.6	6.8	42.2	89A$_1$-E-158	黒		20,323
910	15.3	–	(36.5)	89A$_1$-E-154	黄灰		
911	15.5	4.6	33.1	89A$_1$-E-134	暗赤灰		13,433
912	16.0	–	(16.5)	89A$_1$-E-147	黒褐		
913	12.3	–	(27.8)	89B-E-14	黒褐		
914	15.8	–	(16.2)	89A-E-139	橙		
915	18.9	6.0	44.3	89A$_1$-E-130	オリーブ黒		29,015
916	–	4.8	(32.1)	89B-E-68	黒褐		
917	20.3	–	(18.3)	89A-E-163	黄灰		
918	11.4	6.0	24.8	89A$_1$-E-132	灰白		4,007
919	8.1	4.7	20.7	89A$_1$-E-142	黒褐		1,917
920	8.6	6.0	25.0	89B$_1$-E-16	灰褐		4,256
921	6.8	–	(10.1)	89A$_1$-E-128	灰黄褐		
922	10.5	–	(8.3)	89A-E-126	褐灰		
923	–	5.7	(18.0)	89A$_1$-E-146	黒褐		
924	13.7	3.6	25.0	89A$_1$-E-125	にぶい黄橙		4,146
925	25.2	8.0	45.3	89A$_1$-E-160	浅黄		21,240
926	23.7	–	(34.6)	89A$_1$-E-152	灰黄		
927	(20.7)	–	47.3	90A$_1$-E-329-1	浅黄		
928	–	–	(24.7)	90A$_1$-E-329-2	浅黄		
929	–	8.3	(35.8)	89A$_1$-E-382	にぶい黄橙		
930	25.4	–	(28.6)	89A$_1$-E-193	浅黄橙		
931	21.7	–	(36.5)	89A$_1$-E-190	にぶい黄橙		
932	13.8	–	(21.0)	89B$_1$-E-15	黄灰	T. P.37	
933	32.0	–	(10.0)	89A$_1$-E-129	灰白		
934	28.7	–	(10.1)	89A$_1$-E-195	淡黄		
935	7.3	–	(8.2)	89B$_1$-E-18-1	にぶい黄橙		
936	–	–	(10.2)	89B$_1$-E-18-2	にぶい黄橙		
937	14.0	5.8	30.0	89A$_1$-E-138	黒褐		8,145
938	–	5.0	(20.3)	89A$_1$-E-136	灰白		
939	–	6.4	(25.9)	89A$_1$-E-124	にぶい黄橙		
940	–	8.3	(35.8)	89A$_1$-E-383	にぶい黄橙		
941	–	4.2	(12.7)	89A$_1$-E-127	灰白		
942	–	4.4	(12.3)	89A$_1$-E-122	灰白		
943	–	–	(15.9)	89A$_1$-E-184	橙		
944	31.3	9.2	19.7	89A$_1$-E-181	灰黄		
945	(22.0)	–	(31.4)	90A$_1$-E-330	にぶい黄橙		
946	14.2	5.7	29.4	89A$_1$-E-144	灰白		
947	16.7	–	(13.7)	89A$_1$-E-159	黒褐		
948	23.0	–	(22.4)	89A$_1$-E-135	極暗赤褐		
949	18.7	–	(15.0)	90A$_1$-E-99	黒褐		
950	15.6	–	(12.9)	89A$_1$-E-149	褐灰		
951	–	–	(20.5)	89B$_1$-E-19	暗赤褐		
952	19.7	6.9	33.5	90B$_1$-E-246	にぶい黄橙		
953	17.4	8.1	28.2	89A$_1$-E-194	橙		
954	14.4	–	(28.6)	90B$_1$-E-242	にぶい橙		
955	(20.4)	–	(16.3)	90B-E-34	灰白		
956	20.2	12.9	13.8	90B2-E-249	にぶい黄橙		

番号	口径	底径	器高	登録番号	色　調	備　考	容量cc
957	17.6	9.9	15.0	90B2-E-245	にぶい黄橙		
958	10.5	10.0	17.2	90A-E-89	灰白		
959	19.6	–	(15.0)	89B-E-17-1	黒褐		
960	–	10.0	(19.0)	89B-E-17-2	黒褐		
961	25.6	11.4	26.6	89A2-E-178	明黄褐		
962	16.8	9.0	20.0	89A2-E-185	暗褐		
963	14.5	7.9	19.0	89A2-E-186	褐		
964				90-W-1			
965				90-W-2			
966				90-W-3			
967				90-W-4			
968				90-W-5			
969				90-W-6			

石器・石製品

遺物番号	器　種	重量(g)	長軸(cm)	登録番号	石　質
1001	磨製石斧	172.1	2.98	S-1	ハイアロクラスタイト
1002	磨製石斧	329.9	2.9	S-2	塩基性凝灰岩
1003	磨製石斧	280.9	2.74	S-3	凝灰岩
1004	磨製石斧	429.1	2.97	S-4	玄武岩(パサルト)
1005	磨製石斧	580.6	2.84	S-5	塩基性凝灰岩
1006	磨製石斧	478.2	2.99	S-6	塩基性凝灰岩
1007	磨製石斧	816.1	3.06	S-7	玄武岩
1008		63.7	2.37	S-8	砂岩
1009		491.3	2.58	S-9	アプライト(白晶花こう石)
1010	石錘T	75.7	2.84	S-10	緑色片岩
1011	石錘T	28.2	2.82	S-11	紅レン石片岩
1012	石剣	17.5	2.73	S-12	黄岩
1013	磨石	494.0	2.62	S-13	砂岩
1014	磨石	285.7	2.61	S-14	砂岩
1015	石鏃	3.2	2.67	S-15	溶結凝灰岩
1016	石鏃	3.8	2.53	S-16	溶結凝灰岩
1017	石鏃	2.6	2.36	S-17	ガラス質石英安山岩
1018	石鏃	3.8	2.53	S-18	溶結凝灰岩
1019	石鏃	2.2	2.44	S-19	溶結凝灰岩
1020	石鏃	0.9	3	S-20	泥岩
1021	石鏃	2.6	2.6	S-21	チャート
1022	管玉	0.5	2.5	S-22	緑色凝灰岩
1023	管玉	1.1	2.2	S-23	緑色凝灰岩
1024	磨製石斧	17.8	2.92	S-24	塩基性凝灰岩
1025	磨製石斧	10.9	2.89	S-25	玄武岩(パサルト)

凡例

○色調は財団法人日本色彩研究所「標準土色帖」(1989年版)による

○土器の容積は図上計算による

○土製品は長径、短径、重量を表現

○単位はcm